



病院年報

第 58 号

令和 4 年度版

川崎市立川崎病院

目 次

川崎市立川崎病院基本理念	1	皮膚科	50
病院長あいさつ	2	泌尿器科	51
位置及び案内	3	産科・婦人科	51
		眼科	52
		耳鼻咽喉科	53
		歯科口腔外科	54
		放射線診断科・放射線治療科	55
		麻酔科及びMEセンター	65
		病理診断科	68
		救命救急センター	70
		ロボット手術センター	71
		病態栄養治療部	72
		健康診査室	72
I 概要			
1 病院概要	6		
2 施設基準一覧	7		
3 沿革	12		
4 機構	20		
5 人事の変遷	21		
6 診療科名簿	25		
7 病院案内図	31		
8 定例院内会議	33		
		III 部門概要	
		1 看護部	74
		2 医療安全管理室	78
		3 感染対策室	80
		4 臨床研究支援室	83
		5 薬剤部	84
		6 検査科	92
		7 食養科	100
		8 患者総合サポートセンター	103
		9 認知症疾患医療センター	112
		10 医療情報システム管理室	113
II 診療科概要			
1 内科	38		
2 小児科	42		
3 新生児内科	42		
4 精神科	43		
5 外科	44		
6 乳腺外科	44		
7 血管外科	45		
8 内視鏡センター	45		
9 呼吸器外科	46		
10 心臓血管外科	46		
11 脳神経外科	46		
12 整形外科	47		
13 リハビリテーション科	49		
14 形成外科	50		

IV チーム医療概要

- 1 緩和ケアチーム …… 116
- 2 褥瘡対策チーム …… 117
- 3 認知症ケアチーム …… 119
- 4 栄養サポートチーム/摂食嚥下支援チーム …… 121
- 5 排尿ケアチーム …… 122

V 事務部門概要

- 1 医事課 …… 125
- 2 診療統計 …… 126
- 3 手術統計 …… 134
- 4 分娩統計 …… 146
- 5 クリニカルパス使用件数 …… 147
- 6 外来治療センター利用状況 …… 147
- 7 主要医療機器・備品 …… 148
- 8 主な委託業務 …… 167
- 9 図書室 …… 168

VI 経理概要

- 1 年度別経営収支状況 …… 172
- 2 収入・支出状況 …… 173
- 3 年度別一般会計繰入金及び出資金 …… 175
- 4 比較貸借対照表 …… 175
- 5 主な経営分析 …… 177

VII 研究・研修及び実習・講師派遣

- 1 診療関係研究 …… 180
- 2 研究交流会 …… 182
- 3 看護研究発表会 …… 184
- 4 研 修 …… 188
- 5 各科別実習状況報告 …… 191
- 6 講師派遣 …… 194

VIII 臨床研修概要

- 1 経 緯 …… 196
- 2 初期臨床研修医プログラム …… 201

IX 業績目録

- 科別業績統計 …… 208
- 1 当院における学位取得者 …… 210
- 2 賞 …… 210
- 3 研究助成及び共同研究 …… 210
- 4 書 籍 …… 210
- 5 書籍の章 …… 209
- 6 論 文 …… 211
- 7 学会・研究会 …… 213
- 8 講演会等 …… 222
- 9 市民対象イベント(当院開催) …… 227

川崎市立川崎病院基本理念

私たちは、地域の基幹病院として、他の医療機関と連携し、「病気」でなく「病人」を診る心を大切に、安全安心で質の高い医療を、患者の皆さまとともに考え、実践し、健康と福祉の向上を通じて地域社会の発展に貢献することを目指します。

病院運営方針

基本理念を踏まえ、自治体病院の使命と役割を果たし、市民に信頼される安全安心で質の高い医療を継続的かつ効率的に提供していくために、次の方針を定めます。

- 1 患者さんの声を尊重し、高い倫理観をもって医療にあたります。
- 2 地域の基幹病院として、地域の医療ニーズに迅速かつ柔軟に対応できる、良質な急性期医療および専門性の高い医療を提供します。
- 3 救急医療、がん診療、周産期医療、災害時医療の充実を図ります。
- 4 地域の医療機関との連携を大切にします。
- 5 教育、研修を推進し、職員の知識、技術の向上と人材育成に努めます。
- 6 安全管理の向上に努めます。
- 7 健全な経営基盤の確立に努めます。
- 8 職員の経営意識の高揚を図るとともに、働きがいのある職場づくりに努めます。

患者さんの権利

当院は、患者さんの医療にかかわる、次の権利を尊重します。

- 1 生命の尊厳と、人格を尊重した医療を受ける権利があります。
- 2 安全安心で質の高い医療を平等に受ける権利があります。
- 3 ご自身の病気や治療について知る権利を持ち、わかりやすく説明を受け、希望や意見を述べる権利があります。なお、病名や予後について知りたくない場合は、そのお気持ちを尊重します。
- 4 ご自身が受ける医療を自らの意思で選択あるいは拒否する権利があります。
- 5 ご希望により、診療のいかなる段階においても、他の医師および他の医療機関の医師の意見（セカンド・オピニオン）を求める権利があります。
- 6 診療上の個人情報には厳重に保護され、その秘密は守られます。

病院長のあいさつ

川崎市立川崎病院
第18代 病院長
野崎 博之



令和5年5月8日新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の位置づけが「2類相当」から「5類」へ移行しました。令和4年度は第7波、8波という大流行をきたし、当院も本感染症への対応にあたった1年となりました。病院職員一丸となり、救急医療などの日々の診療を止めることなく病院機能を可能な限り維持し、この感染症診療と両立をはかれたことも誇らしいことと感じております。そうした忙しい日々の中で令和4年度版の川崎市立川崎病院年報を刊行するにあたり、関係職員に感謝と祝意をお示ししたいと存じます。

ところで令和4年のNHK大河ドラマは「鎌倉殿の13人」、令和5年は「どうする家康」です。これらはいくまでも史実に脚色を加えて、ドラマ化されたもので、史実と異なるところがあることも指摘されています。私の世代の人間は源頼朝が1192年に鎌倉幕府が成立したと教育されてきました。この年、源頼朝が征夷大將軍に任命されたことを根拠にしております。しかしながら現在の中学歴史教科書の多くは、鎌倉幕府の成立を1192年ではなく「1185年」としてしております。この1185年には源頼朝が、諸国に守護・地頭を設置する権限を後白河法皇に認められたことを根拠にしております。

このように史実を積み重ねて、後の人々が正しく解釈できるようにすることは重要なことであることがわかります。過去の年報を振り返りますと、諸先輩方が川崎病院発展のために残された数多くの足跡が、当院の歴史とともに記録されております。

第二次世界大戦中、英国首相に就任したウィンストン・チャーチル (Winston Churchill) は「過去を広く深く見渡すことができれば、未来も広く深く見渡すことができるであろう (The farther backward you can look, the farther forward you are likely to see.)」と述べております。過去の事実を掘り起こし、過去を読み取り、歴史を学ぶことによって、今後の社会を生きぬく「智慧」を見つけることが重要です。そのために真実がゆがまないように、本年報ではできる限り事実を幅広く記載し、後日の評価のための資料としての意味のあるものにしたと考えております。

この年報は、職員一人一人が頑張った1年の集大成です。過去の歴史に学び、更に質の高い医療の提供を目指すとともに、より地域に密着した病院運営に努めたいものです。引き続き、川崎病院へのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

位置及び案内

川崎市は、多摩丘陵の南端多摩川の河口に開けた平坦部にあります。東京と横浜の間に接している細長い形の都市で、東京駅へ18分、横浜駅へ8分の距離にあります。

川崎市は、令和5年4月現在で人口が154万人を超え、全国的に人口減少が続く中、特に若い世代に選ばれる都市として、「成長」と「成熟」の調和による持続可能な「最幸のまち」を目指して更なる発展を続けております。

川崎市立川崎病院は、市の基幹病院として、高度・特殊・急性期医療、救急医療を中心に、小児から成人・高齢者・妊産婦等の医療を提供するとともに、精神科救急医療の基幹病院としての機能も担っています。また、市内唯一の感染症病床における二類感染症患者の受入や、災害拠点病院、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院としての役割を担うほか、臨床研修指定病院として医師の育成を行うなど、地域医療水準の向上に寄与しています。



【交通機関】

J R川崎駅東口下車

バス

直通ワンコインバス（市バス・臨港バス）

⑬番のりば 川崎病院行き

市バス

⑪番のりば 市営埠頭行き

⑮番のりば 扇町行き

⑭番のりば 水江町行き

⑯番のりば 浮島バスターミナル行き

教育文化会館前
下車
(徒歩5分)

臨港バス

⑤番のりば 鋼管循環

⑦番のりば 大師行き

⑧番のりば 三井埠頭行き

①番のりば 水江町・日立造船行き

②番のりば 塩浜営業所行き

さつき橋
下車
(徒歩3分)





川崎市立川崎病院全景

I 概 要

1 病院概要

(令和5年3月31日 現在)

開設年月日	昭和2年4月30日																																													
病院長名	野崎 博之																																													
所在地	神奈川県川崎市川崎区新川通12-1																																													
電話番号・FAX番号	Tel 044-233-5521 FAX 044-245-9600																																													
診療科 (43科)	<table border="0"> <tr> <td>内科</td> <td>呼吸器内科</td> <td>循環器内科</td> </tr> <tr> <td>消化器内科</td> <td>血液内科</td> <td>腫瘍内科</td> </tr> <tr> <td>糖尿病内科</td> <td>内分泌内科</td> <td>腎臓内科</td> </tr> <tr> <td>脳神経内科</td> <td>感染症内科</td> <td>新生児内科</td> </tr> <tr> <td>ペインクリニック内科</td> <td>肝臓内科</td> <td>緩和ケア内科</td> </tr> <tr> <td>外科</td> <td>呼吸器外科</td> <td>心臓血管外科</td> </tr> <tr> <td>消化器外科</td> <td>乳腺外科</td> <td>小児外科</td> </tr> <tr> <td>整形外科</td> <td>脳神経外科</td> <td>形成外科</td> </tr> <tr> <td>血管外科</td> <td>精神科</td> <td>アレルギー科</td> </tr> <tr> <td>リウマチ科</td> <td>小児科</td> <td>皮膚科</td> </tr> <tr> <td>泌尿器科</td> <td>産科</td> <td>婦人科</td> </tr> <tr> <td>眼科</td> <td>耳鼻咽喉科</td> <td>リハビリテーション科</td> </tr> <tr> <td>放射線診断科</td> <td>放射線治療科</td> <td>病理診断科</td> </tr> <tr> <td>救急科</td> <td>麻酔科</td> <td>歯科</td> </tr> <tr> <td>歯科口腔外科</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	内科	呼吸器内科	循環器内科	消化器内科	血液内科	腫瘍内科	糖尿病内科	内分泌内科	腎臓内科	脳神経内科	感染症内科	新生児内科	ペインクリニック内科	肝臓内科	緩和ケア内科	外科	呼吸器外科	心臓血管外科	消化器外科	乳腺外科	小児外科	整形外科	脳神経外科	形成外科	血管外科	精神科	アレルギー科	リウマチ科	小児科	皮膚科	泌尿器科	産科	婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	リハビリテーション科	放射線診断科	放射線治療科	病理診断科	救急科	麻酔科	歯科	歯科口腔外科		
内科	呼吸器内科	循環器内科																																												
消化器内科	血液内科	腫瘍内科																																												
糖尿病内科	内分泌内科	腎臓内科																																												
脳神経内科	感染症内科	新生児内科																																												
ペインクリニック内科	肝臓内科	緩和ケア内科																																												
外科	呼吸器外科	心臓血管外科																																												
消化器外科	乳腺外科	小児外科																																												
整形外科	脳神経外科	形成外科																																												
血管外科	精神科	アレルギー科																																												
リウマチ科	小児科	皮膚科																																												
泌尿器科	産科	婦人科																																												
眼科	耳鼻咽喉科	リハビリテーション科																																												
放射線診断科	放射線治療科	病理診断科																																												
救急科	麻酔科	歯科																																												
歯科口腔外科																																														
病床数	一般 663床 精神 38床 感染 12床																																													
面積	敷地面積 19,813.32㎡ 建物面積 6,325.94㎡ 延床面積 49,890.18㎡																																													
医療機関コード番号	医科 5000054 歯科 5060058																																													
病院指定等	地域医療支援病院 地域がん診療連携拠点病院 神奈川県難病医療支援病院 災害拠点病院 三次救急医療機関 神奈川DMAT指定病院 第二種感染症指定医療機関 エイズ治療拠点病院 地域周産期母子医療センター 川崎市応急入院指定病院 認知症疾患医療センター																																													
主な医療設備	PETCT リニアック SPECT CT MRI X線テレビ装置 血管造影撮影装置 マンモグラフィ ダヴィンチ																																													

2 施設基準一覧

施設基準一覧（基本）

（令和5年3月31日 現在）

	届出項目	受理番号	認定日
1	地域歯科診療支援病院歯科初診料	（病初診）第50号	平成30年10月 1日
2	歯科外来診療環境体制加算 2	（外来環 2）第314号	平成30年 6月 1日
3	歯科診療特別対応連携加算	（歯特連）第28号	平成22年 4月 1日
4	一般病棟入院基本料（急性期一般 1）	（一般入院）第1478号	令和 3年 3月 1日
5	精神病棟入院基本料（10対1）	（精神入院）第2170号	平成26年 1月 1日
6	急性期充実体制加算	（急充実）第12号	令和 4年 4月 1日
7	救急医療管理加算	（救急医療）第135号	令和 2年 4月 1日
8	超急性期脳卒中加算	（超急性期）第31号	平成20年 4月 1日
9	診療録管理体制加算	（診療録 2）第87号	平成16年 4月 1日
10	医師事務作業補助体制加算1（25対1）	（事補 1）第109号	令和 3年 7月 1日
11	急性期看護補助体制加算 25:1（看護補助5割以上） 夜間100対1急性期看護補助体制加算 夜間看護体制加算 看護補助体制充実加算	（急性看護）第75号	令和 4年 6月 1日
12	看護職員夜間配置加算1（12対1）	（看夜配）第81号	平成29年 4月 1日
13	療養環境加算	（療）第32号	平成30年 8月 1日
14	重症者等療養環境特別加算	（重）第119号	平成27年 3月 1日
15	無菌治療室管理加算	（無菌 1）第28号	令和 3年 4月 1日
16	緩和ケア診療加算	（緩和）第59号	令和 3年 1月 1日
17	精神科応急入院施設管理加算	（精応）第14号	令和 4年 5月 1日
18	精神病棟入院時医学管理加算	（精入学）第4号	平成13年 8月 1日
19	精神科身体合併症管理加算	（精合併加算）第60号	平成26年 6月 1日
20	摂食障害入院医療管理加算		令和 4年 4月 1日
21	栄養サポートチーム加算	（栄養チ）第31号	平成23年 3月 1日
22	医療安全対策加算	（医療安全 1）第43号	平成30年12月 1日
23	感染対策向上加算 1 指導強化加算	（感染対策 1）第67号	令和 4年 4月 1日
24	患者サポート体制充実加算	（患サポ）第28号	平成24年 4月 1日
25	褥瘡ハイリスク患者ケア加算	（褥瘡ケア）第73号	令和 2年 4月 1日
26	ハイリスク妊娠管理加算	（ハイ妊娠）第53号	平成21年 4月 1日
27	ハイリスク分娩管理加算	（ハイ分娩）第31号	平成21年 4月 1日
28	精神科救急搬送患者地域連携受入加算	（精救急受入）第6号	平成24年 4月 1日
29	呼吸ケアチーム加算	（呼吸チ）第37号	平成30年 6月 1日
30	後発医薬品使用体制加算	（後発使 1）第114号	平成30年 9月 1日
31	データ提出加算	（データ提）第17号	平成24年10月 1日
32	入退院支援加算	（入退支）第76号	令和 2年 4月 1日
33	認知症ケア加算	（認ケア）第181号	平成30年 9月 1日
34	せん妄ハイリスク患者ケア加算	（せん妄ケア）第2号	令和 2年 4月 1日
35	精神疾患診療体制加算	（精疾診）第43号	令和元年10月 1日
36	排尿自立支援加算	（排自支）第25号	令和 2年 7月 1日
37	地域医療体制確保加算	（地医確保）第1号	令和 2年 4月 1日
38	地域歯科診療支援病院入院加算	（地歯入院）第3号	平成20年 4月 1日
39	救命救急入院料 1 救急体制充実加算 1 早期離床・リハビリテーション加算	（救 1）第9号	令和 4年 10月 1日
40	特定集中治療室管理料 3 早期離床・リハビリテーション加算	（集 3）第30号	平成30年10月 1日
41	新生児特定集中治療室管理料 1	（新 1）第40号	令和 2年 5月 1日
42	新生児治療回復室入院医療管理料	（新回復）第11号	平成26年 3月 1日
43	小児入院医療管理料 2 養育支援体制加算	（小入 2）第13号	平成26年 3月 1日

施設基準一覧(特掲)

(令和5年3月31日 現在)

	届出項目	受理番号	認定日
1	ウイルス疾患指導料	(ウ指) 第13号	令和 2年10月 1日
2	糖尿病合併症管理料	(糖管) 第51号	平成20年 4月 1日
3	がん性疼痛緩和指導管理料	(がん疼) 第42号	平成22年 4月 1日
4	がん患者指導管理料(イ)	(がん指イ) 第112号	令和元年12月 1日
5	がん患者指導管理料(ロ)	(がん指ロ) 第93号	令和元年12月 1日
6	がん患者指導管理料(ニ)	(がん指ニ) 第35号	令和 2年 7月 1日
7	糖尿病透析予防指導管理料	(糖防管) 第17号	平成24年 4月 1日
8	小児運動器疾患指導管理料	(小運指管) 第40号	令和 2年 4月 1日
9	乳腺炎重症化予防ケア・指導料	(乳腺ケア) 第34号	平成30年 4月 1日
10	婦人科特定疾患治療管理料	(婦特管) 第205号	令和 2年10月 1日
11	二次性骨折予防継続管理料 1	(ニ骨管 1) 第59号	令和 4年 4月 1日
12	二次性骨折予防継続管理料 3	(ニ骨継 3) 第105号	令和 4年 4月 1日
13	下肢創傷処置管理料	(下創管) 第44号	令和 4年 9月 1日
14	地域連携小児夜間・休日診療料 2	(小夜 2) 第10号	平成25年 3月 1日
15	院内トリアージ実施料	(トリ) 第6号	平成24年 4月 1日
16	外来放射線照射診療料	(放射診) 第35号	平成28年 5月 1日
17	外来腫瘍化学療法診療料 1	(外化診 1) 第76号	令和 4年 4月 1日
18	開放型病院共同指導料	(開) 第58号	平成28年 4月 1日
19	がん治療連携計画策定料	(がん計) 第26号	平成30年 2月 1日
20	排尿自立指導料	(外排自) 第25号	令和 2年 7月 1日
21	ハイリスク妊産婦連携指導料 1	(ハイ妊連 1) 第29号	平成30年10月 1日
22	ハイリスク妊産婦連携指導料 2	(ハイ妊連 2) 第22号	平成30年10月 1日
23	肝炎インターフェロン治療計画料	(肝炎) 第126号	平成27年 3月 1日
24	薬剤管理指導料	(薬) 第244号	平成22年 4月 1日
25	医療機器安全管理料 1	(機安 1) 第91号	平成20年 4月 1日
26	精神科退院時共同指導料 1 ・ 2	(精退共) 第28号	令和 2年 7月 1日
27	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	(在電場) 第2号	平成30年 4月 1日
28	持続血糖測定器加算	(持血測 1) 第38号	平成28年12月 1日
29	遺伝学的検査	(遺伝検) 第50号	令和 5年 1月 1日
30	骨髄微小残存病変量測定	(骨残測) 第17号	令和 3年 2月 1日
31	B R C A 1 / 2 遺伝子検査	(B R C A) 第47号	令和 2年 7月 1日
32	H P V 核酸検出及びH P V 核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定)	(H P V) 第107号	平成26年 4月 1日
33	検体検査管理加算 (I)	(検 I) 第195号	平成20年 7月 1日
34	検体検査管理加算 (II)	(検 II) 第112号	平成23年 2月 1日
35	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	(歩行) 第101号	平成31年 2月 1日
36	長期継続頭蓋内脳波検査	(長) 第21号	平成27年 3月 1日
37	脳波検査判断料 1	(脳判) 第15号	令和元年10月 1日
38	神経学的検査	(神経) 第82号	平成20年 4月 1日
39	ロービジョン検査判断料	(ロー検) 第52号	平成30年 9月 1日
40	小児食物アレルギー負荷検査	(小検) 第124号	平成31年 4月 1日
41	画像診断管理加算 1	(画 1) 第8号	平成14年 4月 1日
42	ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コン ピューター断層複合撮影、ポジトロン断層・磁 気共鳴コンピューター断層複合撮影又は乳房用 ポジトロン断層撮影	(ポ断コ複) 第37号	平成30年 4月 1日
43	C T 撮影及びMR I 撮影	(C ・ M) 第513号	平成24年 4月 1日
44	冠動脈C T 撮影加算	(冠動C) 第26号	平成20年 9月 1日
45	心臓MR I 撮影加算	(心臓M) 第40号	平成20年 9月 1日
46	抗悪性腫瘍剤処方管理加算	(抗悪処方) 第88号	令和 3年 9月 1日
47	外来化学療法加算 1	(外化 1) 第154号	平成29年 8月 1日
48	外来化学療法加算 2	(外化 2) 第14号	平成22年 9月 1日
49	無菌製剤処理料	(菌) 第45号	平成20年 4月 1日
50	心大血管疾患リハビリテーション料 (I)	(心 I) 第64号	平成29年 4月 1日

51	脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	（脳Ⅰ）第217号	令和 2年 4月 1日
52	運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	（運Ⅰ）第61号	平成24年 4月 1日
53	呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	（呼Ⅰ）第82号	平成24年 4月 1日
54	摂食嚥下機能回復体制加算2（摂食機能療法）	（摂嚥回2）第16号	令和 4年10月 1日
55	がん患者リハビリテーション料	（がんリハ）第49号	平成26年11月 1日
56	歯科口腔リハビリテーション料2	（歯リハ2）第129号	平成26年 4月 1日
57	抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）	（抗治療）第23号	令和元年10月 1日
58	医療保護入院等診療料	（医療保護）第49号	平成16年10月 1日
59	処置の休日加算1、時間外加算1、及び深夜加算1	（医処休）第24号 （医処外）第24号 （医処深）第24号	令和 5年 1月 1日
60	静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）	（静圧）第36号	令和 4年 9月 1日
61	硬膜外自家血注入	（血入）第4号	平成28年 4月 1日
62	エタールの局所注入（甲状腺に対するもの）	（エタ甲）第74号	平成27年 3月 1日
63	エタールの局所注入（副甲状腺に対するもの）	（エタ副甲）第41号	令和元年12月 1日
64	人工腎臓	（人工腎臓）第297号	令和 3年 8月 1日
65	導入期加算	（導入1）第212号	令和 2年12月 1日
66	手術用顕微鏡加算	（手顕微加）第80号	平成28年 4月 1日
67	う蝕歯無痛的窩洞形成加算	（う蝕無痛）第117号	平成26年 4月 1日
68	CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	（歯CAD）第2512号	平成28年 4月 1日
69	皮膚悪性収容切除術 （センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る）	（セ節）第19号	令和 3年 6月 1日
70	手術時歯根面レーザー応用加算	（手術歯根）第60号	平成26年 4月 1日
71	骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）	（自家）第7号	平成27年 4月 1日
72	椎間板内酵素注入療法	（椎酵注）第1号	令和 2年 4月 1日
73	内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	（内脳腫）第6号	令和 4年 4月 1日
74	脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	（脳刺）第45号 （脊刺）第61号	平成27年 3月 1日
75	角結膜悪性腫瘍手術	（角結悪）第7号	令和 4年 4月 1日
76	羊膜移植術	（羊膜移）第8号	令和 4年 7月 1日
77	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術 （軟口蓋悪性腫瘍手術を含む）	（鏡咽悪）第16号	令和 4年 7月 1日
78	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	（鏡喉悪）第15号	令和 4年 7月 1日
79	上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。） （歯科診療に係るものに限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）	（歯顎移）第8号	平成24年 4月 1日
80	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検（併用）	（乳セ1）第53号	平成25年 5月 1日
81	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）	（乳セ2）第53号	平成25年 5月 1日
82	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支系形成を伴う肺切除）	（胸腔形成）第16号	令和 4年 4月 1日
83	食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）及び腔腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	（穿瘻閉）第34号	令和元年12月 1日
84	経皮的冠動脈形成術 （特殊カテーテルによるもの）	（経特）第62号	令和 2年 4月 1日
85	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	（ペ）第70号	平成10年 4月 1日

86	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (リードレスペースメーカー)	(ペリ) 第26号	平成30年10月 1日
87	大動脈バルーンパンピング法 (I A B P法)	(大) 第38号	平成10年 4月 1日
88	腹腔鏡下リンパ節郭清術	(腹リ傍側) 第28号	令和 4年 4月 1日
89	腹腔鏡下十二指腸局所切除術 (内視鏡処置を併施するもの)	(腹十二局) 第15号	令和 3年 4月 1日
90	腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	(腹胃切支) 第9号	令和 4年 5月 1日
91	腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	(腹側胃切支) 第9号	令和 4年 5月 1日
92	腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	(腹胃全) 第9号	令和 4年 5月 1日
93	バルーン閉塞下経静脈的塞栓術	(バ経静脈) 第20号	平成30年12月 1日
94	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	(腹胆床) 第25号	令和 4年 4月 1日
95	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	(胆腫) 第21号	平成29年 4月 1日
96	体外衝撃波胆石破砕術	(胆) 第16号	平成11年 3月 1日
97	腹腔鏡下肝切除術	(腹肝) 第22号	平成29年 4月 1日
98	体外衝撃波膵石破砕術	(膵石破) 第7号	平成26年 4月 1日
99	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	(腹膵切) 第35号	平成29年 3月 1日
100	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	(早大腸) 第29号	平成24年 5月 1日
101	内視鏡的小腸ポリープ切除術	(内小ポ) 第27号	令和 4年 4月 1日
102	腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	(腹直腸切支) 第17号	令和 4年 4月 1日
103	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	(腎) 第31号	平成10年12月 1日
104	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	(腹腎尿支器) 第12号	令和 4年 4月 1日
105	腹腔鏡下腎盂形成手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	(腹腎形支) 第10号	令和 3年10月 1日
106	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	(腹膀胱) 第18号	平成29年 8月 1日
107	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	(腹膀胱悪支) 第14号	令和 5年 2月 1日
108	人工尿道括約筋植込・置換術	(人工尿) 第11号	平成29年 9月 1日
109	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	(腹前) 第7号	平成26年 4月 1日
110	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	(腹前支器) 第15号	平成28年 7月 1日
111	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 (子宮体がんに限る。)	(腹子) 第2号	平成26年 4月 1日
112	腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	(腹癒修) 第19号	令和 4年 4月 1日
113	手術の休日加算1、時間外加算1、及び深夜加算1	(医手休) 第29号 (医手外) 第29号 (医手深) 第29号	令和 5年 1月 1日
114	周術期栄養管理実施加算	(周栄養) 第14号	令和 4年 4月 1日
115	輸血管理料 I	(輸血 I) 第68号	令和 2年 4月 1日
116	輸血適正使用加算	(輸適) 第148号	令和 2年 4月 1日
117	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	(造設前) 第10号	平成24年 4月 1日
118	歯周組織再生誘導手術	(G T R) 第215号	平成20年 4月 1日
119	広範囲顎骨支持型装置埋入手術	(人工歯根) 第7号	平成24年 4月 1日
120	歯根端切除手術の注3	(根切頭微) 第64号	平成28年 4月 1日
121	麻酔管理料 (I)	(麻管 I) 第2号	平成 8年 4月 1日
122	麻酔管理料 (II)	(麻管 II) 第9号	平成22年 4月 1日

123	歯科麻酔管理料	(歯麻管) 第6号	令和 2年 7月 1日
124	放射線治療専任加算	(放専) 第10号	平成12年 4月 1日
125	外来放射線治療加算	(外放) 第26号	平成20年 7月 1日
126	高エネルギー放射線治療	(高放) 第109号	平成18年 4月 1日
127	1回線量増加加算	(増線) 第27号	平成28年 2月 1日
128	強度変調放射線治療 (IMRT)	(強度) 第2号	平成22年 5月 1日
129	画像誘導放射線治療加算 (IGRT)	(画誘) 第6号	平成30年10月 1日
130	体外照射呼吸性移動対策加算	(体外策) 第37号	令和 3年10月 1日
131	定位放射線治療	(直放) 第14号	平成21年 6月 1日
132	定位放射線治療呼吸性移動対策加算	(定対策) 第35号	令和 3年10月 1日
133	病理診断管理加算 2	(病理診 2) 第24号	平成29年 3月 1日
134	悪性腫瘍病理組織標本加算	(悪病組) 第44号	平成30年 9月 1日
135	クラウン・ブリッジ維持管理料	(補管) 第2937号	平成 8年 4月 1日

医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる施設基準に係る届出
(対象期間 令和4年1月から令和4年12月まで)

区分		手術名	件数
【区分Ⅰ】	1	頭蓋内腫瘍摘出術等	76件
	2	黄斑下手術等	119件
	3	鼓膜形成手術等	1件
	4	肺悪性腫瘍手術等	105件
	5	経皮的カテーテル心筋焼灼術	37件
【区分Ⅱ】	1	靭帯断裂形成手術等	38件
	2	水頭症手術等	39件
	3	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	1件
	4	尿道形成手術等	10件
	5	角膜移植術	0件
	6	肝切除術等	49件
	7	子宮付属器悪性腫瘍手術等	8件
【区分Ⅲ】	1	上顎骨形成術等	7件
	2	上顎骨悪性腫瘍手術等	16件
	3	パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	0件
	4	母指化手術等	3件
	5	内反足手術等	0件
	6	食道切除再建術等	4件
	7	同種死体腎移植術等	0件
【区分Ⅳ】	1		735件
【区分Ⅴ】	1	人工関節置換術	132件
	2	乳児外科施設基準対象手術	0件
	3	ペースメーカー移植術及び交換術	37件
	4	冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないものを含む)及び体外循環を要する手術	12件
	5	経皮的冠動脈形成術	76件
		・急性心筋梗塞に対するもの	2件
		・不安定狭心症に対するもの	8件
	・その他のもの	66件	
6	経皮的冠動脈粥腫切除術		
7	経皮的冠動脈ステント留置術	100件	
	・急性心筋梗塞に対するもの	15件	
	・不安定狭心症に対するもの	20件	
・その他のもの	65件		
【区分Ⅵ】	1	上顎骨形成術・単純	2件

3 沿革

大正13年 7月 1日	川崎町、大師町及び御幸村の2町1村が合併（市制施行）
昭和 2年 4月30日	明治37年12月28日に設立された伝染病組合病院を川崎市立病院と改称
昭和11年12月16日	伝染病院として、川崎市立病院大規模改築整備の上、開院（院長以下21名、病床数96床）
昭和12年 3月15日	川崎市立新川病院と改称
昭和20年 6月 1日	総合病院に切替え（内科、外科、眼科、産婦人科、歯科及び耳鼻咽喉科の設置）、川崎市立川崎病院と改称
昭和22年 4月 1日	理学診療科の設置
昭和24年 1月 1日	皮膚泌尿器科の設置
昭和26年 7月 1日	小児科の設置
昭和26年11月 1日	婦人科病棟の完成（昭和42年11月北病棟完成に伴い撤去）
昭和27年 3月 1日	伝染病棟改築落成（昭和48年 5月東病棟建設に伴い撤去）
昭和28年 3月 1日	本館起工（第一期、第二期及び第三期工事に分けて施工）
昭和31年 5月 1日	整形外科の設置
昭和32年 8月 1日	総合病院の名称使用許可（昭和23年、法律第205号）
昭和32年12月 1日	厨房及び寄宿舍（第4号館）落成
昭和33年 4月 1日	神経科の設置
昭和33年10月 1日	基準看護（1類）の取得
昭和34年 6月 1日	本館の完成
昭和37年 5月 1日	厚生年金病棟（3号館）の完成
昭和39年 3月 1日	看護婦宿舎が完成
昭和39年 4月 1日	皮膚泌尿器科を皮膚科及び泌尿器科に分離 地方公営企業法の一部適用 川崎市立高等看護学院の実習病院
昭和40年 8月15日	救急病院に指定
昭和42年 4月 1日	研修医制度（3年制）の発足
昭和42年11月27日	北病棟（地下1階地上6階建及び旧2号館）が完成
昭和42年12月 2日	日本小児科学会認定の小児科専門医教育病院
昭和43年 2月 8日	日本内科学会認定の内科専門医教育病院
昭和43年 7月16日	厚生省指定の臨床研修病院
昭和44年 3月31日	放射線治療室の完成
昭和44年 5月15日	児童福祉施設第1種助産施設として認可
昭和45年 1月 1日	消化器科及び脳神経外科の設置
昭和45年 6月10日	日本脳神経外科学会認定の脳神経外科専門医教育病院
昭和45年11月19日	職員厚生会館の完成
昭和46年 4月 1日	麻酔科の設置、産婦人科を産科及び婦人科に分離
昭和46年11月 1日	特殊医療部及び教育指導部の設置
昭和47年 2月 1日	基準看護（特類）の実施

昭和48年 4月 1日	経理課の設置
昭和49年 4月 1日	食養科の設置
昭和49年10月 1日	基準看護（特2類）の実施
昭和50年10月14日	東病棟（旧1号館）の完成
昭和51年 4月 1日	精神科の設置 永年カルテ制度（1患者1病歴制度）の採用
昭和51年 5月 1日	血液センターの設置
昭和51年 6月 1日	中央採血室の設置 施設の名称を本館（旧本館）、1号館（旧東病棟）、2号館（旧北病棟）、 3号館（旧厚生年金病棟）及び4号館（旧教育指導棟）に変更
昭和52年 4月 1日	臨床研修医制度（2年制）の発足 医事課に入院用コンピュータの導入
昭和52年 5月 1日	1号館5階感染症病棟の開設
昭和52年10月 5日	I C U開設準備室の開設
昭和52年10月31日	腎センターの開設
昭和53年 4月 1日	病院事業部の設置に伴い経理課を廃止 看護師を初めて採用 病院群輪番制運営事業参加
昭和53年 6月28日	1号館3階総合病棟の開設
昭和53年 9月11日	I C U準備室をI C U病棟として開設
昭和53年11月 1日	医事課に外来用コンピュータの導入
昭和54年 3月31日	日本病理学会の認定病院
昭和54年 5月 2日	本館内科病棟の名称を内科西病棟及び内科東病棟に変更 3号館内科病棟を休床して本館内科東病棟に移転
昭和54年 5月15日	1号館4階総合病棟の開設
昭和54年10月 2日	日本外科学会の認定医修練施設
昭和55年 1月 1日	日本麻酔学会の認定指導病院
昭和55年 4月 1日	看護科病棟部門の週44時間体制
昭和56年 6月 1日	病床数を733床（一般683、伝染50）に変更
昭和58年 4月11日	日本整形外科学会の認定医制度研修施設
昭和58年10月 1日	日本眼科学会の専門医研修施設
昭和59年 4月 1日	食養科調理部門の週48時間体制
昭和60年 1月 1日	日本消化器外科学会の専門医修練施設
昭和60年 1月 1日	副院長2人制の導入
昭和60年 1月19日	日本耳鼻咽喉科学会の専門医研修施設
昭和61年 4月 1日	日本泌尿器科学会の専門医教育施設
昭和62年 4月 1日	日本皮膚科学会の認定医研修施設
昭和63年 3月29日	外国医師又は外国歯科医師の臨床修練指定病院
昭和63年 4月 1日	日本産婦人科学会の認定医制度卒後研修指導施設
昭和63年 6月 1日	基準看護（特3類）を小児科病棟で取得

昭和63年 9月 1日	基準看護（特3類）を産科及び分娩病棟で取得
平成元年 4月 1日	看護部制の実施 臨床クラーク業務の委託
平成 2年12月 1日	基準看護（特3類）を取得 本館総合病棟、1号館4階小児病棟、1号館4階未熟室、1号館4階総合病棟、2号館4階外科病棟、2号館5階病棟及び3号館婦人科病棟で取得
平成 3年 4月 1日	在宅ねたきり患者処置指導管理の取得 看護の日・看護週間の制定
平成 3年 5月 1日	在宅酸素療法指導管理の取得
平成 4年10月 1日	電動ギャッジベッド100台導入。その後順次導入
平成 5年 3月21日	完全週休2日制に伴い第2土曜日及び第4土曜日外来診療全科の休診
平成 5年 4月 1日	理学診療科を放射線科に変更
平成 6年 3月27日	完全週休2日制に伴い全土曜日外来診療全科の休診
平成 6年 4月 1日	心臓血管外科の設置
平成 6年10月 1日	新看護2対1（A）看護の取得（全病棟） 医事業務の全面委託
平成 6年11月 1日	夜間勤務看護（加算）の取得
平成 7年 3月 1日	新設された看護短大へ看護専門学校を移転
平成 7年 4月 1日	在宅医療部の設置 管理当直業務の委託
平成 7年 6月 1日	適時適温給食の開始
平成 7年 7月 1日	看護専門学校及び看護宿舎の解体開始
平成 7年 7月19日	新病院建設着工
平成 7年10月11日	自走式二階建駐車場の設置（収容62台）
平成 7年12月14日	新病院建設起工式
平成 8年 4月 1日	事務室から事務局に改変 助産師職認定
平成 9年 1月10日	新病院立柱式
平成 9年 3月 1日	リハビリテーション科の設置
平成 9年 3月31日	看護専門学校の閉校
平成 9年 4月 1日	リウマチ科及び歯科口腔外科の設置 副院長3人制に変更 移転準備担当の設置 衛生局から健康福祉局へ機構改革
平成 9年12月18日	新病院の上棟式
平成10年 3月20日	神奈川県知事から災害医療拠点病院の指定
平成10年 4月 1日	呼吸器科、呼吸器外科、総合診療科及び感染症科の設置 在宅医療部から地域医療部へ名称変更 特殊医療部が発展的解消

平成10年 4月 1日	食養科（特食以外）業務の委託 中央器材室滅菌消毒業務の委託 補修室縫製等業務の委託 中央監視室（受電・空調・ボイラー）業務の委託
平成10年 7月15日	日本プライマリ・ケア学会の認定医研修施設
平成10年10月21日	新病院病棟・中央診療棟完成
平成10年11月 1日	物流管理（SPD）・滅菌消毒・ME（医療器機中央管理）業務の委託 管理系施設管理業務の委託 ハウスキーパー業務の委託 検体系検査（医化学・血清・一般・血液）業務の委託
平成10年11月10日	病棟・中央診療棟竣工式
平成10年11月24日	病棟・中央診療棟開設 新棟にて病棟及び一部外来の運用開始 病床種別（一般683床、伝染30床、精神20床）を変更 医療情報システム（HUMAN）稼動 9階北病棟に精神科病棟（20床、新看護3対1（A）・6対1看護補助）の開設
平成10年12月25日	インターネット上に川崎病院ホームページ開設 （ http://www.city.kawasaki.jp/35/35kawsyo/home/index.html ）
平成11年 1月 1日	N I C U（新生児特定集中治療室）開設（平成13年 1月辞退）
平成11年 2月 1日	川崎南部訪問看護ステーション（川崎市看護協会）を院内に設置
平成11年 4月 1日	副院長2人制に変更 標榜科目から神経科を削除 電話交換業務の委託
平成11年 5月 1日	リハビリテーション科で作業療法を開始
平成11年 6月 1日	9階精神科病棟20床から38床へ病床数の変更
平成11年 7月 1日	リハビリテーション科で言語療法を開始
平成11年10月26日	薬剤科で無菌製剤処理の実施
平成11年12月 1日	日本消化器内視鏡学会の認定指導施設
平成11年12月21日	遠隔医療協力モデル事業（川崎市及び慶應義塾大学医学部）の記者発表
平成12年 3月30日	川崎市立川崎病院外来病棟の竣工式
平成12年 3月31日	井田病院が研修指定病院となったため、川崎病院が従病院となる
平成12年 4月 1日	病院移転担当（庶務課主幹）の廃止 看護助手業務の委託 9階精神科病棟、精神保健及び精神障害福祉に関する法律第19条の8の規定に基づく指定病院（4床設置）
平成12年 4月24日	外来診療部門の全面オープン
平成12年 5月 1日	8階小児科病棟（小児科46床、未熟児室14床）の病床数変更
平成12年 5月 7日	14階南（内科）病棟のオープン
平成12年 6月 1日	神奈川県精神救急医療事業の基幹病院

平成13年 1月21日 脳死判定による臓器摘出手術の実施

平成13年 3月30日 外構工事完了

平成13年 3月30日 川崎市立川崎病院の基本理念建立除幕式

平成13年 4月 1日 新病院完成

平成13年 4月 1日 有料駐車場（駐車台数202台）のオープン

平成13年 4月 2日 川崎駅ー川崎病院間の直通ワンコインバスの運行開始

平成14年 3月 1日 産婦人科で体外受精による治療の開始

平成14年 4月 1日 川崎病院組織改革
内視鏡室、血液透析室、救急部及び小児急病センターを新設
地域医療部及び医療相談室が医事課へ移管
地域医療部及び訪問看護部門が看護部へ移管

平成14年 4月 9日 精神科救急24時間体制の開始

平成14年 4月15日 川崎病院内に小児急病センターの開設

平成14年12月 1日 院内駐車場保守業務の委託

平成15年 4月 1日 川崎病院の機構改革
院外処方開始
食養科調理業務の全面委託
看護助手業務の全面委託
ナースキャップの廃止

平成15年 4月 6日 薬剤師、臨床検査技師及び放射線技師の勤務が変則勤務体制に変更

平成15年 7月 1日 「患者さんの権利」及び「患者さんへのお願い」を制定

平成15年 8月 1日 受動喫煙を防止する法律（健康増進法）の施行に伴い、院内禁煙

平成15年10月20日 川崎病院通信「くすの木」創刊号発行

平成15年12月 2日 重症急性呼吸器症候群（SARS）搬送訓練

平成16年 2月17日 医療安全管理室の設置

平成16年 4月 1日 副院長3人制に変更

平成16年 9月 1日 1階外来飲食コーナーの設置

平成16年10月17日 病院機能評価受審
～19日

平成17年 3月23日 外来治療センターの開設

平成17年 4月 1日 病院局の設置
地方公営企業法の全部適用

平成17年 7月 1日 救急センターの開設

平成17年10月 3日 当院で日本初の西ナイル熱患者発生を届出

平成17年11月26日 川崎消防署と合同で災害時医療訓練を実施

平成18年 1月23日 (財)日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定

平成18年 4月 1日 川崎病院組織改革
救命救急センターの開設

平成18年 4月 1日 放射線科から放射線診断科及び放射線治療科へ組織変更
薬剤科から薬剤部へ組織変更

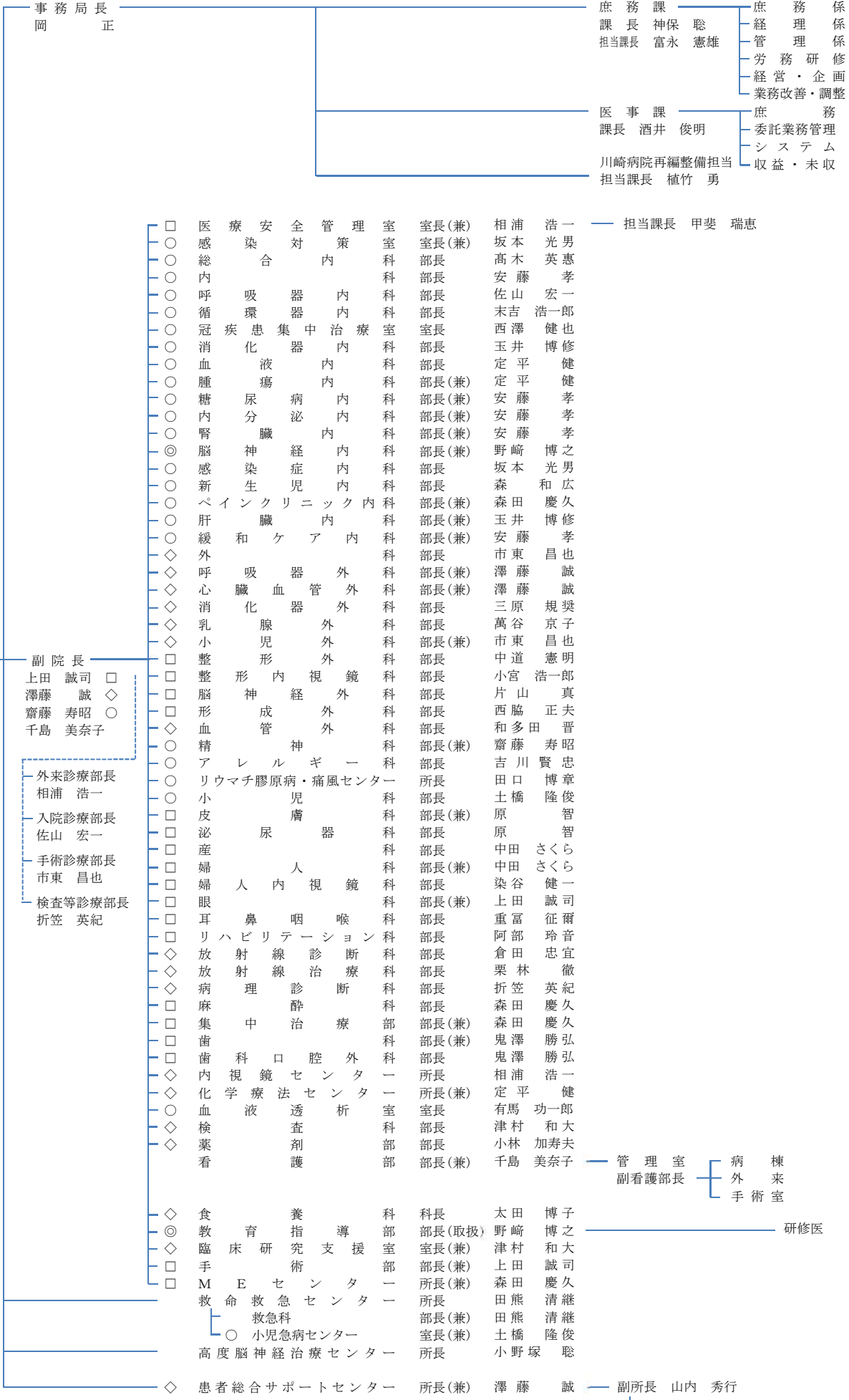
	集中治療部新設
	診療部長制度新設
平成18年10月28日	神奈川県災害医療拠点病院合同災害医療対策訓練及び消防局航空隊ヘリコプターによる救急患者搬送等訓練
平成19年 2月 5日	ヘリポートに夜間照明を設置
平成19年 4月 1日	副院長4人制に変更
	消化器外科新設
	脳血管外科新設
	血管外科新設
	救急科新設
	アドボカシー相談員配置
平成19年11月 1日	CRC事務室設置
平成20年 4月 1日	院内感染対策担当新設
	肝臓内科新設
	冠疾患集中治療室新設
	婦人内視鏡科新設
平成20年 6月 2日	市内救急医療派遣事業（Kawasaki ONE PIECE）開始
平成20年10月 1日	日本口腔外科学会認定関連研修施設
平成21年 1月 1日	新総合医療情報システム（HOPE/EGMAIN-GX）稼働
平成21年 4月 1日	新生児集中治療管理室（NICU）再開
平成21年 4月 1日	新生児科新設
平成21年 7月 1日	DPC導入
平成21年 7月 7日	川崎DMAT（災害医療派遣チーム）設置病院として指定
平成21年11月12日	第48回全国自治体病院学会を川崎市（サンピアンかわさき）で開催
～19日	学会長 市立川崎病院長 長 秀男
平成22年 4月 1日	神奈川県周産期救急医療システム中核病院として指定
平成22年 4月 1日	神奈川県地域周産期母子医療センターとして認定
平成22年 4月 1日	臨床研究支援室の設置
平成22年12月 1日	卒後臨床研修評価機構による認定を受ける
平成23年 3月23日	神奈川DMAT指定病院として指定
平成24年 4月 1日	事務局担当部長配置
平成24年 4月 1日	医療相談室が地域医療部へ移管
平成24年 5月 1日	糖尿病内科新設
	内分泌内科新設
	腎臓内科新設
	小児外科新設
	乳腺外科新設
平成24年 5月 1日	循環器科、新生児科、耳鼻いんこう科及び感染症科から循環器内科、新生児内科、耳鼻咽喉科及び感染症内科へ組織名変更
平成24年 8月 7日	病床数を713床（一般663、精神38、感染12）に変更

平成24年10月20日	川崎市立3病院合同災害医療訓練及び消防局航空隊ヘリコプターによる重症患者等搬送訓練
平成24年11月1日	7:1看護配置の取得
平成24年11月26日	ER初療ベッドを10床に増設
平成24年12月1日	卒後臨床研修評価機構による認定を受ける (H24.12.1～H30.11.30)
平成25年3月1日	助産外来開設
平成25年4月1日	リウマチ科からリウマチ膠原病・痛風センターへ組織名変更 腫瘍内科新設 ペインクリニック内科新設 アレルギー科新設
平成26年4月1日	血液内科新設
平成27年4月1日	庶務課に企画調整担当を設置 内視鏡室から内視鏡センターへ組織名変更 医師及び歯科医師の給与制度改正
平成27年9月11日	神奈川DMAT (川崎病院隊) 茨城県常総市へ派遣
平成27年12月15日 ～16日	病院機能評価受診
平成28年1月1日	「病院の基本理念」「病院運営基本方針」「患者さんの権利」「臨床における倫理指針」を「川崎市立川崎病院基本理念」「病院運営方針」「患者さんの権利」「患者さんの責務」「患者さんへのお願い」に改定
平成28年1月23日	(公)日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定
平成28年2月3日	救命救急センター10周年記念講演会開催
平成28年3月30日	地域医療支援病院の名称承認
平成28年4月18日	神奈川DMAT (川崎病院隊) 熊本県阿蘇市へ派遣
平成28年7月	ダ・ヴィンチ (da Vinci) の本格稼働
平成28年8月	緩和ケア内科外来の設置 がん相談支援センターの開設
平成29年3月23日	神奈川県がん診療連携指定病院の指定
平成29年4月1日	高度脳神経治療センターの設置
平成30年3月	川崎病院医療機能再編整備基本計画の策定
平成30年4月1日	患者総合サポートセンターの設置 PET-CTの本格稼働
平成30年9月6日	神奈川DMAT隊員北海道胆振東部地震対応のため派遣
平成30年10月30日	卒後臨床研修評価機構による認定更新
平成31年4月1日	神奈川県難病医療支援病院の指定
平成31年4月	2階喫茶店跡地に休憩室 (飲食コーナー) を設置
平成31年4月	駐車場の民営化・駐輪場再整備
令和元年6月	川崎市包括外部監査受審
令和元年8月	院内投書掲示板の設置
令和2年2月1日	災害医療企画室の設置

令和 2年 2月25日	川病キャッチコピー「チームでつなぐ地域の未来」決定
令和 2年 2月	ダイヤモンドプリンセス号における新型コロナウイルス感染患者対応及び市中感染患者対応
令和 2年 4月	新型コロナ対策として面会制限及び電話再診を開始
令和 2年 4月	つつじ外来（発熱者専用診療ブース）の設置
令和 2年 5月	LAMP法（遺伝子検査）の導入
令和 2年 5月	神奈川モデルにおける高度医療機関及び重点医療機関の認定
令和 2年 7月	総合入院体制加算2の取得
令和 2年 8月	くすのきボックス（検体採取専用スペース）の設置
令和 2年 9月	大都市感染症指定医療機関会議を開催
令和 2年12月14日 ～15日	病院機能評価受審
令和 3年 2月	エネルギー棟建設工事着手
令和 3年 4月	無菌治療室（5床）の開設
令和 3年 4月	もの忘れ外来の開始
令和 3年 6月	（公）日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定（3rdG:Ver. 2.0）
令和 3年 7月	ロボット手術センターの開設
令和 3年 8月	認知症疾患医療センター（地域型）の開設
令和 3年11月	全国公立病院連盟総会・事務長会・看護部長会合同会議を開催
令和 4年 3月	川崎市応急入院指定病院の指定
令和 4年 3月	ひまわりビレッジの設置（つつじ外来の拡充・移設）
令和 4年 4月	がん診療連携拠点病院の指定

4 機 構 (令和4年4月1日現在)

担当 ◎野崎 博之 □上田 誠司 ◇澤藤 誠 ○齋藤 寿昭



(診療部門)

(診療支援部門)

5 人事の変遷（令和4年4月1日現在）

	歴代	氏名	在任期間
病院長	初代	竹山且子	昭和10年 9月 5日 ～ 昭和17年11月 9日
	2代	依田稔	昭和16年 7月18日 ～ 昭和18年 4月 2日
	3代	博田三雄治	昭和18年 4月 2日 ～ 昭和27年 7月24日
	4代	宮尾啓	昭和27年 7月25日 ～ 昭和39年 9月 1日
	5代	勝正孝	昭和39年 9月 1日 ～ 昭和50年 8月31日
	6代	山本浩	昭和50年 9月 1日 ～ 昭和53年 2月 1日
	7代	藤森一平	昭和53年 2月 1日 ～ 昭和61年11月30日
	8代	林茂	昭和61年12月 1日 ～ 平成 6年 3月31日
	9代	入交昭一郎	平成 6年 4月 1日 ～ 平成11年 3月31日
	10代	岩田嘉行	平成11年 4月 1日 ～ 平成12年 3月31日
	11代	武内可尚	平成12年 4月 1日 ～ 平成15年 3月31日
	12代	秋月哲史	平成15年 4月 1日 ～ 平成20年 3月31日
	13代	長秀男	平成20年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日
	14代	堀内行雄	平成22年 4月 1日 ～ 平成25年 3月31日
	15代	増田純一	平成25年 4月 1日 ～ 平成28年 3月31日
	16代	成松芳明	平成28年 4月 1日 ～ 平成31年 3月31日
	17代	金井歳雄	平成31年 4月 1日 ～ 令和 3年 8月31日
	18代	野崎博之	令和 3年 9月 1日 ～ 現在に至る。
理事 担当理事		堀内行雄	平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日
		増田純一	平成24年 4月 1日 ～ 平成25年 3月31日
		林保良	平成24年 4月 1日 ～ 平成29年 3月31日
		堀内行雄	平成25年 4月 1日 ～ 平成26年 3月31日
		番場正博	平成27年 4月 1日 ～ 平成30年 3月31日
副院長	初代	宮尾啓	昭和26年 1月23日 ～ 昭和27年 7月24日
	2代	高村長治	昭和34年 8月 1日 ～ 昭和36年 9月 1日
	3代	勝正孝	昭和36年12月 1日 ～ 昭和39年 8月31日
	4代	石田堅一	昭和39年 9月 1日 ～ 昭和45年 3月31日
	5代	山本浩	昭和45年 4月 1日 ～ 昭和50年 8月31日
	6代	藤森一平	昭和50年 9月 1日 ～ 昭和53年 1月31日
	7代	菅野卓郎	昭和53年 2月 1日 ～ 昭和56年 3月31日
	8代	斉藤敏明	昭和56年 4月 1日 ～ 昭和62年 3月31日
	9代	鹿野達男	昭和60年 1月 1日 ～ 平成 6年 3月31日
	10代	入交昭一郎	昭和61年12月 1日 ～ 平成 6年 3月31日
	11代	山本泰秀	平成 6年 4月 1日 ～ 平成11年 3月31日
	12代	岩田嘉行	平成 6年 4月 1日 ～ 平成11年 3月31日

13代	松岡康夫	平成9年4月1日	～	平成15年3月31日
14代	武内可尚	平成11年4月1日	～	平成12年3月31日
15代	納賀克彦	平成12年4月1日	～	平成17年3月31日
16代	堀内行雄	平成15年4月1日	～	平成21年3月31日
17代	篠原弘子	平成16年4月1日	～	平成20年3月31日
18代	関賢一	平成17年4月1日	～	平成21年3月31日
19代	長秀男	平成19年4月1日	～	平成20年3月31日
20代	成松芳明	平成20年4月1日	～	平成28年3月31日
21代	齊田和子	平成20年4月1日	～	平成25年3月31日
22代	久場川哲二	平成21年4月1日	～	平成22年3月31日
23代	竹中信夫	平成21年4月1日	～	平成30年3月31日
24代	増田純一(兼)	平成22年4月1日	～	平成25年3月31日
25代	番場正博	平成25年4月1日	～	平成27年3月31日
26代	綱嶋たかえ	平成25年4月1日	～	平成30年3月31日
27代	宮川俊一	平成27年4月1日	～	令和2年3月31日
28代	大曾根康夫	平成28年4月1日	～	令和3年3月31日
29代	小柳貴裕	平成30年4月1日	～	令和2年3月31日
30代	千島美奈子	平成30年4月1日	～	令和5年3月31日
31代	野崎博之	令和2年4月1日	～	令和3年8月31日
32代	上田誠司	令和2年4月1日	～	現在に至る。
33代	澤藤誠	令和3年4月1日	～	現在に至る。
34代	齋藤寿昭	令和4年4月1日	～	現在に至る。

事務長

初代	海野才知	昭和20年6月1日	～	昭和21年8月23日
2代	白倉謙一	昭和21年8月24日	～	昭和27年7月24日
3代	宇田川政之	昭和27年7月25日	～	昭和29年8月27日
4代	石井一郎	昭和29年8月28日	～	昭和30年7月31日
5代	石井英夫	昭和30年8月1日	～	昭和37年4月30日
6代	竹山忠雄	昭和37年5月1日	～	昭和40年3月31日
7代	森己之松	昭和40年4月1日	～	昭和42年10月31日
8代	塚原重年	昭和42年11月1日	～	昭和44年3月31日
9代	小熊栄次	昭和44年4月1日	～	昭和47年10月4日
10代	遠藤文郎	昭和47年10月5日	～	昭和47年12月13日
11代	田代穆彦	昭和47年12月23日	～	昭和54年4月30日
12代	重岡賢治	昭和54年5月1日	～	昭和57年1月31日
13代	上野松治	昭和57年2月1日	～	昭和62年3月31日
14代	岡庭英昭	昭和62年5月1日	～	平成元年3月31日
15代	白鳥房夫	平成元年4月1日	～	平成3年3月31日
16代	藤井健司	平成3年4月1日	～	平成5年3月31日
17代	鈴木嗣明	平成5年4月1日	～	平成6年3月31日

事務局長	18代	齋藤至旦 (経営担当理事)	平成6年4月1日	～	平成8年3月31日	
	19代	蟹江徹也 (経営担当理事)	平成8年4月1日	～	平成10年3月31日	
	20代	菊池敏彦 (経営担当理事)	平成10年4月1日	～	平成11年3月31日	
	21代	山本栄一 (経営担当理事)	平成11年4月1日	～	平成13年3月31日	
	22代	石井洋二郎 (経営担当理事)	平成13年4月1日	～	平成14年3月31日	
	23代	佐藤猛 (経営担当理事)	平成14年4月1日	～	平成15年3月31日	
	24代	添田真郷	平成15年4月1日	～	平成17年3月31日	
	25代	鈴木康夫	平成17年4月1日	～	平成20年3月31日	
	26代	佐々木元行	平成20年4月1日	～	平成21年3月31日	
	27代	高井敏雄	平成21年4月1日	～	平成26年3月31日	
	28代	柄崎智	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日	
	29代	田邊雅史	平成28年4月1日	～	平成29年3月31日	
	30代	林徳厚	平成29年4月1日	～	令和3年3月31日	
31代	岡正	令和3年4月1日	～	令和5年3月31日		
総婦長	初代	植田まき子	昭和20年6月1日	～	昭和39年9月30日	
	2代	船場宮子	昭和39年10月1日	～	昭和53年6月30日	
	3代	久保田好實	昭和53年7月1日	～	昭和58年9月30日	
	4代	加治木ユリ	昭和58年10月1日	～	昭和61年3月31日	
	5代	高木昌子	昭和61年4月1日	～	昭和62年4月30日	
	看護部長	6代	久保田好實	昭和62年5月1日	～	平成2年3月31日
		7代	庄崎雅子	平成2年4月1日	～	平成7年3月31日
		8代	高木サカエ	平成7年4月1日	～	平成10年3月31日
		9代	強矢智恵子	平成10年4月1日	～	平成13年3月31日
		10代	釣巻慈子	平成13年4月1日	～	平成15年3月31日
		11代	篠原弘子 (兼)	平成15年4月1日	～	平成20年3月31日
		12代	齊田和子 (兼)	平成20年4月1日	～	平成25年3月31日
		13代	綱嶋たかえ (兼)	平成25年4月1日	～	平成30年3月31日
		14代	千島美奈子 (兼)	平成30年4月1日	～	令和5年3月31日
救命センター長 救命救急 センター所長		初代	石井誠一郎	平成17年7月1日	～	平成18年3月31日
	初代	石井誠一郎	平成18年4月1日	～	平成21年3月31日	
	2代	堀内行雄 (兼)	平成21年4月1日	～	平成22年3月31日	
	3代	竹中信夫 (兼)	平成22年4月1日	～	平成27年3月31日	
	4代	田熊清継	平成27年4月1日	～	現在に至る。	
高度脳神経治療 センター所長	初代	今西智之	平成29年4月1日	～	令和4年3月31日	
	2代	小野塚聡	令和4年4月1日	～	現在に至る。	

患者総合サポート センター所長	初代	大曾根 康 夫 (兼)	平成30年 4月 1日 ~ 令和 3年 3月31日
	2代	澤 藤 誠 (兼)	令和 3年 4月 1日 ~ 現在に至る。

6 診療科名簿

(令和5年3月31日 現在)

病院長 野崎博之
副院長 上田誠司
副院長 澤藤誠
副院長 齋藤寿昭
副院長兼
看護部長 千島美奈子

【内科】

部長 安藤孝
医長 井上健太郎
医長 北菌久雄
副医長 布施彰久
副医長 花田亮太

【総合内科】

部長 高木英恵
医長 深江智明
副医長 相馬裕樹
安部恭嗣
原田修平
船曳隼大
朝倉啓友
林浩一
竹林康幸
中安美沙
大曾根史織
熊谷聡佑
古田島太希
嶋貫佳奈子
桃原理子
永岡茉莉奈
溝部政仁

【腫瘍内科】

部長(兼) 定平健

【呼吸器内科】

部長 佐山宏一
医長 大森奈緒
医長 大塚健悟
副医長 杉原快
副医長 李昊

【循環器内科】

部長 末吉浩一郎
担当部長 李慧崇
担当部長 伯野大彦
副医長 明神聡介

【冠動脈集中治療室】

室長 西澤健也
医長 伊藤桂

【消化器内科】

部長 玉井博修
担当部長 有泉健
副医長 山根剛
副医長 鈴木健

【血液内科】

部長 定平健
副医長 岡山幹夫

【糖尿病内科】

部長(兼) 安藤孝
副医長 大嶋洋佑
副医長 渡辺雄祐

【内分泌内科】

部長(兼) 安藤 孝

【腎臓内科】

部長(兼) 安藤 孝
副医長 川口 隆久

【血液透析室】

室長 有馬 功一郎

【脳神経内科】

部長(兼) 野崎 博之

【感染症内科】

部長 坂本 光男
医長 細田 智弘

【リウマチ膠原病・痛風センター】

所長 田口 博章
副医長 梶尾 暢彦

【ペインクリニック内科】

部長(兼) 森田 慶久

【肝臓内科】

部長(兼) 玉井 博修

【緩和ケア内科】

部長(兼) 安藤 孝
(兼) 三島 牧

【アレルギー科】

部長 吉川 賢忠

【外科】

部長 市東 昌也

担当部長 小倉 正治

担当部長 中村 哲也

医長 鈴木 佳透

副医長 雨宮 隆介

安藤 拓

【呼吸器外科】

部長(兼) 澤藤 誠

担当部長 岩丸 有史

担当部長 井澤 菜緒子

医長 奥井 将之

【心臓血管外科】

部長(兼) 澤藤 誠

(兼) 森 厚夫

医長 灰田 周史

中間 麻矢子

【消化器外科】

部長 三原 規奨

【乳腺外科】

部長 萬谷 京子

【小児外科】

部長(兼) 市東 昌也

【血管外科】

部長 和多田 晋

副医長 細川 恭佑

【整形外科】

部長 中道 憲明

担当部長 小宮 浩一郎

担当部長 山口 健治

部長(兼) 西脇 正夫

担当部長 西村空也
医 長 寺坂幸倫
副医長 谷英明
副医長 伊藤修平
副医長 歌島淳
竹之下真一
今本多計臣
伊藤ゆりか

【形成外科】

部 長 西脇正夫
副医長 継 涉
永塚大樹

【脳神経外科】

部 長 片山真
担当部長 三島牧
副医長 蔵成勇紀
岩間隆史

【高度脳神経治療センター】

所 長 小野塚 聡

【内視鏡センター】

所 長 相浦浩一

【精神科】

部 長(兼) 齋藤寿昭
医 長 三浦孝政
副医長 倉持信
太田真右
格谷雅徳
鈴木美里

【小児科】

部 長 土橋隆俊

担当部長 有安大典
担当部長 檜林 敦
医 長 柴田浩憲
医 長 松尾基視
医 長 外山陽子
医 長 吉田 祐
副医長 案納あつこ
副医長 山田 剛
可児圭丞
古澤恭平
阿久津朱伽

【新生児内科】

部 長 森 和 広
担当部長 古川律子
医 長 佐々木 歩
副医長 宮武瑛里
副医長 長田朝美

【皮膚科】

部 長(兼) 原 智
医 長 西本周平
新川紗由香
松本薫郎

【泌尿器科】

部 長 原 智
医 長 福本桂資郎
医 長 勝井政博
医 長 茂田啓介
副医長 梅田浩太
小森貴大

【産科・婦人科】

部 長 中田さくら
専任部長 林 保良

担当部長 染谷健一
担当部長 金善恵
医長 大谷利光
副医長 石垣順子
副医長 大橋千恵
副医長 大石真希
副医長 蒔美彩

【眼科】

部長(兼) 上田誠司
副医長 三田村浩人
副医長 小澤紘子
副医長 安里輝平
副医長 宮下翔平

【耳鼻咽喉科】

部長 重富征爾
医長 猪狩雄一
副医長 中山梨絵
副医長 高原美希
副医長 田中祥子

【リハビリテーション科】

部長 阿部玲音
副医長 須田万豊
副医長 速見優希

【放射線診断科】

部長 倉田忠宜
担当部長 長谷川市郎
担当部長 緒方雄史
副医長 山本洋輔
副医長 藤井茜

【放射線治療科】

部長 栗林徹

担当部長 關智史

【麻酔科・集中治療部】

部長 森田慶久
担当部長 菅規久子
医長 梶谷美砂
医長 奥田淳
医長 出野智史
副医長 石渡博昭
副医長 鵜澤侑子
副医長 古川貴子
副医長 沓水千尋
副医長 岡部久美子
副医長 瀬上和貴

【病理診断科】

部長 折笠英紀
杉浦仁

【検査科】

部長 津村和夫

【歯科口腔外科】

部長 鬼澤勝弘
担当部長 安居孝純
担当部長 田中健太

【救命救急センター・救急科】

所長 田熊清繼
副所長 齋藤豊
医長 進藤健
医長 金尾邦生
医長 石田正高
副医長 三吉貴大
副医長 土屋光正
副医長 金子翔太郎
副医長 鳥海聡

藤 田 野々香
天 笠 愛 子
杉 真 惠
大 島 千 穂

退職者及び院外異動者

*印は院外異動者

医 師

扇野圭子	平成28年4月1日	～	令和4年4月30日	熊谷聡佑	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日
美馬雄一郎	平成31年4月1日	～	令和4年6月30日	古田島太希	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日
滝口俊一	平成29年9月1日	～	令和4年8月31日	*嶋貫佳奈子	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日
元村祐介	令和3年7月1日	～	令和4年8月31日	溝部政仁	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日
近藤崇之	平成30年4月1日	～	令和4年9月30日	安部恭嗣	令和2年10月1日	～	令和5年3月31日
大谷利光	令和2年4月1日	～	令和4年9月30日	安藤拓	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日
山本洋輔	令和3年7月1日	～	令和4年9月30日	今本多計臣	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日
細井卓司	平成28年7月1日	～	令和4年9月30日	竹之下真一	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日
木戸美織	令和3年7月1日	～	令和4年12月31日	永塚大樹	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日
園部秀樹	令和2年4月1日	～	令和4年12月31日	岩間隆史	令和5年1月1日	～	令和5年3月31日
山根剛	令和2年4月1日	～	令和5年3月31日	格谷雅徳	令和3年4月1日	～	令和5年3月31日
渡辺雄祐	令和3年4月1日	～	令和5年3月31日	古澤恭平	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日
佐々木歩	令和4年5月1日	～	令和5年3月31日	田原海	令和5年3月1日	～	令和5年3月31日
宮武瑛里	平成30年7月1日	～	令和5年3月31日	松本薫郎	令和4年7月1日	～	令和5年3月31日
中村哲也	平成30年4月1日	～	令和5年3月31日	小森貴大	令和4年10月1日	～	令和5年3月31日
鈴木佳透	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日	蒔美彩	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日
細川恭佑	令和3年4月1日	～	令和5年3月31日	宮下翔平	令和3年7月1日	～	令和5年3月31日
井澤菜緒子	平成27年4月1日	～	令和5年3月31日	速見優希	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日
中道憲明	平成21年4月1日	～	令和5年3月31日	藤井茜	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日
歌島淳	令和1年10月1日	～	令和5年3月31日	堀井千裕	平成27年4月1日	～	令和5年3月31日
谷英明	令和2年4月1日	～	令和5年3月31日	沓水千尋	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日
*三島牧	平成26年4月1日	～	令和5年3月31日	天笠愛子	令和2年4月1日	～	令和5年3月31日
藏成勇紀	令和3年4月1日	～	令和5年3月31日	*杉真恵	令和2年4月1日	～	令和5年3月31日
繼涉	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日	大島千穂	令和4年10月1日	～	令和5年3月31日
山田剛	令和3年7月1日	～	令和5年3月31日				
福本桂資郎	令和3年1月1日	～	令和5年3月31日				
中山梨絵	令和3年4月1日	～	令和5年3月31日				
須田万豊	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日				
相浦浩一	平成23年4月1日	～	令和5年3月31日				
有馬功一郎	昭和63年12月1日	～	令和5年3月31日				
進藤健	平成22年4月1日	～	令和5年3月31日				
石田正高	令和2年10月1日	～	令和5年3月31日				

臨床研修医

秋山倫人	令和3年4月1日	～	令和5年3月31日
加藤亜美	令和3年4月1日	～	令和5年3月31日
鈴木涼太	令和3年4月1日	～	令和5年3月31日
槌野由香里	令和3年4月1日	～	令和5年3月31日
豊原雅人	令和3年4月1日	～	令和5年3月31日
中原日菜	令和3年4月1日	～	令和5年3月31日
畑崎祐志	令和3年4月1日	～	令和5年3月31日
松山千紘	令和3年4月1日	～	令和5年3月31日
眞鍋佳世	令和3年4月1日	～	令和5年3月31日
三浦優花	令和3年4月1日	～	令和5年3月31日
鈴木徹志郎	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日
星野尚子	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日
堀雄哉	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日
山田郁	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日

会計年度任用職員医師・歯科医師

佐柳太一	令和4年4月1日	～	令和4年6月30日
宮川明大	令和3年7月1日	～	令和4年6月30日
朝倉啓友	令和4年4月1日	～	令和4年9月30日
金子弘樹	令和4年4月1日	～	令和4年9月30日
野川博嗣	令和4年7月1日	～	令和4年9月30日
高橋美歩	令和4年4月1日	～	令和4年9月30日
竹内玲衣	令和3年4月1日	～	令和4年9月30日
藤田夏樹	令和2年4月1日	～	令和4年9月30日
堀越雄一郎	令和3年4月1日	～	令和4年9月30日
日野宇太郎	令和4年10月1日	～	令和4年12月31日
原田修平	令和4年1月1日	～	令和5年3月31日
船曳隼大	令和2年4月1日	～	令和5年3月31日
竹林康幸	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日
中安美沙	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日
阪本陽介	令和4年10月1日	～	令和5年3月31日
永岡茉莉奈	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日
大曾根史織	令和4年4月1日	～	令和5年3月31日

7 病院案内図



外来フロアマップ

3階



2階



1階



川崎市立川崎病院 2020.4.6

8 定例院内会議

- (1) 三役会議
 病院長、事務局長、副院長④、担当部長、庶務課長、医事課長 週1回
- (2) 運営会議
 病院長、事務局長、副院長④、各科部・課(科)長、担当部・課(科)長 月2回
- (3) 経営戦略会議
 病院長、事務局長、副院長④、各科部長、庶務課長、医事課長 月1回
- (4) 各種委員会 (令和5年3月1日現在)

番号	委員会名 活動内容	委員長名	役職名	統括 開催予定
1	倫理委員会	上田 誠 司	副 院 長	上田副院長
	(脳死判定委員会)	(片山 真)	(脳神経外科部長)	(齋藤副院長)
	(臨床倫理コンサルテーションチーム)	(井上 健太郎)	(内科医長)	(齋藤副院長)
	*医療行為に関し、倫理的・社会的観点から審査等を行う。			必要に応じて開催
2	病院機能再編推進委員会 *院内の各部署の再編について調査及び検討する。	上田 誠 司	副 院 長	上田副院長 必要に応じて開催
3	医療安全管理委員会 (医療安全管理部会)	相 浦 浩 一 (萬谷 京子)	医療安全管理室長 (乳腺外科部長)	上田副院長 (上田副院長)
	*医療事故を防止し、安全かつ適切な医療体制を確立する。			月1回
4	職員衛生委員会 *職員の労働衛生に関する事項を調査審議し、衛生管理の推進を図る。	坂 本 光 男	感染症内科部長	齋藤副院長 月1回
5	院内感染対策委員会 (感染対策部会)	坂 本 光 男 (細田 智弘)	感染症内科部長 (感染症内科医長)	齋藤副院長 (齋藤副院長)
	*院内感染の防止のため、諸問題を調査及び審議する。			月1回
6	医療ガス安全管理委員会 *高圧ガス保守法に基づき、院内医療ガスの安全を検証及び推進する。	佐 山 宏 一	呼吸器内科部長	病 院 長 年2回
7	放射線安全委員会 *放射線障害の防止について、必要事項を調査及び審議する。	野 崎 博 之	病 院 長	病 院 長 年1回
8	診療録管理委員会 *診療録の管理と診療情報の提供を行うために、必要事項を検討する。	土 橋 隆 俊	小児科部長	上田副院長 月1回
9	給食委員会 *栄養業務及び給食業務の管理運営について検討する。	津 村 和 大	病態栄養治療部長	澤藤副院長 隔月
10	治験審査・臨床研究倫理審査委員会 *治験を行うことの適否、その他治験に関する調査及び審議する。	津 村 和 大	臨床研究支援室長	澤藤副院長 月1回
11	輸血療法委員会 *輸血関連業務等の必要事項を検討する。	定 平 健	血液内科部長	齋藤副院長 隔月
12	臨床検査業務検討委員会 *臨床検査の精度管理を行う。	津 村 和 大	検査科部長	澤藤副院長 必要に応じて開催
13	業務改善委員会 *職場環境を整え、患者サービスの充実と医療の向上を図るために、必要事項を検討する。	千 島 美奈子	副院長・看護部長	千島副院長 年9回
14	機種選定委員会 *購入する医療用器機の仕様決定又は機種の選定を行う。	上 田 誠 司	副 院 長	上田副院長 必要に応じて開催
15	クリニカルパス検討委員会 *チーム医療の機能と効率性を高めるために、必要事項を検討する。	津 村 和 大	検査科部長	澤藤副院長 隔月
16	薬事委員会 *薬事全般に関する事項について審議する。	小 林 加寿夫	薬剤部長	澤藤副院長 年9回
17	保険委員会 (DPCコーディング部会)	野 崎 博 之 (野崎 博之)	病 院 長 (病院長)	病 院 長 (病院長)
	*診療報酬の請求に対する査定等について検討し、経営効率の向上に努める。			月1回
18	情報システム管理委員会 (システム運用検討部会)	澤 藤 誠 (檜林 敦)	副 院 長 (医療情報システム管理室長)	澤藤副院長 (澤藤副院長)
	*医療情報システムの管理及び運用について検討する。			必要に応じて開催
19	手術部委員会 (外来手術室部会)	上 田 誠 司 (和多田 晋)	副 院 長 (血管外科部長)	上田副院長 (上田副院長)
	*手術部門の安全かつ円滑な運営をするために、必要事項の検討、調査審議及び提言を行う。			月1回
20	ICU・CCU運営委員会 *ICU・CCUの安全管理と集中治療室としての機能を発揮できる運営を推進する。	森 田 慶 久	集中治療部長	上田副院長 年2回
21	医療材料等委員会 *医療材料等の採用・死蔵化の防止、使用の効率化及び試用に関する事項を検討する。	市 東 昌 也	外科部長	病 院 長 月1回

番号	委員会名 活動内容	委員長名	役職名	統括 開催予定
22	地域医療連携推進・強化委員会 (地域連携部会)	澤藤 誠 (中田 さくら)	副院長 (産科部長・婦人科部長)	澤藤副院長 (澤藤副院長)
	*病院と地域の連携を図り、情報の共有化及びネットワーク作りを検討及び推進する。			年4回
23	がん診療推進委員会 (がん患者会サポート部会)	市東 昌也 (山内 秀行)	外科部長 (患者総合サポートセンター副所長)	病院長 (澤藤副院長)
	*がん診療の充実と推進のための検討を行う。			年4回
24	褥瘡対策委員会 *褥瘡対策を討議し、その効率的な推進を図る。	原 智	皮膚科部長	上田副院長 月1回
25	救急医療運営委員会 (院内救急RRS部会)	田熊 清継 (齋藤 豊)	救命救急センター所長 (救命救急センター室長)	田熊所長 (田熊所長)
	*救急部門及び災害時医療対策について、必要事項を検討する。			月1回
26	化学療法委員会 *外来治療センターの運営に関する必要事項を検討する。	定平 健	血液内科部長	澤藤副院長 月1回
27	広報委員会 (広報部会)	野崎 博之 津村 和 大	病院長 検査科部長	病院長 病院長
	*広報雑誌とホームページの作成を中心に、病院の広報活動の推進を図る。			年4回
28	ボランティア推進委員会 *ボランティア活動を円滑化して、患者サービスの充実及び向上を図る。	千島 美奈子	副院長・看護部長	千島副院長 隔月
29	精神科救急医療検討委員会 *精神科救急医療を円滑に実施するために、必要事項を検討する。	齋藤 寿 昭	精神科部長	齋藤副院長 必要に応じて開催
30	病院機能評価検討委員会 *病院機能評価の受審等に関する事項について検討する。	上田 誠 司	副院長	上田副院長 年2回
31	医療機器安全管理委員会 *医療機器の安全使用のための情報収集。医療機器の安全使用のための研修の策定及び実施。医療機器の保守点検の計画の策定。	森田 慶 久	麻酔科部長	病院長 年4回
32	チーム医療推進委員会 (NST・摂食嚥下支援チーム部会)	阿部 玲音 (阿部 玲音)	リハビリテーション科部長 (リハビリテーション科部長)	上田副院長 (上田副院長)
	早期離床推進部会 *チーム医療について討議し、その効率的な推進を図る。	(阿部 玲音)	(リハビリテーション科部長)	(上田副院長) 必要に応じて開催
33	緩和ケア委員会 *緩和ケアについて検討する。	澤藤 誠	副院長	澤藤副院長 月1回
34	外来診療委員会 *外来診療について検討する。	相浦 浩 一	内視鏡センター所長	上田副院長 隔月
35	虐待対策委員会 *児童虐待に関する諸問題を調査及び審議する。	土橋 隆 俊	小児科部長	田熊所長 必要に応じて開催
36	行動制限最小化委員会 *精神科入院患者の隔離・拘束・通信制限などにつきその妥当性を検討する。	齋藤 寿 昭	精神科部長	齋藤副院長 月1回
37	内視鏡委員会 *医療従事者の診療検査体制及び診療情報共有による質の高い円滑な医療提供を図る。	相浦 浩 一	内視鏡センター所長	病院長 隔月
38	教育研究委員会 (研修管理委員会)	野崎 博之 (小宮 浩一郎)	病院長 (整形内視鏡科部長)	病院長 (病院長)
	(研究支援委員会)	(津村 和 大)	(臨床研究支援室長)	(病院長)
	(図書委員会)	(玉井 博修)	(消化器内科部長)	(病院長)
	(看護教育研修委員会)	(千島 美奈子)	(副院長・看護部長)	(千島副院長)
	(内科専門研修プログラム管理委員会)	(高木 英恵)	(総合内科部長)	(齋藤副院長)
	(内科専攻医研修管理委員会)	(高木 英恵)	(総合内科部長)	(齋藤副院長)
*研修医の教育支援と管理、臨床研究支援、図書の整備、業績管理を行う。			年2回	
39	精神科身体合併症管理委員会 *精神科身体合併症患者の診察・治療において院内連携を円滑にするための調整を行う。	齋藤 寿 昭	精神科部長	齋藤副院長 月1回
40	働き方改革推進委員会 (医師事務作業補助者調整委員会)	野崎 博之 (野崎 博之)	病院長 (病院長)	病院長 (病院長)
	*医師の負担軽減及び処遇の改善に資する計画の作成や達成状況の評価等を行う。			年2回
41	難病医療支援病院運営委員会 *神奈川県新事業の実施に伴う院内体制の整備を行う。	澤藤 誠	副院長	澤藤副院長 必要に応じて開催
42	認知症ケア委員会 *認知症ケアについて討議、検討し、認知症の症状緩和、悪化予防の推進を図る。	北 薊 久 雄	内科医長	病院長 月1回
43	医療放射線管理委員会 *放射線診療のプロトコール管理、被ばく線量管理、放射線の過剰被ばく等、放射線診療に関する対応、業務を行う。	池本 孝 司	放射線診断科担当課長	澤藤副院長 年1回

番号	委員会名 活動内容	委員長名	役職名	統括 開催予定
44	透析機器安全管理委員会 *透析機器の安全使用のための情報収集、研修計画の策定及び実施、保守点検計画の策定を行う。	安藤 孝	腎臓内科部長	齋藤副院長 月1回
45	認知症疾患医療センター運営委員会 (認知症疾患医療センター運営委員会分科会) *認知症に係る相談、外来診療への案内、広報の企画、近隣医療機関との連携を行う。	北 薊 久 雄 (北薊 久雄)	内科医長 内科医長	病 院 長 (病 院 長) 必要に応じて開催

Ⅱ 診 療 科 概 要

1 内科

統括部長 安藤 孝

【診療科紹介】

本院の基本理念は「私たちは、地域の基幹病院として、他の医療機関と連携し、「病気」でなく「病人」を診る心を大切に、安全安心で質の高い医療を、患者の皆さまとともに考え、実践し、健康と福祉の向上を通じて地域社会の発展に貢献することを目指します。」であり、病んでいる「臓器」のみを診るのではなく、病に苦しむ人に向き合い、その人そのものを診ることを目指しています。そのため臓器別の内科ではなく一内科制をひき、全身をみるようにしております。現在、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科・肝臓内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、感染症内科、血液内科、緩和ケア内科、リウマチ膠原病・痛風センターの専門部門を擁しておりますが、内科統括部長のもと一内科として運用しております。

(1) 総合内科

部長 高木 英 恵

【診療科紹介】

当院では、内科専攻医は総合内科に所属し、内科各専門分野のスタッフの指導のもとで入院、外来、救急外来患者さんを診療しています。「総合診療科」の名称で専攻医教育を行っていた伝統を引き継ぎ、内科総合診療医 (general physician) の育成を目指しています。また、知識や技能だけでなく、病気でなく病人をみる心を大切に、安全・安心で質の高い医療を実践し、地域社会の発展に貢献することを目標にしています。

(2) 呼吸器内科

部長 佐山 宏 一

【診療科紹介】

呼吸器内科では、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)などの閉塞性肺疾患でさらに難治性で専門的な検査・治療が必要な症例、肺癌などの悪性腫瘍、間質性肺炎などのびまん性肺疾患の専門診療に対応しています。

(3) 循環器内科

部長 末吉 浩一郎

【診療科紹介】

循環器疾患(狭心症、心筋梗塞、心不全、弁膜症、不整脈など)の診療を担当しています。急性心筋梗塞に対する緊急PCIは24時間対応します。

(4) 消化器内科

部長 玉井 博 修

【診療科紹介】

消化器・肝臓内科では消化器疾患全般に対応いたします。

当院は日本内科学会、日本消化器病学会、日本肝臓学会、日本消化器内視鏡学会の認定施設となっております。

(5) 血液内科

部 長 定 平 健

【診療科紹介】

入院診療では主に、急性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫・骨髄異形成症候群など造血器腫瘍に対する化学療法を行っております。診療には、日本血液学会認定血液専門医の指導のもと、内科・総合内科所属医師があたります。外来診療では主に、貧血・血小板減少・白血球減少など血液異常や出血傾向の原因精査と、造血器腫瘍に対する通院治療を行っております。慢性貧血や血小板減少に対する外来定期輸血にも対応しております。

令和4年4月1日に当院は日本血栓止血学会認定施設に認定されました。令和4年度の他院から直接血液内科へ御紹介いただいた患者数は265名です。悪性リンパ腫新規症例数は80名です。

(6) 糖尿病内科・内分泌内科

部 長 安 藤 孝

副 医 長 大 嶋 洋 佑

副 医 長 渡 辺 雄 祐

【診療科紹介】

当院の糖尿病内科・内分泌内科では、糖尿病・脂質異常症・肥満症・メタボリックシンドロームなどの代謝・栄養疾患、下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎・性腺などの内分泌疾患の専門診療に対応しています。

糖尿病の診療では、各診療科にご入院となった患者さんの血糖管理に関するニーズがとて大きく、毎月100名超の新規相談を応需しています。これらに加えて、かかりつけ医様で血糖管理に難渋した症例の教育入院やインスリン導入等の相談、妊娠糖尿病の周産期管理などを多数行っています。

内分泌疾患の診療では、脳神経外科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・産婦人科・放射線診断科等と協力しながら、適切な診断と治療に努めています。

【チーム医療の実践】

糖尿病診療では、医師・看護師・管理栄養士のチーム医療を実践した患者教育を重視しています。糖尿病専門医・糖尿病看護認定看護師に加え、30余名の糖尿病療養指導士が中心になり療養指導の質向上に努めています。また当院では1型糖尿病に対するインスリンポンプ治療(CSII)にも対応しています。糖尿病フットケアを目的として、かかりつけ医様との循環型の連携受診にも応じています。

【糖尿病教室】

管理栄養士による食事療法の基礎と応用の紹介、リハビリテーション科医師による運動療法の講義、看護師による糖尿病療養指導、薬剤師による糖尿病関連薬の概説など、各回テーマ・内容を変えて糖尿病教室を開催しています。

【糖尿病教育入院】

教育入院の期間や入院日については、1人ひとりの病態やご事情を勘案して、オーダーメ

イドで設定します。糖毒性解除と至適薬物選択、2回の個別栄養指導、服薬指導等を含めた一連の教育と治療を完遂する場合には、概ね2週間を要します。

【その他の入院対応例】

- 妊娠糖尿病の初期指導：6分食体験学習とSMBG導入を併行して行います（7日間程度）
- 下垂体機能精査：確定診断に必要な負荷試験や蓄尿検査等を行います（5日間程度）
- 副腎機能精査：確定診断に必要な負荷試験や蓄尿検査等を行います（5日間程度）

【糖尿病・内分泌疾患の救急対応】

高血糖緊急症（糖尿病ケトアシドーシス、高血糖高浸透圧症候群）、下垂体卒中、甲状腺クリーゼ、粘液水腫性昏睡、副腎クリーゼ、褐色細胞腫クリーゼ、高度カルシウム代謝障害などの内分泌緊急症の治療では、救急科・救命救急センターおよび総合内科等と協力・連携しながら対応しています。

（7）腎臓内科

部長 安藤 孝

【診療科紹介】

腎臓内科では、さまざまな腎臓の異常、指定難病の診療、指導に対応しています。各種血液浄化療法のほか、維持腹膜透析など、受け入れ対象疾患を徐々に拡充しております。

（8）脳神経内科

部長 野崎 博之

【診療科紹介】

当院の脳神経内科は、救急科、脳神経外科、リハビリテーション科と協力し、脳血管障害の診療に積極的に取り組んでいます。頭痛・めまい・しびれなどの神経系の症状や、認知症、パーキンソン病、てんかん、重症筋無力症などの神経疾患の診療も行っております。また内科の一部門として、各種内科疾患に伴う神経合併症を含め、総合的な診療を行っております。脳血管障害に対して、平成29年4月に高度脳神経治療センターを立ち上げ、24時間体制でtPAによる血栓溶解療法や血管内治療などが行えるようになりました。令和3年6月から主にパーキンソン病を対象とした脳深部刺激療法(DBS)を脳神経外科と協働のうえ開始し、令和5年度より日本定位・機能神経外科学会認定の機能的定位脳手術技術認定施設に認定されました。パーキンソン病の専門外来も開設し紹介患者様の診療にあたっております。令和3年8月には認知症疾患医療センターを開設し、もの忘れ外来、もの忘れ相談室を主軸とし地域の認知症診療の中心となるべく日々業務にあたっております。そして、令和4年5月から頭痛外来を開設し、二次性頭痛の鑑別や片頭痛などの一次性頭痛の診断およびCGRP関連薬剤を含めた治療を行っております。専門外来(パーキンソン病外来、もの忘れ外来、頭痛外来)は完全予約制ですので、ご紹介頂く際には当院にお問い合わせ頂ければ幸いです。

(9) 感染症内科

部長 坂本光男

【診療科紹介】

当院は感染症病床を有する第2種感染症医療機関、HIV/エイズ診療拠点病院に指定されています。ただし、結核病床は有していないので、結核診療には対応しておりません。結核および非結核性抗酸菌症につきましては、疑い例も含めて指定の医療機関にご紹介下さい。

結核を除く2類感染症、新型インフルエンザ、中東呼吸器症候群（MERS）等の新感染症、3～5類感染症を中心に診療しています。特に感染性腸炎（食中毒・旅行者下痢症を含む）、輸入感染症、HIV 感染症/AIDS、性感染症、成人における小児流行性ウイルス感染症などの診療に力を入れています。ただし麻疹につきましては、厳重な空気感染予防策が必要となります。時間帯によっては対応が困難なこともあります。受診希望の際は、必ず事前にご連絡をお願いいたします。

各種ワクチン接種（本邦未承認薬および黄熱ワクチンは除く）や海外渡航前の事前相談も可能です。診断にあたっては川崎市健康安全研究所や国立感染症研究所とも連携し、正確な病原診断を心がけております。

(10) リウマチ膠原病・痛風センター

所長 田口博章

【診療科紹介】

当センターの診療は、初診の方は、はじめにリウマチ内科の医師が担当し、病状に応じて、整形外科、リハビリテーション科の外来担当医に診察して頂きます。内科では、最新の薬物治療を中心とした病気全体の管理を行います。整形外科では、関節リウマチによる関節機能障害に対する手術療法を行います。リハビリテーション科では、装具治療、手術療法後のリハビリテーションなどを中心に行います。

2 小児科

部長 土橋 隆俊

【診療科の紹介】

川崎市南部の小児科医療を担う基幹病院として、スタッフ9名、専攻医3名の計12名で診療を行っております。市中病院ではありますが、15歳未満の小児患者の専門病棟があり、外科系疾患の小児患者も入院しております。外科系各科との連携もスムーズです。病棟の診療体制はチーム制で、スタッフと専攻医が組み丁寧な診療を心がけております。そこに研修医や学生実習も組み込まれ、専攻医が学びながら教育もできるような体制を構築しております。

小児科では、感染症や痙攣性疾患を中心とした急性疾患全般と、小児内科系の各専門分野について、診療を行っております。川崎南部の『最後の砦』の基幹病院として、可能な限り近隣の先生方からのご紹介を受けられるように頑張っております。消化器外科疾患や悪性腫瘍等は、診断確定の上速やかに専門病院に紹介するようにしております。

スタッフ9名はそれぞれが専門分野を持ち診療にあたっております。循環器、内分泌代謝、感染症、呼吸器、アレルギー、腎臓とそれぞれの専門性を生かしつつ、午後の専門外来や紹介患者に対応しております。予約制で循環器・内分泌代謝・腎臓・アレルギー・神経・精神保健・血液についての専門外来を非常勤医師も含め行っております。専門医をご希望でご紹介頂く場合は、曜日の指定がございますので、患者総合サポートセンターまでお問い合わせください。

夜間休日は川崎市南部小児急病センターとして、院内外の医師で1次・2次救急に対応しております。

3 新生児内科

部長 森 和広

【診療科の紹介】

新生児内科では、以下の状況の院内出生児および他院からの搬送児の入院診療に対応しております。

- 早産・低出生体重児（在胎26週以降を目安に受入れています）
- 呼吸状態の不安定な児
- 仮死状態で出生した児
- 発熱を伴う児
- 嘔吐や哺乳不良、血便など、消化器症状のある児
- 先天的な特徴のある児
- 黄疸の強い児
- けいれんをきたした児
- 高次周産期施設から、逆搬送を要請された場合
- 屋外など分娩施設外で出生した直後の児

周産期救急に対応することを重視しております。搬送依頼に、24時間体制で対応します。

こども病院・大学病院とも連携し、医療レベルの向上に努めています。当院での対応に困難が予想される一部の外科系疾患の場合、適切な医療機関への紹介・搬送転院を行います。

4 精神科

部長 齋藤 寿 昭

【診療科紹介】

川崎市基幹病院かつ総合病院有床精神科であり、県・市の精神科救急体制の一環として、また精神疾患を有する患者の身体合併症の治療も担うべきと考えております。さらに一般的な薬物療法での効果が認められない患者さんにつき、麻酔科などと連携し、修正型通電療法（m-ECT）を施行しております。また治療抵抗性統合失調症に対して適応を吟味したうえ、適正使用委員会に登録を有するクロザピンの使用を入院および外来でおこなっております。

【令和4年度の取組】

令和4年度の当科入院件数は187人（前年191人）平均在院日数は31.6日（前年28.5日）でした。地域連携による入院患者の増加、診療の効率化による在院日数の短縮に引き続き努めています。外来新患数は289人（前年368人）再来数は14,359人（前年14,442人）と縮小傾向にはありますが、鑑別診断、入院依頼、合併症などでの初診数は増やしていかなければならないと考えております。

当科は4県市協調精神科救急の基幹病院として2次、3次精神科救急を担っています。令和4年度4県市精神科救急患者は20件で前年24件に比し減じていますが、この数値は当番日の精神科救急症例の有無のみでなく、救急受け入れ病床確保のための後方移送の進捗度にも関係しています。そのため依然コロナ禍ではありましたが、市健康福祉局、県との協議を続けています。

また、単科精神病院からの通電療法の依頼も続いており、令和4年度の通電施行回数は396回で前年の296回を上まっています。

その他の身体合併症、治療抵抗性統合失調症治療薬クロザピン使用などでの単科精神病院からの転院、また精神症状の急性増悪などによる入院は令和4年度96人（前年76人）でした。今後も患者サポートセンター、精神保健福祉士との迅速な協力体制を進め、病病連携、病診連携を進めてまいります。

5 外科

部長 市東 昌也

【診療科紹介】

(1) 食道・胃外科

上部消化管グループは主として、食道・胃領域疾患の診療を行っております。週1回の消化器内科との合同カンファレンスで患者情報を共有し、検査および治療を可及的速やかに行います。当科の特徴は、食道癌手術等、より専門性の高い手術において、最適な低侵襲治療を提供できるチームづくりを行っております。また、患者さんに優しい治療とともに、病気に対する治療の根治性をより高いレベルで提供出来るように日々追求しています。

(2) 大腸・肛門外科

大腸・肛門疾患について、内視鏡診断から手術まで専門医が担当しております。大腸癌に対しては得意とする腹腔鏡手術を、直腸癌に対してはさらに手術支援ロボット (Da Vinci) も用い、「根治性を損なわず、より低侵襲な治療」を目指して診療にあたります。転移がある場合でも、腫瘍内科と密に連携をとり、抗癌剤や放射線治療を駆使してその後の治療とより良い予後に繋がる道を探って参ります。肛門疾患についての診断・治療も積極的に行っております。患者さん個々に合った治療を、一緒に考えて参ります。

(3) 肝胆膵外科

日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設として肝胆膵領域の専門診療に対応しています。より専門性の高い高度な医療を重視する診療体制です。当科では日本肝胆膵外科学会名誉指導医・高度技能指導医・専門医が4人勤務し、肝胆膵医療チームを結成し低侵襲手術から拡大手術まで柔軟かつ有機的に治療に専念致します。

6 乳腺外科

部長 萬谷 京子

【診療科の紹介】

乳腺外科では、乳腺専門医を責任者として、乳房や腋窩に発生する疾患の診療を行っております。診断のため、マンモグラフィ検査、乳房超音波検査、乳房造影MRI検査、超音波ガイド下針生検・吸引式乳腺組織生検などの検査を可及的速やかに行います。検査結果に応じて、標準的と考えられる治療方針をご提案し、患者さんのご希望を尊重しながら、患者さんおひとりおひとりに一番適切な治療を行うことを目指しています。当科では、乳腺・腋窩の悪性病変（乳癌、悪性葉状腫瘍、他臓器癌の転移など）・良性病変（線維腺腫、乳管内乳頭腫、良性葉状腫瘍、乳腺症、急性乳腺炎、乳輪下膿瘍、Mondor病など）の専門診療に対応しています。小児の乳癌の患者さんの検査・治療の経験もありますので、乳腺腫瘍が疑われる小児の方がいらっしゃいましたら、ご紹介いただけたらと思います。なお、当科では、2018年

にほぼ無痛で行える局所麻酔の方法を考案いたしましたので、局所麻酔下の組織検査・膿瘍の切開排膿などの処置は、当科ではほぼ無痛でお受けいただけます。

7 血管外科 部長 和多田 晋

【診療科紹介】

●「末梢動脈疾患」の診療

閉塞性動脈硬化症、腹部大動脈瘤など動脈瘤疾患に対しては、低侵襲である血管内治療を積極的に導入しておりますが、当科の強みである外科的治療や薬物療法も併用したハイブリッド治療を行っております。

●「静脈、リンパ管疾患」の診療

深部静脈血栓症、リンパ浮腫、下肢静脈瘤などを精査加療いたします。

静脈瘤に対する治療においては、レーザー機器を導入し、ストリッピング術、硬化療法含め患者さんのニーズに合わせた治療を行っております。

8 内視鏡センター 所長 相浦 浩一

【診療科の紹介】

当院は日本消化器内視鏡学会の指導施設に認定されており、消化器内科・外科、呼吸器内科・外科の医師たちが横断的に密接に連携し合って患者さんにとって最良の治療法を決定し実施しています。当内視鏡センターは、早くから電子ファイリングシステムを導入し、高画質ハイビジョン対応内視鏡による白色光観察をはじめNBI観察、拡大観察に取り組み、さらに経鼻用細径内視鏡、超音波内視鏡、小腸カプセル内視鏡も揃え、消化器、呼吸器それぞれの分野で専門的知識と高度技術を持った専門医が精度の高い内視鏡診断と治療を提供しています。

また、消化器・呼吸器疾患の内視鏡診断・治療に対する高度専門医療を常時提供する検査体制を敷き、消化管出血、化膿性胆管炎等の急性期疾患に対しても24時間体制で対応しています。

【令和4年度の取組】

医療連携を大切にし、直接上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査を患者総合サポートセンター経由で予約することができるようにしています。また、術後再建腸管に対する膵・胆道内視鏡検査・治療にも積極的に取り組み、さらに超音波内視鏡については治療的EUSにも力を入れ、益々の充実を図ってきています。

9 呼吸器外科

部 長 澤 藤 誠

【診療科の紹介】

呼吸器外科では、肺癌、縦隔腫瘍、胸膜中皮腫などの腫瘍性疾患や、気胸、肺真菌症などの良性疾患に対する、呼吸器・縦隔領域の外科治療、および気管・気管支ステントなどの内視鏡治療を担当しています。診断や治療方針に関しては、毎週行われる呼吸器内科、放射線科との合同カンファレンスでも検討を行い、正確な診断、最適な治療法の選択を行うように心がけています。

手術は、胸腔鏡手術がほとんどを占め、気管支・血管形成手技を応用した肺を温存する術式の適応など、侵襲を少なくするための手術手技上の工夫をできるかぎり行うように努めています。

【令和4年度の取組】

本年度は常勤医の異動はなく、昨年度と同様に、澤藤、岩丸担当部長、井澤担当部長、奥井医長の4名の体制で診療を行いました。

呼吸器外科診療は新型コロナウイルス感染に大きな影響を受け、感染が広まった令和2年度は、全国的に手術数が減少したと言われていています。当院でも、令和2年度の手術数は前年度に比べ約25%減という状況でしたが、手術数は昨年度（令和3年度）から回復の傾向がみられ、本年度（令和4年度）はコロナ禍の前と同じような水準となりました。コロナ禍の影響から脱する目途が立ったことが、今年度の最大の成果と考えます。

引き続き、質の高い医療を提供することで地域医療に貢献したいと考えています。

10 心臓血管外科

部 長 澤 藤 誠
医 長 灰 田 周 史

【診療科紹介】

平成元年に開設されて以来、当院は川崎市南部地域の中核病院としての役割を担ってまいりました。令和4年から現在の新しいチーム体制となり、弁膜症、冠動脈疾患、大動脈解離、胸部大動脈瘤、不整脈に対する手術治療を担当しています。個々の患者さんに対して最適かつ安全な治療を提供することを考えながら、患者さんご家族が納得・安心して治療を受けていただけるよう、常に模索しています。

11 脳神経外科

部 長 片 山 真

【診療科紹介】

約150万人が居住する川崎市の拠点病院脳神経外科として高度な専門性医療を行うことが求められていると考えております。一般脳神経外科疾患や地域医療にも貢献することを目指しております。病院の基本理念である「病気」ではなく「病人」を診ることを貫徹し、患者様に寄り添ったプロフェSSIONALな治療を施すべく努力をしております。

12 整形外科

部長 中道 憲明

【診療科の紹介】

骨折を主とした外傷、脊椎脊髄疾患、上下肢の関節外科、手外科、骨軟部腫瘍の治療を行っています。救急科を窓口として3次救急を積極的に受けているため、多発外傷、重症例も多く、他科との連携を円滑に行うことが重要です。他科との協力、コメディカルとの協力を行いながら、チーム医療を推進しています。高齢化に伴う骨粗鬆症の治療も積極的に行っています。医療の進歩とともに専門性の高い手術が増えているため、脊椎脊髄病センター、肩関節外科センター、関節機能再建・人工関節センター、手肘外科センター、骨軟部腫瘍チーム、足の外科チームによる高度な手術を行っています。

令和4年3月には、大腿骨近位部骨折治療の標準化、2次性骨折予防を目的として、院内大腿骨近位部骨折ガイドラインの作成、骨折リエゾンサービスチームの結成をした。

【令和4年度の取組】

(1) 脊椎脊髄病センター

これまで脊椎脊髄外科として取り組んできた診療は新たに設立された「脊椎脊髄病センター」に引き継がれ、更なる診療成績の向上を目指すとともに、患者さんへの周知を図ることになりました。安全で正確な手術は言うまでもなく大事なことです。まず多岐にわたる鑑別診断を念頭に置いた正確な診断を心がけています。また、手術の即断はなるべく避け、保存療法を重視しています。椎間板ヘルニアには内視鏡手術または顕微鏡手術を行っていますが、可能な限り保存療法を選択しています。椎間板ヘルニアに対する椎間板内薬物注入療法（ヘルニコア）による治療も行っています。高齢化社会を迎えた近年、患者数が増えている骨粗鬆症、脆弱性脊椎骨折、成人脊柱変形に対する手術にも取り組んでいます。またリウマチ関連脊椎疾患も当院リウマチ膠原病・痛風センターと連携して治療しています。

(2) 肩関節外科センター

肩関節、肩鎖関節に関連した疾患を治療致します。腱板断裂に対する関節鏡を使った腱板修復術、変形性肩関節症、関節リウマチが原因の関節症に対する人工肩関節置換術、肩の脱臼に対し関節鏡視下関節唇修復術、肩鎖関節脱臼に対する靭帯再建術などを行っています。また、複雑な肩甲骨骨折、鎖骨骨折に対する骨接合術を行います。上腕骨頸部骨折には重症度に応じて骨接合術、人工骨頭置換術、リバーstype人工関節を行います。

(3) 関節機能再建・人工関節センター

「関節機能再建・人工関節センター」には膝関節および股関節を専門とし、人工関節置換術や関節鏡視下手術に習熟した医師が在籍しており、様々な下肢疾患に対応

しています。

変形性関節症、関節リウマチや骨壊死に対する人工関節置換術（膝・股）や骨切り術を得意としております。半月板損傷、十字靭帯損傷、軟骨損傷、滑膜炎や膝蓋骨不安定症に対する低侵襲な関節鏡視下手術も積極的に行っています。

(4) 手肘外科センター

当院は日本手外科学会研修施設に認定されており、当センターでは慶應義塾大学整形外科学教室およびその関連病院で手肘外科の豊富な経験を積んだ医師が手術を行っています。

手肘のほとんどの疾患に対して豊富な経験があり、これらの疾患に対して常に最高レベルの専門的な治療を提供できるよう取り組んでいます。特に橈骨遠位端骨折の変形治癒や最少侵襲手術法、TFCC 損傷の手術法に関して多くの研究業績があります。

(5) 骨軟部腫瘍外科

井田病院から専門医の竹内医師を招聘しています。整形外科領域、すなわち頸部より下の骨や、軟部組織（おもに筋肉、脂肪組織、皮下、結合組織、末梢神経など）に発生する原発性の骨軟部腫瘍の治療を行っています。

(6) 足の外科

井田病院から専門医の水谷医師を招聘しています。足の痛みや変形に対し、保存療法から手術療法にいたるまで、専門的な見地から幅広く対応しております。

【診療科紹介】

当院のような急性期病院では、さまざまな疾病や外傷、またその治療に伴う安静・臥床によって、障害が残存し、入院前の身体機能を維持できず、自宅退院が困難となる可能性がある。当科では、そのような患者に対し、できるだけ障害を軽減し、早期の自宅復帰ができるように、主治医や病棟を始め、多職種と連携して、理学療法・作業療法・言語療法・嚥下療法等の様々なリハビリテーション医療を提供している。

【令和4年度の取組】

リハビリテーション科において、令和4年度より新規に取り組みを行ったものについては、以下の通りである。

- (1) 日常生活動作の評価法である「機能的自立度評価法 (FIM)」を、療法士・看護師が評価できるように院内研修会を開始した。
- (2) リハビリテーション科内の組織再編を継続し、効率良く、自主性・自律性に富んだ組織作りを行った。
- (3) 小児科・精神科・産科等の他施設見学を行い、次年度以降のリハビリテーション介入の足がかりとした。
- (4) 病棟環境の改善のための取り組みを開始した。

また新型コロナウイルス感染症対策として、下記の対策を継続した。

- (1) 新型コロナウイルス感染症患者に対し、疾病改善・後遺症軽減のために発症早期から積極的なリハビリテーションを行った。
- (2) 新型コロナウイルス感染症蔓延に対し、スタッフの配置を病棟担当制に変更し、併せて入院患者へのリハビリテーションの実施場所を病棟で行うように設定した。
- (3) 新型コロナウイルス感染症蔓延に伴う高齢者の運動量減少に対し、健康増進に関わる動画を作成し、youtubeにて配信した。

川崎市立病院経営計画に基づく取り組みについては、以下の事項を継続中である。

- (1) 効率の良いリハビリテーション医療の提供のため、病棟でのリハビリテーションを行うのと同時に、病棟リハ室の設置準備を継続している。
- (2) ICU や救急病棟を中心とした早期リハビリテーションの積極的な導入・拡大を進めている。
- (3) 2019年度以降の療法士増員に伴う管理・指導体制を充実させている。

上記以外としては、栄養サポートチーム・緩和ケアチーム・脳卒中ユニット・呼吸器回診・認知症ケア回診などの院内の他職種連携チームでの積極的な活動を継続するとともに、糖尿病教室・がんサロン・市民公開講座等での市民への啓蒙活動などを、現地およびオンラインにて継続している。

【令和4年度業務実績】

(1) リハビリテーション科新規患者数および実施単位数

	患者数	単位数
脳血管疾患	695	42,971
運動器疾患	946	23,910
呼吸器疾患	687	22,747
心大血管疾患	326	6,167
廃用症候群	763	23,971
がん	586	11,611
合計	4,003	131,377

(2) リハビリテーション科での検査等の件数

ア 筋電図（リハビリテーション科担当分）：91件

イ 嚥下造影：417件

ウ 嚥下内視鏡：7件

エ ボツリヌス療法：52件（患者数16名）

14 形成外科

部長 西脇正夫
副医長 継 渉

【診療科の紹介】

形成外科は、先天性の身体表面の変形や色の変化、外傷や手術後の欠損や変形を出来るだけ正常な状態に近づけるように修復し、QOLの改善を図り、早期の社会復帰を助ける外科の一分野です。

皮膚や軟部組織を対象としていますが、顔面に関しては骨の病気や外傷も治療しています。また、がん治療後や外傷後の変形を修復する再建医療も、形成外科の扱う分野の一つです。

15 皮膚科

部長 原 智
医長 西本周平

【診療科の紹介】

皮膚科は3人体制で診療しております。当院の皮膚科は「皮膚疾患全般」に対応しますが、病院皮膚科としてクリニックなどで対応困難な疾患により注力しています。特に皮膚腫瘍（良性・悪性）の診断・治療（手術・化学療法など）や難治な乾癬・アトピー・蕁麻疹などへの生物学的製剤導入などには高い専門性をもって取り組んでいます。その他、内服・外用など通常の治療で効果不十分な難治な皮膚疾患への精査・加療、川崎南部医療圏では数少ない皮膚科入院病床を有する病院として、皮膚感染症（蜂巣炎や带状疱疹など）や重症な中毒疹など入院を要する疾患の入院治療を行っています。

16 泌尿器科

部長 原 智

【診療科の紹介】

泌尿器科では、尿路悪性腫瘍（腎癌、腎盂・尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣腫瘍）、副腎腫瘍、尿路結石症、前立腺肥大症などに対して、負担の少ないロボット手術・腹腔鏡手術や経尿道的手術を積極的に取り入れ、生活の質（QOL）を重視した、患者さんに優しい医療を提供しております。

【令和4年度の取組】

11月に膀胱癌に対して、ロボット支援腹腔鏡膀胱全摘除術を開始しました。da Vinciを用いたロボット手術を合計で72例（前立腺癌；44例，腎癌；15例，膀胱癌；12例，腎盂形成術：1例）に施行しました。また、da Vinci以外での腹腔鏡下手術を合計48例（腎摘，膀胱全摘など）施行しました。

17 産科・婦人科

部長 中田 さくら

【診療科の紹介】

当科は地域周産期母子医療センターとして、新生児内科/NICUと連携して、川崎市南部地域の周産期救急の中核病院としての役割を担っています。周産期ハイリスク妊婦の管理、母体搬送の受け入れだけでなく、社会的支援が必要な妊産婦の管理も地域と連携して行っています。

また、婦人科手術も数多く行い、良性疾患から悪性腫瘍手術に至るまで幅広く対応しております。とりわけ伝統的に内視鏡手術症例が豊富であり、安全性を重視した低侵襲な手術を心掛けております。昭和60年に当科で開発された子宮鏡手術については、県内県外問わず多数の患者さんの御紹介を頂いております。

18 眼科

部長 上田 誠 司
副医長 三田村 浩 人

【診療科紹介】

白内障手術をはじめ、角膜専門外来・網膜硝子体専門外来・小児眼科外来など総合病院ならではの幅広い眼疾患に対応できるように診療体制を整えています。

「対応可能な治療」

白内障手術（入院・日帰りいずれも対応可）・硝子体手術・角膜移植術・羊膜移植術・翼状片切除術・結膜弛緩症手術・結膜嚢胞切除・霰粒腫摘出術・硝子体注射・各種レーザー治療（PDT・YAG・PRP）・ステロイドパルス治療・涙点閉鎖術、涙点プラグ・眼瞼痙攣ボトックス治療・斜視手術・小児の睫毛内反手術・一部の緑内障手術（線維柱帯切開術）

【令和4年度の取組】

令和4年3月から新しい角膜形状解析機(CASIA2®)を導入したため、白内障手術において、より正確な乱視矯正が可能となり術後の視力が向上しました。

羊膜移植施設の認定を受け、羊膜移植を開始しました。角膜化学外傷の急性期・再発翼状片・遷延性上皮欠損などに有効です。重症ドライアイに対しては自己血清点眼、涙点プラグ挿入に加えて、涙点閉鎖術を開始しました。感染性角膜潰瘍では当日に塗抹検査を行える体制を整えました。翼状片手術は初発だけではなく、再発翼状片にも対応可能になりました。

令和5年5月から米国から輸入した海外ドナー（待機期間最短1週間）を用いた角膜移植を開始しました。適応疾患は水疱性角膜症、円錐角膜、角膜混濁、角膜ジストロフィーなどで、全層角膜移植、深部層状角膜移植、表層角膜移植、角膜内皮移植など多くの術式に対応可能です。術後の経過観察は近医の先生方にフォローアップの手引きも用意していますので、日本全国どこからの紹介も受け入れています。入院期間は約2週間です。局所麻酔または全身麻酔にて行います。角膜移植はすべて保険診療で行っています。窓口で支払う医療費が1か月で上限額を超えた場合、その超えた額を支給する「高額療養費制度」の対象となるため患者さんの負担を大幅に軽減することが可能です。

令和5年6月から白内障手術において多焦点眼内レンズ（選定療養費）の取り扱いを開始しました。選定療養とは、患者さんご自身が選択して受ける追加的な医療サービスで、その分の費用は全額自己負担となります。

19 耳鼻咽喉科

部長 重富 征爾

【診療科紹介】

当科では耳・鼻・咽頭喉頭にとどまらず、鎖骨から上の範囲で頭蓋・脳脊髄・眼球・歯を除いた、いわゆる「頭頸部」の広い範囲を担当しています。すなわち QOL (quality of life: 生活の質) に直接影響する聴覚・嗅覚・味覚・平衡覚などの感覚機能、口腔・咽頭・喉頭が担う咀嚼・嚥下・呼吸・発声・構音などの運動機能に関わる診療を行っています。これらの機能を改善する診療を通して QOL の向上に貢献する役割を使命とし、近接する境界領域の専門の各診療科との連携を重視しながら、安全で且つ質の高い医療の実践に努めています。

当院ではもちろん耳鼻咽喉科疾患全般を診療していることに加え、さらに頭頸部領域の腫瘍性疾患にも広く対応しています。頭頸部悪性腫瘍（口腔癌・上咽頭癌・中咽頭癌・下咽頭癌・喉頭癌・鼻副鼻腔癌・唾液腺癌・甲状腺癌など）の治療においては根治性の向上だけでなく、身体的侵襲をできるだけ少なくすると同時に、治療後の機能を可能な限り良くすることを考慮しています。専門的な知識と豊富な経験に基づいて、進行癌に対しても手術・放射線治療・化学療法を適確に組み合わせ、個々の患者さんに最適な治療法を選択するようにしています。関連各領域の専門診療科との良好な診療連携を築くことにより、きめ細かい高度なチーム医療の推進を心掛けています。

【令和4年度の取組】

早期の下咽頭癌・声門上癌に対しては、根治性と喉頭機能温存を両立する低侵襲な手術治療として、鏡視下咽頭喉頭悪性腫瘍手術を積極的に行っております。また2021年より鼻茸を伴う難治性好酸球性副鼻腔炎に対して、指定難病医療費助成制度を利用したデュピルマブ治療を外来にて施行しております。

20 歯科口腔外科

部長 鬼澤 勝弘

【診療科の紹介】

当科は川崎市南部地域における口腔外科の基幹病院で、口腔顎顔面領域に現れるすべての疾患の診療を行っており、特に埋伏歯抜歯、歯根端切除術、外科矯正治療（下顎前突症など）、口腔腫瘍、顎関節症、顎顔面骨折、歯科インプラント治療などの手術を対象としています。治療においてはコーンビーム CT による詳細な診断と 3D プリンター顎骨模型による術前計画を綿密に行い、安全で正確な手術を施行しています。専門外来は保存補綴顎関節症（佐藤）、歯科インプラント（安居、鬼澤、河奈）、顎変形症（鬼澤、安居、柴）、歯根端切除術（軽部）、歯科矯正相談（鬼澤）を開設しています。

当科における顎骨歯槽手術の方針としては末梢神経障害の防止、腫瘍摘出術時の抜歯本数の最小化、歯根端切除術の応用による歯の積極的保存、歯科インプラント体埋入の安定した高い成功率、患者ニーズに基づいた顎矯正手術を常に心掛けています。

また、かかりつけ医院の先生方と緊密に連携をとり、患者様に対して疾患や治療について丁寧の説明し、十分にご理解とご納得をして頂いた上で治療を行うことに努めています。治療後は、かかりつけ医院へお戻しすることを原則としています。

【令和4年度の取組】

人事では、慶應から田中健太が専攻医（4年目）として着任しました。非常に真面目で勤勉であるので、今後、臨床力をつけて多くの手術技術を習得し、臨床に研究に大いに期待しております。外来手術においては Full PPE で、嚴重な感染予防対策のもとで施行しました。幸い当科からの院内感染は認められませんでした。外来手術は2列で列数を減らして抑制的に施行し、埋伏歯抜歯 1,056 例でした。抜歯と難抜歯手術 1,330 例はコロナ前よりも増加しました。全身麻酔下手術は年度当初より、ほぼ問題なく施行され、顎矯正手術は安定した症例数でした（10 例）。顎骨骨髓炎手術は 5 例と増加傾向でした。

研究については、抜歯、顎骨壊死、口腔内に初発症状を呈する造血器腫瘍の診断、インプラント関連、骨再生、口腔組織由来幹細胞を用いた再生医療を中心に展開しています。上顎正中過剰埋伏歯の CT 画像評価による臨床的検討は Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology に掲載されました。画像所見に基づいた顎骨壊死の予後に関する研究は Dentomaxillofacial Radiology に掲載されました。アミロイドーシスの症例報告は投稿中です。また、歯髓幹細胞を用いた顎骨壊死予防に関する慶應義塾大学との共同研究（基礎研究）は、科学研究費の助成を受け継続しています。

社会的貢献として、第 33 回川崎病院症例検討会を歯科医師会館にて対面で、また、歯科診療における感染防止対策の講演会を川崎市歯科医師会会員に対して行いました。

21 放射線診断科・放射線治療科

放射線診断科

部長 倉田 忠 宜

【診療科の紹介】

放射線診断科では主に CT、MRI について整形外科領域など一部を除き原則として当日中に診断レポートを作成し、オンラインで院内に配信しています。腹部・表在の超音波診断を含め、総合的に画像診断を行っています。IVR（画像下治療；画像診断技術を応用したより侵襲の少ない治療）も各科と協力して施行しており、肝がんに対する肝動脈化学塞栓療法やラジオ波焼灼療法、閉塞性動脈硬化症やシャント不全に対する血管拡張術、外傷や消化管出血に対する緊急塞栓術、画像ガイド下のドレナージ術や生検なども担当しています。

2018年4月よりがん診療の充実を図るため、川崎市南部地域では初めてPET-CT装置を導入しました。がんの広がり、転移、再発病巣検出など、精度の高い画像を得ることができる装置で、がん診療に貢献しています。

【令和4年度の取組】

放射線診断専門医3名、専攻医2名の体制で業務を行いました。CTは21,565件(前年比104.8%)、MRIは7,978件(前年比105.5%)といずれも前年より増加。PET-CTは稼働開始から5年目で、検査数は順調に伸び1,106件(前年比107.4%)と目標の1,100件/年に達しました。

放射線治療科

部長 栗林 徹

【診療科の紹介】

放射線治療科では、御依頼元の先生と連絡を密にとり、院内では各診療科と連携のもとで悪性腫瘍の放射線治療やケロイドの手術後照射を行っています。現場では、医師、放射線治療専任技師、看護師でのチーム医療を行っています。また、通常の放射線治療に加えて、脳及び肺の定位放射線治療（ピンポイントの放射線治療）や、前立腺癌を中心に脳腫瘍及びより複雑な頭頸部癌の強度変調放射線治療（IMRT）等の高精度放射線治療を施行しています。

【令和4年度の取組】

放射線治療科では、令和3年8月から新しい放射線治療装置が稼働を開始し、従来よりもさらに高精度な低侵襲、時間短縮、全身への影響が少ない治療が可能になりました。また、令和4年10月からは、常勤の放射線治療専門医2名体制となり、高精度放射線治療の適応をこれまで以上に拡大しています。

(1) 撮影部門

検査種別	部位分類	集計区分	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科
一般 単純撮影	頭部・頸部系	単純	34	1	202	1	0	300	3	1
	胸部系	単純	16,972	150	1,168	5,558	936	431	1,064	106
	腹部系	単純	1,880	118	288	2,490	32	99	18	0
	椎体系	単純	348	3	46	12	0	56	6,422	0
	胸郭系	単純	214	1	8	10	0	3	1,898	0
	骨盤系	単純	106	3	1	3	0	1	4,316	0
	上肢系	単純	781	0	139	1	1	3	5,304	9
	下肢系	単純	1,011	2	18	6	0	4	4,384	7
	歯科	単純	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	単純	0	0	0	0	0	0	0	0
一般単純撮影合計			21,346	278	1,870	8,081	969	897	23,409	123
ポータブル	頭・頸部系(P)	単純	0	0	1	0	0	2	0	0
	胸部系(P)	単純	6,215	106	612	1,481	137	313	89	2
	腹部系(P)	単純	936	30	22	924	22	14	15	0
	椎体系(P)	単純	10	1	0	0	0	1	17	0
	胸郭系(P)	単純	2	0	0	0	0	0	5	0
	骨盤系(P)	単純	8	1	0	2	0	0	30	0
	上肢系(P)	単純	9	1	10	0	0	0	7	0
	下肢系(P)	単純	25	6	5	0	0	0	55	1
	その他(P)	単純	0	0	0	0	0	0	0	0
ポータブル合計			7,205	145	650	2,407	159	330	218	3
手術室 ポータブル	頭部・頸部系(O)	単純	0	0	0	0	0	2	0	1
	胸部系(O)	単純	2	0	0	223	22	9	12	0
	腹部系(O)	単純	1	0	0	340	1	1	1	2
	椎体系(整形)(O)	単純	0	0	0	0	0	2	447	0
	躯幹系(整形)(O)	単純	0	0	0	2	0	0	417	0
	上肢系(整形)(O)	単純	0	0	0	0	0	0	260	0
	下肢系(整形)(O)	単純	0	0	0	0	0	0	220	0
手術室ポータブル合計			3	0	0	565	23	14	1,357	3
乳房撮影			0	0	0	1,122	0	0	0	0
一般造影	婦人科系	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	泌尿器科系	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	外科系	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	耳鼻科系	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	整形外科系	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
一般造影合計			0	0	0	0	0	0	0	0
透視検査	上部消化管	造影	3	0	1	83	0	5	0	0
	下部消化管	造影	12	0	0	8	0	0	0	0
	消化管その他	造影	42	0	0	81	0	0	0	0
	肝・胆道・膵臓	造影	74	0	0	33	0	0	0	0
	腎臓	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	尿管	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	膀胱、尿道、その他	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	婦人科	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	脊椎、椎体	造影	0	0	0	0	0	0	313	0
	整形系その他	造影	0	0	0	0	0	0	8	0
	小児科	造影	0	0	27	0	0	0	0	0
	その他	造影	8	0	1	27	0	1	0	0
透視検査合計			139	0	29	232	0	6	321	0
透視下 内視鏡	呼吸器系	単純	186	0	0	9	0	0	0	0
	上部消化管系	単純	5	0	0	1	0	0	0	0
	下部消化管系	単純	10	0	0	7	0	0	0	0
	肝臓・胆嚢・膵臓系	造影	187	0	0	35	0	0	0	0
透視下内視鏡合計			388	0	0	52	0	0	0	0
骨塩定量			169	1	11	183	0	0	559	0
結石破砕			2	0	0	0	0	0	0	0
救急室 単純撮影	頭部・頸部系(ER)	単純	9	0	11	0	0	3	0	0
	胸部系(ER)	単純	1,596	0	415	131	0	10	37	1
	腹部系(ER)	単純	668	0	160	94	0	0	2	0
	椎体系(ER)	単純	15	0	1	0	0	1	40	0
	胸郭系(ER)	単純	5	0	1	2	0	0	53	0
	骨盤系(ER)	単純	4	0	0	2	0	0	34	0
	上肢系(ER)	単純	7	0	2	2	0	1	217	1
下肢系(ER)	単純	22	0	0	4	0	0	139	0	
救急室単純撮影合計			2,326	0	590	235	0	15	522	2
合計			31,578	424	3,150	12,877	1,151	1,262	26,386	131

皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計 (件数)
1	1	0	0	58	0	58	0	0	0	0	660
243	1,065	826	12	626	19	102	1	146	1	1,161	30,587
0	1,824	52	0	11	1	2	1	8	2	0	6,826
8	1	2	0	0	0	0	1	15	0	0	6,914
1	2	0	0	0	0	0	0	16	0	0	2,153
3	2	33	0	2	0	0	0	19	0	0	4,489
38	5	0	0	0	1	0	0	22	0	0	6,304
38	2	0	0	1	0	0	4	18	0	0	5,495
0	0	0	0	0	0	3,243	0	1	0	0	3,244
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
332	2,902	913	12	698	21	3,405	7	245	3	1,161	66,672
0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	5
57	163	100	1	98	3	13	1	493	74	0	9,958
0	133	6	0	21	0	0	0	30	0	0	2,153
1	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	34
0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	9
3	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	49
0	1	0	0	0	0	0	0	7	0	0	35
1	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	104
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
62	297	106	1	119	3	15	2	550	75	0	12,347
0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	13
0	15	7	0	24	1	0	0	2	6	0	323
0	306	288	0	4	1	0	0	1	3	0	949
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	450
0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	429
0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	262
0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	223
0	321	295	0	28	3	10	0	18	9	0	2,649
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	885	2,007
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	14	0	0	413	0	0	129	648
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	125
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	107
0	125	0	0	0	0	0	0	0	0	0	125
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	142	0	0	0	0	0	0	0	0	0	142
0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	314
0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	9
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27
0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	41
0	268	3	0	19	2	0	413	1	0	129	1,562
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	195
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	18
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	223
0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	442
3	0	87	0	0	14	0	0	0	0	2	1,029
0	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31
0	0	0	0	2	0	0	0	13	0	0	38
10	10	13	0	6	4	2	0	2,316	1	0	4,552
0	11	3	0	1	1	0	1	232	0	0	1,173
0	0	0	0	0	0	0	0	196	0	0	253
1	0	0	0	0	0	0	0	299	0	0	361
0	0	0	0	0	0	0	0	286	0	0	326
0	2	0	0	0	0	0	4	537	0	0	773
1	0	0	0	0	0	0	6	632	0	0	804
12	23	16	0	9	5	2	11	4,511	1	0	8,280
409	3,840	1,421	13	873	48	3,432	433	5,327	88	2,177	95,020

(2) CT部門

部位分類	集計区分	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
頭部系CT	単純	1,076	84	10	16	4	1,324	13	23	4
	造影	5	0	0	2	0	0	0	0	0
	単純+造影	9	0	0	4	0	0	0	0	1
頸部系CT	単純	8	0	0	1	0	2	3	2	1
	造影	5	0	2	1	0	0	1	0	0
	単純+造影	2	0	1	0	0	0	0	0	0
胸部系CT	単純	2,315	4	18	801	115	8	28	4	43
	造影	1,163	1	7	692	29	6	7	1	14
	単純+造影	726	1	0	911	4	3	1	1	2
腹部系CT	単純	207	2	2	128	0	7	5	0	3
	造影	111	1	6	42	0	0	0	0	0
	単純+造影	562	0	0	71	0	2	9	1	0
骨盤系CT	単純	5	0	0	0	0	0	140	1	0
	造影	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純+造影	1	0	0	0	0	0	0	0	0
四肢系CT	単純	6	0	1	0	0	0	528	2	4
	造影	3	0	0	0	0	0	2	0	1
	単純+造影	0	0	0	1	0	0	0	0	1
脊椎系CT	単純	5	0	0	0	0	1	433	0	0
	造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純+造影	0	0	0	0	0	0	1	0	0
血管系CT	単純	10	0	0	50	2	0	0	0	0
	造影	127	4	0	221	8	8	14	0	3
	単純+造影	176	1	0	19	7	143	6	0	0
その他のCT	単純	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純+造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
術前胸部CT	単純	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純+造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	単純	3,635	90	31	996	121	1,342	1,150	32	55
	造影	1,415	6	15	958	37	14	24	1	18
	単純+造影	1,476	2	1	1,006	11	148	17	2	4
合計		6,526	98	47	2,960	169	1,504	1,191	35	77

救急室CT

部位分類	集計区分	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
頭部系CT	単純	428	2	65	12	0	58	27	10	0
	造影	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純+造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
頸部系CT	単純	5	0	0	0	0	1	0	0	0
	造影	2	0	1	0	0	0	0	0	0
	単純+造影	5	0	0	0	0	0	0	0	0
胸部系CT	単純	340	0	1	37	0	14	26	0	1
	造影	22	0	0	19	0	0	1	0	0
	単純+造影	90	0	1	31	0	0	2	0	0
腹部系CT	単純	219	0	0	9	0	0	3	0	1
	造影	39	0	9	9	0	1	1	0	0
	単純+造影	253	0	5	35	0	0	0	0	1
脊椎系CT	単純	2	0	0	0	0	1	11	0	0
	造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純+造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
四肢系CT	単純	2	0	0	0	0	0	50	0	2
	造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純+造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血管系CT	単純	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	造影	24	0	0	17	0	0	0	0	0
	単純+造影	34	0	0	2	0	3	0	0	0
全身系CT	単純	58	0	0	0	0	2	2	0	1
	造影	7	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純+造影	29	0	0	1	0	0	1	0	0
小計	単純	1,054	2	66	58	0	76	119	10	5
	造影	96	0	10	45	0	1	2	0	0
	単純+造影	411	0	6	69	0	3	3	0	1
合計		1,561	2	82	172	0	80	124	10	6

CT+救急室CT	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
合計	8,087	100	129	3,132	169	1,584	1,315	45	83

(3) MRI部門

部位分類	集計区分	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
頭部系	単純	1,525	106	168	15	25	426	4	0	9
	造影	561	1	3	125	0	504	0	0	3
顔面・頸部系	単純	7	0	0	0	0	0	1	5	5
	造影	27	0	0	0	0	0	0	1	4
胸部系	単純	9	0	1	8	0	0	5	4	9
	造影	24	0	1	56	0	0	0	0	3
腹部系	単純	814	0	8	93	2	0	2	3	4
	造影	68	0	1	26	0	0	0	3	3
骨盤系	単純	20	0	1	6	0	0	10	2	6
	造影	4	0	0	9	0	0	0	0	5
上肢系	単純	17	0	0	1	0	0	225	10	7
	造影	8	0	0	0	0	0	4	0	2
下肢系	単純	49	0	1	4	0	0	228	12	20
	造影	5	0	0	1	0	0	6	0	1
脊椎系	単純	497	0	11	8	1	3	858	0	1
	造影	14	0	0	2	0	12	11	0	0
血管系	単純	10	0	0	6	0	15	2	0	2
	造影	2	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	単純	2,948	106	190	141	28	444	1,335	36	63
	造影	713	1	5	219	0	516	21	4	21
合計		3,661	107	195	360	28	960	1,356	40	84

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計(件数)
3	1	13	145	7	0	0	141	0	67	2,931
0	0	0	6	0	0	0	1	0	0	14
1	0	0	4	0	0	0	4	0	0	23
0	0	0	21	0	0	0	2	0	0	40
0	0	0	13	1	0	0	7	0	0	30
0	0	0	4	0	0	0	3	0	0	10
324	41	0	76	52	0	0	2	0	8	3,839
533	255	0	290	8	0	0	3	0	3	3,012
166	17	0	30	12	0	0	0	0	4	1,878
159	1	0	1	19	0	0	0	0	3	537
29	14	0	0	1	0	0	0	0	4	208
144	5	0	1	11	0	0	0	0	7	813
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	147
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	1	0	0	0	0	6	548
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0	0	0	0	8	0	0	0	0	1	448
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	62
12	5	0	0	1	0	0	0	0	0	403
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	353
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
486	43	13	243	87	0	0	145	0	86	8,555
574	274	0	309	11	0	0	11	0	7	3,674
311	22	0	39	23	0	0	7	0	12	3,081
1,371	339	13	591	121	0	0	163	0	105	15,310

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計(件数)
8	2	2	1	1	1	1	1,885	2	0	2,507
0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	1	0	0	0	12	0	0	19
0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	6
0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	9
10	1	0	1	1	0	0	921	0	0	1,353
1	1	0	2	0	0	0	11	0	0	57
3	1	0	0	0	0	0	69	0	0	197
15	0	0	0	0	0	0	205	0	0	452
1	0	0	0	0	0	0	30	0	0	90
2	0	0	0	0	0	0	137	0	0	433
0	0	0	0	0	0	0	24	0	0	38
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	136	0	0	191
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	1	0	1	0	0	0	46	0	0	90
0	0	0	0	0	0	0	67	0	0	106
0	1	0	1	0	0	0	452	0	0	517
0	0	0	0	0	0	0	102	0	0	109
1	0	0	0	0	0	0	46	0	0	78
34	4	2	4	2	1	1	3,635	2	0	5,077
3	2	0	5	0	0	0	191	0	0	355
6	1	0	4	0	0	0	319	0	0	823
43	7	2	13	2	1	1	4,145	2	0	6,255

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計(件数)
1,414	346	15	604	123	1	1	4,308	2	105	21,565

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計(件数)
1	0	13	64	21	0	0	75	0	0	2,452
1	3	3	3	2	0	0	0	0	0	1,209
0	0	5	45	0	4	0	0	0	0	72
0	0	0	48	0	9	0	0	0	0	89
0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	37
0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	89
18	1	0	0	5	0	0	0	0	0	950
12	1	0	0	0	0	0	0	0	0	114
117	305	0	0	6	0	0	0	0	0	473
109	104	0	0	1	0	0	0	0	0	232
0	0	0	0	49	0	0	0	0	0	309
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
0	0	0	0	42	0	0	0	0	0	356
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
3	0	0	1	84	0	0	23	0	0	1,490
0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	40
0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	37
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
139	308	18	110	208	4	0	98	0	0	6,176
122	108	3	51	9	9	0	0	0	0	1,802
261	416	21	161	217	13	0	98	0	0	7,978

(4) 核医学部門

部位分類	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
脳	380	27	0	0	0	44	0	0	0
唾液腺	1	0	0	0	0	0	0	0	0
甲状腺	6	0	0	0	0	0	0	0	0
副甲状腺	5	0	0	0	0	0	0	0	0
肺	5	0	0	3	0	0	0	0	0
肝・胆道	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脾臓	0	0	0	0	0	0	0	0	0
循環器	66	0	0	1	0	0	0	0	0
血流動態	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腎	0	0	12	0	0	0	0	0	0
副腎	4	0	0	0	0	0	0	0	0
消化管	1	0	0	0	0	0	0	0	0
骨	259	0	0	354	0	0	0	0	0
腫瘍	4	0	0	0	0	0	0	0	0
骨髄	0	0	0	1	0	0	0	0	0
リンパ	0	0	0	47	0	0	0	0	1
神経内分泌腫瘍	3	0	0	0	0	0	0	0	0
RI内用療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	734	27	12	406	0	44	0	0	1

PET-CT

部位分類	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
頭部-骨盤	220	0	0	148	0	3	0	0	8
全身	192	0	0	2	0	0	0	0	13
血管炎	13	0	0	0	0	0	0	0	0
心サルコイドーシス	10	0	0	0	0	0	0	0	0
自費検査	3	0	0	0	0	0	0	0	0
井田病院人間ドック	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	435	0	0	150	0	3	0	0	21

(5) カテーテル治療・IVR部門

		内科	外科	心外科	脳外科	放射線科	その他	合計
心臓系	心臓カテーテル検査	247	0	0	0	0	0	247
	経皮的冠動脈形成術 (PCI)	159	0	0	0	0	0	159
	ペースメーカー	7	0	56	0	0	0	63
	経皮的カテーテル心筋焼灼術	37						37
	その他	1	0	2	0	0	0	3
	心臓系 小計	451	0	58	0	0	0	509
頭頸部・一般血管	頭頸部血管診断				152			152
	頭頸部血管IVR				78			78
	頭頸部血管 小計	0	0	0	230	0	0	230
	胸腹部診断			0	0	12		12
	四肢・血管系診断		0	0	0	15		15
	一般血管診断 小計	0	0	0	0	27	0	27
	胸腹部IVR		18	0		62		80
	四肢・血管系IVR		250	0		4		254
	一般血管IVR 小計	0	268	0	0	66	0	334
	血管以外の検査・治療					74		74
その他			0		10	52	0	62

(6) 画像データ・フィルム画像の入出力件数

	入出力デバイス名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
入 力	フィルム	90	54	50	0.93
	CD(医事課)	4,574	5,533	6,539	1.18
	入力合計	4,664	5,587	6,589	1.18
出 力	フィルム	111	107	174	1.63
	CD-R	2,737	3,144	3,197	1.02
	DVD	792	812	862	1.06
	出力合計	3,640	4,063	4,233	1.04
	総合計	8,304	9,650	10,822	1.12

(7) CT画像処理件数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
3D画像	1,191	1,371	1,297	0.95
心臓解析	140	170	133	0.78
デンタル解析	70	86	127	1.48
合計	1,401	1,627	1,557	0.96

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計 (件数)
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	452
0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	67
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
133	0	0	0	6	3	0	0	0	0	755
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	48
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
153	0	0	1	6	4	0	0	0	0	1,388

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	歯科口腔外科	放射線科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計 (件数)
10	13	0	135	0	199	0	0	0	0	736
0	0	0	0	0	129	0	0	0	0	336
0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	14
0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	15
0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4
0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
10	13	0	135	0	334	0	0	0	0	1,106

(8) 放射線治療部門

リニアック部位件数

部位	件数
脳	539
眼窩	0
副鼻腔	91
口腔・舌	0
頭部	1,847
その他	88
肺	719
食道	252
乳房	752
鎖骨部	307
腋窩・胸壁	299
その他	62
縦隔	179
腹部	121
その他	0
全骨盤	375
小骨盤	867
鼠径・臀・外陰部	49
その他	122
頭部骨	6
胸部骨	50
腹部・骨盤部骨	101
脊椎	345
上肢骨	20
下肢骨	26
その他	0
上肢関節	0
下肢関節	0
全身	0
リニアック	49
その他	0
合計	7,312

治療計画CT件数

		外来	入院	合計
頭部	単純	46	56	102
	単+造	0	3	3
頭部集計		46	59	105
副鼻腔	単純	2	2	4
	単純集計	2	2	4
頸部	単純	41	7	48
	造影	0	0	0
	単+造	0	15	15
頸部集計		41	22	63
肺・縦隔	単純	65	15	80
	単+造	5	0	5
肺・縦隔集計		70	15	85
乳房	単純	39	0	39
	単純集計	39	0	39
上腹部	単純	5	4	9
	単純集計	5	4	9
下腹部	単純	0	0	0
	単純集計	0	0	0
骨盤腔	単純	57	10	67
	単純集計	57	10	67
股関節	単純	0	2	2
	単純集計	0	2	2
頸椎	単純	1	2	3
	単純集計	1	2	3
胸椎	単純	8	4	12
	単純集計	8	4	12
腰椎	単純	3	4	7
	単純集計	3	4	7
上肢	単純	0	1	1
	単純集計	0	1	1
下肢	単純	3	3	6
	単純集計	3	3	6
その他	単純	1	0	1
	単純集計	1	0	1
小計	単純	271	110	381
	造影	0	0	0
	単+造	5	18	23
総合合計		276	128	404

リニアック特殊放射線治療件数

区分	件数
強度変調放射線治療 (IMRT)	1,507
前立腺	890
画像誘導放射線治療 (IGRT)	3,343
脳定位放射線治療	84
肺定位放射線治療	23
合計	5,847

放射線治療管理料件数

区分	件数
1門照射・対向2門照射	23
非対向2門・3門照射	28
4門照射以上	177
強度変調放射線治療 (IMRT)	77
放射線治療専任加算	262
合計	567

定位放射線治療実施回数

区分	回数
脳定位放射線治療	378
肺定位放射線治療	104
合計	482

(9) 使用造影剤

造影剤	規格	令和3年度	令和4年度	前年度比
ガストログラフィン	100ml	243	155	0.64
バリテスターA240散	350g	210	180	0.86
ボースデル	250ml	695	835	1.20
EOB・プリモビスト注シリンジ	10ml	75	80	1.07
イオパミロン注150	50ml		15	
イオパミロン注300	50ml	85	115	1.35
	100ml	71	83	1.17
イオパミロン注300シリンジ*	50ml	20	15	0.75
	100ml	1,565	1,565	1.00
イオパミロン注370	20ml	0	0	
	50ml	35	30	0.86
	100ml	500	450	0.90
イオパミロン注370シリンジ*	100ml	915	880	0.96
イオパミドール注300シリンジ*	100ml	1,995	2,135	1.07
イオパミドール注370シリンジ*	100ml	450	465	1.03
イオパミドール注370	20ml	269	290	1.08
	50ml	45	35	0.78
	100ml	305	335	1.10
イオメロン300注	50ml	400	460	1.15
	100ml	370	420	1.14
オムニパーク140注	50ml	20	10	0.50
オムニパーク300注	10ml	259	311	1.20
オムニパーク300注シリンジ*	80ml	775	775	1.00
	100ml	2,510	2,010	0.80
	150ml	185	205	1.11
ウログラフィン注	20ml	871	891	1.02
ガドピスト静注1.0ml/Lシリンジ	7.5ml	380	320	0.84
プロハンス静注シリンジ	13ml	558	644	1.15
マグネスコープ静注33%シリンジ*	15ml	395	455	1.15
リピオドール480注	10ml	57	53	0.93
リゾピスト注 44.6mg Fe	1.6ml	2	1	0.50
ガドテリドール静注シリンジ	13ml	300	360	1.20
エネマスター注腸散	98.1%	20	20	1.00
ビジパーク270注	20ml	100	140	1.40

(10) 放射性医薬品

	令和3年度	令和4年度	前年度比
	入荷量 (MBq)	入荷量 (MBq)	
^{99m} Mo- ^{99m} Tcジェネレータ	0	26,937	
^{99m} Tc-pertechnetate	25,530	39,590	1.55
^{99m} Tc-HSA-D	1,480	740	0.50
^{99m} Tc-ECD	96,000	159,000	1.66
^{99m} Tc-MAG ₃	2,886	1,332	0.46
^{99m} Tc-MDP	482,480	340,400	0.71
^{99m} Tc-HMDP	93,980	202,020	2.15
^{99m} Tc-MIBI	2,590	2,220	0.86
^{99m} Tc-tetrofosmin	67,340	58,016	0.86
^{99m} Tc-テクネゾール	3,700	3,700	1.00
²⁰¹ TlCl	740	703	0.95
⁶⁷ Ga-citrate	888	444	0.50
¹²³ I-MIBG	888	555	0.63
¹²³ I-BMIPP	0	111	
¹²³ I-capsule	0	0	
¹²³ I-IMP	0	0	
¹²³ I-ioflupane	27,054	27,722	1.02
¹³¹ I-adosterol	37	74	2.00
¹¹¹ InCl	0	74	
¹¹¹ In-DTPA	0	0	
¹¹¹ In-Pentetoreotide	732	366	0.50
²²³ Ra-xofigo	117	74	0.63
¹⁸ F-FDG	156,584	167,610	1.07

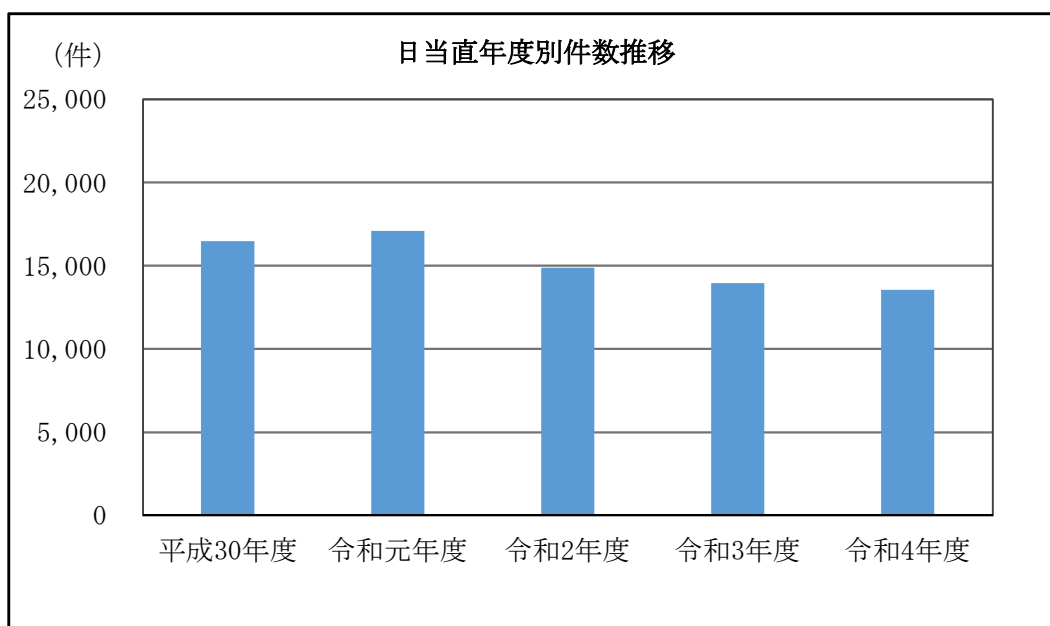
(11) 日当直状況

ア 月別日当直件数

	令和4年度(件)		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	当直	土日祝日勤	合計(件)	合計(件)	合計(件)	合計(件)	合計(件)	
4月	803	388	1,341	1,347	963	1,224	1,191	0.97
5月	808	432	1,440	1,656	1,291	1,370	1,240	0.91
6月	835	239	1,248	1,311	1,014	1,092	1,074	0.98
7月	821	399	1,491	1,413	1,244	1,286	1,220	0.95
8月	775	319	1,296	1,359	1,408	1,174	1,094	0.93
9月	708	354	1,364	1,381	1,331	998	1,062	1.06
10月	711	360	1,298	1,365	1,151	1,184	1,071	0.90
11月	764	357	1,250	1,375	1,262	1,169	1,121	0.96
12月	814	491	1,437	1,612	1,469	1,208	1,305	1.08
1月	752	508	1,775	1,678	1,431	1,273	1,260	0.99
2月	623	317	1,288	1,362	1,232	986	940	0.95
3月	718	260	1,235	1,233	10,778	995	978	0.98
合計	9,132	4,424	16,463	17,092	14,865	13,959	13,556	0.97
月平均	761.0	368.7	1,371.9	1,424.3	1,238.8	1,163.3	1,129.7	0.97
一日平均	25.0	35.1						

イ 日当直業務内容別件数

業務項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
	合計(件)	合計(件)	合計(件)	合計(件)	合計(件)	
1) 単純撮影	7,604	7,771	5,701	5,439	4,857	0.89
2) 回診撮影	3,780	3,855	3,888	3,583	3,560	0.99
3) 透視撮影	124	192	108	106	35	0.33
4) カテー治療・IVR	177	145	163	146	66	0.45
5) CT検査	4,721	5,054	4,938	4,595	4,960	1.08
5) MR検査	57	75	67	90	78	0.87
	16,463	17,092	14,865	13,959	13,556	0.97



放射線診断科・放射線治療科業務状況

全体の件数については、令和2年度から毎年増加傾向であり、新型コロナウイルス感染症流行前の件数によりやく戻りつつあります。各部門の件数については、以下の通りとなりました。

X線撮影部門では、前年度比1.02と微増でしたが、ひまわり外来での胸部X線撮影と新型コロナウイルス感染病棟でのポータブルX線撮影は、今年度も繁忙な業務量でした。

カテーテル治療・IVR部門では、前年度比1.03と微増でしたが、特に外科系のIVRの件数が増加傾向にありました。

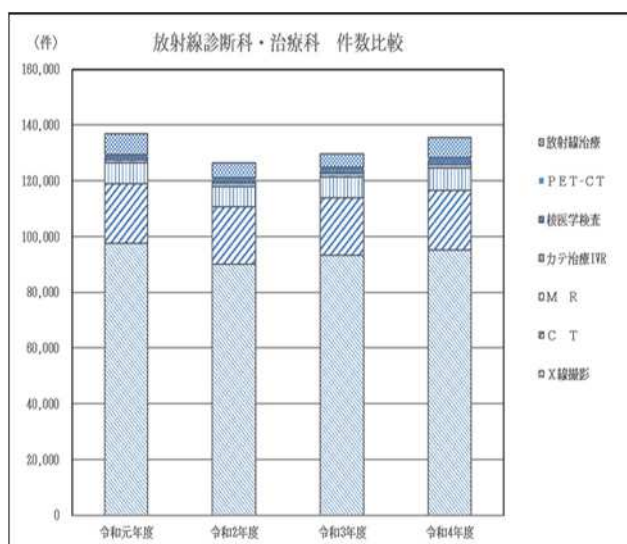
CT検査部門では、前年度比1.05、2階CT緊急検査応需数1.03、画像処理件数も1.10と微増でしたが、デンタル解析処理は前年度比1.48と大幅に増加しました。また、線量管理ソフトを利用し撮影条件を解析し、CT検査線量の最適化を行い、被ばく線量低減に努めています。

MRI検査部門では、前年度比1.05と微増でしたが、特にMRCP（胆のう・膵臓）の検査は、前年度比1.21と大幅に増加しました。急性期脳梗塞をはじめとする緊急検査の即時対応や、当日施行依頼の対応を継続して実施しています。

核医学検査部門では、一般核医学の検査件数が前年度比1.06と増加し、特に認知症関連の検査が前年度比1.38と昨年度に続いて大幅に増加しました。PET-CTの件数も、前年度比1.07と年々増加し、年間目標件数の1,100件を初めて超えました。引き続き患者総合サポートセンターと連携して件数増加を目指します。また、今まで以上にPET-CT検査の情報発信と依頼しやすい環境作りに努めます。

放射線治療部門では、前年度比1.60と大幅に増加しました。高精度な治療であるリニアック特殊放射線治療の件数も、2.48と大幅に増加しました。昨年度更新した高エネルギー放射線治療発生装置が高精度な治療が従来よりも短時間で可能になったため、治療件数増加と患者さんの負担をより軽減出来るようになりました。

	件数				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
X線撮影	97,428	89,975	93,250	95,020	1.02
C T	21,458	20,772	20,579	21,565	1.05
M R	7,554	7,245	7,592	7,978	1.05
カテーテル治療・IVR	1,051	1,126	1,202	1,236	1.03
核医学検査	1,109	1,038	1,308	1,388	1.06
P E T - C T	814	832	1,030	1,106	1.07
放射線治療	7,440	5,349	4,578	7,312	1.60
合 計	136,854	126,337	129,539	135,605	1.05



22 麻酔科及びMEセンター

部長 森田 慶久

(1) 麻酔科

【診療科の紹介】

当院麻酔科は安全で質の高い医療と地域への貢献を目指して診療に励んでいます。

当院では年間 7,156 例の多様な入院手術、放射線検査・治療を中央手術室で行っており、うち 4,522 例が麻酔科管理です。(令和 4 年度)

【令和 4 年度の取組】

各部署との連携を密にとり、通常診療と新型コロナウイルス感染症対策の両立を図りつつ、手術室運営ならびに集中治療室管理を行うことができました。令和 5 年度に開始する無痛分娩に向けて、産婦人科医師ならびに産科病棟スタッフと連携して準備を行いました。

診療科 分類・年度	一般外科	心臓外科	形成外科	放射線科	精神科	脳外科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	産科・婦人科	眼科	耳鼻科	歯科口腔外科	循環器科	麻酔科	救急科	計	
麻酔科 管理	30	943	1	68	29	227	85	1,124	9	607	993	3	286	49	8	6	6	4,444
	1	1,094	80	96	38	202	87	1,126	10	588	953	4	287	70	1	0	0	4,636
	2	1,083	4	71	2	266	124	1,089	37	535	801	5	207	68	0	0	0	4,292
	3	1,011	5	81	7	296	152	1,079	37	583	782	2	228	64	0	0	0	4,377
	4	960	27	111	7	402	188	1,077	32	594	730	6	248	65	0	0	0	4,522

(2) MEセンター

医療機器が多用される最近の医療現場では、医師や看護師のみでは効率的かつ安全な医療の遂行が難しくなり、医学的な知識のみならず工学的な知識と技術を持つ専門家として、昭和 63 年に誕生したのが臨床工学技士です。臨床工学技士は医療技術者の一つで、厚生労働大臣の免許を受けて「医師の指示の下に呼吸、循環、代謝に関わる生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うことを業とする」(臨床工学技士法第 2 条)とされています。

業務体制としては、手術室部門・人工呼吸器部門・血液浄化部門・心臓カテーテル部門・ペースメーカー部門・ME 機器部門など多岐に分かれます。

ア 臨床業務実績

業務内容	項目	令和3年度	令和4年度
血液浄化	CHDF	110	82
	PMX-DHP	0	0
	PE	44	17
	出張 HD	26	19
透析室	HD	963	970
	HDF	417	522
	CART	62	43
人工呼吸器	人工呼吸器ラウンド	2452	1723
	RST 総合ラウンド	406	232
	回路交換	12	5
カテーテル業務	CAG	239	245
	PCI	183	158
	緊急カテ	71	55
	IVUS	175	151
	FFR	28	48
	Rotablator	7	12
	テンポラリーPM 挿入	6	19
	IABP	3	3
ペースメーカー業務	アブレーション	43	37
	新規植込	21	28
	電池交換	15	24
	植込 1 週間後チェック	12	26
	緊急チェック	14	11
	術中管理	26	14
	外来	379	427
体外循環	人工心肺	2	15
	PCPS (管理日数)	7(19)	8(13)
	ECMO	2	1
オペ室業務	セルサーバー	93	105
	オペ室対応	395	231
	da vinci 業務	65	97
	脳神経外科ナビゲーション	42	45
病棟	病棟対応	17	6

イ 機器管理業務実績

	項目	令和3年度	令和4年度	
点検	輸液ポンプ	870	980	
	シリンジポンプ	559	601	
	除細動器	104	95	
	自動体外式除細動器	71	80	
	閉鎖式保育器	174	220	
	PCA ポンプ	68	11	
	人工呼吸器	755	730	
	人工心肺	2	2	
	PCPS	10	8	
	テンポラリーPM	284	274	
	麻酔器	2450	2430	
	血液ガス装置	484	480	
	電気メス	2229	2152	
	ハーモニック	181	130	
	サンダービート	189	167	
	高周波メス	46	29	
	内視鏡	1248	1223	
	ソノサージ	5	3	
	医療用レーザー	101	111	
	手術支援システム	65	97	
	離床センサー	0	0	
	経腸栄養ポンプ	0	0	
	反復圧迫治療器	167	205	
	パルスオキシメーター	181	200	
	超音波ネブライザ	20	68	
	ベッドサイドモニタ	495	473	
	送信機	61	53	
	血圧計	169	141	
	修理	輸液ポンプ	16	7
		シリンジポンプ	16	2
血圧計		3	4	
反復圧迫治療器		37	26	
送信機		15	7	
ベッドサイドモニタ		16	4	
低圧持続吸引器		2	0	
経腸栄養ポンプ		0	0	

23 病理診断科

部長 折笠 英紀

【診療科紹介】

病理診断科は、令和元年度より正式な診療科組織として発足いたしました。業務内容は検査科病理の時代と同様で、病理組織診断、細胞診断、術中迅速診断、および病理解剖です。免疫組織化学的解析も積極的に取り入れており、常に迅速かつ精度の高い病理診断を心がけています。病理診断難解症例は、関連大学やその道の専門家の病理医等にコンサルトしています。

【令和4年度の取組】

基本的な人員構成は前年度と変わっておりません（常勤病理専門医 2 名、後期研修医 1 名）が、杉浦の定年延長終了・常勤嘱託（会計年度職員）就任に伴い、折笠が部長に就任致しました。非常勤医の構成は前年度と変わっておりません（4 名、慶應義塾大学、順天堂大学、けいゆう病院、済生会宇都宮病院）

昨今のゲノム診療の進歩に伴い、病理検体の遺伝子検査等の件数が急増しておりますが、当院では同規模の他施設同様、現在はブランチラボへの外注で対応しております。微小な検体の事が多い事もあり、標本作成に細心の注意を払い検査の精度向上に取り組んでいるところです。

診療実績の推移

令和2年度では組織診の件数が落ち込みましたが、令和3年度以降は回復しつつあります。

病理診断件数（検査科に掲載されている内容とは算出方法が異なります）

項目	2018(H30) 年度	2019(R1) 年度	2020(R2) 年度	2021(R3) 年度	2022(R4) 年度
組織診	6,352	6,318	5,339	6,031	6,407
うち術中迅速	268	280	237	207	252
細胞診	7,239	6,635	6,000	6,380	6,359
うち術中迅速	25	45	20	4	1
病理解剖	13	19	18	15	11

以下は昨年度提出分ですが、微妙に数値が違っていました。受付日で集計すべきところを、依頼日で集計していました。

病理診断件数（検査科に掲載されている内容とは算出方法が異なります）

項目	2018(H30)年度	2019(R1)年度	2020(R2)年度	2021(R3)年度
組織診	6,361	6,311	5,358	6,032
うち術中迅速	269	278	238	206
細胞診	7,308	6,625	5,997	6,268
うち術中迅速	25	46	19	4
病理解剖	13	19	18	15

24 救命救急センター

所長 田熊清継

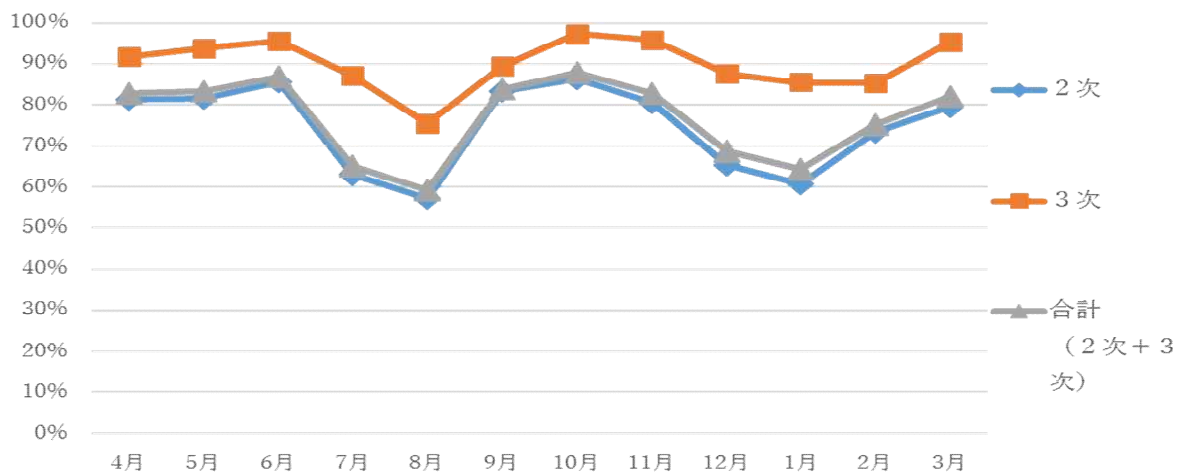
(1) 体制・施設規模（令和4年4月1日現在）

- ア 体制 医師（常勤10人、非常勤3人）／看護師（常勤45人、臨時職員6人）
- イ 施設規模 20床（ICU 4床、救急病床 16床）

(2) 受入状況

ア 当院で救急車を受入れた救急車総数（6,846台）のうち、ホットライン経由で救急車を受入れた件数は、5,257台で、応需率は2次72.5%、3次89.2%、2次・3次合わせて74.8%になります。なお、7月から8月と12月から1月は新型コロナウイルス感染症患者診療の影響を受け救急要請が増加したため、応需限界に達したものと考えられます。（令和4年度）

令和4年度月別救急車応需率



イ 令和4年度救命救急センター受入状況

	総数	救急隊										傷病分類						トリアージ区分				転帰											
		時間			地域							内因性		外傷		C P A	トリアージ区分			帰宅	救急からの入院											転送	死亡
		深夜	日勤	陣夜	川崎南部	川崎中部	川崎北部	横浜	東京	その他	うち入院	うち入院	1次軽傷	2次中等症	3次重症		死亡確定	計	救命救急		内科	外科	整形	脳外	小児	その他							
合計	5257	1921	2033	1303	4616	310	30	209	54	38	3631	1332	1626	328	0	3024	1153	1068	12	3228	1655	447	868	65	80	50	5	140	24	350			
1月平均	438.1	160.1	169.4	108.6	384.7	25.8	2.5	17.4	4.5	3.2	302.6	111.0	135.5	27.3	0.0	252.0	96.1	89.0	1.0	269.0	137.9	37.3	72.3	5.4	6.7	4.2	0.4	11.7	2.0	29.2			
1日平均	14.4	5.3	5.6	3.6	12.6	0.8	0.1	0.6	0.1	0.1	9.9	3.6	4.5	0.9	0.0	8.3	3.2	2.9	0.0	8.8	4.5	1.2	2.4	0.2	0.2	0.1	0.0	0.4	0.1	1.0			

ウ 令和4年度三次救急の内訳

(単位：人)

	計	重症急性冠症候群	重症大動脈疾患	重症脳血管障害	重症外傷	重症熱傷	急性中毒	重症消化管出血	重症敗血症	重症体温異常	特殊感染症	重症呼吸不全	重症急性心不全	重症出血性ショック	重症意識障害	肝不全	急性腎不全	その他	CPA※心肺停止	CPAのうち蘇生成功数
合計	1080	20	9	103	74	8	52	46	17	12	10	73	43	20	41	6	4	167	375	33
1日平均	3.0	0.1	0.0	0.3	0.2	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.5	1.0	2.8
傷病別割合	100.00%	1.85%	0.83%	9.54%	6.85%	0.74%	4.81%	4.26%	1.57%	1.11%	0.93%	6.76%	3.98%	1.85%	3.80%	0.56%	0.37%	15.46%	34.72%	—

※受入全体中の死者数342人（救命救急センター受入全体の31.66%）

エ 令和4年救命救急センター患者受入状況（件数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(人)
437	405	453	476	472	400	417	439	524	453	387	394	5257

25 ロボット手術センター

センター長 原 智

【診療科紹介】

当院では、平成 28 年 7 月から、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ (da Vinci)」を用いた手術を開始し、これまでに前立腺癌、腎癌、胃癌などに対して、合計で 300 件以上のロボット支援手術を行ってきました。保険適応が拡大される中で、当センターは、泌尿器科、外科、呼吸器外科、産婦人科を中心とした複数の診療科と臨床工学士が一つの部門として集約することで、万全の機器管理のもと、機能的に手術できる体制を構築し、よりハイレベルな「技術」「治療環境」「サポート体制」を提供してまいります。

【診療実績】

令和 4 年度ロボット手術件数

前立腺癌 ; 44, 腎癌 ; 15 件, 膀胱癌 ; 12 件, 腎盂尿管移行部狭窄症 ; 1 件

胃癌 ; 8 件, 直腸癌 ; 12 件

26 病態栄養治療部

部長 津村 和 大

【診療科の紹介】

臓器にとらわれることなく系統的かつ全身的に疾患・病態を理解して、栄養管理をさまざまな疾患の予防と治療の基盤とする考え方が「病態栄養治療学」です。診療科・職種・施設横断的に連携しながら正しい病態診断と栄養管理を進めることで、最適な治療提案に繋がっています。

病態栄養治療学の考え方が求められる疾患は多岐にわたります。栄養代謝・内分泌・消化器・循環器・腎臓・呼吸器など臨床各科にまたがる幅広い疾患が重複する場合も、病態栄養の総合的な判断が求められます。近年では、高齢者におけるサルコペニア・フレイルの頻度がとみに高まりました。現在は、栄養代謝疾患・内分泌疾患に対する指導や治療に重点を置いて診療を行っています。

【令和4年度の取組】

令和4年度は、適切な栄養管理を実践するための患者支援の質向上に努めるとともに、公益社団法人日本糖尿病協会が提供する啓発・学習資材を積極的に活用することで、手厚い栄養管理を実現しました。

そのほか人材育成面では、日本病態栄養学会の専門職育成事業や日本糖尿病協会が提供するe-ラーニングと連携した生涯学習を院内外の医療者への提供、神奈川県糖尿病療養指導士認定機構が連携する教育セミナーの企画などを通じて、地域医療への貢献に努めました。

学術面では、15件の学会・研究会報告ならびに論文の執筆を行い、病態栄養学と関係性の深い糖尿病アドボカシー関連の研究を継続しています。これら成果をもとに、地域の医療機関と連携して市民啓発事業も展開しています。

27 健康診査室

室長 津村 和 大

【診療科の紹介】

健康診査室は、がんを含めた生活習慣病・慢性疾患の増加に対応して、健康寿命の延伸に貢献するための予防医療の実践と生活習慣改善指導に対応しています。「健診」関連の主な業務は、特定健康診査・後期高齢者健康診査・入学時入社時健康診断で、「検診」関連の主な業務には、川崎市がん検診（肺がん検診、胃がん検診、大腸がん検診、乳がん検診、子宮がん検診）・川崎市骨粗しょう症検診・川崎市肝炎ウイルス無料検査（B型肝炎ウイルス検査、C型肝炎ウイルス検査）・川崎市国民健康保険PSA検査があります。

【令和4年度の取組】

糖尿病・脂質異常症・高血圧などの発症予防・進展抑制に役立つ生活習慣改善の情報提供を拡充しました。汎用化された教育支援資材を活用するだけでなく、病態の理解や適切な受診勧奨に繋げる資材を独自に開発することで、特定健康診査における1人ひとりのリスク評価の結果に照らして必要と判断された支援の質向上を図っています。検査結果確認と受診者教育の業務プロセスを見直した結果、待ち時間の大幅な短縮に加えて、未受診患者に対する受診勧奨と地域医療連携を効果的に進めることが可能となりました。

Ⅲ 部 門 概 要

1 看護部

令和4年度 看護部概況

令和4年4月、新規採用職員66名を迎え、看護職員649名（正規職員）で新年度がスタートしました。昨年、令和3年度を振り返り『職員の団結力と対応力向上』と表現した記憶があります。その力を試すかの如く襲ってきたのが、COVID-19最大の感染拡大である第7波でした。8月には、感染患者の増加のみならず看護職員60名にも及ぶ出勤停止により、師長は勤務調整に迫られ、職員の多くは度重なる勤務変更を強いられました。そして、猛暑の中、屋外にある発熱外来に押し寄せる患者にアイスノンベストを着用して必死に対応する職員の姿がありました。

3年にも及ぶこの戦いに対し「どんなときも、私たちは患者を受け入れ、患者を救ってきました。」と胸を張って言えるのではないのでしょうか。令和5年5月には、COVID-19が2類感染症から5類感染症に変更になることが決定しています。戦いから共存へ移り変っても、医療現場はまた新たな課題に取り組んでいかなければならないと感じています。

このような状況の中、今年度も様々な取り組みを行って参りました。まずは、令和4年度診療報酬改定です。医事課と協働し、看護の成果を加算につなげ、経営に貢献すると共に、加算を契機に看護の質向上を図るための取り組みを行ってきました。「看護補助者充実体制加算」の新規届出にあたっては、看護助手研修の充実、看護助手との効果的・効率的な協働を目的とした職員研修の徹底等、タスクシフトを進める上での成果をもたらすことができました。更には、診療部のご協力のもと、念願であった専従看護師の専用部屋を確保することができました。専従看護師による看護の質向上への取り組み、そして適正な加算算定等、より大きな成果を示すことができた実感しています。

また、各委員会による取り組みも活発に行われ、その成果発表が行われました。看護の質向上委員会による「改善発表会」、安全・感染管理委員会による「身体拘束最小化に向けた取り組みと成果発表会」など、現状を分析し、課題に取り組む姿勢は、看護部の強みであり、川崎病院の誇りであると言えます。

そして、看護職員定数の改定です。平成24年に7対1看護体制となり定数が変更となった以降、この10年間で医療現場の状況は大きく変わりました。医療の高度化、超高齢化、夜勤時間の増加、看護師役割の拡大等、日々の職務は多忙を極めていました。看護職員の労働環境を改善するために、定数改定は急務であり、その必要性を訴え続けました。その結果、令和4年度29名、令和5年度20名の増員が議会で承認されました。この改定は、本庁の庶務課職員の理解と協力なくしては実現できなかつたと心から感謝しています。

この1年を振り返っても、常に変化し向上心をもって取り組む川崎病院を支えている看護職員の熱意と力強さを感じます。昨年度認定を受けた認知症医療疾患センターおよび地域がん診療連携拠点病院としての役割を発揮するため、認定看護師・リンクナースが中心となり、それぞれの部署で多職種と連携し、患者中心の看護を提供するために日々奮闘し、活躍しています。

看護部長である私のビジョンは「誰もが輝ける組織づくり」です。看護職員一人ひとりが、違った光を放ち、その光をお互いに認め合い、川崎病院ならではの輝きになっていることを実感すると共に、その一員でいられることに、ただただ感謝するばかりです。

副院長兼看護部長 千 島 美奈子

(1) 看護職員配置数

(令和4年4月1日現在)

項目 看護単位	許可 病床数	稼動 病床数	助産師 看護師	会任 職員	夜勤人員		看護 助手
					準夜	深夜	
	713	596					
看護部配置数			627				
看護部 4月現在現在数			649				
14階北病棟 (内科・透析室)	47	36	32	0	3	3	5
14階南病棟・治療センター (内科)	51	36	36	2	3	3	5
13階北病棟 (心外・循環器内科)	51	46	33	3	4	4	5
13階南病棟 (内科)	53	36	33	1	4	4	6
12階北病棟 (泌・耳・眼・口腔)	51	46	33	0	3	3	2
12階南病棟 (脳・皮・放・リハ・耳)	53	48	32	1	4	4	5
11階北病棟・内視鏡センター (外科・消化器内科)	53	38	38	3	3	3	7
11階南病棟 (外科・肺外科・整形外科)	53	38	31	0	3	3	4
10階北病棟 (整形外科・形成外科)	53	48	31	2	3	3	6
10階南・感染症病棟 (婦人科・整形外科・泌尿器・乳腺外科・感 染症)	64	59	30	1	3	3	6
9階北病棟 (精神科)	38	36	15	5	3	2	1
9階南病棟 (EICU・救命救急病棟・小児急病センター)	20	20	62	6	15	13	3
8階北病棟 (産科・新生児)	44	42	31	3	4	4	2
8階南病棟・小児科外来	41	41	25	2	3	3	3
NICU	6	6	11	2	2	2	0
GCU・新生児外来	18	12	12	1	2	2	0
5階ICU・CCU	12	8	26	1	4	4	1
5階 手術室			40	0	2	2	0
外来			23	17	0	0	6
副院長(看護部長)室			1				
看護部管理室			7	1			1
担当課長・看護師長			1(再掲)				
看護師長			19(再掲)				
外部配置			12				
産休・育休・病休・休職・派遣研修			55				

(2) 職員の出身校別内訳・年齢分布・平均年齢

ア 出身校別内訳

(令和5年3月31日現在)

種別	学校	看護大学	助産師校	看護短期 大学	看護専門 学校	准看学校
	人数					
総数	629人	143人	21人	173人	290人	2人
構成比(%)	100%	23%	3%	28%	46%	0%
助産師	28人	7人	21人	0人	0人	0人
構成比(%)	4%	1%	3%	0%	0%	0%
看護師	599人	136人	0人	173人	290人	0人
構成比(%)	95%	22%	0%	28%	46%	0%
准看護師	2人	0人	0人	0人	0人	2人
構成比(%)	0%	0%	0%	0%	0%	0%

イ 年齢分布

(令和5年3月31日現在) (単位：人)

年齢	助産師	看護師(准看護師含む)	計
21	0	2	2
22	0	20	20
23	3	54	57
24	0	43	43
25	2	38	40
26	4	25	29
27	1	26	27
28	2	9	11
29	1	21	22
30～34	3	86	89
35～39	4	60	64
40～44	1	53	54
45～49	1	57	58
50～54	5	70	75
55～59	1	30	31
60～	0	7	7
合計	28	601	629

ウ 平均年齢

(令和5年3月31日現在) (単位：歳)

助産師	看護師(准看護師含む)	総平均
34.3	34.9	34.8

(3) 勤続年数

【助産師:8.3年 看護師(准看護師含む): 10.5年 平均: 10.4年】

(令和5年3月31日現在)

年数	助産師	看護師 (准看護師含む)
1年未満	4人	58人
1年	3人	49人
2年	2人	51人
3年	3人	38人
4年～5年	4人	48人
6年～9年	2人	84人
10年～14年	4人	104人
15年～19年	2人	59人
20年～24年	2人	44人
25年～29年	1人	35人
30年以上	1人	31人

(4) 令和4年度看護職員採用・退職状況

採用者数	66人	助産師3名	看護師63名
退職者数	65人	助産師1名	看護師64名

2 医療安全管理室

室長 相浦 浩一
課長 甲斐 瑞恵

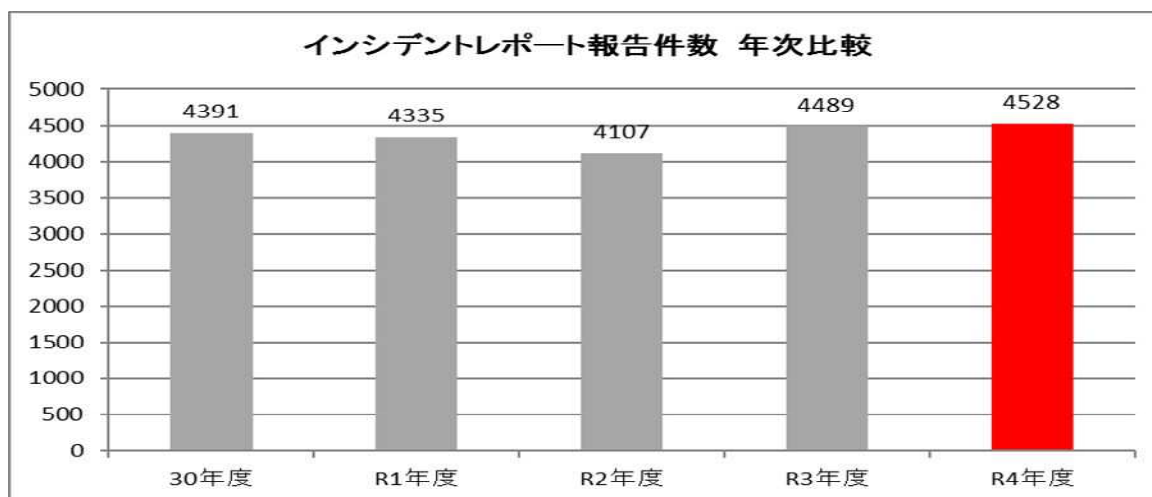
医療安全管理室は、安全な医療の提供と医療の質の向上を目的に、当院における医療安全管理体制の構築と維持ならびに組織的な医療事故防止の取り組みを推進しています。

各部署から報告されるインシデントレポート数は、年間 4,000 件を超えます。報告されたレポートは医療安全管理室で集計・集約し、医療安全対策に係るカンファレンスならびに医療安全関連の委員会等で検討しています。さらに、インシデント教訓事例については診療部、看護部、薬剤部、放射線診断科、検査科、食養科、リハビリテーション科、麻酔科（ME センター）、事務局等、各部門・各職種と連携し、改善策を検討しています。また、週 1 回、医療安全ラウンドを実施し、年間各部署で環境を含めた部署の医療安全管理の取り組み状況をもとに、改善策の検討を部署とともにし、医療安全活動の中心となる医療安全部会員の活動を支援しています。組織的な課題については医療安全管理委員会との連携を基盤にし、医療安全管理に不可欠なシステム改善についてはシステム運用検討部会と連携するといったように、関係委員会との連携のもと、改善に取り組んでいます。

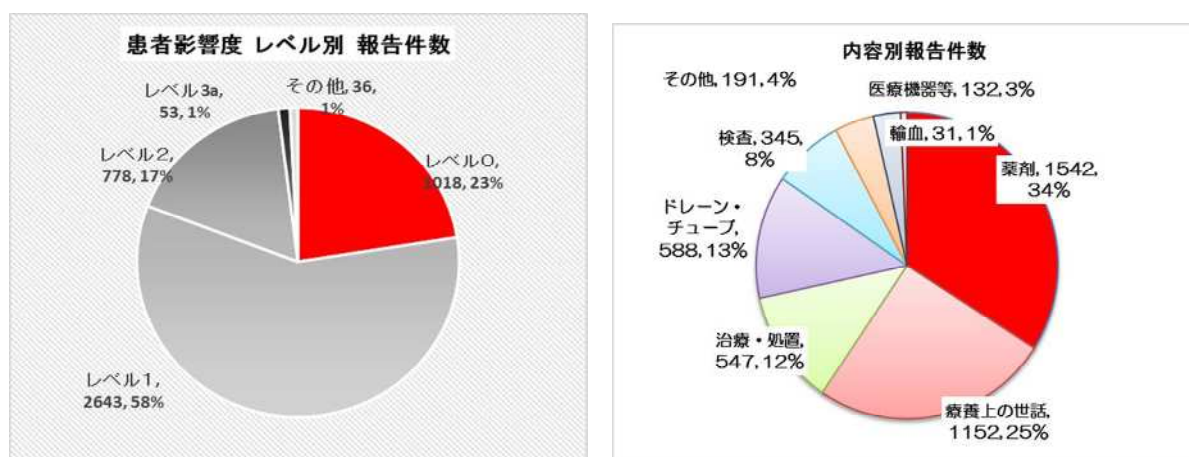
医療安全における職員教育について、令和 4 年度は、研修方法を変更し、＜医薬品の安全使用＞＜人工呼吸器＞＜放射線の安全利用＞＜輸血＞＜移動介助＞＜患者・家族との対話推進＞＜医療安全の基本を知る＞の 7 テーマで e-ラーニングを活用した研修を企画、実施しました。その結果、延べ 1014 名（受講率 87.9%）の職員が受講しました。今後も、受講しやすく興味を持ち、実践に活用できる研修をめざして取り組みます。

質の高い医療提供にあたっては、患者・家族に十分な説明を行い、その意思を尊重することが不可欠であり、患者・家族の理解を確かめながら、プロセスを大切に丁寧なサービス提供に努める必要があります。この点について、当院の医療に対する疑問や不安を抱いている患者・家族に寄り添い、患者総合サポートセンターとの連携のもと、患者相談窓口の充実を目指し、週 1 回カンファレンスを実施し情報共有やアドボカシー相談員による対応を行い、患者・家族の権利を擁護し、必要な場合、患者・家族と医療者との対話を推進する支援を実施しています。

(1) 令和 4 年度インシデントレポート報告件数ならびに年次比較



(2) 令和4年度<影響レベル別><内容別>インシデントレポート報告件数



(3) 主な改善項目

項目	目的 改善内容
医療安全ラウンドによる確認行為・エラー対処行動推進	インシデントレポート報告をもとに確認行為の徹底・アラーム対処、5Sの徹底についてラウンドで検討し、各部署の課題を明確化した。
医療安全研修参加の支援	医療安全に必要な知識の向上のため7つのテーマを設定し、eラーニングシステムによる研修へ効果測定ができるよう形式変更とした。医療安全文化醸成につながる集合研修について検討し、「暴力暴言対応」「Team STEPPS」「I`m SAFER」の研修を企画・実施した。
患者誤認防止への対策	患者誤認防止へ患者参加を促し、いかなる場面でも確認する体制を広報し、強化した。
暴言・暴力対応マニュアルの改訂	暴言・暴力マニュアルを改訂し、現場の対応を組織的に取り組めるようマニュアルを改訂した。
診療録管理委員会と連携した「説明と同意に関する指針」の改訂	診療録委員会と連携し、「説明と同意に関する指針」について院内で統一すべき内容、形式と診療科・医師による裁量を認める点を改訂した。

3 感染対策室

室長 坂本 光 男
課長 井原 正 人

感染対策室は平成20年に設立され、感染症内科医師、感染管理認定看護師、薬剤師、臨床検査技師、庶務課職員5名で構成されている。

各部門から選出された構成員が一丸となり医療関連感染の発生状況を把握し感染率低減に向け取り組んでいる。感染制御チーム（ICT）、抗菌薬使用適正チーム（AST）は週1回の院内ラウンド及びカンファレンスを行い感染対策や各種検査、抗菌薬に関して指導・助言を行っている。

また川崎市内で唯一の第2種感染症指定医療機関であり、令和2年2月6日よりダイヤモンドプリンセス号からの受け入れを早々に実施。コロナ診療における適切な療養環境の整備、関わる医療従事者への教育に取り組んでいる。

(1) 院内研修

月	実施対象	テーマ	参加人数
4月	新採用者(医師・専修医)	医師採用時オリエンテーション 感染対策について	32名
4月	新採用者(看護師)	新規入職者研修 感染管理について	66名
4月	新採用者(看護師)	新規入職者研修 感染管理について	67名
4月	新採用者(研修医)	初期研修医オリエンテーション 感染対策について	16名
4月	新採用者(検査科)	検査科 検体採取について	6名
5月	川崎市看護協会(会員)	訪問看護師養成講座 在宅医療における感染対策 在宅医療と洗浄・消毒	15名
6月	新採用者(看護師)	新規入職者研修 医療関連感染を防止するために	62名
6月	アメニティ職員	感染対策の基本について	14名
6月	リハビリ職員	リハビリ 感染対策の基本について	12名
6月	市内保育施設	新型コロナウイルス感染症の状況 保育施設における感染症の対応	60名

6月	そんぽの宿 北加瀬職員	新型コロナウイルス感染症の状況 施設における 感染症の対応	10名
7月	川崎市看護 協会(会員)	未就業看護師復帰支援研修 感染対策の基礎 新 型コロナウイルス感染症	18名
8月	川崎市内 施設職員	令和4年施設職員向け現任教育研修 新型コロナ ウイルスの感染対策	60名
9月	川崎市 看護協会	訪問看護師養成講座 在宅医療における感染対策 在宅医療と洗浄・消毒	22名
9月	施設職員	新型コロナウイルス感染症予防対策について	19名
10月	新採用者(医 師・専修医)	医師採用時オリエンテーション 感染対策につい て	11名
10月	川崎市 看護協会	未就業看護師復帰支援研修 新型コロナウイルス 感染症予防対策について 感染対策の基礎	12名
11月	川崎市 看護協会	訪問看護師養成講座 在宅医療における感染対策 新型コロナウイルス感染症予防対策について	13名
11月	川崎市内 施設職員	宮前連絡会 感染対策研修 コロナ禍で気を付け ること	8名
11月	食養科職員	衛生研修会 今重要な感染症予防対策について	31名
12月 ～3月	全職員	個別学習研修会 テーマ1 感染症関連法規を理解しよう テーマ2 Clostridioides difficile(CD)腸炎 テーマ3 小児とインフルエンザ テーマ4 針刺し・切創・粘膜曝露予防 テーマ5 新型コロナウイルス感染症における検査種類と検体採取 テーマ6 食中毒について テーマ7 TDM(主に抗菌薬)について テーマ8 薬剤耐性菌について	256名 362名 385名 479名 530名 382名 350名 240名
1月	しらかし園 職員	しらかし園 感染対策研修 コロナ禍で気を付け ること	15名

(2) 予防接種

予防接種の種類／件数

ワクチン種類	人数
水痘ワクチン	9
風疹ワクチン	23
ムンプスワクチン	138
麻疹ワクチン	71
MR ワクチン	68
HB s ワクチン	50人(150回接種)
インフルエンザワクチン	1641

新型コロナワクチン接種

対象	人数
院内職員 (正規及び委託職員含む)	2442

(3) 地域との連携

感染カンファレンス

	開催日	開催場所	参加医療機関
第1回感染防止対策加算	令和4年6月24日	当院 感染対策室	臨港病院 川崎区保健所
第2回 KAWASAKI 地域感染 制御協議会 定例会	令和4年9月9日	WEB 会議	臨港病院
第3回感染防止対策加算	令和4年12月9日	WEB 会議	臨港病院
第4回 KAWASAKI 地域感染 制御協議会 定例会	令和5年3月17日	WEB 会議	臨港病院
第1回地域連携加算	令和4年10月21日	当院	虎の門病院分院
第2回地域連携加算	令和4年11月25日	太田病院	太田病院

(4) 新型コロナウイルス感染症患者受入状況

令和4年度は新型コロナウイルス感染症患者を483名受入れし、入院加療を行いました。

(令和2年2月から令和4年度までは延べ1214名)

専従看護師が高齢者施設や障害者施設、医療機関に出向き、出張出前講義を行い、施設内ラウンドや、きめ細かな感染対策の指導を行いました。

4 臨床研究支援室

室長 津村 和 大

臨床研究支援室は、質の高い臨床研究の推進と臨床現場への迅速な成果還元を目的として平成22年4月に開設され、研究実施計画のブラッシュアップ支援や研究支援セミナーの開催、臨床研究に関連した個人情報の適正管理をはじめとした各種事業を展開してきました。治験事務局の機能も担い、治験および製造販売後調査の依頼者への対応や治験必須文書の管理・保管を行っています。そのほか、治験審査・臨床研究倫理審査委員会、臨床研究支援委員会並びに研究交流会の運営にも携わっています。

令和4年度開催の第15回研究交流会には20演題が報告されました。この中で特に優秀な演題に対しては、一層充実した研究とするための支援を継続し、第61回全国自治体病院学会における質の高い発表に繋げています。令和4年11月に開催された第60回全国自治体病院学会では、当院からの報告のうち2演題が優秀演題に推薦されました。

(1) 組織

室長 1名（医師：国立研究開発法人日本医療研究開発機構プログラムオフィサー兼務）

担当部長 1名（薬剤師：薬剤部長）

担当課長 1名（事務職：庶務課長）

担当係長 3名（庶務課・医療安全管理室・薬剤部）

他兼務 2名（看護部・検査科）

臨床研究コーディネーター（CRC） 3名

(2) 令和4年度 臨床研究審査状況

新規の審査申請総数は30件。うち川崎病院の実施設とする単施設研究が11件、多機関共同研究が19件。

(3) 令和4年度 治験審査状況

新規紹介となった治験総数は24件。継続中の治験は3件。

(4) 令和4年度 職員教育

計画立案から成果を得るまでのあらゆる段階において多角的に職員を支援しました。感染対策に配慮したWeb学習情報・教育資料の提供を継続するとともに、現地集合型研修も再開しました（院内セミナーへの参加者総数は96名）。厚生労働省や国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）が発出する最新情報を職員へ共有し、また人を対象とする医学系研究および治験に係る各種相談に迅速かつ臨機応変に対応することで、臨床研究や治験に参加する職員の負担軽減にも努めています。

5 薬剤部

部長 小林 加寿夫

薬剤部の業務は、調剤・注射薬調製、病棟薬剤関係業務、薬品管理、医薬品情報管理、製剤の5部門に大別され、その内容は次に示すとおりです。令和4年度はコロナ感染症の流行はあったものの、業務量への影響は前年度より小さくなっており、調剤関係業務、入院患者の持参薬鑑別業務等において、前年度をやや上回る実績となりました。また、泌尿器科を対象にした薬剤師外来業務については、674件/年と前年度より35件増加しました。

病棟薬剤業務部門においては、薬剤師の増員に伴い新たに4病棟で病棟薬剤業務を開始したことにより、薬剤管理指導件数は昨年度より1,236件増加しました。抗がん剤を主とする化学療法調製業務についても、各領域において顕著に増加し、全体では2,219件増加しました。

薬品管理部門では、新型コロナウイルス感染症治療薬のベクルリー®点滴静注用100mgについて、2021年10月18日から国からの無償提供ではなく薬価収載品となり購入が必要になったこと、高額製品の使用数の増加等の影響により、薬品購入金額は前年度より約4億3千万円の増加となりました。

(1) 調剤・注射薬調製業務

アに科別、病棟別の外来・入院処方箋枚数を示しました。外来患者数が増加したことにより、外来院外処方箋枚数は昨年度より約4,800枚増加し、外来院内処方箋枚数は昨年度より約130枚増加しました。イに月別の外来処方箋枚数と院外処方箋発行率を示しましたが、院外処方箋発行率は昨年度とほぼ同じでした。ウに持参薬確認件数を示しましたが、昨年度より約710件増加しました。エに月別、病棟別TPN調製件数を示しました。TPNの調製については、昨年度より一般病棟における調製件数は561件増加し、NICUの調製件数は81件減少しました。オに化学療法調製件数を示しました。昨年度より外来は938件増加、入院は148件減少しました。カに月別注射箋枚数を示しました。注射箋枚数は昨年度から、約23,000枚増加しました。

ア 診療科別外来（院外・院内）処方・病棟別入院処方年間総処方箋枚数及び1日平均処方箋枚数

診療科	外来院外処方箋枚数		外来院内処方箋枚数		病棟	入院処方箋枚数	
	年間	1日平均	年間	1日平均		年間	1日平均
内科	58,156	239.3	7,976	21.9	8N	3,996	10.9
精神・神経科	14,305	58.9	571	1.6	8S	2,982	8.2
小児科	10,246	42.2	2,635	7.2	8W	945	2.6
外科	6,194	25.5	479	1.3	9N	4,135	11.3
心臓血管外科	691	2.8	0	0.0	9S	4,844	13.3
脳神経外科	1,150	4.7	59	0.2	9W	1,653	4.5
整形外科	9,355	38.5	763	2.1	10N	10,841	29.7
形成外科	845	3.5	127	0.3	10S	10,334	28.3
皮膚科	8,202	33.8	244	0.7	11N	9,253	25.4
泌尿器科	7,858	32.3	185	0.5	11S	8,898	24.4
産婦人科	4,250	17.5	65	0.2	12N	9,649	26.4
眼科	3,739	15.4	45	0.1	12S	10,716	29.4
耳鼻咽喉科	3,098	12.7	45	0.1	13N	12,499	34.2
放射線科	264	1.1	3	0.0	13S	10,850	29.7
リハビリテーション科	34	0.1	1	0.0	14N	10,241	28.1
口腔外科	3,706	15.3	68	0.2	14S	11,509	31.5
救命救急センター	913	3.8	905	2.5	ICU	1,596	4.4
計	133,006	547	14,171	39	計	124,941	342

稼働日数 外来院外 243日 外来院内 365日 入院 365日

イ 令和4年度月間外来（院外・院内）処方箋枚数及び院外処方箋発行率

月別	外来処方箋枚数						院外処方箋発行率（注2）			
	院外処方箋枚数	院内処方箋枚数（注1）				計	計	（Ⅰ）	（Ⅱ）	（Ⅲ）
		（A）	（B）	（C）	計					
令和4年 4月	10,838	317	302	435	1,054	11,892	91.1%	94.6%	97.2%	
5月	10,452	304	345	420	1,069	11,521	90.7%	94.2%	97.2%	
6月	11,436	338	367	436	1,141	12,577	90.9%	94.2%	97.1%	
7月	11,823	416	623	413	1,452	13,275	89.1%	91.9%	96.6%	
8月	11,756	594	447	381	1,422	13,178	89.2%	91.9%	95.2%	
9月	11,099	383	328	446	1,157	12,256	90.6%	94.0%	96.7%	
10月	10,701	329	288	442	1,059	11,760	91.0%	94.5%	97.0%	
11月	10,783	400	277	454	1,131	11,914	90.5%	94.1%	96.4%	
12月	11,610	425	394	460	1,279	12,889	90.1%	93.4%	96.5%	
令和5年 1月	10,687	373	410	430	1,213	11,900	89.8%	93.2%	96.6%	
2月	9,959	342	237	440	1,019	10,978	90.7%	94.5%	96.7%	
3月	11,862	393	290	493	1,176	13,038	91.0%	94.6%	96.8%	
計	133,006	4,614	4,308	5,250	14,172	147,178	90.4%	93.7%	96.6%	

（注1）（A）：労災、自賠責扱い患者の処方、院内製剤、治験を含む処方、特に必要と認めた患者の処方等

（B）：救急外来処方（主に夜間）

（C）：検査薬、糖尿病血糖測定紙、穿刺針、消毒綿、インスリン注入器等の処方

（注2）（Ⅰ）：院内処方せん枚数に（A）、（B）、（C）を含む

（Ⅱ）：院内処方せん枚数に（A）、（B）を含む

（Ⅲ）：院内処方せん枚数に（A）を含む

ウ 令和4年度持参薬確認件数

月別 病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
14N	5	2		2	2	1	1	2	1	1	4		21
14S	1		1	1	20	13	13	24	9	10	9	10	111
13N	27	33	38	33	25	25	30	40	20	31	33	25	360
13S	14	14	21	5		9	15	12	9	14	27	18	158
12N	103	85	108	95	104	90	114	103	89	109	87	96	1,183
12S	39	35	31	27	31	27	40	34	33	42	36	35	410
11N	43	61	53	48	53	51	48	47	35	58	52	41	590
11S	44	47	57	66	32	51	53	48	48	53	44	43	586
10N	56	66	63	56	53	41	54	55	56	71	59	54	684
10S	63	67	67	82	82	81	57	68	55	51	60	86	819
9N	6	4	7	7	4	2	5	7	7	2	5	9	65
9S		1	1	2	4	2	24	31	23	31	21	22	162
8N	8	11	11	7	17	17	22	17	26	15	23	18	192
8S	4	5	5	2	2	2	4	6		1	6	10	47
ICU	1				1		1		2				5
合計	414	431	463	433	430	412	481	494	413	489	466	467	5,393

エ 令和4年度月別、病棟別TPN調製件数

月別 病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8S													
9S	3	2		15	7	9	1	5	9	8	5		64
10N													
10S			6					10					16
11N	5	23	36	62	114	65	71	50	84	83	14	19	626
11S	19	31	2	1			5	14	34	28		4	138
12N										2			2
12S		6		5						14	16	6	47
13N			20	4	26	5							55
13S			51	45	34	4			12	1			147
14N	5	24	34	24	2		1	25	26	9	3	29	182
14S	20	29	39	39	14	17	41	43	29	39	44	33	387
ICU	7	14	10	5	1	1	21	4	20		3	9	95
TPN計	59	129	198	200	198	101	140	151	214	184	85	100	1,759
NICU	21	43	34	39	28	25	38	32	43	14	12	23	352

オ 令和4年度月別、外来（診療科・臓器別）・入院（診療科・臓器別）化学療法調製件数

月別 診療科 ・入院（臓器別）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
造血器	146	136	139	107	118	130	131	149	123	145	151	170	1,645
肺	84	73	92	70	96	76	75	85	68	83	79	103	984
食道	2	1	1	2	4	4	6	6	3	4	5	4	42
胃	15	17	20	14	15	12	7	14	12	12	12	16	166
肝・胆・膵	40	36	37	45	34	44	38	37	34	45	44	50	484
乳腺	36	46	39	36	35	27	36	31	22	24	25	28	385
大腸	62	56	79	76	67	68	63	70	56	53	64	68	782
脳神経外科	9	8	3	7	9	11	1	2	2	0	3	2	57
産婦人科	9	7	13	8	11	12	16	11	13	8	8	15	131
泌尿器科	18	23	23	25	18	23	27	37	28	34	38	56	350
耳鼻咽喉科	24	28	20	25	26	18	17	15	31	30	25	20	279
皮膚科	10	9	11	8	8	7	4	4	4	5	4	10	84
がん以外	59	56	58	56	56	61	50	58	59	55	56	70	694
外来合計	514	496	535	479	497	493	471	519	455	498	514	612	6,083
造血器	79	82	82	89	98	86	100	64	86	107	119	112	1,104
肺	88	85	110	78	89	78	59	73	73	887	78	88	986
食道	43	37	56	53	38	35	38	49	30	35	27	44	485
胃	3	2	3	4	3	0	4	5	3	0	5	3	35
肝・胆・膵	8	2	8	2	4	5	4	1	15	8	10	8	75
乳腺	2	0	3	1	3	1	3	1	0	1	0	1	16
大腸	5	8	11	4	6	11	14	9	11	10	6	6	101

脳神経外科	6	10	9	6	8	2	1	2	0	0	0	0	44
産婦人科	5	5	3	7	5	10	7	3	0	3	6	3	57
泌尿器科	12	17	11	4	9	15	18	17	21	25	29	29	207
耳鼻科	19	24	27	28	18	12	19	29	25	23	23	13	260
皮膚科	2	2	4	2	2	2	3	3	3	3	4	2	32
がん以外	3	4	4	8	3	1	4	8	8	3	4	1	51
入院合計	275	278	331	286	286	258	274	264	275	305	311	310	3,453
総合計	789	774	866	765	783	751	745	783	730	803	825	922	9,536

カ 令和4年度月別注射箋枚数（入院）

月別	注射箋枚数
4月	13,084
5月	13,161
6月	14,115
7月	15,447
8月	14,542
9月	13,289
10月	13,782
11月	14,250
12月	14,552
1月	14,512
2月	13,148
3月	14,653
合計	168,535

(2) 薬剤管理指導業務

令和4年度は、新たに4病棟（9階南、9階西、11階北、14階南）で病棟薬剤業務を開始したことにより、年間としては算定件数10,446件（前年比13.4%増）となりました。診療科では内科が前年比40.2%、病棟では14階南病棟が前年比490%と大幅な増加となりました。

令和4年度診療科別・病棟別年間薬剤管理指導件数

診療科	薬剤管理指導件数	病棟	薬剤管理指導件数
内科	3,866	8N	3
精神・神経科	27	8S	3
小児科	2	9N	27
外科	1,148	9S	240
心臓血管外科	33	9W	19
脳神経外科	23	10N	2,035
整形外科	2,251	10S	2,185
形成外科	160	11N	1,354
皮膚科	170	11S	203
泌尿器科	1,089	12N	2,016
産婦人科	458	12S	219
眼科	181	13N	565
耳鼻咽喉科	642	13S	224
歯科口腔外科	121	14N	263
救急科	275	14S	1,089
		ICU	1
計	10,446	計	10,446

薬剤総合評価調整加算件数 28件

(3) 薬剤師外来業務

泌尿器科において、手術及び検査のため入院予定の外来患者を対象に、常用薬の確認や術前中止薬剤の中止指示などを、薬剤師外来で行っています。

令和4年度は昨年度に比べ35件/年増加し、ほぼコロナ禍前の件数に戻りました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
泌尿器科	45	80	50	48	55	48	48	59	52	55	65	69	674

(4) 薬品管理業務

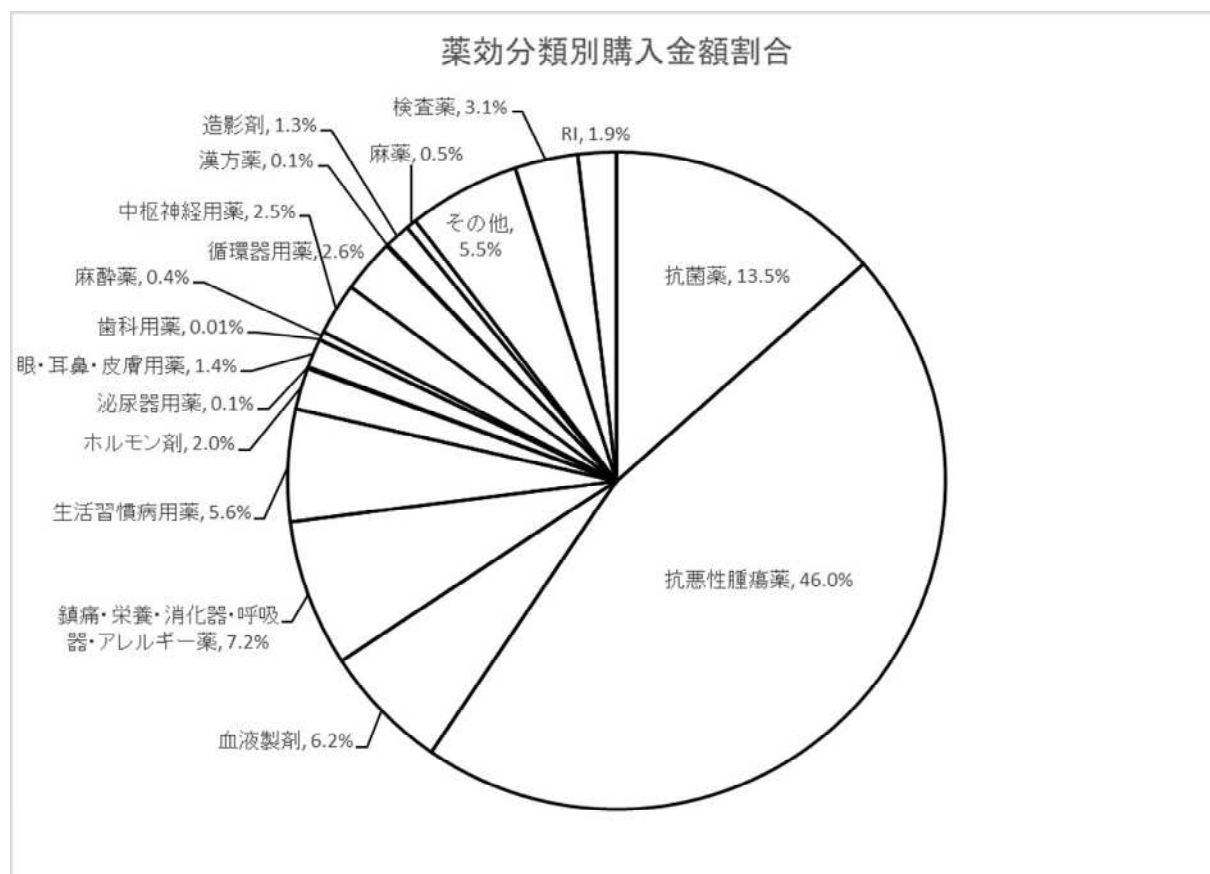
薬品購入金額は昨年度に比べ約113%、金額にして約4億3千万円の増加となり、総額は36億7,800万円（税抜き）でした。新型コロナウイルス感染症治療薬のベクルリー®点滴静注用100mgについて、2021年10月18日から国からの無償提供ではなく薬価収載品となり購入が必要になったこと、高額製品の使用数の増加等の影響により前年度よりも増加しました。

〔薬品使用状況〕

ア 区分別使用割合

区 分	比 率 (%)	区 分	比 率 (%)
内 服 用 薬 品	14.94	そ の 他 薬 品	0.57
注 射 用 薬 品	74.55	麻 薬	0.51
外 用 薬 品	1.31	血 液	3.14
検 査 薬 品	3.10	放 射 性 薬 品	1.89

イ 薬効分類別購入金額割合



ウ 採用医薬品における後発医薬品の割合

令和5年3月における後発医薬品採用率及び使用率は、次のとおりでした。

採用薬品数	先発医薬品	後発医薬品	合計	後発医薬品 採用率 (品目シェア)
	905	502	1,407	35.68%
入院使用数量	後発あり先発 + 後発医薬品	後発医薬品	全医薬品	後発医薬品 使用率 (数量シェア)
	225,248	205,237	396,479	91.1%
外来使用数量	後発あり先発 + 後発医薬品	後発医薬品	全医薬品	後発医薬品 使用率 (数量シェア)
	27,082	24,111	61,229	89.0%

(5) 医薬品情報管理業務

日本病院薬剤師会への薬剤師介入事例報告（プレアボイド報告）は、昨年度より123件減少しました。

令和3年度月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
プレアボイド報告 (様式1)													
プレアボイド報告 (様式2)	32	2	16	8	4	9	12	13	5	2	3	2	108
プレアボイド報告 (様式3)	5	2	3	1	1	2	3	4		1			22

様式1：重篤化等回避報告
 様式2：未然回避報告
 様式3：薬物治療効果の向上

(6) 製剤業務

当院では、市販品又は同等の市販品への切替えを推進し、院内製剤品目は必要最小限としています。製剤総量は昨年度と同程度でした。

主な製剤総量（令和4年4月～令和5年3月）

薬品名	規格	数量	薬品名	規格	数量
3%亜硝酸ナトリウム注射剤	10mL	8	ZENTEL	30mL	4
5%フェノール注射液	5mL	8	2.5%酢酸	100mL	30
6倍PAヨード洗眼液	50mL	434	2.5%酢酸	500mL	70
塩酸エピネフリン0.03%	50mL	721	20%硝酸銀液	20mL	4
滅菌エピネ・キシロ1:1	50mL	68	精製水	10000mL	2
滅菌グリセリン	30mL	12	生理食塩水	10000mL	20
脱気水	1000mL	123	皮膚インキ	120mL	1
滅菌ピオクタニン2%	10mL	350	液状フェノール	10mL	2
0.1%ブリリアントブルーG染色液	5mL	60	2%ホルマリンアルコール	500mL	2
滅菌テカイン液0.3%	50mL	60	5%内服用ルゴール	500mL	4
滅菌テカ・エピネ1:1	50mL	100	1%内服用ルゴール	250mL	5
1.2%口腔外科用ルゴール	50mL	41	1.2%ルゴール液	250mL	14
0.5%硫酸アトロピン点眼液	5mL	4	0.8%ルゴール液	500mL	7
0.25%硫酸アトロピン点眼液	5mL	4	水性ゲル	450mL	2
4%キシロカイン点眼液 分注	5mL	200	5%チンクレストアミンクリーム	100g	7
20%血清点眼液	5mL	31	2%ハイドロキノン	10g	60
ブリピナ点鼻液 分注	10mL	25	5%ハイドロキノン	10g	60
0.02%クロルヘキシジン点眼液	5mL	10	0.2%ミノマイシン軟膏	500g	2
2%セフトアジジム点眼液	5mL	5	0.2%ポリミキシン軟膏	300g	5
1%バンコマイシン点眼液	5mL	10	0.1%レチノイン酸	10g	20
2%SADBEアセトン	50mL	3	0.2%レチノイン酸	10g	10
1%SADBEアセトン	50mL	3	チラーヂンS坐剤	個	187
0.1%SADBEアセトン	50mL	6			
0.01%SADBEアセトン	50mL	7			
0.001%SADBEアセトン	50mL	3			

令和4年度年間製剤総数量

滅菌、無菌を要する製剤		滅菌を要しない製剤	
注射剤	16本	内・外用液剤	271L
点眼薬・点鼻薬等	289本	軟膏剤	6kg
その他	199L	坐薬	187個

(7) 薬学生実務実習受入状況

令和4年度の受入人数は、慶應義塾大学2名、帝京大学2名、星薬科大学2名、横浜薬科大学2名の計8名でした。

6 検査科

部長 津村 和 大
課長 安部 さやか

検査科は 39 名の医師・臨床検査技師・看護師と 5 名の兼務医師（病理診断科・放射線診断科・内科）が検査業務を支えています。検査科の全職員が関連医学会・技師会・各種認定機構等が定める多彩な専門資格の取得を目指し、質の高い臨床検査業務を実践しています。

(1) 検査科の組織と業務内容

検査科は、(1) 生理検査部門、(2) 病理検査部門、(3) 細菌検査部門、(4) 血液センター（輸血部門）(5) 検体検査部門（委託）、(6) 採血室 の 6 部門で構成されます。

生理検査部門は、心電図検査・血圧脈波検査・呼吸機能検査・筋電図検査・誘発電位検査・脳波検査・各種超音波検査（心臓・腹部・体表・血管等）・超音波ガイド下の生検等を担います。

病理検査部門は、組織診断・細胞診断・手術中の迅速診断・病理解剖を主な業務としています。

細菌検査部門では、提出された検体（喀痰・咽頭粘液・尿・便・膿・血液など）から感染症の原因となる細菌の分離・同定・薬剤感受性検査を行っています。さらに、感染対策チーム（ICT）の一員として薬剤耐性菌の発生状況調査や院内ラウンドに参画します。休日を含めて、新型コロナウイルス遺伝子検査に対応することで、病院全体の感染症対策に貢献してきました。

血液センター（輸血部門）は、輸血に関連する検査のほか、血液製剤管理を 24 時間体制で行っています。検体検査部門（委託）では、検体の受付けと検査結果報告を一括管理しています。尿・末梢血・生化学・免疫等の各種検査を 1 カ所に集約することで、効率性・機能性の向上に努めています。採血室では、血液採血を主な業務としていますが、患者さんが自宅で採られた尿・便・痰などの検体受け取りも担います。

(2) 新型コロナウイルス感染症対応

新型コロナウイルス感染症の対応では、全入院患者に対するウイルス遺伝子検査（LAMP 法）を継続し、その検体採取と分析を一貫して検査科が担うことで、救急医療の提供や緊急手術対応と適切な感染管理の両立を検査業務の面から支えました。

(3) 業務の精度管理と学術活動

質の高い臨床検査業務の遂行の基盤となる精度管理については、技師会・関連団体等のサーベイに参画し、内部精度管理及び外部精度管理を継続しています。令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症対応を検査科の視点から分析した報告が、第 60 回全国自治体病院学会（2022 年 11 月）で優秀演題として表彰されています。そのほか 16 件の学会・研究会報告ならびに論文の執筆を行いました。他施設の優れた取り組みから学び、自施設の日々の業務を科学的・学術的観点から振り返る取り組みを通じて、臨床検査業務の質向上に繋げています。

(1) 生理検査部門

項 目	令 和 3 年 度			令 和 4 年 度		
	外 来	入 院	総件数	外 来	入 院	総件数
心電図	13,783	2,860	16,643	14,605	2,382	16,987
CVRR	29	82	111	39	85	124
心室遅延電位	1	9	10	3	2	5
運動負荷	244	6	250	238	1	239
起立負荷	272	84	356	276	51	327
ホルター	316	5	321	275	9	284
トレッドミル	60	6	66	63	0	63
負荷心肺機能検査	5	5	10	0	6	6
ABI	1,025	211	1,236	1,035	241	1,276
SPP	15	32	47	21	34	55
TBI	21	3	24	24	0	24
一般肺機能 (SVC)	1,231	189	1,420	1,263	196	1,459
一般肺機能 (FVC)	1,231	189	1,420	1,352	285	1,637
機能的残気量	72	10	82	79	12	91
肺拡散能力	71	10	81	79	12	91
C・ボリューム	1	1	2	2	2	4
薬剤吸入試験	2	1	3	0	2	2
呼気NO測定	165	11	176	202	11	213
筋電図	275	15	290	417	43	460
神経伝導検査	1,773	482	2,255	1,706	323	2,029
脳波	761	248	1,009	764	240	1,004
脳波(眠剤使用)	6	79	85	7	69	76
ABR	17	31	48	16	22	38
VEP						
SEP						
VEMP						
新生児聴覚スクリーニング	8	715	723	10	633	643
心エコー	2,240	1,117	3,357	2,082	1,151	3,233
経食道心エコー	4	13	17	7	24	31
腹部エコー	3,307	582	3,889	3,289	549	3,838
体表エコー	2,314	149	2,463	2,439	152	2,591
血管エコー	671	500	1,171	689	626	1,315
エコー下生検・穿刺	289	38	327	281	24	305
モニタリング	0	34	34	0	27	27
合計	30,209	7,717	37,926	31,263	7,214	38,477

(2) 病理検査部門

ア 病理・細胞診検査

項 目	令 和 3 年 度			令 和 4 年 度		
	外来件数	入院件数	総件数	外来件数	入院件数	総件数
病理組織検査	2,939	4,871	7,810	3,282	5,227	8,509
病理術中迅速検査	9	198	207	7	245	252
免疫染色	412	872	1,284	375	918	1,293
特殊染色	130	697	827	114	714	828
電子顕微鏡検査	0	0	0	0	12	12
細胞診検査	6,320	1,500	7,820	6,252	1,562	7,814
細胞診術中迅速検査	0	4	4	0	1	1
病理解剖	2	13	15	1	10	11
合計	9,812	8,155	17,967	10,031	8,689	18,720

イ 剖検状況

科別剖検状況	令 和 3 年 度				令 和 4 年 度			
	実入院	死亡数	剖検数	剖検率	実入院	死亡数	剖検数	剖検率
内科	4,879	242	11	4.55	4,927	274	9	3.28
小児科	1,162	0	0	0	1,322	0	0	0
外科	1,565	17	1	5.88	1,547	20	1	5
脳神経外科	273	16	1	6.25	343	10	0	0
整形外科	1,140	4	0	0	1,159	1	0	0
形成外科	97	0	0	0	115	1	0	0
心臓血管外科	40	1	0	0	55	0	0	0
皮膚科	137	1	0	0	175	1	0	0
泌尿器科	871	9	1	11.1	922	5	0	0
産婦人科	1,544	3	0	0	1,359	0	0	0
眼科	175	0	0	0	168	0	0	0
耳鼻咽喉科	330	3	0	0	372	4	1	25
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	87	0	0	0	97	0	0	0
救命救急センター	671	314	1	0.32	756	339	0	0
感染内科	0	0	0	0	0	0	0	0
感染小児科	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科	194	0	0	0	188	0	0	0
合計	13,165	610	15	2.46	13,505	655	11	1.68

ウ 臨床支援業務

項 目	令 和 3 年 度			令 和 4 年 度		
	外来件数	入院件数	外来件数	外来件数	入院件数	総件数
産科エコー（胎児計測）	2,013	—	2,013	2,233	—	2,233

(3) 細菌検査

項目		令和3年度			令和4年度		
		外来	入院	合計	外来	入院	合計
塗抹鏡検		2,671	3,233	5,904	2,717	3,273	5,990
培養 同定	口腔・呼吸器	1,051	1,539	2,590	1,042	1,542	2,584
	消化器	207	779	986	197	752	949
	泌尿器・生殖器	2,183	1,164	3,347	2,070	1,108	3,178
	血液・穿刺液	3,047	4,023	7,070	3,432	4,293	7,725
	その他	295	445	740	283	415	698
嫌気性培養		3,936	5,094	9,030	4,331	5,276	9,607
薬剤 感受性	1菌種	1,359	1,055	2,414	1,258	992	2,250
	2菌種	261	296	557	260	260	520
	3菌種以上	115	116	231	99	132	231
薬剤耐性菌		56	76	132	69	83	152
酵母様真菌薬剤感受性		0	1	1	4	1	5
抗菌薬併用効果スクリーニング [※]		-	-	-	1	0	1
大腸菌抗原		10	10	20	3	2	5
大腸菌ベロトキシン		14	16	30	23	10	33
肺炎球菌抗原		0	0	0	0	0	0
ヘモフィルス抗原		0	0	0	0	0	0
カンジダ		0	0	0	0	0	0
トリコモナス		1	0	1	0	0	0
クラミジア		1	0	1	0	0	0
結核菌LAMP法		18	66	84	13	27	40
コロナLAMP法		13,943	2,282	16,225	18,348	2,283	20,631
合計		20,155	29,125	49,280	34,150	20,449	54,559

※令和2年5月よりコロナLAMP法検査を開始しました。

※令和3年4月より酵母様真菌薬剤感受性検査を開始しました。

※令和4年9月より抗菌薬併用効果検査を開始しました。

(4) 血液センター

ア 検査件数

	令和3年度			令和4年度		
	外来	入院	合計	外来	入院	合計
血液型ABO式及びRh式	5,106	742	5,848	5,185	664	5,849
抗体スクリーニング 含む抗Dia抗体検査	4,114	872	4,986	4,584	1,221	5,805
ABO式亜型の同定	5	1	6	0	1	1
その他の血液型検査	0	0	0	0	0	0
抗体価	10	4	14	9	3	12
交差試験	717	2,502	3,219	1,013	2,779	3,792
直接クームス	210	253	463	280	272	552
間接クームス	74	42	116	41	18	59
出血時間	2	2	4	7	2	9
合計	10,238	4,418	14,656	11,119	4,960	16,079

イ 血液使用数量

			令和3年度			令和4年度			
			単位	外来	入院	合計	外来	入院	合計
自己血	1		0	8	8	0	4	4	
	2		0	72	72	0	49	49	
成分製剤	赤血球製剤	日赤照射 RBC-LR	1	21	48	69	45	145	190
		2	587	1,761	2,348	815	1,887	2,702	
	新鮮凍結血漿	FFP-LR	120ml	0	0	0	0	0	0
			240ml	93	419	512	111	387	498
			480ml	0	142	142	0	5	5
	濃厚血小板	日赤照射 PC-LR	1	0	0	0	0	0	0
			5	2	19	21	2	42	44
			10	68	404	472	85	404	489
			15	0	4	4	0	11	11
			20	2	9	11	2	17	19
		日赤照射 PC-HLA-LR	10	37	13	50	66	25	91
			15	0	0	0	0	1	1
			20	0	0	0	0	0	0

ウ 自己血貯血

		令和3年度			令和4年度		
		単位	外来	入院	合計	外来	入院
液状保存	1	10	0	10	7	0	7
	2	130	2	132	87	0	87
合計		140	2	142	94	0	94

※単位1は200ml、単位2は400ml

(5) 検体検査部門（委託）

検査項目	令和3年度			令和4年度		
	外来	入院	総件数	外来	入院	総件数
(尿検査)						
尿定性	50,251	1,414	51,665	52,204	1,267	53,471
尿沈渣	31,184	60	31,244	34,765	54	34,819
尿定量検査	4,963	667	5,630	6,202	891	7,093
髄液検査	153	466	619	165	626	791
穿刺液検査	37	257	294	50	257	307
小計	86,588	2,864	89,452	93,386	3,095	96,481
(血液検査)						
血算	109,994	7,791	117,785	114,086	7,360	121,446
血液像	89,065	5,905	94,970	95,141	5,498	100,639
網状赤血球	17,065	950	18,015	18,905	673	19,578
浸透圧	285	311	596	276	307	583
血液ガス	3,160	1,076	4,236	4,731	765	5,496
赤沈	7,352	10	7,362	7,105	6	7,111
HbA1c	25,278	242	25,520	27,587	206	27,793
凝固関連検査	86,593	11,256	97,849	94,156	10,380	104,536
その他	67	12	79	112	48	160
小計	338,859	27,553	366,412	362,095	25,243	387,338
(血清検査)						
感染症関連検査	53,806	3,837	57,643	61,897	4,673	66,570
薬物関連検査	1,478	524	2,002	1,393	609	2,002
腫瘍関連検査	28,319	344	28,663	30,048	322	30,370
自己抗体検査	5,193	8	5,201	5,079		5,079
血漿蛋白免疫学的検査	109,754	7,371	117,125	114,878	6,775	121,653
小計	198,550	12,084	210,634	213,295	12,379	225,674
(生化学検査)						
血液化学検査	1,866,558	139,331	2,005,889	1,976,858	132,469	2,109,327
内分泌学的検査	37,748	954	38,702	40,187	879	41,066
小計	1,904,306	140,285	2,044,591	2,017,045	133,348	2,150,393
合計	2,528,303	182,786	2,711,089	2,685,821	174,065	2,859,886

(6) 外注検査

検査項目	令和3年度			令和4年度		
	外来	入院	総件数	外来	入院	総件数
(尿・糞便等検査)						
尿検査・他	792	365	1,157	1,393	372	1,765
糞便検査	1,822	930	2,752	1,787	1,095	2,882
穿刺液・採取液検査	71	155	226	74	167	241
悪性腫瘍組織検査	207	60	267	194	62	256
小計	2,892	1,510	4,402	3,448	1,696	5,144
(血液学的検査)						
血液形態・機能検査	12	0	12	15	0	15
骨髓像	239	210	449	237	226	463
造血器腫瘍抗原検査	189	202	391	167	221	388
出血・凝固検査	227	929	1,156	293	484	777
造血器腫瘍遺伝子・染色体検査	890	459	1,349	1,111	595	1,706
遺伝学的検査	8	1	9	14	1	15
先天異常染色体検査	32	10	42	18	11	29
遺伝学的検査 (PGx)	88	48	136	59	31	90
悪性腫瘍遺伝子検査	3	0	3	0	0	0
小計	1,688	1,859	3,547	1,914	1,569	3,483
(生化学的検査)						
血液化学検査	17,937	2,056	19,993	19,139	1,910	21,049
内分泌学的検査	9,957	2,394	12,351	11,923	2,228	14,151
腫瘍マーカー	12,769	334	13,103	13,009	327	13,336
特殊分析	1,564	296	1,860	1,667	226	1,893
小計	42,227	5,080	47,307	45,738	4,686	50,424
(免疫学的検査)						
免疫血液学的検査	64	40	104	86	24	110
感染症・ウイルス検査	8,222	2,421	10,643	8,464	2,271	10,735
自己抗体検査	19,979	3,090	23,069	20,924	3,003	23,927
血漿蛋白免疫学的検査	14,775	2,033	16,808	17,626	2,182	19,808
細胞機能検査	1,460	97	1,557	1,491	149	1,640
小計	44,500	7,681	52,181	48,591	7,629	56,220
(微生物学的検査)						
塗抹・培養・感受性検査	2,297	3,635	5,932	2,455	3,722	6,177
核酸同定・定量検査	4,338	1,076	5,414	2,464	1,358	3,822
その他微生物学的検査	269	0	269	235	1	236
小計	6,904	4,711	11,615	5,154	5,081	10,235
(病理診断)						
悪性腫瘍免疫染色・FISH法検査	339	162	501	450	73	523
小計	339	162	501	450	73	523

(保険収載外検査)						
血中薬物濃度	2,496	267	2,763	2,621	314	2,935
腫瘍マーカー	128	0	128	96	1	97
その他検査	87	38	125	49	31	80
小計	2,711	305	3,016	2,766	346	3,112
(負荷試験等)						
機能テスト	30	5	35	38	12	50
小計	30	5	35	38	12	50
合 計	101,291	21,313	122,604	108,103	21,097	129,200

(7) 採血件数

	令和3年度		令和4年度	
	件数	日平均	件数	日平均
採血件数	70,493	288.9	74,283	304.1

(8) 宿日直検査

項目	令和3年度		令和4年度	
	件数	月平均	件数	月平均
血液型検査	1,313	109.4	1,172	97.7
交差適合試験	897	74.8	1,017	84.8
血液製剤払い出し	873	72.8	926	77.2
心電図検査	3,390	282.5	3,462	288.5
コロナ検体抽出	3,072	256	3,325	277.1
合 計	9,545	795.4	9,902	825.2

※令和2年8月よりコロナ検体抽出業務を開始しました。

(9) コロナ検体採取

	令和3年度	令和4年度
件数	9,637	10,056

※令和2年度8月より開始しました。

【各種認定資格取得状況】

日本超音波医学会認定超音波検査士：循環器3名、消化器5名、体表臓器4名

日本リウマチ学会登録ソノグラファー：2名、血管診療技師認定機構認定技師：2名

日本糖尿病療養指導士：3名、日本臨床細胞学会認定細胞検査士：5名（国際細胞検査士3名）

日本臨床衛生検査技師会病理検査技師1名、日本輸血・細胞治療学会認定輸血検査技師：2名

7 食養科

科長 太田博子

令和4年度は、入退院支援の一環として、呼吸器外科での手術患者を対象とした、「周術期栄養管理」と、栄養士の入院センター常駐に向け、試行的に一部の曜日で常駐を実施しました。この2つの取り組みにより、入院前からの栄養管理、食事調整が実施され、医療の質の向上と患者サービスの向上につながりました。

(1) 年度別給食状況

年 度	一 般 食				特別食	計	1回の食数	特別食比率%
	常食	軟食	流動食	計				
平成30年度	189,330	86,774	45,347	321,597	127,594	449,045	410	28.4
令和元年度	184,698	81,839	46,178	312,715	110,888	423,603	387	26.2
令和2年度	166,945	74,464	39,789	281,198	94,324	375,522	343	25.1
令和3年度	174,138	79,731	42,102	295,971	91,088	387,059	353	23.5
令和4年度	176,373	79,730	47,699	303,802	92,983	396,785	362	23.4

(2) 食種別給食数

総数 396,785食 100%

一般食 303,802食 76.6%

- 常食 176,373食
- 軟食 38,376食
- 嚥下調整食 41,354食
- 流動食 3,946食
- 調乳 11,659食
- 濃厚流動食 32,094食

特別食 92,983食 23.4%

- 蛋白コントロール食 35,289食
- 脂質コントロール食 6,664食
- カロリーコントロール食 42,281食
- 術後・潰瘍食 7,580食
- 調乳 (HMS-2) 642食
- 大腸検査食 527食

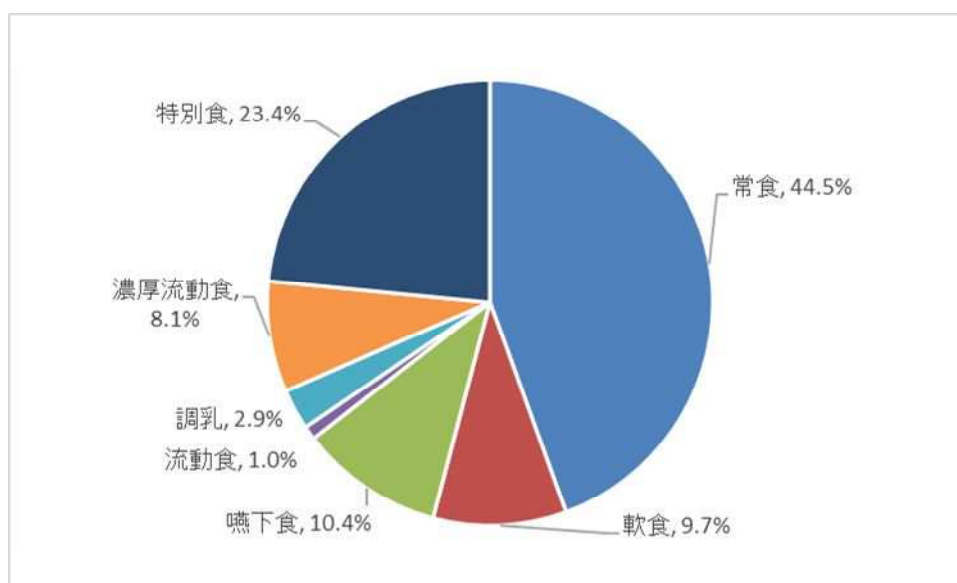
なごみ食 5,427食 (常食として計上)

フリーオーダー食 5,220食 (常食として計上)

定型除去食 179食 (軟食として計上)

検食 4,380食 (常食として計上)

(3) 食種別比率



(4) 月別給食数 (令和4年度)

月別	一般食				特別食	計	1回の食数
	常食	軟食	流動食	計			
4月	14,369	6,459	3,066	23,894	8,045	31,939	355
5月	14,208	6,514	3,509	24,231	8,180	32,411	349
6月	15,142	6,899	3,547	25,588	7,654	33,242	369
7月	15,584	7,493	4,197	27,274	7,420	34,694	373
8月	13,829	6,818	5,150	25,797	7,594	33,391	359
9月	14,705	6,330	4,563	25,598	6,984	32,582	362
10月	15,532	6,363	3,819	25,714	7,833	33,547	361
11月	15,217	6,314	3,909	25,440	7,718	33,158	368
12月	14,684	6,752	4,179	25,615	7,780	33,395	371
1月	13,203	6,545	4,695	24,443	7,366	31,809	342
2月	14,287	6,546	3,361	24,194	7,607	31,801	379
3月	15,613	6,697	3,704	26,014	8,802	34,816	374
計	176,373	79,730	47,699	303,802	92,983	396,785	362

(5) 嚥下調整食数

嚥下調整食は、全食数の10.4%を占め、年々増加傾向にあります。摂食嚥下支援チーム、栄養サポートチームと共に、経口摂取をめざし、早期介入を行っています。

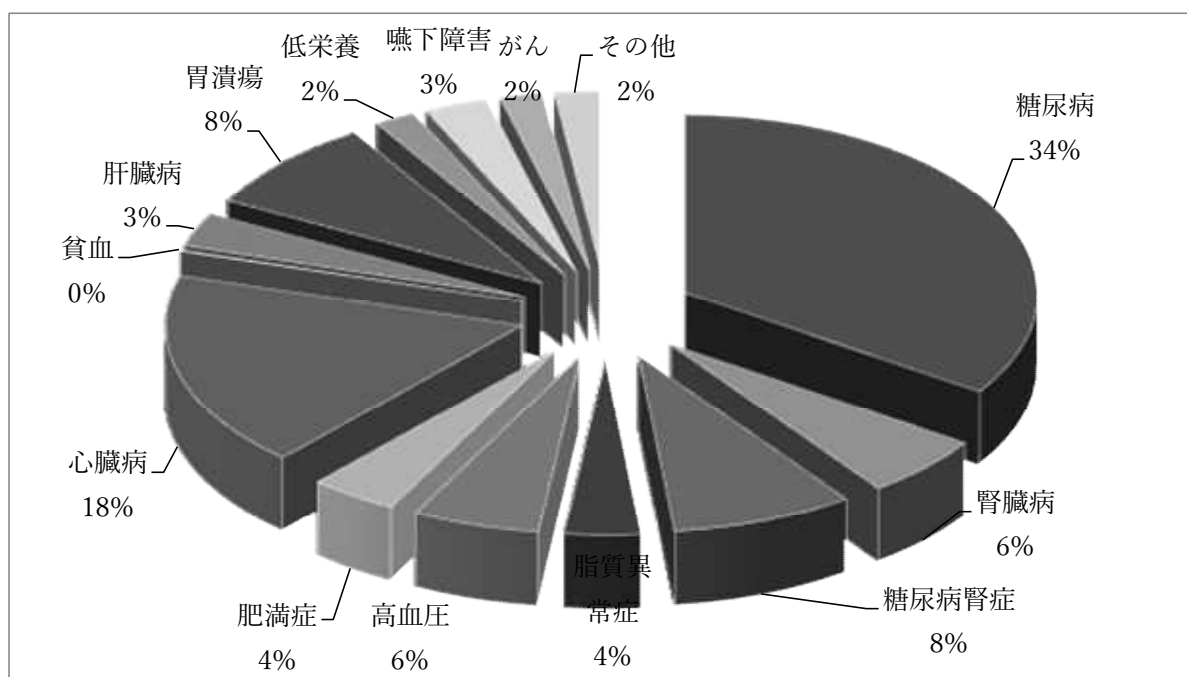
年度	30年度 2月以前	ゼリー 開始食	ミキサー	細きざみ	きざみ	軟菜食Ⅰ	軟菜食Ⅱ	計
	30年度 2月以降		とろみ ペースト	とろみきざみ		とろみ やわらか	やわらか	
平成30年度2月以前	685	685	8,571	4,368	4,721	5,302	1,457	30,940
平成30年度2月以降			1,072	1,488		1,002	2,301	
令和元年度	686	686	8,333	9,264		5,543	11,726	35,552
令和2年度	133	133	9,084	11,649		5,996	9,711	36,573
令和3年度	363	363	9,153	8,892		7,878	11,567	37,853
令和4年度	473	473	8,256	10,320		8,605	13,700	41,354

(6) 栄養指導

令和4年度は、個別指導件数に占める入院個別指導の割合が増えています。一方透析予防指導件数はやや減っています。疾患別では糖尿病、糖尿病腎症合わせて42%と糖尿病関連の指導が4割となっています。「消化管術後胃潰瘍」「低栄養」の指導件数が増加し、昨年度までその他の栄養指導件数に含んでいた「肥満」「貧血」を疾患別件数として集計したため、その他の栄養指導件数は減少しています。

個別栄養指導(疾患別件数)

糖尿病	腎臓病	糖尿病 腎症	脂質 異常症	高血圧	肥満	心臓病	貧血	肝臓病	消化管 術後 胃潰瘍	低栄養	嚥下 障害	がん	その他	合計
755	125	183	77	127	88	393	2	68	185	41	64	43	46	2,197



8 患者総合サポートセンター

所長 澤藤 誠

副所長 山内 秀行

(1) 地域医療連携

地域の医療機関の皆様からの受付や相談窓口として、また、顔の見える密接な地域連携を目指し、以下の業務を行い連携強化に努めています。

- ア 外来診療の事前予約受付
- イ 地域の医療機関からの緊急受診受付と病床確保
- ウ 医療機器共同利用の予約受付
- エ かかりつけ医の相談、ご案内
- オ 診療情報提供書の管理
- カ 転院調整
- キ 連携登録医事務手続き
- ク 医療機関訪問の実施
- ケ 「診療のご案内」「地域医療連携便り」の発行
- コ 地域医療連携の会・研修会・市民公開講座の開催等

令和4年度 各種統計

紹介率・逆紹介率(%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
紹介率	67.9	67.5	68.3	41.6	41.7	66.1	75.8	70.0	62.9	65.2	75.5	77.8	62.8
逆紹介率	99.7	101.6	107.3	70.1	64.9	99.1	108.3	110.9	111.3	112.1	120.9	120.0	98.7

地域医療連携業務 (件)

	紹介予約	緊急受診	転院 (転入)	転院 (転出)	かかりつけ医 ご紹介	診療情報 依頼	診療情報 照会
件数	1,251	1,190	215	157	552	958	454

医療機器共同利用 (件)

	CT	PET-CT	MRI	骨塩	骨 シンチ	上部 内視鏡	心 エコー	腹部 エコー	X-P	栄養 相談
件数	104	335	207	14	4	37	43	73	2	0

広報活動等

地域連携便り発行	4月、7月、10月、1月発行
外来診療担当表	連携登録医療機関を中心に、毎月約650か所に発送

地域の医療従事者を対象とした研修の実施状況（医師）

	開催月日	名称	主催	内容
1	令和4年 6月10日(金)	第9回川崎泌尿器科病診連携会	川崎市立川崎病院 キッセイ薬品工業株式会社 フェイリング・ファーマ	座長 まつやまクリニック 院長 松山 恭輔 1「夜間頻尿ガイドラインを踏まえた薬物治療について」 演者 泌尿器科 原部長 2「DA-Vinci 5年の治療成績」 演者 泌尿器科 福本医長
2	7月22日(金)	第9回SKAR研究会	川崎市立川崎病院 アッヴィ合同会社	総合司会 川崎病院リウマチ膠原病痛風センター 田口博章所長 特別講演 北里大学医学部膠原病・感染内科学 山岡邦宏主任教授 「JAK阻害薬をどうしようするか？」 ～最新情報から考察する安全性プロファイル～」
3	12月14日(水)	第1回川崎南部認知症診療ネットワーク勉強会	川崎市立川崎病院	講師 川崎病院認知症疾患医療センター室長 北園 久雄 ・認知症の現状 ・Treatable dementia ・川崎南部認知症ネットワークの立上げ
4	令和5年 2月1日(水)	第13回幸・川崎病診NET	川崎市立川崎病院 幸区医師会・川崎区医師会 アステラス製薬株式会社	座長：川崎病院病院長 野崎 博之 講演1 演題：泌尿器疾患の薬物治療 ～排尿障害からがん治療まで～ 演者：川崎病院泌尿器科 部長 原 智 講演2 演題：消化器がん治療最前線 演者：川崎病院消化器外科 部長 三原規奨 講演3 演題：パーキンソン病とDBS 演者：川崎病院脳神経外科 部長 片山 真

地域の医療従事者を対象とした研修の実施状況（看護師）

	開催月日	名称	主催	内容
1	令和4年 6月1日（水）	知っとくナース	看護部 認定看護師会	入院前にできる予防行動
2	7月6日（水）	知っとくナース	看護部 認定看護師会	生活習慣予防 ～カロリーや塩分制限の必要性～
3	8月3日（水）	知っとくナース	看護部 認定看護師会	コロナ過で受け入れ困難！ 熱中症の症状と予防
4	8月12日（金）	地域ケア懇談会	地域連携部会	STOP THE 繰り返す入院 ～心不全とのうまい付き合い方～
5	9月7日（水）	知っとくナース	看護部 認定看護師会	もし、あなたが“がん”になったら？ ～利用できるサポート-動画でみる川崎病院～
6	10月5日（水）	知っとくナース	看護部 認定看護師会	たかがスキンケア・されどスキンケア
7	11月2日（水）	知っとくナース	看護部 認定看護師会	防ごう、脳卒中!! ～寒くなる季節です、生活から予防法を考えてみませんか？～
8	令和5年 2月17日（金）	地域ケア懇談会	地域連携部会	継続は力なり ～糖尿病との暮らしを支えるために～

地域の医療従事者を対象としたがん看護に関する総合的な研修の実施状況

	開催月日	名称	主催	内容
1	令和4年 12月23日（金）	がん看護に必要ながんの基礎知識	がん診療推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・がんという病気の発生と進行 ・遺伝子変異と治療選択 ・がんゲノム医療、遺伝子パネル ・疫学、社会背景 ・拠点病院の役割
2	令和5年 1月27日（金）	最近のがん看護のトピックス	がん診療推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・妊孕性の温存 ・就労両立支援
3	2月24日（金）	がん相談支援の有効な活用	がん診療推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・がん相談とは ・治験、先進医療を受けたいと言われたら ・補完代替療法の位置づけと患者への対応
4	3月22日（水）	がん化学療法の看護	がん診療推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・副作用マネジメント ・患者教育

(2) 相談・調整

相談・調整課は、入院センター、入退院支援係、医療福祉相談係、がん相談係で構成されています。

地域の保険医療機関や訪問看護ステーション等との連携を強化し、患者さんへの質の高い、きめ細やかな相談支援体制を整え、地域や社会の架け橋となるように努めています。

ア 入退院支援係

入院中の患者さんやご家族の思いに寄り添いながら、可能な限り住み慣れた地域でその人らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、多職種と協働し、退院支援や調整を行っています。また、外来通院中の患者さんの在宅療養支援も行っています。

(ア) 入院患者さんの入退院支援・調整

(イ) 外来通院患者さんの在宅療養支援

(ウ) 訪問診療、訪問看護導入等の相談・調整

(エ) 医療機器、在宅酸素導入時の調整・支援

(オ) 在宅医療を支える地域のスタッフ向け「地域ケア懇談会」の企画・運営

イ 入院センター

入院を予定している患者さんやご家族に、入院中の生活や検査・治療・手術に必要な事項の説明を行います。さらに、常用薬や病歴、日常生活の問題点や入院に関する不安等を聞き取り、安心して入院し、不安なく退院できるようにサポートします。

(ア) 身体的・社会的・精神的背景を含めた患者情報の把握

(イ) 入院前に利用していた介護サービス又は福祉サービスの把握

(ウ) 褥瘡に関する危険因子の評価

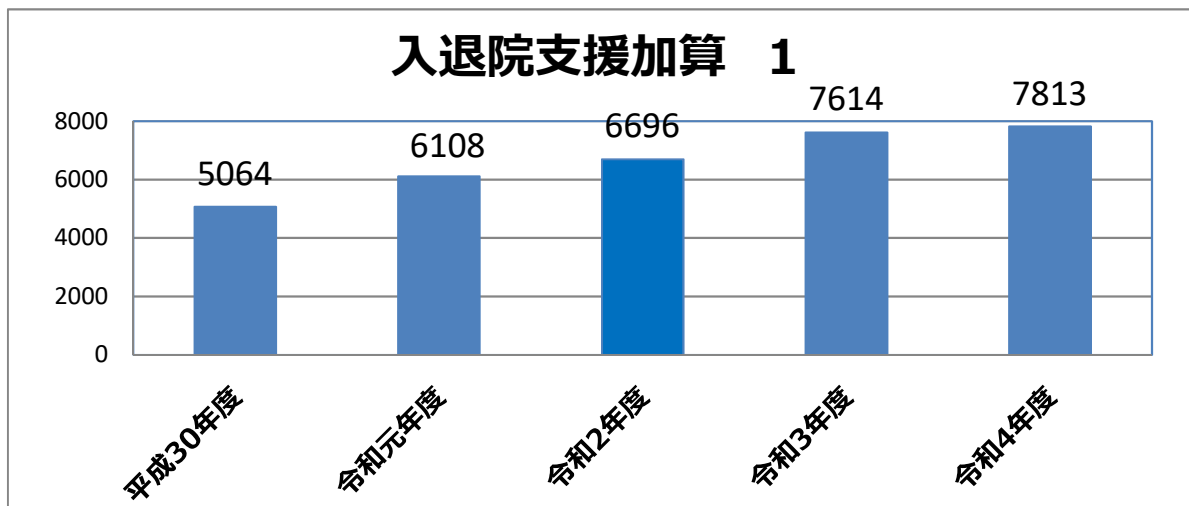
(エ) 栄養状態の評価

(オ) 服薬中の薬剤の確認

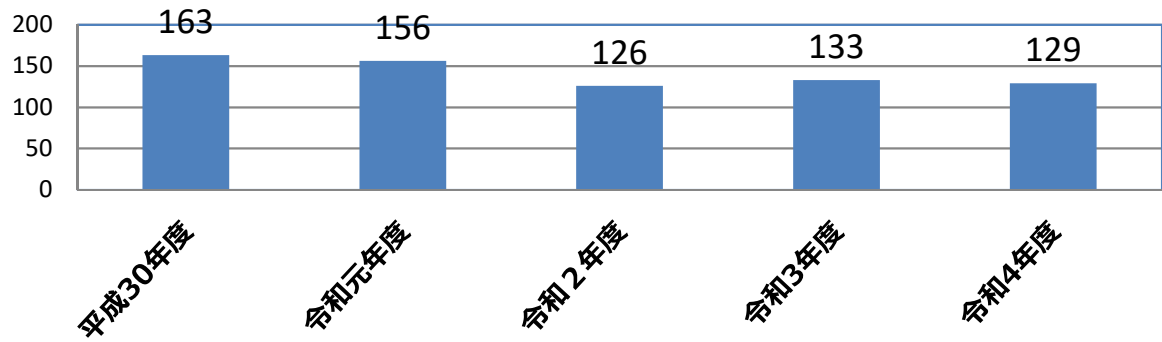
(カ) 退院困難な要因の有無の確認

(キ) 入院中に行われる治療・検査の説明

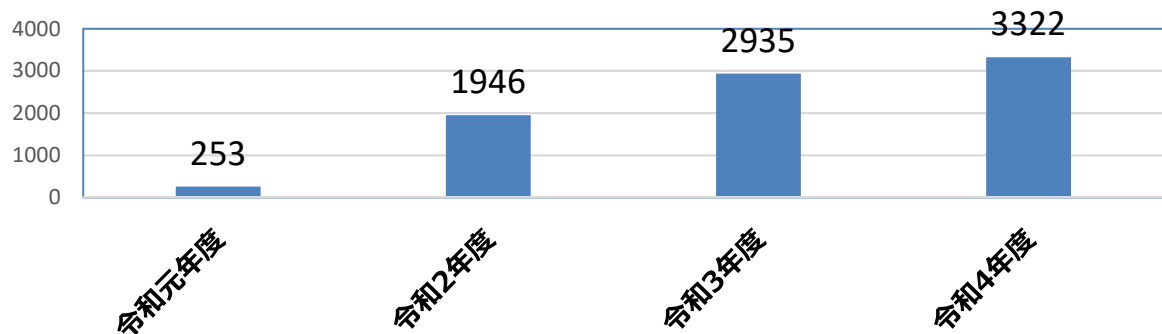
(ク) 入院生活の説明



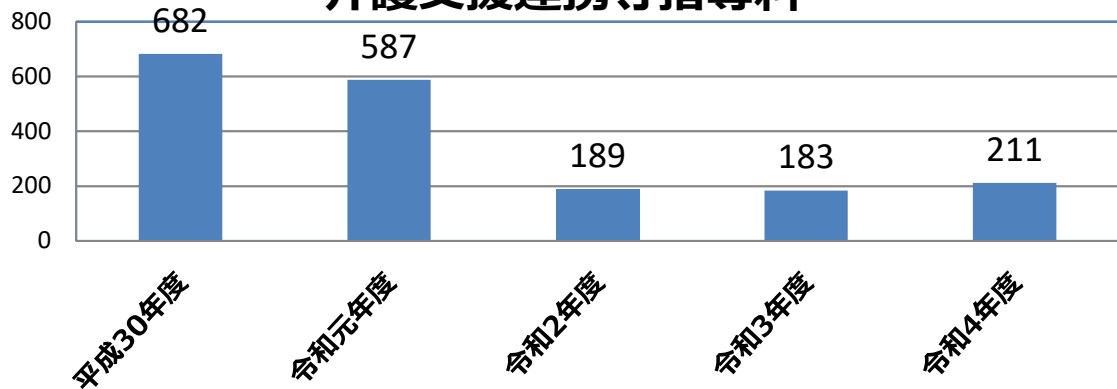
入退院支援加算 3



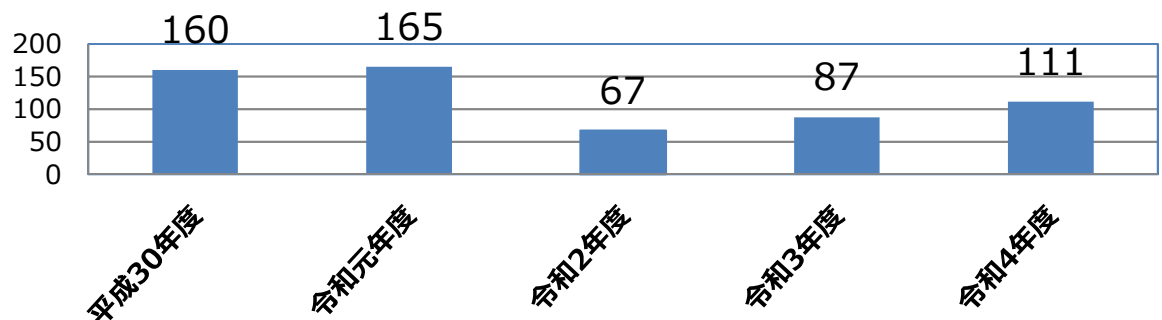
入院時支援加算



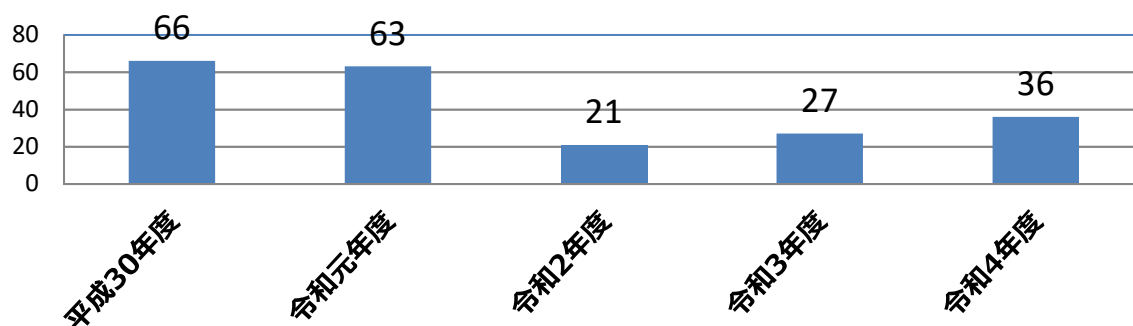
介護支援連携等指導料



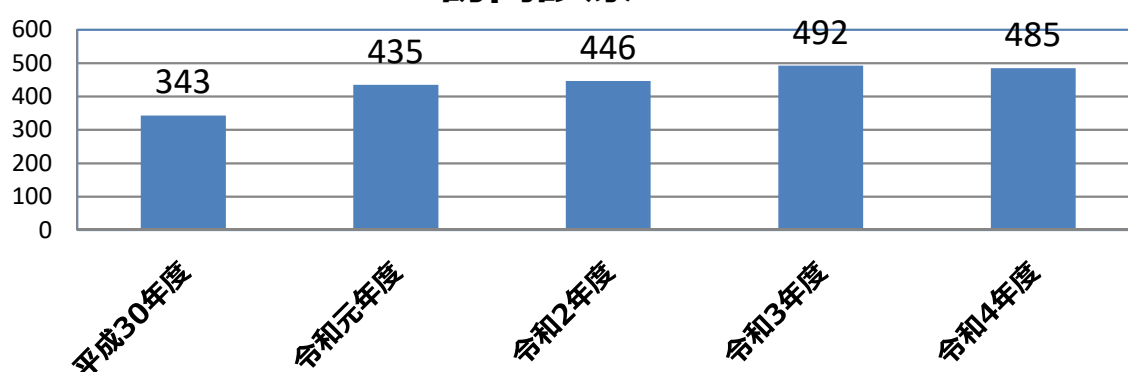
退院時共同指導料2



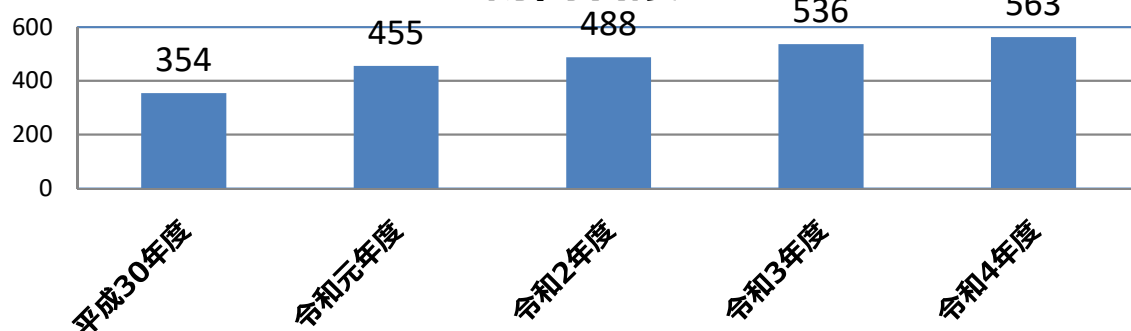
退院時共同指導料 2 加算



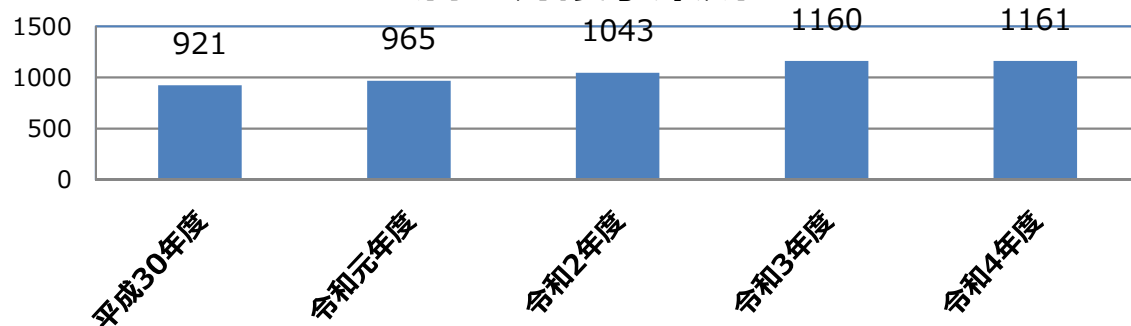
訪問診療



訪問看護



居宅介護事業所



安心見守り一時入院事業実績

平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1	2	0	2	0

ウ 医療福祉相談

病気やけがをきっかけに生じる生活上の問題について、医療ソーシャルワーカーが患者さんやご家族と一緒に考え、社会福祉の立場からご相談・問題解決の支援を行っています。また、転院調整や施設入所への調整も行っております。(資料2)

- (ア) 医療費や生活費などの経済的不安
- (イ) 介護保険や障害者手帳などの医療・福祉制度の利用についての相談
- (ウ) 退院支援（転院・施設入所他）
- (エ) 医療通訳派遣依頼
- (オ) 重症心身障害児者短期入所事業の受入調整

医療福祉相談実績（件）

内容	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
受診相談	147	180	176
障害者総合支援法による医療型短期入所	13	18	14
虐待関係(高齢者・DV・虐待)	21	25	43
産科・小児科関連の相談	60	69	130
経済的相談(医療費・生活費)	808	755	832
福祉サービス活用に関する相談	855	824	890
生活保護・緊急患者に対する医療費・福祉的援助	208	197	133
生保入院患者の保護費配布	61	55	61
退院調整定例カンファレンス	833	764	1,061
合計	3,006	3,483	3,340

患者総合サポートセンター窓口業務

内容	令和 3 年度	令和 4 年度
各相談受付	1,569	2,893
医療福祉相談	1,025	1,868
在宅療養相談	155	155
アドボカシー相談	115	151
がん相談	274	719
通訳派遣受付	2,749	2,419
面談室利用件数（*令和4年度より算出）		(*1,419)
その他・窓口対応職員が対応（面談室予約、院内他部署へ引継）	1,675	2,304
合計	5,993	7,616 (*9,035)

地域連携クリニカルパス運用実績

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
神奈川県脳卒中地域連携パス	13	25	9
大腿骨頸部骨折地域連携パス	21	3	24

退院支援

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
回復期リハビリ病棟	277	178	179
医療療養型病棟	87	58	72
一般病棟	67	64	38
緩和ケア病棟	47	52	59
地域包括ケア病棟	62	57	56
介護療養型医療施設等	10	4	14
その他病棟(精神科病棟, 障害病棟)	21	20	21
介護老人保健施設・介護老人福祉施設	16	28	40
民間介護施設	73	91	94
(転院支援を行なったが、在宅退院となった件数)	202	209	207
合計	862	761	780

エ がん相談係

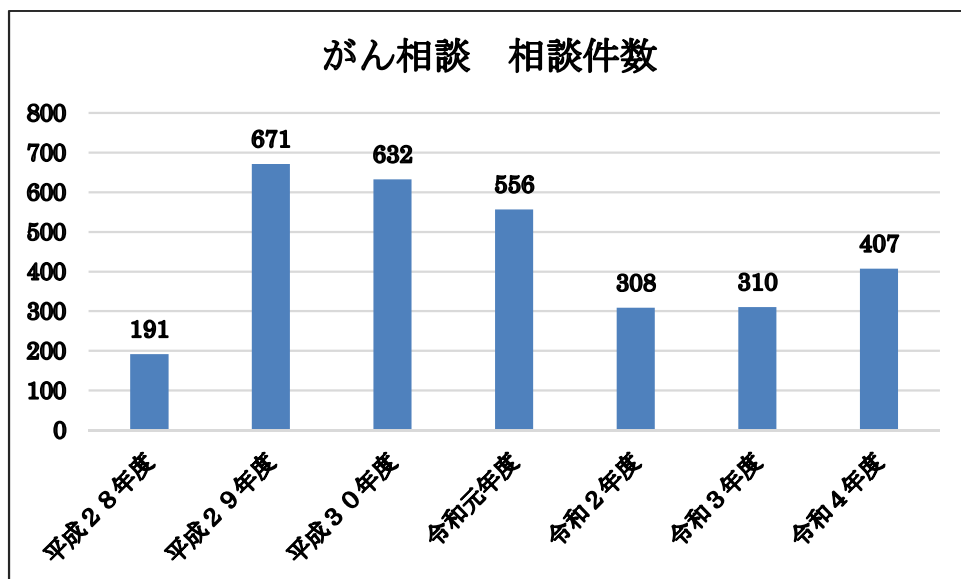
患者さんやご家族等に信頼できる情報提供を行うことで、その人らしい生活や治療選択ができるように相談支援を行っています。

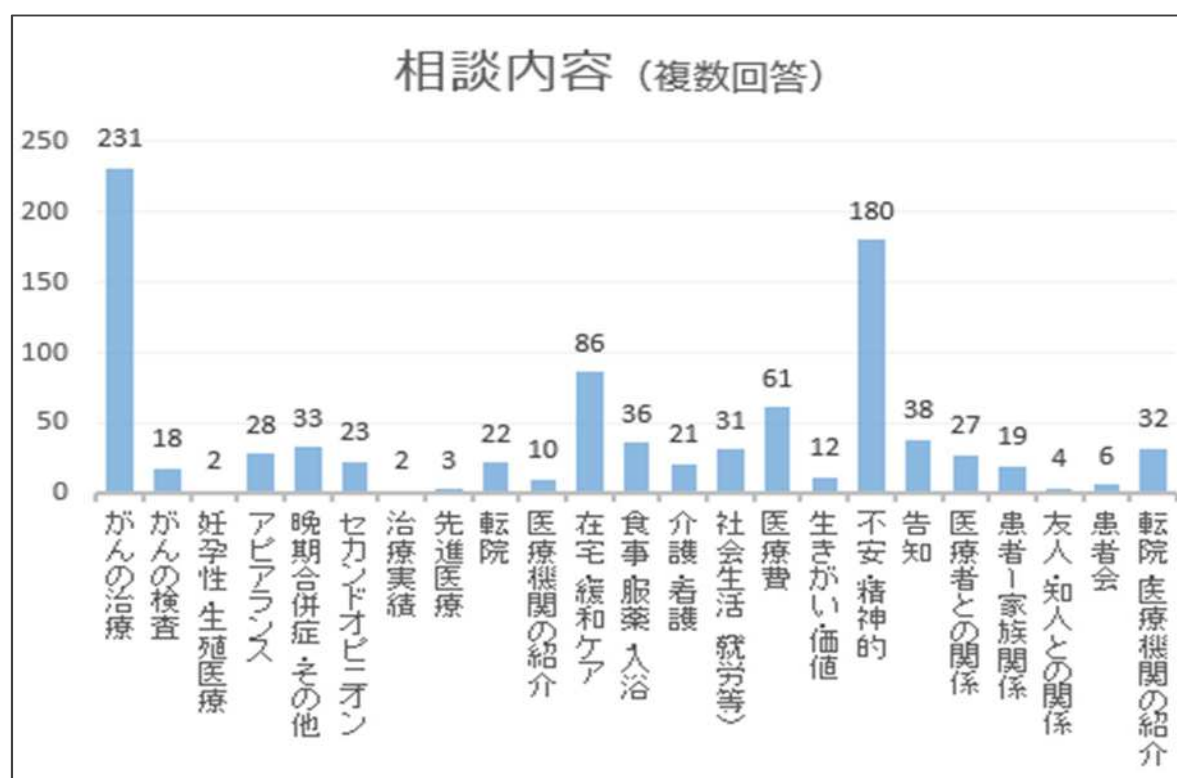
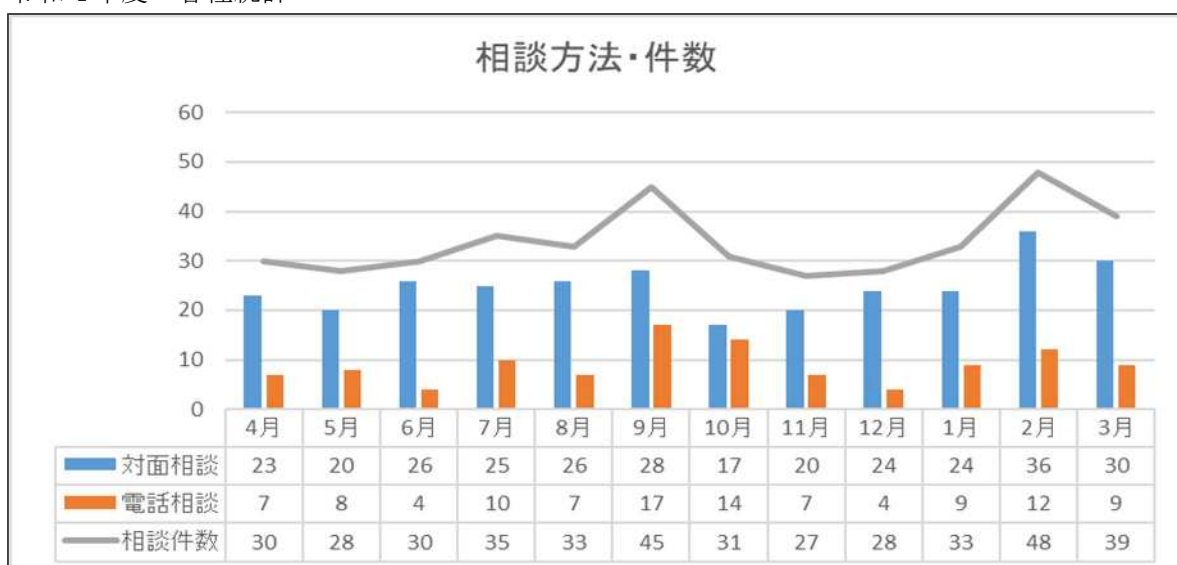
がんと診断されたときから、治療・症状の副作用・仕事・療養生活のことなどどのようなことでも相談を受付けております。

(ア) がん相談の実施 (対面相談・電話相談)

(イ) がんに関する情報提供

(ウ) がん患者サロンの開催





1 認知症疾患医療センターについて

当院の認知症疾患医療センターは令和3年8月に設立しました。当センターは、「もの忘れ相談室」と「もの忘れ外来」で構成されており、認知症の速やかな鑑別判断や、行動・心理症状（BPSD）と身体合併症に対する急性期医療、専門医療相談、関係機関との連携、研修会などを行うとともに、地域での認知症診断や治療、診断後のサポートにおける中核的な役割を果たすことを目的としています。

(1) もの忘れ相談室

平日の8時30分から17時まで受け付けており、精神保健福祉士や公認心理士が相談業務を行っています。また、もの忘れ外来の初回診察前に精神保健福祉士が患者さんから生活の様子等を伺っています。

なお、受診時以外でも認知症に関する福祉制度の相談や経済的な相談、その他生活上の心配事などの相談をお受けしています。

(2) もの忘れ外来（問診・診察）

毎週月・木の午前に、もの忘れ外来の担当医が一枠毎に約1時間程度、診察を行っています。

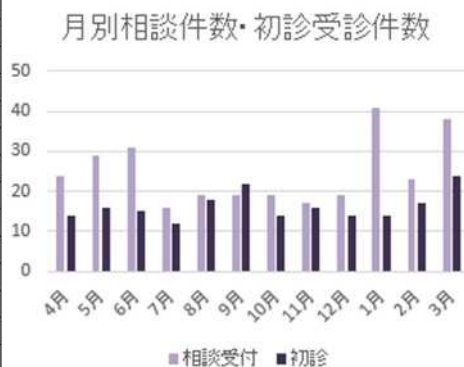
2 初回診察までの流れ

- (1) 事前に電話連絡で「もの忘れ外来」の予約を取る。なお、初診の際に紹介状がない場合は、非紹介患者初診加算料が必要となる。
- (2) 精神保健福祉士が初回診察前に患者・家族へ生活の現状や困りごとなどの聞き取りを行う。
- (3) もの忘れ外来担当医による初回診察。
- (4) 担当医による必要に応じた検査予約の実施。
- (5) 診察後、公認心理士・臨床心理士が2～3種類の検査を、数回に分けて実施。
(同日に複数の心理検査は実施できません。)
- (6) 再診

3 令和4年度の実績

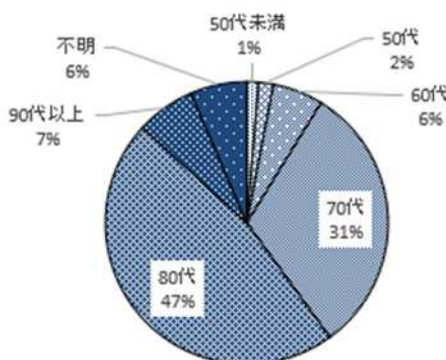
相談件数・初診受診件数

	相談受付	初診
4月	24	14
5月	29	16
6月	31	15
7月	16	12
8月	19	18
9月	19	22
10月	19	14
11月	17	16
12月	19	14
1月	41	14
2月	23	17
3月	38	24
計	295	196



相談者・初診受信者の年齢

年齢	人数
50代未満	4
50代	5
60代	17
70代	92
80代	138
90代以上	20
不明	19
計	295



当院では平成21年1月から電子カルテを中心とした総合医療情報システムを導入しています。稼働後10年以上が経過していますが、これまで医療情報を一括で管理する部署が存在しておらず、その結果、院内の様々な医療情報システムの統括管理や各システムで蓄積されたデータの分析が組織横断的に行えていませんでした。

また、近年、他の医療機関との診療情報連携や大学をはじめとする研究機関との診療情報を使った連携研究が増えていますが、案件毎に個別の対応を行っており、効率的に進めることができていませんでした。

これらの問題を解決し、医療情報・情報機器の一括管理による診療・運営支援を進める組織として、令和4年1月に医療情報システム管理室を設立し、業務を開始しています。

(1) 人員構成(※ 専従職員はおらず、全構成員が兼務)

室長 1名(医師・上級医療情報技師):「医療情報システム安全管理責任者」

室員 8名(看護師1名、薬剤師1名、診療放射線技師1名、医事課職員2名、庶務課職員2名、患者総合サポートセンター職員1名)

(2) 業務内容

- ・医療情報・情報機器の一括管理体制の構築・拡充
- ・医療情報集約による診療の質・患者サービスの向上
- ・医療情報集約による業務改善・経営分析支援
- ・医療情報を扱う人材育成、病院職員に対する医療情報ならびに情報セキュリティの教育

(3) 令和5年度の取組(予定も含む)

- ・電子カルテの設定変更／バージョンアップ
- ・院外カルテ閲覧システムの運用
- ・システム障害時のマニュアル整備
- ・院内の各種システムの更新支援
- ・電子お薬手帳端末の管理
- ・病院機能再編に向けてのシステム関連の課題整理・調整
- ・全職員向け e-learning システムの運用支援
- ・全職員向けの情報セキュリティ教育講習
- ・外部とのオンラインカンファレンスの構築支援
- ・川崎病院経営戦略会議における診療支援データ作成
- ・ICT に関連した大学との連携プログラムの支援
- ・厚生労働省のガイドラインならびに医療 DX への対応

IV チーム医療概要

1 緩和ケアチーム

(1) 人員構成

緩和ケア内科医 2名、精神科医 1名、薬剤師 2名、管理栄養士 1名、リハビリテーション療法士 5名、看護師 21名、チーム専従看護師 1名、リクナース 20名

(有資格者等)

緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了 2名

緩和ケア認定看護師 3名

(2) 業務内容

ア 院内の緩和ケアに関する標準化

イ 痛みやその他の身体的な症状の軽減と精神的、社会的、スピリチュアルな問題への支援を行い、安全かつエビデンスに基づく質の高いケアを提供する

ー毎週1回、多職種によるラウンドとカンファレンスを実施

ー平日はチームメンバーの回診・直接診療を実施

ウ 鎮静（セデーション）や輸液療法の適応を始め、DNR（Do Not Resuscitate）などについて、倫理的な側面からの助言を行う

エ 患者療養の全経過を通して、家族に対して適切なケアを行えるよう、スタッフを支援する

オ オープンな話し合いやチームカンファレンスを通して医療従事者の支援を行う

カ 在宅緩和ケアの支援（患者総合サポートセンターとの連携）

キ 院内及び地域の医療従事者に対し緩和ケアの知識と技術の普及

ク 緩和ケア実施に関する教育と啓発

(3) 令和4年度 総括

ア 実績

緩和ケア診療加算の算定継続

緩和ケアチームへの新規依頼 145名

緩和ケア外来における診療 のべ5名

イ 難治性疼痛に対する診療体制の強化のため、神経ブロックの病院間連携を開始

ウ 教育活動

(ア) 緩和ケア研修会（令和4年12月18日、井田病院との共催）

(イ) ELNEC-J コアカリキュラム開催（9月）

2 褥瘡対策チーム

(1) 人員構成

皮膚科医（専任医師）、褥瘡管理者、皮膚・排泄ケア認定看護師、病棟専任看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士

(2) 業務内容

褥瘡保有者並びに褥瘡ハイリスク患者を対象に、褥瘡発生予防・早期発見・早期治癒である総合的な褥瘡対策を目的に、週に1度病棟回診を行っている。多職種メンバーと連携を図りながら多角的な視点で予防・治療・評価・実践指導を行っている。また、院内における褥瘡発生予防の体制・整備を行っている。

(3) 令和4年度の取り組み

ア 病棟回診によるカンファレンスの実施

全病棟を対象に、褥瘡保有者への早期治癒に向け、毎週月曜日チーム回診を実施し病棟スタッフや主治医と共にカンファレンスを実施している。カンファレンスの内容は、褥瘡治療や看護ケア方法、患者の栄養管理や薬剤による影響、リハビリ状況等についての実践、評価、調整を行っている。また、褥瘡ハイリスク患者に対する褥瘡予防についてのカンファレンスも実施している。

イ 褥瘡対策委員会開催

月に1度委員会を開催。参加メンバーは、各診療科の専任医師、病棟師長、病棟専任看護師、褥瘡管理者、皮膚・排泄ケア認定看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士である。褥瘡発生率及び現状報告や最新の褥瘡対策に関する情報共有を行っている。

ウ 褥瘡対策に係る職員研修

褥瘡対策委員に対し、褥瘡対策に関する学習会を5回/年実施（令和4年度）院内褥瘡対策学習会を全職員対象（新規看護職員は必須参加）として2回/年実施

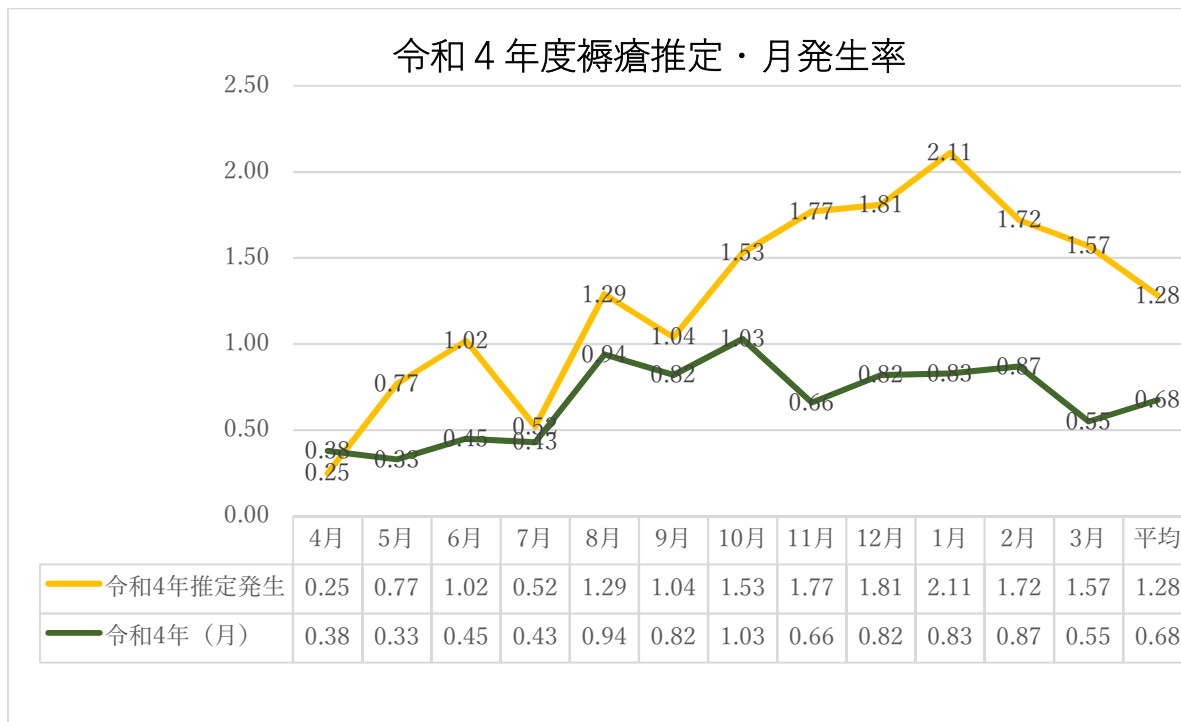
- ・「褥瘡の基本DESIGN-R2020」講師：形成外科永塚医師
- ・「褥瘡危険因子評価票の入力方法について」講師：9S白砂看護師
- ・「褥瘡患者の栄養管理と補助栄養について」講師：小幡栄養士
- ・「褥瘡の外用薬の基本」講師：松本薬剤師
- ・「症例から見る褥瘡治療」講師：皮膚科西本医師

参加人数は総勢190名であった。

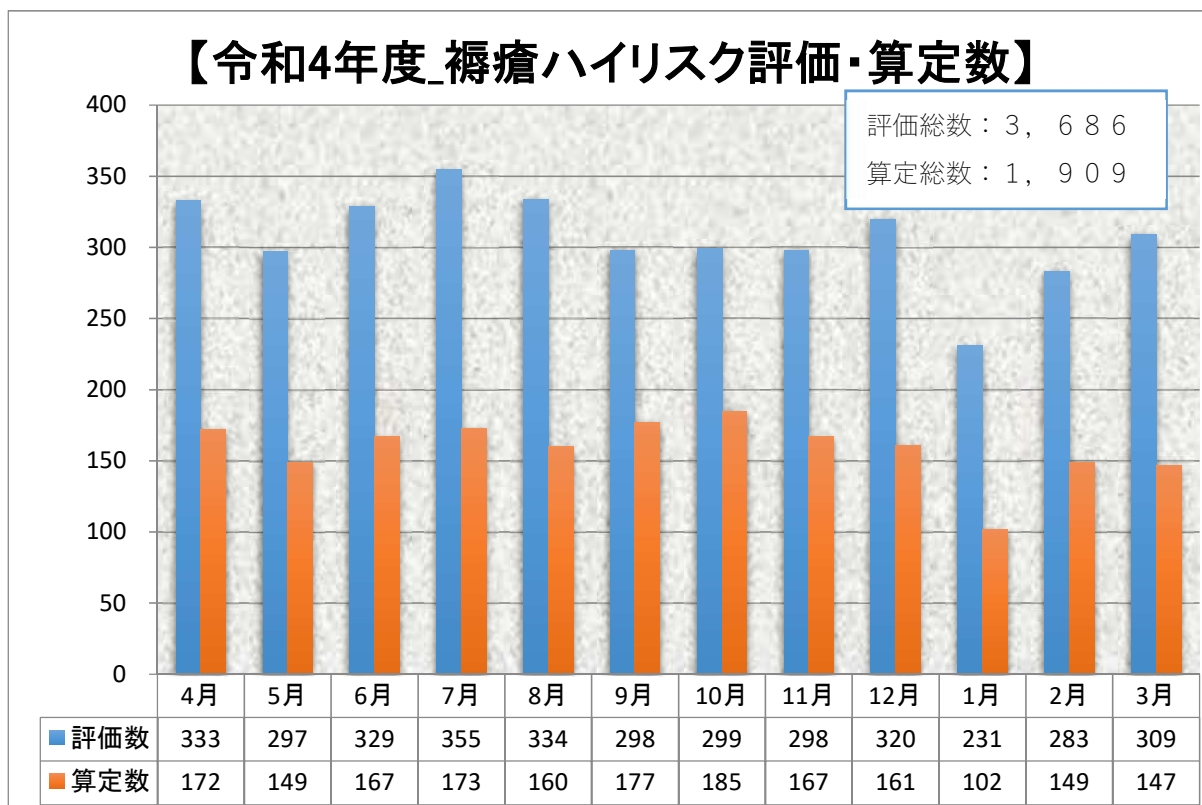
エ 褥瘡予防に関する環境・マットレスの整備及び調整

(4) 実績

ア 褥瘡推定発生・月の発生率



イ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算実績



3 認知症ケアチーム

(1) 人員構成

脳神経内科医(認知症学会専門医の資格を有する)、認知症看護認定看護師、老年看護専門看護師、リンクナース、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、精神保健社会福祉士

※認知症ケアに係る有資格者

認知症ケア専門士 4名取得(計 11名)

認知症ケア加算対応研修修了者 11名(計 54名)

(2) 業務内容

認知症患者を対象とし、認知症の症状悪化を予防し、身体疾患の治療を円滑に受けられ、地域につなぐことを目的に、多職種によるメンバーで連携を図りながら毎週、病棟回診を行っている。

(3) 令和4年度の取り組み

・病棟回診によるカンファレンスの実施

認知症患者への対応やケアの質を上げるため、週1回チーム回診を行い各部署の対象患者の対応やケアについて病棟スタッフと共にカンファレンスを実施している。10階から14階までの病棟を対象としているが、9階南病棟やICU病棟の患者においても必要に応じて対応した。

・院内全職員対象の教育講演会

開催日時 令和5年1月26日

テーマ：認知症患者の身体拘束最小化を多職種で考える

参加者：800名(看護師654名、医師32名、コメディカル56名、事務等61名)

教育講演会を会場とナーシングスキルを用いた動画視聴を併用したことで、幅広い職種からの参加があった。

・身体抑制の解除に向けた症例検討会

身体抑制は、認知症の周辺症状の増悪やせん妄の誘発につながり、ADL低下や退院遅延に至る可能性もあるため、身体抑制解除に向けた症例検討会を継続的に開催し、ケアの質の向上につなげた。

・その他取り組み

リンクナースと認知症看護認定看護師による各部署の学習会の実施

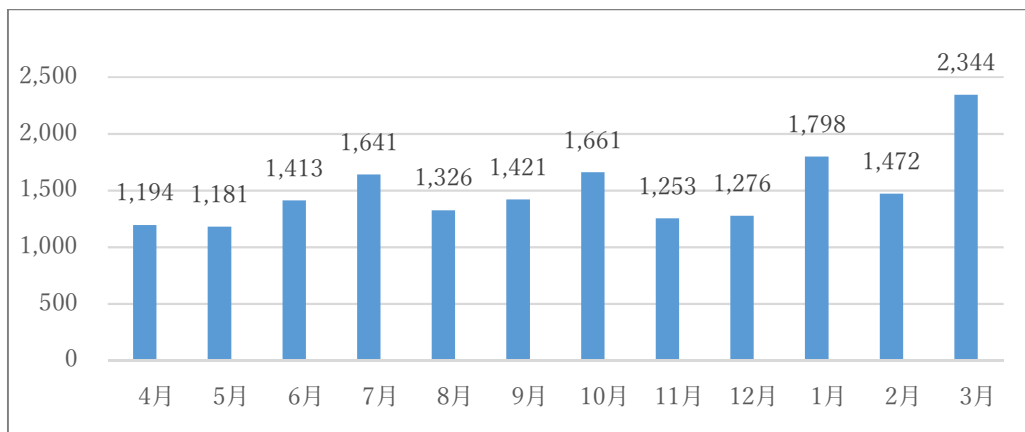
啓蒙ポスター5種類を作製して各部署に配布

(4) 実績

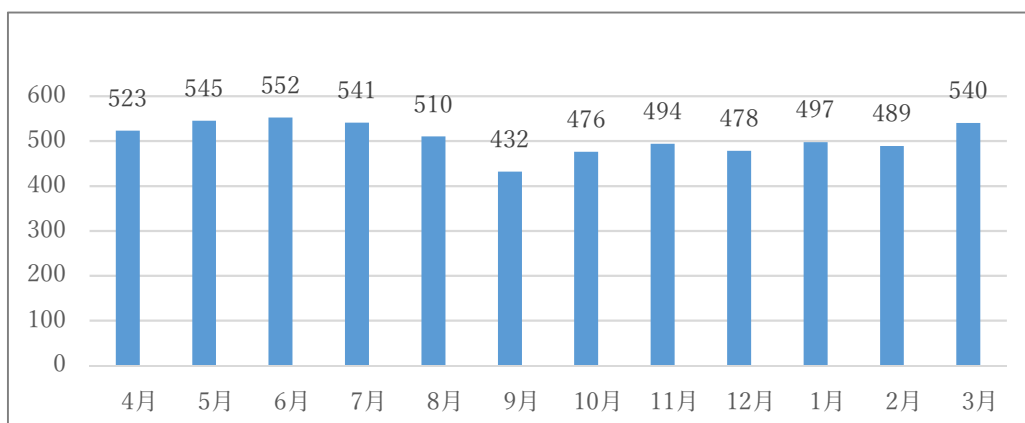
1) カンファレンス開催件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
50	32	63	46	32	58	58	41	52	62	36	54	584

2) 認知症ケア加算算定数



3) せん妄ハイリスク加算算定数



4 栄養サポートチーム（NST）・摂食嚥下支援チーム

（1）人員構成

リハビリテーション科医師、内科医師、管理栄養士、薬剤師、専任看護師、臨床検査技師、言語聴覚士

（2）業務内容

栄養サポートチーム（NST: Nutrition Support Team）では、食事だけでなく、経管栄養、静脈栄養など総合的かつ専門的な栄養管理を目指し、多職種が連携して活動を行っています。当院は、平成23年3月から栄養サポートチーム加算（200点/週/人）の算定を行っています。

また、令和2年度の診療報酬改定にて、摂食嚥下支援加算（令和4年度より摂食嚥下機能回復体制加算に名称変更）が新設されたことを受け、令和2年10月よりNSTと摂食嚥下支援チームに分けて活動を行っています。チームを分けることで、効率良く専門的な介入を行うことができます。

（3）令和4年度の取り組み

ア 病棟回診におけるカンファレンスの実施

毎週火曜日に摂食嚥下支援チーム、金曜日にNSTが回診を行っています。各病棟にて、チームメンバー、病棟スタッフ、主治医などと対象患者のカンファレンスを行いました。

イ NST 摂食嚥下支援チーム部会の開催

月1回、部会を開催し、NSTや摂食嚥下に関わる情報を共有しています。

また、各病棟看護師が中心となり症例検討会を行いました。

ウ 部会内での勉強会の開催

NSTや摂食嚥下に関わる勉強会を3回/年行いました。

エ 専門資格

NST研修に医師1名、看護師1名、管理栄養士1名が参加しました。

（4）実績

介入件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間（件）
NST	52	65	62	70	55	55	59	48	54	62	57	68	707

加算算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間（件）
NST	49	56	58	66	51	53	53	48	48	56	54	63	655
摂食嚥下	37	13	38	25	32	39	20	38	13	24	32	21	332

5 排尿ケアチーム

(1) 人員構成

泌尿器科専門の医師、排尿障害患者を3年以上看護した経験を有する看護師、排尿障害患者のリハビリに従事した経験を有する理学療法士・作業療法士

(2) 業務内容

尿道カテーテル抜去後に、尿失禁、尿閉等の下部尿路機能障害の症状を有する患者や尿道カテーテル抜去後に下部尿路機能障害を生ずると見込まれる患者を対象に、入院中から退院後も継続して、排尿の自立に向けて多職種が連携して活動しています。

(3) 令和4年度の取組

・排尿ケアラウンド

排尿障害を有する患者さんや排尿障害が見込まれる患者さんに対して早い段階で介入を行うために、週一回排尿ケアラウンドを行います。病棟と連携してあらかじめ患者さんの排尿状態を把握することにより効率的な診療が可能になります。いままで12N、12S、13S病棟が対象でしたが、令和5年度からは10N病棟へ拡大する予定です。主科は主に脳神経外科であり、他に内科、皮膚科などが対象になっています。

・外来におけるフォローの継続

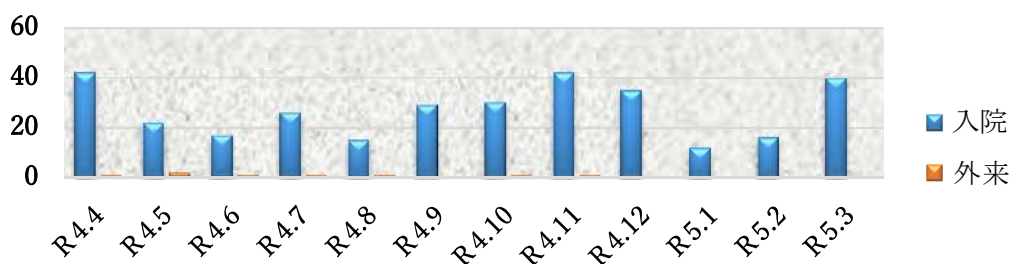
入院中に排尿ケアラウンド介入対象となった患者さんのうち、必要な患者さんに対して外来でのフォローの継続を行います。入院から自宅へと環境が変化することによってさまざまな不便を感じる患者さんは一定数存在し、排泄というデリケートな問題を周囲に相談することができずに独りで抱えてしまうことがあります。入院中だけでなく外来でも介入を継続することによってこのような問題の解決を図っています。

・病棟勉強会の開催

年二回を目安に病棟勉強会を開催しています。患者さんの排尿状態の把握や記録の方法、注意すべきポイントや排尿ケアラウンドへのコンサルテーションのタイミングなどの情報を共有します。

(4) 実績

令和4年度 排尿ラウンド症例数の推移



V 事 務 部 門 概 要

1 医事課

医事課長 酒井 俊明

令和4年度の診療稼働状況につきましては、決算上、入院診療稼働額は13,015,927千円で前年度比4.7%、外来診療稼働額は5,855,018千円で前年度比11.5%となりました。

また、患者数につきましても、入院患者が166,758人で前年度比3.1%、外来患者302,075人で前年度比4.6%となりました。

診療稼働額については、コロナ禍でも、昨年度に引き続き、手術を可能な限り実施してきたことや、コロナ患者の増減に合わせ、機動的な病床運用を実施したこと、また、積極的に外来化学療法を実施したことなどにより、入院・外来共に稼働額を増加することができました。

2 診 療 統 計

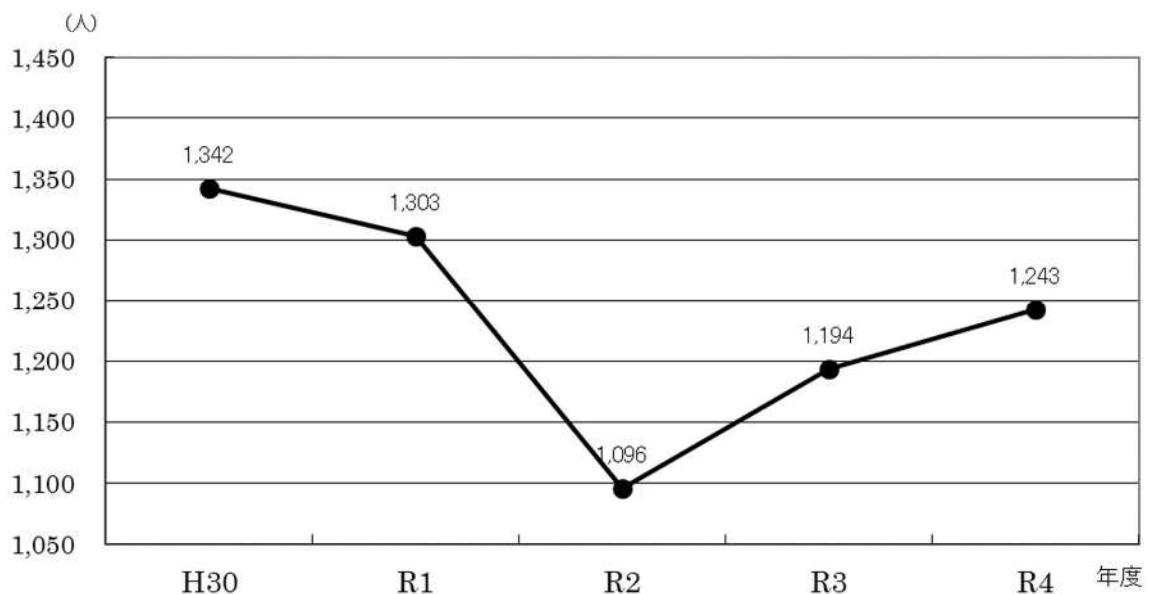
(1) 令和4年度外来患者状況

(R4.4~R5.3)

科 別	新 患	一日平均	再 来	一日平均	患者延数	一日平均	比 率 (%)	平均通院 日 数
内 科	9,828	40.4	101,260	416.7	111,088	457.2	36.8	11.3
精神・神経科	289	1.2	14,359	59.1	14,648	60.3	4.8	50.7
小 児 科	6,442	26.5	15,279	62.9	21,721	89.4	7.2	3.4
外 科	940	3.9	23,941	98.5	24,881	102.4	8.2	26.5
脳神経外科	390	1.6	3,889	16.0	4,279	17.6	1.4	11.0
整形外科	2,148	8.8	23,223	95.6	25,371	104.4	8.4	11.8
形成外科	459	1.9	2,950	12.1	3,409	14.0	1.1	7.4
心臓血管外科	15	0.1	1,644	6.8	1,659	6.8	0.5	110.6
皮 膚 科	1,026	4.2	12,310	50.7	13,336	54.9	4.4	13.0
泌尿器科	700	2.9	18,170	74.8	18,870	77.7	6.2	27.0
産婦人科	1,370	5.6	13,253	54.5	14,623	60.2	4.8	10.7
眼 科	414	1.7	8,495	35.0	8,909	36.7	2.9	21.5
耳鼻咽喉科	822	3.4	9,873	40.6	10,695	44.0	3.5	13.0
リハビリテーション科	14	0.1	4,659	19.2	4,673	19.2	1.5	333.8
放射線科	648	2.7	5,124	21.1	5,772	23.8	1.9	8.9
歯科口腔外科	2,354	9.7	10,748	44.2	13,102	53.9	4.3	5.6
救命救急センター	3,113	12.8	1,926	7.9	5,039	20.7	1.7	1.6
小 計	30,972	127.5	271,103	1,115.7	302,075	1,243.1	100.0	9.8

注：小数点以下の端数処理の関係で、合計が一致しない場合がある。

外来患者数（1日平均） 診療日数 243 日 平均通院日数 = $\frac{\text{患者延数}}{\text{新患者数}}$



(2) 令和3年度入院患者状況

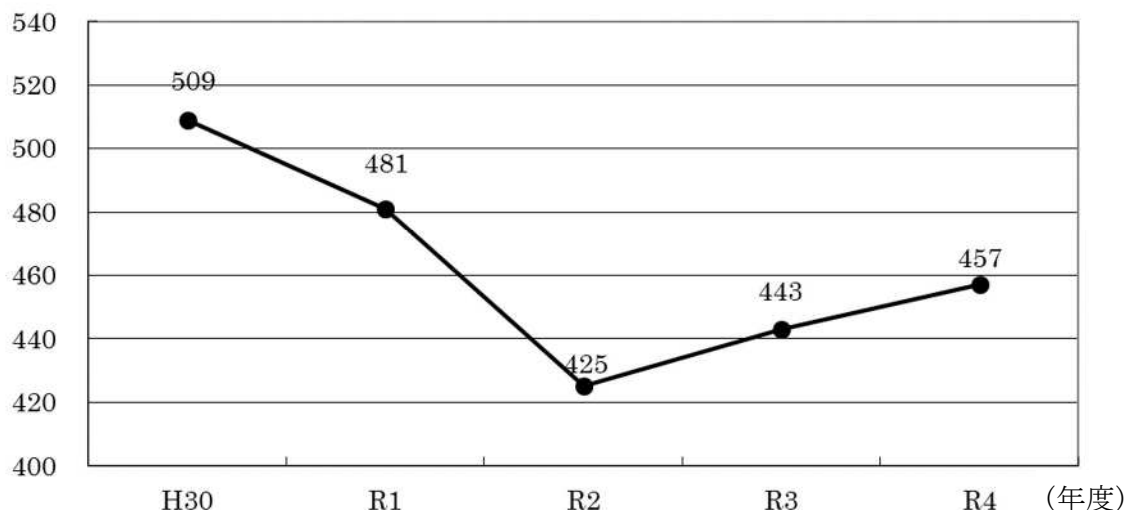
(R4.4~R5.3)

科 別	前年度 繰越	入 院	退 院	死亡 (再掲)	次年度 繰越	患者延数	一日平均
内 科	179	4,912	4,872	271	176	76,462	209.5
小 児 科	18	1,349	1,344	0	24	9,761	26.7
外 科	43	1,546	1,573	21	30	16,858	46.2
脳神経外科	14	352	370	9	14	7,966	21.8
整形外科	40	1,148	1,181	2	48	16,353	44.8
形成外科	1	116	125	1	1	1,202	3.3
心臓血管外科	2	58	63	0	2	963	2.6
皮 膚 科	8	172	179	1	5	2,552	7.0
泌 尿 器 科	14	919	917	7	22	6,380	17.5
産 婦 人 科	27	1,376	1,379	0	23	10,363	28.4
眼 科	1	179	179	0	0	865	2.4
耳鼻咽喉科	9	377	380	2	12	5,650	15.5
リハビリ科	0	0	0	0	0	0	0.0
放射線科	0	0	0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	2	97	97	0	3	730	2.0
救命救急センター	7	763	676	336	13	4,489	12.3
小 計	365	13,364	13,335	650	373	160,594	440.0
感 染 症		0	0	0		0	0.0
感染小児科		0	0	0		0	0.0
精 神 科	13	187	203	0	14	6,164	16.9
合 計	378	13,551	13,538	650	387	166,758	456.9

注：小数点以下の端数処理の関係で、合計が一致しない場合がある。

入院患者数（1日平均）

(人)



(3) 病棟の利用状況

病棟名	病床数		延病床数		入院患者 延数	前月 繰越患者	入院	転入
	公称	稼働	公称	稼働				
1 4 階 北	52	42	18,980	15,330	12,723	31	629	129
1 4 階 南	51	46	18,615	16,790	12,521	33	611	132
1 3 階 北	51	46	18,615	16,790	14,679	36	1,006	394
1 3 階 南	53	48	19,345	17,520	14,313	31	673	361
1 2 階 北	51	46	18,615	16,790	13,990	30	1,516	120
1 2 階 南	53	48	19,345	17,520	15,579	31	678	292
1 1 階 北	53	48	19,345	17,520	12,225	29	949	189
1 1 階 南	53	48	19,345	17,520	11,453	28	1,038	275
1 0 階 北	53	48	19,345	17,520	14,335	33	986	129
1 0 階 南	52	47	18,980	17,155	14,233	30	1,120	87
精 神	38	36	13,870	13,140	6,162	13	187	25
9 階 南	20	20	7,300	7,300	3,472	8	1,218	98
9 階 西 感 染	12	12	4,380	4,380	1,673	4	316	90
8 階 北	44	42	16,060	15,330	7,957	21	1,087	14
8 階 南	41	41	14,965	14,965	6,570	8	1,196	13
G C U	18	18	6,570	6,570	1,780	5	82	143
N I C U	6	6	2,190	2,190	1,779	4	144	2
I C U・C C U	12	8	4,380	2,920	1,314	3	115	677
合 計	713	650	260,245	237,250	166,758	378	13,551	3,170
新 生 児					3,988	9	722	0

(稼働日数 365 日)

病棟名	病床数		延病床数		入院患者 延数	前月 繰越患者	入院	転入
	公称	稼働	公称	稼働				
一般	663	602	241,995	219,730	158,923	361	13,048	3,055
感染症	12	12	4,380	4,380	1,673	4	316	90
精神	38	36	13,870	13,140	6,162	13	187	25
合計	713	650	260,245	237,250	166,758	378	13,551	3,170
新生児	0	0	0	0	3,988	9	722	0

(稼働日数 365 日)

注：小数点以下の端数処理の関係で、合計が一致しない場合がある。

稼働病床数については、稼働延病床数を稼働日数で除した数とする。

(R4. 4. 1~R5. 3. 31)

退 院	転 出	期 末 患者数	一日平均	病床利用率(%)		平均在院 日 数	死 亡	健全化用 平均在院日数
				公称	稼働			
703	57	29	34.9	67.0	83.0	19.1	50	18.0
717	30	29	34.3	67.3	74.6	18.9	38	17.8
1,157	243	36	40.2	78.9	87.4	13.6	55	12.5
861	171	33	39.2	74.0	81.7	18.7	56	17.5
1,530	103	32	38.3	75.2	83.3	9.2	15	8.2
816	149	36	42.7	80.5	88.9	20.9	26	19.8
1,020	120	27	33.5	63.2	69.8	12.4	25	11.4
1,061	255	25	31.4	59.2	65.4	10.9	25	9.9
1,070	45	33	39.3	74.1	81.8	13.9	5	12.9
1,160	44	33	39.0	75.0	83.0	12.5	12	11.5
203	8	14	16.9	44.4	46.9	31.6	0	30.6
556	756	11	9.5	47.6	47.6	3.9	346	3.3
157	252	1	4.6	38.2	38.2	7.1	5	6.4
1,088	12	20	21.8	49.5	51.9	7.3	0	6.3
1,181	18	18	18.0	43.9	43.9	5.5	0	4.5
228	0	2	4.9	27.1	27.1	11.0	0	10.0
12	132	6	4.9	81.2	81.2	22.8	0	22.7
18	775	2	3.6	30.0	45.0	19.8	20	19.5
13,538	3,170	387	456.9	64.1	70.3	12.3	678	11.3
722	0	12	10.9			5.5	0.0	4.5

退 院	転 出	期 末 患者数	一日平均	病床利用率(%)		平均在院 日 数	死 亡	健全化用 平均在院日数
				公称	稼働			
13,178	2,910	372	435.4	65.7	72.3	12.1	673	11.1
157	252	1	5	38.2	38.2	7.1	5	0.0
203	8	14	16.9	44.4	46.9	31.6	0	30.6
13,538	3,170	387	456.9	64.1	70.3	12.3	678	11.3
722	0	12	10.9			5.5	0	4.5

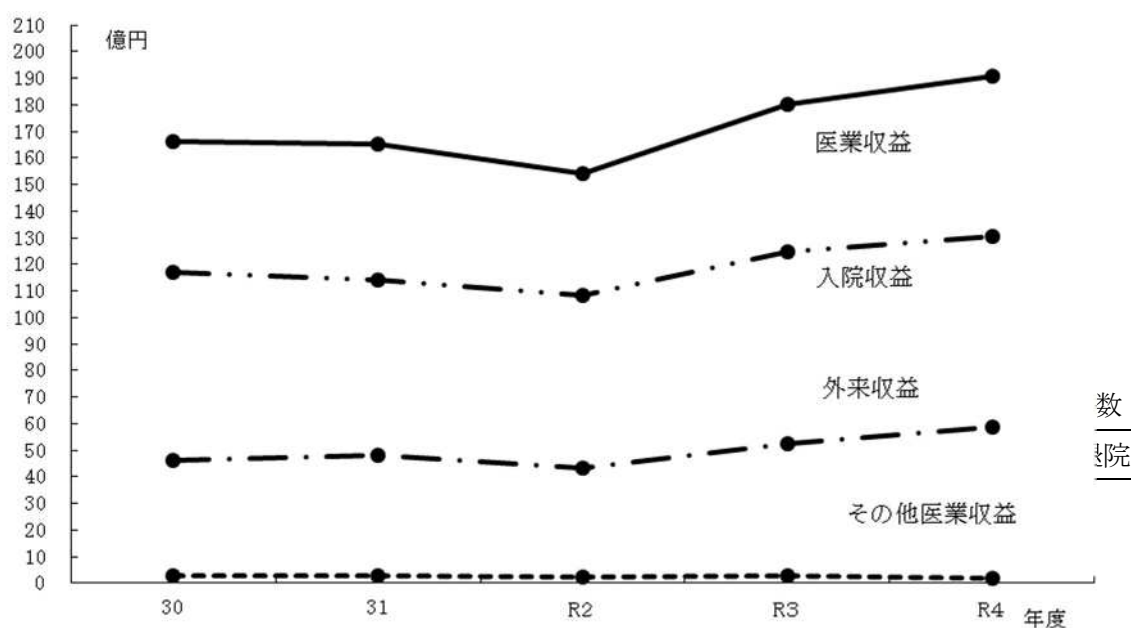
(4) 科別収益状況

科別の収益状況は、令和3年度の医業収益に対し、令和4年度の医業収益は、外来収益が11.5%の増収、入院収益は4.5%の増収で、その他医業収益は31.9%の減収となりました。医業収益全体では、率で6%、額で約10億8千万円の増収となりました。

(R4.4~R5.3) (単位：千円)

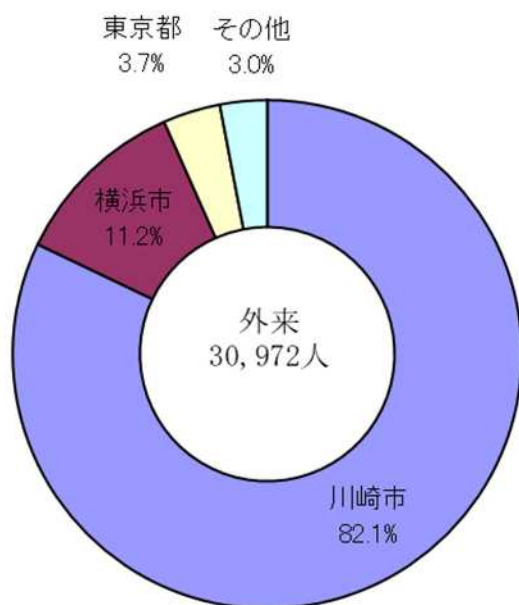
科 別	外 来		入 院		そ の 他 医業収益額	合 計	
	収益額	構成比率 (%)	収益額	構成比 率 (%)		収益額	構成比率 (%)
内 科	3,242,756	55.3	5,251,768	40.3		8,494,524	44.5
精 神 科	111,415	1.9	182,444	1.4		293,859	1.5
小 児 科	316,652	5.4	677,648	5.2		994,300	5.2
外 科	451,523	7.7	1,720,182	13.2		2,171,705	11.4
脳 神 経 外 科	64,503	1.1	807,964	6.2		872,467	4.6
整 形 外 科	193,510	3.3	1,628,960	12.5		1,822,470	9.6
形 成 外 科	23,456	0.4	91,222	0.7		114,678	0.6
心 臓 血 管 外 科	11,728	0.2	156,380	1.2		168,108	0.9
皮 膚 科	187,646	3.2	143,348	1.1		330,994	1.7
泌 尿 器 科	363,564	6.2	573,394	4.4		936,958	4.9
産 婦 人 科	199,374	3.4	847,059	6.5		1,046,433	5.5
眼 科	146,598	2.5	91,222	0.7		237,820	1.2
耳 鼻 咽 喉 科	199,374	3.4	377,919	2.9		577,293	3.0
リハビリテーション科	29,319	0.5	0	0.0		29,319	0.2
放 射 線 科	152,462	2.6	0	0.0		152,462	0.8
歯 科 ・ 口 腔 外 科	87,959	1.5	52,127	0.4		140,086	0.7
救 命 救 急 セ ン タ ー	82,095	1.4	430,046	3.3		512,141	2.7
感 染 症	-	-	-	-		-	-
そ の 他 医 業 収 益	-	-	-	-	183,469	183,469	1.0
合 計	5,863,934	100.0	13,031,683	100.0	183,469	19,079,086	100.0

年度別収益グラフ



(5) 地区別新患外来・入院患者数

	区名	患者総数 (人)		構成比率 (%)		患者数及び比率	
		外 来	入 院	外 来	入 院	外 来	入 院
川 崎 市	川崎区	17,187	7,391	55.5%	54.5%	25,431	11,087
	幸区	5,937	2,639	19.2%	19.5%		
	中原区	1,418	568	4.6%	4.2%		
	高津区	499	274	1.6%	2.0%		
	宮前区	217	122	0.7%	0.9%		
	多摩区	127	69	0.4%	0.5%		
	麻生区	46	24	0.1%	0.2%		
市 外	横浜市	3,484	1,637	11.2%	12.1%	5,541	2,464
	東京都	1,131	527	3.7%	3.9%	17.9%	18.2%
	その他	926	300	3.0%	2.2%		
合計		30,972	13,551	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



(6) 救急患者取扱状況

ア 月別取扱状況

(R4. 4～R5. 3) (単位：人又は台)

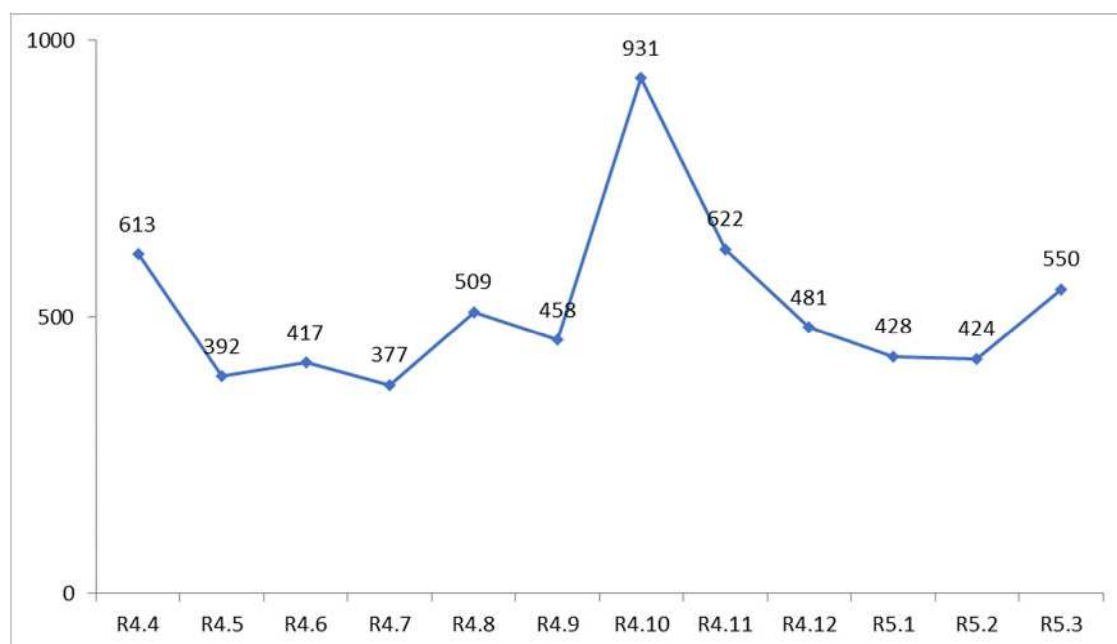
区分	交通事故	一般負傷	自損行為	急病	分娩	その他	合計	来院方法別患者数			計 合
								救急車	パトカー	その他	
4月	14	126	2	1,029	24	43	1,238	404	2	832	1,238
5月	18	156	2	1,205	20	71	1,472	397	1	1,074	1,472
6月	15	108	2	1,058	17	80	1,280	397	1	882	1,280
7月	17	86	3	1,748	17	51	1,922	542	0	1,380	1,922
8月	16	62	3	1,312	13	67	1,473	477	1	995	1,473
9月	21	127	3	1,048	15	61	1,275	380	3	892	1,275
10月	17	91	2	1,015	20	67	1,212	422	4	786	1,212
11月	18	75	3	1,034	15	65	1,210	395	1	814	1,210
12月	16	98	3	1,390	15	55	1,577	502	1	1,074	1,577
1月	9	79	4	1,468	18	93	1,671	456	3	1,212	1,671
2月	18	76	2	870	11	67	1,044	341	1	702	1,044
3月	20	87	3	958	26	59	1,153	362	3	788	1,153
計	199	1,171	32	14,135	211	779	16,527	5,075	21	11,431	16,527
構成比率(%)	1.2	7.1	0.2	85.5	1.3	4.7	100.0	30.7	0.1	69.2	100.0

イ 科別取扱状況

(R4. 4～R5. 3) (単位：人)

区分	科別	内科	神経	小児	外科	脳外	整形	形成	心外	皮膚	泌尿	産婦人科	眼科	耳鼻	リハビリ	放射	口外	救命救急	計
外来	患者数	3,44	10	5,57	68	58	473	78	0	124	123	76	22	169	12	45	312	3,22	13,81
	構成比率(%)	24.9	0.1	40.4	0.5	0.4	3.4	0.6	0.0	0.9	0.9	0.6	0.2	1.2	0.1	0.3	2.3	23.3	100.0
入院	患者数	1,28	21	356	169	43	58	1	1	11	16	332	0	14	0	0	2	400	2,711
	構成比率(%)	47.5	0.8	13.1	6.2	1.6	2.1	0.0	0.0	0.4	0.6	12.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.1	14.8	100.0
計	患者数	4,73	31	5,93	237	101	531	79	1	135	139	408	22	183	12	45	314	3,62	16,52
	構成比率(%)	28.6	0.2	35.9	1.4	0.6	3.2	0.5	0.0	0.8	0.8	2.5	0.1	1.1	0.1	0.3	1.9	21.9	100.0

ウ 令和4年度小児急病センター患者受入状況



3 手術統計

ア 外科

術式	件数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
食道癌手術	5	5	18
食道裂孔ヘルニア手術	2	2	3
特発性食道破裂手術	0	0	1
胃全摘術	12	5	5
幽門側胃切除術	24	24	26
局所切除術	4	5	6
バイパス術	1	3	7
広範囲胃切除術	0	0	1
グラハム術	6	6	7
胃単純縫合術	1	0	0
合計	55	50	74
右側結腸手術	45	44	51
左側結腸手術	35	42	26
直腸手術	35	23	33
ハルトマン術	8	9	13
人工肛門造設術	17	21	24
人工肛門閉鎖術	9	16	22
肛門手術（痔核その他）	18	34	44
合計	167	189	213
肝切除術	31	28	25
胆嚢摘出術	111	128	112
膵頭十二指腸切除術	15	13	16
尾側膵切除術	8	7	10
その他	10	10	12
合計	175	186	175
乳癌手術	52	65	65
Bt	36	55	48
Bp	15	10	17
乳房温存率	29	15	26
SN生検施行率	82	77	71
良性疾患	4	10	7
合計	56	75	72
動脈瘤	37	40	56
末梢性動脈疾患	100	107	104
急性動脈閉塞症	32	35	26
下肢静脈瘤	49	27	20
内シャント関連	179	167	182
その他	16	131	127
合計	413	507	515

平成28年度より、術式の項目を変更。

イ 呼吸器外科

分 類	術 式	件 数		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
肺 癌	肺全摘出	1	0	1
	肺葉切除	4	6	7
	肺区域・部分切除	4	2	3
	胸腔鏡下肺葉切除	44	39	49
	胸腔鏡下肺区域・部分切除	14	19	23
	気管支形成術を伴う肺葉切除・肺全摘	1	1	4
	試験開胸術	0	1	2
転 移 性 肺 腫 瘍	肺全摘出	0	0	0
	肺葉切除	2	3	0
	肺区域・部分切除	1	1	1
	胸腔鏡下肺葉切除	0	1	1
	胸腔鏡下葉切除・肺区域・部分切除	9	7	8
肺（その他悪性）	胸腔鏡下肺区域・部分切除	5	2	4
肺（良 性）	肺全摘出	0	0	0
	肺葉切除	3	2	0
	肺区域・部分切除	0	0	0
	胸腔鏡下肺葉切除	0	0	1
	胸腔鏡下肺区域・部分切除	6	4	3
気胸・嚢胞性肺疾患	肺部分切除・肺縫縮術等	2	1	1
	胸腔鏡下肺部分切除・肺縫縮術等	9	18	19
縦 隔 腫 瘍	胸腺摘出術	4	6	4
	腫瘍摘出術	1	5	6
重症筋無力症	拡大胸腺摘出術	0	0	0
縦 隔（その他）	腫瘍・リンパ節生検	3	2	1
	リンパ節摘出	0	0	1
	交感神経節切除	0	0	0
胸 膜（悪 性）	胸膜肺全摘	0	0	0
	生検	0	3	0
胸 膜（良 性）	腫瘍摘出術	0	0	1
	生検	5	6	4
	開窓術	0	0	0
	膿胸腔搔把・筋弁充填・剥皮術	0	2	4
胸 外 其 他	腫瘍摘出術等	2	1	3
	肺葉切除等	0	1	0
		7	15	12
計		127	148	163

ウ 内視鏡センター利用状況

分 類	件 数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
上部消化管内視鏡	4,590	4,342	4,276
超音波内視鏡	5	9	1
食道・胃粘膜切除術	36	32	21
（食道粘膜切除術）	10(ESD 10)	7 (ESD 7)	6(ESD 6)
（胃粘膜切除術）	26(ESD 26)	24 (ESD 24)	15(ESD 15)
中・下咽頭粘膜切除術	0	0	0
上部消化管静脈瘤治療	35	26	23
（EVL）	(35)	(22)	(23)
（EIS）	(0)	(1)	(0)
胃静脈瘤硬化療法（SOS）	0	0	0
狭窄拡張術	54	35	24
止血術	98	85	58
人工食道挿入	0	0	0
胃ろう造設（PTEG）	48	35	83
イレウス管挿入	2	1	0
異物除去	18	21	16
下部消化管内視鏡	1,846	1,911	1,948
大腸粘膜切除術	250(ESD7)	260 (ESD 7)	281(ESD 1)
大腸ポリペクトミー	161	181	201
吻合部拡張術	8	7	4
止血術	25	19	12
カプセル内視鏡	13	19	20
気管支鏡	198	278	138
経気管支肺生検	0	0	205
膵・胆道内視鏡	310	339	355
逆行性膵・胆管造影	191	206	215
超音波内視鏡	119	133	140
EUS-FNA	(25)	22	27
乳頭括約筋切開術	73	75	59
乳頭バルーン拡張術	24	16	16
胆管結石採石・砕石術	74	71	62
経鼻胆道ドレナージ術	64	73	50
胆管ステント挿入術	44	54	63
膵管ステント挿入術	13	9	6
乳頭切除術	0	2	0
細胞診	0	0	0
組織診	0	0	0
計	6,957	6,898	6,962

エ 脳神経外科

分類	病名及び術式	件数		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
腫瘍	メニンジオーマ	7	12	26
	グリオーマ	9	5	2
	転移性脳腫瘍	18	10	28
	頭蓋咽頭腫	0	0	0
	下垂体腫瘍	2	5	2
	その他の腫瘍	1	1	15
血管疾患	脳動脈瘤（直達手術のみ）	8	13	20
	高血圧性脳出血	13	17	26
	脳動静脈奇形（直達手術のみ）	1	2	1
	血管内手術・出血性疾患（脳動脈瘤・動静脈奇形）	9	15	12
	血管内手術・閉塞性疾患（ステント・血栓除去など）	6	29	47
	その他（水頭症など）	12	38	22
外傷	慢性硬膜下血腫（水腫）	30	27	41
	急性硬膜下血腫	6	1	12
	急性硬膜外血腫	2	1	3
	陥没骨折	0	0	0
	骨弁形成術・減圧開頭術	0	1	2
	その他（水頭症など）	0	11	7
水頭症	癌性髄膜炎・正常圧水頭症など	21	32	31
	髄膜瘤など	0	0	0
奇形	その他	28	70	30
その他				
計		173	258	327

オ 整形外科

術 式	件 数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
脊柱、脊髄、頸椎、前方	13	16	18
〃、後方	53	36	35
胸椎、前方	0	2	0
〃、後方	14	11	29
腰椎、前方	15	24	31
〃、後方	167	161	159
腱、神経	57	33	75
骨折	365	317	339
骨折以外の外傷	14	54	39
抜釘	93	65	91
手の手術	72	108	94
先天性奇形	4	3	3
骨軟部腫瘍	20	16	21
関節鏡 手	16	16	32
肘	1	4	4
肩	51	82	55
膝	15	55	30
股	2	1	1
人工股関節	58	74	88
人工膝関節	64	56	51
人工肩関節	15	23	15
その他の人工関節(肘、指、足)	3	2	9
上肢切断術(指含む)	3	4	1
下肢切断術(踵含む)	20	18	12
その他	24	24	60
計	1,156	1,205	1,292

カ 形成外科

分 類	件 数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
I. 外傷	93	85	169
II. 先天異常	14	17	1
III. 腫瘍	185	148	243
IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	15	17	24
V. 難治性潰瘍	14	19	72
VI. 炎症・変性疾患	11	26	31
VII. 美容（レーザー）	12	12	16
VIII. その他	14	18	25
計	358	342	581

キ 心臓血管外科

分 類	病 名	術 式	件 数		
			令和2年度	令和3年度	令和4年度
心大血管	大動脈	人工血管置換術 他 開心術	3	2	9
	●胸部、胸腹部				
	先天性心疾患	人工弁置換術、弁形成術 冠動脈バイパス術 他 メイズ手術（単独）	2	2	9
	●弁 膜 症				
	●冠動脈疾患				
	●心房細動				
	●そ の 他	ペースメーカー移植 心カテアングジオ検査 その他	} 20	} 19	} 29
心外傷					
その他					
計			26	23	53

ク 皮膚科

術 式	件 数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
皮膚生検	156	206	246
皮膚良性腫瘍摘出	161	172	187
皮膚悪性腫瘍摘出	47	54	41
計	364	432	474

ケ 泌尿器科

術 式	件 数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
後腹膜腫瘍摘出	0	1	1
腹腔鏡下副腎摘除術（部分切除を含む）	3	3	5
副腎全摘除術	1	0	1
腎摘除術（良性）	0	0	0
根治的腎摘除術（悪性）	0	0	0
腎部分切除術	0	0	1
腹腔鏡下腎摘除術	11	17	15
腹腔鏡下腎部分切除術	0	0	0
ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術	16	17	15
腎尿管全摘除術	0	0	1
腹腔鏡下腎尿管全摘除術	13	14	15
腎盂形成術	0	0	0
腹腔鏡下腎盂形成術	0	2	0
ロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術		1	1
腎瘻造設術	17	10	24
P N L	7	7	9
腎盂切石	0	0	0
膀胱切石術	0	0	0
膀胱全摘除術（骨盤内蔵全摘を含む）	1	1	0
腹腔鏡下膀胱全摘除術	7	12	8
ロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘除術	-	-	12
回腸導管造設術（膀胱全摘を伴うもの）	7	12	15
回腸導管造設術（膀胱全摘を伴わないもの）	0	1	1
代用膀胱造設術	1	0	2
尿管皮膚瘻造設術	0	1	3
経尿道的手術			
a) 膀胱結石、異物	17	13	22
b) T U R B T	93	118	115
c) T U R P (TUEB, HoLEPを含む)	25	51	53
d) T U L	63	101	96
e) 経尿道の尿管狭窄拡張術	4	3	3
f) 内尿道切開切開術	8	8	7
g) 尿道狭窄拡張術	2	6	4
膀胱尿管新吻合	2	2	0
尿管尿管吻合	0	1	0
膀胱修復術	2	1	2
包茎手術（環状切開）	3	3	2
精巣修復術	0	0	2
精巣摘出術	4	6	12
高位精巣摘除術	5	3	3

術式	件数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
精巣固定術（停留精巣）	0	0	1
精巣（睾丸）捻転手術	2	3	2
陰嚢水腫根治手術（精索水腫、精液嚢含む）	4	9	5
精索静脈瘤切除術（腹腔鏡含む）	0	1	1
尿膜管嚢胞切除術	1	0	0
前立腺摘除術	0	0	0
腹腔鏡鏡下前立腺摘除術	0	0	0
ロボット支援腹腔鏡下前立腺摘除術	65	43	44
前立腺針生検術	141	151	165
陰茎全摘除術	0	0	0
陰茎部分切除術	0	1	1
陰茎癌鼠径リンパ節廓清術	0	0	0
陰茎折症	1	0	0
E SWL	24	18	29
腎生検	4	3	1
尿管ステント留置	106	110	102
経皮的腎嚢胞縮小術	0	0	0
CVポート	11	6	6
膀胱瘻造設術	1	6	3
R P	31	27	30
膀胱部分切除術（腹腔鏡含む）	0	4	2
腹腔鏡下尿膜管切除術	2	3	1
腹腔鏡下腎嚢胞開窓術	0	0	1
腹腔鏡下試験開腹術	0	0	2
フルニエ手術	1	1	0
膀胱腔瘻閉鎖術	0	0	0
カルンクラ切除術	0	2	1
小腸利用代用尿管手術（腹腔鏡含む）	0	0	0
経尿道的電気凝固止血術	3	12	6
経尿道的尿管瘤切除術	0	0	1
尿道形成術	0	0	1
人口尿道括約筋埋込術	-	3	2
計	709	818	857

コ 産科・婦人科

術 式	件 数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
内視鏡手術 合計	287	365	390
腹腔鏡手術 合計	161	187	207
腔式子宮全摘術	54	71	62
子宮筋腫核出術	27	31	30
付属器切除術	13	23	27
卵巣腫瘍摘出術	52	54	67
卵管開口術	0	0	0
子宮外妊娠手術	9	5	12
その他	3	3	9
子宮鏡手術 合計	126	178	183
粘膜下筋腫摘出術	97	108	100
その他	29	70	83
婦人科開腹手術 合計	141	112	96
良性疾患手術 合計	102	56	49
腹式単純子宮全摘術	80	38	37
腔上部切断術	0	0	0
子宮筋腫核出術	16	8	6
付属器切除術	5	6	5
卵巣腫瘍摘出術	1	3	0
子宮外妊娠手術（開腹）	0	1	1
その他良性腫瘍手術	0	0	0
悪性腫瘍手術 合計	42	56	47
子宮悪性腫瘍手術	20	14	16
子宮悪性腫瘍手術（腹腔鏡）	3	4	7
拡大子宮全摘術	0	1	2
広汎子宮全摘術	0	1	0
子宮付属器悪性腫瘍手術	16	12	13
試験開腹	3	1	3
その他悪性腫瘍手術	0	23	6
産科手術 合計	251	284	218
帝王切開術	241	272	210
妊娠子宮摘出術	0	1	0
頸管縫縮術	3	3	1
卵管結紮術	7	7	7
その他産科手術	0	1	0
腔式手術 合計	77	67	91
子宮全摘＋腔壁形成	1	0	1
腔壁形成術	1	1	10
腔閉鎖術	0	0	0
子宮腔部円錐切除術	53	53	53
バルトリン腺手術	0	1	0
その他腔式手術	22	12	27
子宮内容除去手術 合計	43	37	45
流産手術	22	17	24
胞状奇胎除去術	3	1	2
人工妊娠中絶術	1	3	3
全面搔爬術	17	16	16
計	799	865	840

サ 眼科

術 式	件 数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
白内障	334	311	352
硝子体手術	81	98	111
緑内障	0	0	0
網膜剥離（強膜バックリング）	2	0	2
斜 視	2	2	0
眼瞼腫瘍	1	1	0
眼瞼内反、眼瞼外反	2	2	0
眼球破裂	0	1	0
眼内異物	1	3	3
翼状片	2	1	3
霞粒腫	1	1	0
黄斑下血腫移動術	1	2	0
眼内レンズ整復	0	0	0
結膜弛緩症	0	1	2
眼内レンズ縫着術・強膜内固定術	13	7	17
眼窩脂肪ヘルニア	0	1	1
眼瞼下垂	2	2	0
その他	0	0	5
硝子体注射	280	252	265
光凝固術			
網 膜	61	75	54
緑内障	0	2	2
後発白内障	40	46	57
光線力学療法	11	28	22
計	816	836	896

シ 耳鼻咽喉科

分類	病名	術式	件数			
			令和2年度	令和3年度	令和4年度	
耳	慢性中耳炎	鼓室形成	8側	8側	7側	
		乳突削開術	8側	6側	4側	
		鼓膜形成	0側	0		
	滲出性中耳炎	鼓室内チューブ留置	10側	21側	12側	
		先天性耳瘦孔	瘦孔摘出	0側	3側	1側
外耳道その他		0	2	1		
鼻	良性腫瘍	腫瘍摘出	0	0		
	慢性副鼻腔炎	内視鏡下副鼻腔手術	16側	39側	39側	
	頬部嚢腫	上顎洞根本術	0	5		
	鼻中隔彎曲症	鼻中隔矯正術	6	6	15	
	肥厚性鼻炎	下甲介切除術	2側	6側	21側	
	上顎骨鼻骨骨折	整復	0	0		
	鼻茸その他		2	2		
	鼻副鼻腔悪性腫瘍		3	2	3	
	咽頭	アデノイド増殖	アデ切除	4	5	8
		慢性扁桃炎	扁桃摘出	24側	27側	54側
喉頭	咽頭良性腫瘍	摘出・切除	0	1	5	
	声帯ポリープ、他	ラリngoマイクロ	9側	14側	10側	
舌・ 口腔	悪性腫瘍	ラリngoマイクロ	11	12	19	
		良性腫瘍・チステ	他摘出・切除	0	1	5
顎頸部	唾液腺手術	良性手術摘出	23	14	13	
			(顎下腺10、耳下腺13)	(顎下腺1、耳下腺12)	(耳下腺13)	
		悪性手術摘出	0	3	2	
	甲状腺手術	良性手術摘出	10	13	6	
		悪性手術摘出	10	6	18	
	頸部のう胞他	良性	0	3	3	
	リンパ節	摘出	23	39	24	
	気管切開		28	38	36	
	頭頸部悪性	舌・口腔	悪性手術摘出	14	13	17
		咽頭	悪性手術摘出	10	9	19
喉頭		悪性手術摘出	6	7	10	
その他		頸部郭清	38	23	39側	
		皮弁形成	7	0		
			8			
計			280	356	391	

ス 歯科口腔外科

術式	件数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
〈入院手術症例〉			
上下顎骨形成術	5	12	10
顎顔面多発骨折観血的整復固定術		1	1
下顎骨骨折観血的整復固定術	3	5	4
頬骨骨折観血的整復固定術			
固定金属板除去術	4	4	9
唇顎口蓋裂手術			
顎骨嚢胞摘出術	32	35	27
顎骨骨髓炎手術		3	5
上顎洞根本術			
上顎洞口腔瘻閉鎖術	1		
唾石摘出術			
腫瘍摘出術	13	2	13
顎骨腫瘍摘出術	3		3
口腔・顎・悪性腫瘍切除術	4	2	2
顎骨・顔面再建術	3	2	2
下顎・口蓋隆起形成術	7	5	5
埋伏歯抜歯術	13	17	29
顎関節脱臼観血手術			
顎関節授動術（開放）	1		
歯根端切除術	13	12	11
インプラント関連手術			
心身障害児歯科治療	1	1	3
その他			6
〈外来手術症例〉			
埋伏歯抜歯術	760	1,127	1,056
抜歯術	848	1,079	1,330
嚢胞摘出術	72	97	89
歯根端切除術	40	58	51
縫合術	5	19	14
腫瘍摘出術	35	29	37
矯正用インプラント埋入術	11	37	36
インプラント埋入術	7	13	13
インプラント骨移植術	2	5	3
インプラント関連手術	13	16	21
その他	192	215	224
計	2,088	2,796	3,004

4 分娩統計

術 式	件 数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
単胎分娩	701	745	650
双胎分娩	14	21	13
経膈分娩	484	496	453
帝王切開分娩	231	271	210
帝王切開率	32.3%	35.3%	31.7%
早産分娩	67	89	69
正期産分娩	661	678	594
過期産分娩	0	0	0
早産率	9.2%	12.0%	10.4%
吸引分娩	67	73	70
鉗子分娩	0	0	0
骨盤位分娩	1	0	0
V B A C	0	0	0
予定帝王切開	133	134	105
緊急帝王切開	98	138	105
緊急帝王切開率	13.7%	18.0%	15.8%
母体搬送依頼（出）	8	5	5
母体搬送応需（入）	20	37	38
院外分娩	1	0	3
分娩時平均年齢	31.4歳	31.6歳	32.1歳
初産	368	401	354
経産	347	366	309
男児	374	422	335
女児	350	367	341
川崎区	376	421	359
幸区	183	166	145
中原区	28	23	27
川崎市	604	631	549
鶴見区	54	62	55
横浜市	67	81	64
大田区	17	25	20
東京都	27	38	29
川崎市民の割合	84.5%	82.3%	82.8%
分 娩 件 数	715	767	663
分 娩 総 数	729	789	676

5 クリニカルパス使用件数

病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
14N	7	6	5	1	6	6	14	12	5	2	5	9	78
14S	5	2	6	5	5	5	2	8	8	3	4	3	56
13N	36	39	33	31	47	48	36	28	35	40	38	28	439
13S	21	15	13	8	10	10	17	21	13	13	18	19	178
12N	84	83	82	79	77	81	74	78	77	84	98	84	981
12S	22	15	20	18	22	12	18	19	14	19	11	14	204
11N	31	43	33	39	40	42	41	43	41	44	39	23	459
11S	24	33	36	29	28	34	37	24	31	32	28	30	366
10N	65	49	58	54	53	57	54	57	37	54	51	56	645
10S	51	54	64	70	62	62	70	66	59	60	66	57	741
9N	5	0	6	7	9	5	4	7	4	5	5	3	60
9S	7	7	5	4	8	3	10	5	2	11	5	5	72
9W	3	0	0	7	5	0	9	2	2	1	8	2	39
8N	75	75	88	82	76	77	86	86	88	96	78	89	996
8S	23	20	27	13	31	25	27	20	17	17	24	21	265
8W	8	5	10	4	6	3	8	16	10	3	7	9	89
ICU	0	1	1	0	2	1	0	0	2	1	0	0	8
OPE	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	467	447	487	451	487	471	507	492	445	485	485	452	5,676

6 外来治療センター利用状況

令和4年度治療患者数

月別 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
大腸	61	55	75	76	66	73	62	70	64	53	63	67	785
胃・食道	17	19	21	15	19	16	13	20	19	17	17	21	214
肝胆膵	31	32	31	39	27	35	27	27	38	43	44	51	425
乳腺	5	8	12	8	13	9	12	6	20	23	24	27	167
呼吸器	83	73	92	70	98	82	77	86	63	80	79	103	986
造血器	146	136	139	106	119	130	131	149	129	146	150	171	1652
婦人科	9	7	13	8	11	13	12	11	13	8	8	15	128
脳神経	11	14	10	9	11	10	9	10	11	11	10	2	118
泌尿器	18	22	23	24	18	22	27	37	28	34	38	56	347
頭頸部	23	28	23	25	26	19	17	15	28	30	25	20	279
その他	51	50	46	46	40	35	39	39	6	6	5	12	375
膠原病	55	48	52	50	51	52	46	48	57	50	52	62	623
炎症性腸疾患	8	7	9	6	7	9	5	9	6	7	6	9	88
施行数	518	499	546	482	506	505	477	527	482	508	521	616	6187
診療日数	20	19	22	20	22	21	20	20	20	19	19	22	244
1日平均	25.9	26.3	24.8	24.1	23.0	24.0	23.9	26.4	24.1	26.7	27.4	28.0	25.4

7 主要医療器械・備品

所属別	品名	規格	数量	備考
手術室	弁手術用開胸器システム	St. Jude Medical KS-7002 他	1式	
〃	婦人科用腹腔鏡システム	オリンパス UHI-3 他	1式	
〃	膝関節鏡システム	0988-010-000-S2 他	1式	
〃	脳神経外科内視鏡セット	オリンパス工業 光学視管 (A7500A) 他	1式	
〃	尿管鏡	原田産業 M3 テレスコープ 他	1式	
〃	頭部固定装置 (バデーハローリトラクター)		1式	
〃	電気手術装置システム	エルベ VI0300D	1	
〃	電気手術装置	アムコ VI0300D	1式	
〃	4Kカメラシステム	日本ストライカー 1688 AIM	1式	
〃	Cアーム	シーメンス	1式	
〃	創外固定器システム		1	
〃	セントラルモニタ	日本光電 PU-621R	1式	
〃	ベッドサイドモニタ	日本光電 CU-191R	1式	
〃	ベッドサイドモニタ	日本光電 CU-172R	9式	
〃	自己血回収システム	セルセーバー 5 CS-2005	1式	
〃	耳鼻科用ドリルシステム	ジンマー オステオンドリルシステム 5038-001	1式	
〃	耳鼻科内視鏡システム	カールストルツ IMAGE1	1式	
〃	子宮鏡セット	オリンパスヒステロスコープHYF-XP他	1式	
〃	結石破碎装置	コントロールユニット840-100 他	1	
〃	経皮的循環補助システム	テルモ キャピオックスEBS	1式	
〃	手術用無菌水手洗装置	MRE-SR-3型, 2型	1	
〃	関節鏡システム	オリンパス	1式	
〃	患者監視装置	日本コーリン BP-508N	2	
〃	外科用X線テレビ装置	日立メディコ Sirius Floating/C	1式	
〃	マイダレックスモーターシステム	ムラナカ	1式	
〃	下肢静脈瘤治療用ダイオードレーザー	インテグラル ELVeSレーザ-1470	1式	
〃	ナビゲーターGPSシステム	タイコヘルスケア 097010 他	1式	
〃	手術用顕微鏡	カールツァイス TIVAT0700	1式	
〃	ドリルシステム	日本メドトロニック マイダスレックス・ハイスピードドリル・レジェンド・システム	1式	
〃	鏡視下脊椎手術セット	メドトロニック ME TR x システム	1式	
〃	腹腔鏡用カメラシステム	オリンパス VISERAProシステム	1	

◎印は令和4年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
手術室	CT定位脳手術装置	駒井式	1	
〃	電気手術装置	バリーラブ ForceTriad	3	
〃	超音波血流計	Medi-Stim社 トランジットタイム血流計VQ4122	1	
〃	耳鼻科用シェーバー/ドリルシステム	メドトロ・ソファモアダネック XPS3000	1	
〃	喉頭観察鏡システム	オリンパス PortaView-LF	1	
〃	マイクロサージェリー手術台	瑞穂医科 最低位41cm以下	1	
〃	皮膚灌流圧測定器	カネカメディックス PAD3000	1	
〃	周術期患者情報システム	オムロンコーリン	1式	
〃	外科用手術顕微鏡システム	ライカ他M525-MS3/MKC-507	1式	
〃	電動マイクロドリル	ストライカーコアシステム	1	
〃	ラジオフリークエンシーシステム	スミスアンドネフュー他ValcanEASSystem他	1式	
〃	外科用X線TV装置	東芝メディカルシステムズ	1	
〃	生体情報モニタ	オムロンコーリンソーラー8000i	1式	
〃	処置用ビデオスコープ	オリンパス ENF-VT2	1	
〃	腎盂/上下尿路観察鏡セット	オリンパス URF-V他	1式	
〃	整形外科用ドリルシステム	ストライカー コードレスドライバー3	1	
〃	関節鏡カメラシステム	スミス・アンド・ネフュー 560シリーズ	1式	
〃	電気メス	東機質 ベサリウスMCM	1	
〃	電気メス	アムコ VI03 5ソケットモデル-C E12-5006 10160-000	3	
〃	内視鏡手術カメラシステム	カールストルツ IMAGE1他	1	
〃	腹腔・胸腔用TVシステム	オリンパス OTV-S7PRO	1式	
〃	電解質TUR+内尿道切開システム	オリンパス WA22367A 他	1式	
〃	手術顕微鏡システム	ライカ OH4	1式	
〃	脊椎内視鏡 SPINAL ENDOSCOPES セット	カールストルツ spinal endoscopes セット	1式	
〃	腹腔鏡・胸腔鏡 TV システム	オリンパス VISERA ELITE 他	1式	
〃	腹腔・胸腔鏡用内視鏡システム一式	オリンパス VISERA ELITE II OTV-S300	1式	
〃	デュアルイメージングカラーモジュール	ライカ DIC500FL	1式	
〃	下肢静脈瘤レーザー治療用超音波診断装置	GEヘルスケアジャパン LOGIQe Expert	1	
〃	内視鏡下手術用 TV システム	オリンパス VISERA ELITE OTV-S190 他	1式	
〃	開胸器 (一般)	日本ストライカー システム7 胸骨鋸ハンドピース他	1式	
〃	眼科用冷凍手術システム	キラー・アント・ワイター クライオマチック M-4100	1式	
〃	超音波診断装置	GEヘルスケアジャパン VIVIDi	1	

◎印は令和4年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
手術室	バッテリーハンドピース	日本ストライカー システム7 シングルリリガローターハンドピース他	1式	
〃	眼底観察システム	カールツァイス Resight 他	1式	
〃	下肢静脈瘤レーザー治療器	インテグラル ELVeS レーザー	1	
〃	移動型外科用X線撮影装置	GEヘルスケア・ジャパン OEC9900 Elite Standard-C 12Inch	1	
〃	Force Triad	コウテイエン エネキーププラットフォーム	1	
〃	手術用治療機器	オリンパス Surgical Tissue Management System	1	
〃	白内障・硝子体手術装置	日本アルコン コンステレーションビジョンシステム LXT	1	
〃	内視鏡システム	日本ストライカー 内視鏡1488 カメラシステム 他	1	
〃	軟性尿管ビデオスコープ	オリンパス URF-V 他	1	
〃	手術用无影灯 STERIS LED 2灯式	アムコ S27-0724 他	1	
〃	頭蓋固定器	欧和通商 メイフィールド・XR-2 スカルランプ A2114, ベースユニット S A2079S	1式	
〃	電動手術台	マッケジヤパン	1	
〃	ハイスピードドリル	日本メドトロニック EM200 他	1	
〃	手術用カメラ・I テレスコープ	カールストルツ	1	
〃	超音波画像診断装置	LOGIQ S8	1	
〃	无影灯	STERIS LED 2灯式	2	
〃	无影灯	STERIS LED 2灯式(カメラ非対応) S 27-5953	1	
〃	高周波電源焼灼装置	ESG-400	1	
〃	无影灯	アムコ STERIS LED 2灯式	2	
〃	无影灯	アムコ STERIS vLED 2灯式(カメラ非対応)	1	
〃	da Vinci Si	インテュイティブサージカル	1	
〃	エアシールインテリジェント フローシステム	センチュリー AS-iFS1	1	
〃	耳鼻科手術用ナビゲーション システム	日本メドトロニック 9733560	1	
〃	全身麻酔器	GEヘルスケアジャパン アバンス CS2Pro	1	
〃	婦人科手術用HDカメラシステム	カールストルツ	1	
〃	ヘッドレストシステム	ユフ精器 LUNA スタンダードドリトラクターシステムセット	1	
〃	腹腔・胸腔鏡用TVシステム	オリンパス OTV-S190	1	
〃	Q-SW ルビーレーザー	エムエムアンドニーク MODEL IB101	1	
〃	モバイルCアームシステム	PHILIPS BV Vectra	1	
〃	无影灯	アムコ STERIS LED	1	
〃	バーサパルスセレクト 30W	ボストンサイエンティフィックジャパン	1	

◎印は令和4年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
手術室	無影灯	アムコ STERIS vLED	1	
〃	手術麻酔記録支援システムハードウェア	フクダコーリン CIS-OR	1	
〃	腹腔・胸腔鏡用 TV システム関連	オリンパス VISERA ELITE システム	1	
〃	外科ラパロ鉗子セット	オリンパス/GEISTER/カルストルツ 一式	1	
〃	超音波診断装置（消化器外科）	日立製作所 F37	1	
〃	オシレーター（手術用ドリル）	ジンマーバイオメット パワープロア PR-6175-000-00	1	
〃	全身麻酔器	GEヘルスケア・ジャパン エイス CS2ProEtC	1	
〃	モルセレーターシステムセット	カルストルツ・エントスコピー・ジャパン 一式	1	
〃	血液ガス分析装置	ノバ・バイオメディカル	1	
〃	超音波手術器	日本ストライカー ソパット UST-2001	1	
〃	電動手術台 MERRA	ゲティンゲ 720001B0	6	
〃	ヒステロビデオスコープ	オリンパス VISERA HYF-V	1	
〃	手術台	ゲティンゲグループ・ジャパン MERRA 720001B0	2	
〃	手術用気動ドリル	ジョンソンエンドジョンソン	1式	
〃	手術用電動ドリル	ジョンソンエンドジョンソン	1式	
〃	内視鏡用能動切除器具	ホストン・サイエンティフィックジャパン ハーサカットシステム 840-890	1	
〃	アルゴンプラズマ凝固装置	アムコ VI0200S スタンドモデル E12-1159	1	
〃	硬性気管支鏡	原田産業 デュモンプロコンスコープ	1	
〃	鋼製小物手術器機械（整形外科用）	日本ストライカー システム8コートレストライバーハンド ピース 4505-000-000 他	1式	
〃	3D先端湾曲ビデオスコープ	オリンパス LTF-S300-10-3D	1	
〃	血管内視鏡	インターテックメディカルズ 3COMS HD カメラFC-304, 3LED 光源装置FC-304	1	
〃	胸腔鏡	オリンパス WA50042A	1	
〃	耳鼻咽喉科手術用マイクロデブリッター	メドトロニック IPCコントロールENT	1	
〃	31型3D対応4K液晶モニター	オリンパス LMD-X310ST	1	
〃	ハイビジョン画像記録装置	オリンパス IMH-200	1	
〃	HD カメラヘッド	オリンパス CH-S190-08-LB	3	
〃	腎盂尿管ビデオスコープ	オリンパス URF-V3	2	
〃	VISERA ELITE II システム	オリンパス OTV-S300 他	1	
〃	電気誘発反応刺激装置	メドトロニック リートポイント・Star トライプ 9033A0811AA	1	
〃	脳神経外科手術用機械ナビゲーションシステム一式	ブレインラボ	1	

◎印は令和4年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
手術室	◎全身麻酔器	Carestation750 Prime M Pro	1	
〃	◎体内挿入式超音波結石破碎装置	リトクラストマスターJシステム	1	
〃	◎超音波吸引器	CUSA Clarity	1	
〃	◎X線透過性手術台拡張システム	アレン スパイナルシステム	1	
器材室	中央器材室セット5	ムラナカ 113-002-03 他	1式	
〃	システム乾燥機	サクラ精機 SNK-1152E	1	
〃	インテリジェントトレイシステム	自治体病院共済会	1式	
〃	スリッパ洗浄器	オカダ医材	1	
〃	酸化エチレンガス滅菌装置	サクラ精機他 SHE-G15W型	1式	
〃	ジェット式超音波洗浄装置	シャープ MU5100	2	
〃	ジェット式超音波洗浄装置	サクラ精機 WUS-3100	1	
〃	高圧蒸気滅菌装置	HS6613TDR2-SR-UL	1	
〃	超音波洗浄装置	モレーンコーポレーション MDE11132-5S	1	
〃	過酸化水素ガス滅菌器	キャノンライフケアソリューションズ ES-700i	1	
〃	過酸化水素ガス滅菌器	キャノンライフケアソリューションズ ES-1400S	1	
〃	コアマイクロドリル	日本ストライカー コア2マイクロドリル	1式	
〃	過酸化水素ガス滅菌器	キャノンライフケア ES-1400S	1	
〃	開創器	Boss Instruments LTD. ロブスター開創器血管セット+プロティアンフレーム	1	
〃	気管支ビデオスコープ	オリンパス BF-1TQ290, BF-P290	1式	
〃	下垂体手術用鋼製小物セット	フジタ医科器械	1式	
〃	ハンドピースキット	ストライカー 25MS エバーサル 5450-845-000	1式	
〃	手術用器具	J&J他 ハンドピース HP054 他	1式	
〃	滅菌コンテナ		1	
〃	◎開創器	ユフ精器 OCT-03N	1	
〃	◎開創器	ビー・ブラウンエスクラップ エトラック気道式レトラクションシステム RT040R	2	
麻酔科	人工呼吸器解析装置システム	大正医科 VT-PLUS	1式	

◎印は令和4年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
麻酔科	血液ガス分析装置	ノバ・メディカル スタットプロファイルCCX1	1	
〃	全身麻酔器	GEヘルスケア アバンスケアステーションPro	2	
〃	経皮的循環補助システム	テルモ キャピオックスEBS他	1式	
〃	全身麻酔器	GEヘルスケアジャパン アバンスケアステーションPro	2	
〃	超音波診断装置	富士フイルム S-Nerve	1	
〃	全身麻酔器	GEヘルスケア・ジャパン アバンス CS2 Pro	2	
〃	動脈圧心拍出量計	エトワースライフサイエンス EV1000 クリティカルケアモニター	1式	
〃	◎全身麻酔器	GEヘルスケア Carestation750 Prime M Pro	2	
外来手術室	高周波ラジオ波メス	エルマン サージマックス	1	
〃	眼科用手術顕微鏡	カールツァイス OPMI Lumera T	1	
〃	眼科用ヤグレーザー手術装置	エレックス ウルトラQオフサルミックヤグレーザー	1	
〃	ミニCアームX線診断装置	ホロジック	1	
〃	鋼製小物手術機械（外科他用）	高砂医科工業他 TKZ-F10328-0BS他	1式	
〃	電動手術台	ゲティンゲ アルファクレンジックPRO 111806K0	2	
MEセンター	体外循環用血液パラメーター モニターシステム	テルモ CDI500	1式	
	人工呼吸器	日本光電 Savina5380008 他	1	
	人工呼吸器	ドレーゲル Savina300	7	
	人工呼吸器	東機質 E-100M	6	
〃	人工呼吸器	ニューポートベンチレーター	12	
〃	人工呼吸器	COVIDIEN ベンチレーター980	2	
〃	人工呼吸器	COVIDIEN ベンチレーター840	6	
〃	人工呼吸器	日本光電 HAMILTON-C2	1	
〃	人工呼吸器	レスピロニクス Trilogy02Plus	1	
〃	人工呼吸器	COVIDIEN ベネットベンチレーター980TypeU	1	
〃	ライフスコープ11	日本光電	1	
〃	ベッドサイドモニター	日本光電 BSM-7105, 7106	1	
〃	ニューポートレスピレーター	東機質 E-100A	5	
〃	経皮的心肺補助システム	テルモ ME-SP200C	1式	
〃	成人用人工呼吸器	フィリップス・レスピロ トリロジー-02 Plus 1040004TP	1	
〃	血液成分分離装置	スペクトラVer6	1	
〃	心拍出量測定装置	エトワースライフサイエンス Vigilance II	2	

◎印は令和4年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
M E センター	非侵襲的人工呼吸器	フィリップス・レスピロニクス V60	1	
〃	輸液ポンプテスター	フルク・ハイメディカル IDA-4Plus/4ch, データ解析用パソコン 東芝Dynabook T453/33JW	1	
〃	血液浄化装置	旭化成メディカル ACH-Σ, データ解析用パソコン 富士通LIFEBOOK P772/G 富士通LIFEBOOK P772/G	1	
〃	ヒジラシスヘモグロビンミキモータ (心拍出量測定装置) 1/2	エトワースライフサイエンス VIG2	1	
〃	大動脈バルーンポンピング装置	ゲティンゲグループ・ジャパン CARDIOSAVE	1式	
〃	バイタルサインシュミレーター	大正医科 Prosim8SP	1	
〃	血液浄化装置	旭化成メディカル ACH-Σ	1	
〃	バイタル連携対応機器	テルモ	1	
〃	閉鎖・開放両用保育器	アトムメディカル Dual Incu	1	
〃	非侵襲的人工呼吸器	フィリップス・レスピロニクス V60	1	
〃	多用途血液浄化装置	旭化成メディカル ACHΣ	1	
〃	バイタル連携対応機器	テルモ	1	
〃	通信機能付バイタルサイン測定機器	テルモ 電子体温計C215 ET-C215S	1	
〃	人工呼吸器	COVIDIEN ベンチレーター980	2	
〃	ネーザルハイフローシステム	F & P FP-0A2060P	1式	
〃	パルス波治療器	光電メディカル サイマトン	1	
〃	非目視下非鏡視下処置用電気手術器	日本ライフライン REP-100A	1	
〃	◎多用途血液処理装置	旭化成メディカル フラソトμ	1	
〃	◎電池電源式骨手術用器械	日本ストライカー システム6 6203-131-000	1	
〃	◎遠心ポンプ	Liva Nova CP5 システム 60-00-60	1	
〃	◎自己血回収装置	ヘモネクス セルセバ-エリートプラス CSE-EW-JA	2	
〃	◎電池電源式骨手術器械	日本ストライカー システム8 コードレスドライブハンドピース 4505-000-000	2	
放射線科	乳房用X線撮影装置 一式	GEヘルスケア Senographe Pristina	1	
〃	全身用CT装置 一式	キャノンメディカルシステムズ Aquilion PRIME SP I Edition	1	
〃	全身用CT装置 一式	キャノンメディカルシステムズ Aquilion PRIME SP I Edition	1	
〃	ポータブルX線撮影装置	富士フイルムメディカル CALNEO Smart C77 (パネル)	1	
〃	乳房用X線撮影装置	インストルメンタリウムイメージング社 (diamond)	1	
〃	大容量冷却遠心機		1	

◎印は令和4年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規 格	数量	備考
放射線科	心拍出量測定装置	エトワースライフサイエンス Vigilance II	2	
〃	体外式衝撃波結石破碎装置	ドルニエメドテックシステムズ Delta II	1	
〃	救急外来用一般X線撮影装置	島津製作所 UD150B-40 他	1式	
〃	救急室X線CT装置	東芝メディカルシステムズ Aquilion CX	1式	
〃	移動型X線撮影装置	日立メディコ シリウス130HP	1	
〃	移動型X線撮影装置	島津製作所 モバイルアートルミナ	1	
〃	放射線監視システム		1式	
〃	ピクチャーテルメドリンク S	ピクチャーテル CP-1746	1	
〃	ハンドフットクロスモニター	アロカ MBR-201	1	
〃	X線骨塩定量装置	QDR-4500A	1	
〃	RI遮蔽用鉛貯蔵庫	TH-J1331	1	
〃	RIフード	TH-F1602	1	
〃	MR造影剤自動注入装置	根本杏林堂 ソニックショット50 他	1	
〃	超電導磁気共鳴画像診断装置	フィリップス Achiva 1.5T NovaDual	1式	
〃	CRシステム	FCR5000, FCR9501-HQ 他	1式	
〃	遠隔式X線透視撮影装置	島津製作所 Cvision Safire 17	1	
〃	X線CT装置	東芝メディカルシステムズ Aquilion64	1	
〃	ガンマカメラ	シーメンスジャパンSymbia E	1	
〃	医用画像作成装置及び外部データ取込み装置	コドニクス他 画像取込/書き込み一式	1式	
〃	アブレーションシステム	セントジュード CoolPathシステム一式		
〃	心血管用アンギオ装置	フィリップス Allura Xper FD10	1式	
〃	汎用アンギオ装置	フィリップス Allura Xper FD20	1	
〃	インバータ式回診用X線撮影装置	島津製作所 MobileArt Evolution	1	
〃	放射線読影レポート用音声入力システム	アドバンスト・メディア	1	
〃	デジタル画像処理システム	富士フィルムメディカル CALNEO-C 他	1式	
〃	多目的デジタルX線TVシステム	島津製作所 SONIALVISION G4	1式	
〃	X線発生装置	東芝メディカルシステムズ RADREX MRAD-A80S/2G	1	
〃	X線発生装置	東芝メディカルシステムズ RADREX MRAD-A80S/BH	4	
〃	回診用X線撮影装置	FUJIFILM DR CALNEO Go	2	
〃	一般X線撮影間接変換FPD装置	コニカミノルタ	1	
〃	PET-CT装置	シーメンスヘルスケア Biograph Horizon 一式	1	

◎印は令和4年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
放射線科	1.5磁気共鳴断層撮影装置一式	シーメンス MAGNETOM Altea	1	
〃	MRインジェクター	根本杏林堂 ソニックショットGX7	1式	
〃	放射線治療システム	バリアン社 TrueBeam	1式	
〃	放射線治療計画用CT装置	キャノンメディカルシステムズ Aquilion LB	1	
〃	リニアック	バリアン TrueBeamシステム一式	1	
〃	CDパブリッシャー	コドニクス VirtuaXR	1	
〃	◎移動型X線装置	富士フイルムヘルスケア Sirius Starmobile tiara	1	
検査科	誘発電位筋電図検査装置	日本光電 MEB-2306	1	
〃	採血準備トータルシステム		1	
〃	内視鏡画像ファイリングシステム	オリンパス光学 EVIS-NET	1式	
〃	汎用超音波診断装置	GEヘルスケアアジアパシフィック Vivid E95	1式	
〃	超音波診断装置(循環器)	GE横河メディカル Vivid7 Dimension 4D	1	
〃	超音波画像診断装置	Core Vision SSA-350A, 340A	2	
〃	超音波画像診断装置	GEヘルスケアアジアパシフィック LOGIQ7	1	
〃	実験台4(解剖室)		1	
〃	実験台3(標本切出室)		1	
〃	実験台2(病理検査室)		1	
〃	実験台1(細菌検査室)		1	
〃	自動封入装置	サクラ精機 SGC-400-D	1	
〃	自動染色装置	サクラ精機 DRS-2000B	2	
〃	嫌気性インキュベーター	ヒラサワ ANX-3(a)	1	
〃	蛍光顕微鏡	本体 ニコン E8-RFL-2 他	1	
〃	解剖台	サクラ精機 KBH-LA	1	
〃	密閉式自動固定包埋装置	サクラファインテックジャパン ETP-5-F	1	
〃	凍結組織切片作製装置	サクラファインテック ティッシュテッククライオ	1	
〃	血液照射装置	IBL-437C	1	
〃	超音波診断装置	GEヘルスケア LOGIQ7	1	
〃	生理検査システム	日本光電 PrimeVita他	1式	
〃	呼気ガス分析装置	ミナト医科 AE-310SRC他	1式	
〃	血圧脈派検査装置	オムロン HFA-203RPEIII	1	
〃	全自動免疫染色装置	ライカ Bond-max	1式	
〃	超音波診断装置(乳腺精細用)	日立アロカメディカル Preirus	1式	

◎印は令和4年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
〃	総合肺機能検査システム	チェスト CHESTAC-8900N	1	
〃	脳波計	日本光電 EEG-1218	1	
〃	血液培養装置	シスメックス・ビオメリー バクテアラート 3D 360 型	1	
〃	全自動同定・感受性検査装置 ／感染制御システム	シーメンスヘルスケア マイクロスキャン WalkAway96Plus	1	
〃	脳波計	日本光電 EEG-1214	1	
〃	筋電図・誘発電位検査装置	日本光電 MEB-2312	1	
〃	システム生物顕微鏡	オリンパス BX-53	1	
〃	加算心電図ソフトウェア付心電計	日本光電 ECG-2550	1	
〃	長時間心電図解析装置	日本光電 DSC-5500	1	
〃	超音波診断装置	Philips EPIQ7	1	
〃	全自動輸血検査装置	オーソ VISION	1	
〃	運動負荷心電図測定装置	日本光電 ECG-2450	1	
〃	凍結切片作成装置	サクラファインテックジャパン ティシュー・テック ポーラ DM POLAR-DM	1	
〃	病理検査業務支援システム	正晃テック WebPath	1	
〃	遺伝子解析装置	ニチレイバイオサイエンス CFX96 Dxシステム他	1	
〃	◎自動細胞収集装置	サクラファインテック サイト・テック オートスマ7 2500	1	
〃	◎超音波画像診断装置	富士フイルムヘルスケア ARIETTA750VE	1	
〃	◎生理検査システムソフト	日本光電 一式	1	
〃	◎生理検査システムハード	日本光電 一式	1	
〃	◎密閉式自動固定包埋装置	サクラファインテックジャパン VIP6 AI	1	
内視鏡センター	内視鏡用超音波観測装置	オリンパス EU-ME2 PREMIER PLUS	1	
〃	気管支超音波穿刺システム	オリンパス スコープ BF-UC260F-OL8/観測装置 EU-C2000	1	
〃	電子内視鏡システム	フジノン東芝 ES システム EL2-TF410	1 式	
〃	電子内視鏡システム	オリンパス CV-260SL 他	1 式	
〃	大腸ビデオスコープ	オリンパス EVIS LUSER PCF240 i	1	
〃	大腸ビデオスコープ	オリンパス PCF-Q260A	2	
〃	大腸ビデオスコープ	オリンパス CF-Q240ZI	1	
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-Q260	2	
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-Q240	3	
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-Q240	1	
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-H260Z	2	

◎印は令和4年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
内視鏡センター	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-H260	1	
〃	上部消化管ビデオスコープ	オリンパス GIF-Q240	1	
〃	十二指腸ビデオスコープ	オリンパス TJF-240	1	
〃	ベットサイドモニター	日本光電 BSM-83D1	1	
〃	内視鏡管理システム	オリンパス SolemioENDO	1	式
〃	高周波手術装置	エルベ VIO-300D	1	
〃	気管支ビデオスコープ	オリンパス EVISLUCERA BF-6C260	1	
〃	アルゴンプラズマシステム	アムコ アルゴンプラズマ APC300 他	1	式
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-H260	2	式
〃	消化器内視鏡システム	オリンパス EVIS LUCERA SPECTRUM	2	式
〃	気管支ビデオスコープ	オリンパス BF-XP260F	1	
〃	大腸ビデオスコープ	オリンパス PCF-Q26AI	1	
〃	上部消化管ビデオスコープ	オリンパス GIF-H260	1	
〃	大腸ビデオスコープ	オリンパス PCF-Q2660AZI	1	
〃	十二指腸ビデオスコープ	オリンパス JF-260V	1	
〃	超音波内視鏡システム	オリンパス EU-ME1 他	1	式
〃	気管支ビデオスコープ	オリンパス BF-XP260F	1	
〃	上部消化管ビデオスコープ	オリンパス GIF-XP260NS	1	
〃	気管支ビデオスコープ	オリンパス BF-260	1	
〃	十二指腸ビデオスコープ	オリンパス JF-260V	1	
〃	内視鏡室マネージメントシス	Solemio ENDO Ver. 4	1	
〃	電子内視鏡システム	オリンパス	1	
〃	気管支鏡システム	オリンパス CV-290 他一式	1	
〃	電子内視鏡システム	オリンパス CV-290 他一式	1	
〃	十二指腸ビデオスコープ	オリンパス TJF-Q290V	1	
〃	電子内視鏡システム	オリンパス	1	
〃	◎ビデオシステムセンター	オリンパス EVIS X1 CV-1500	1	
〃	◎上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-1200N	1	
〃	◎超音波気管支ファイバースコープ	オリンパス BF-UC290F	1	
内科	携帯型超音波診断装置	ソノサイトジャパン iLook25	1	
〃	血管内超音波診断装置	テルモ TU-C200	1	
〃	超音波診断装置	G Eヘルスケア LOGIQP5	1	

◎印は令和4年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
内科	個人用多用途透析装置	日機装 DBG-03	1	
〃	医用テレメータ	日本光電 WEP-5208	1	
〃	超音波画像診断装置	GE LOGIQ e Premium	1	
産婦人科	超音波診断装置	持田シーメンスメディカル ソノビスタ C3000	1	
〃	超音波診断装置	東芝 SSA-340A 他	3	
〃	婦人科内視鏡システム	オリンパス VISERA-PROCCU 他	1式	
〃	超音波診断装置	日立アロカメディカル Prosound α 6	1式	
〃	超音波画像診断装置 VOLUSON P8 1/3	GEヘルスケア・ジャパン VOLUSON P8	4	
〃	ヒステロ内視鏡システム	オリンパス OTV-S190	1	
〃	超音波画像診断装置	GEヘルスケアジャパン Voluson S8	1	
〃	超音波画像診断装置	GEヘルスケア・ジャパン Voluson P6	1式	
〃	婦人科ラパロ鉗子セット	三立医科工業他 924-0501 他	2	
〃	超音波画像診断装置	GEヘルスケア Voluson P8	1	
〃	◎内診台	アトムメディカル メグジヨイ回転タイプエクリュ 1147683	1	
外科	超音波診断装置	東芝メディカルシステムズ Xario200	1	
〃	超音波画像診断装置	日本メディカルネクスト BK5000システム	1	
〃	ラジオ波焼灼装置	ボストンサイエンティフィックジャパン RF3000	1	
呼吸器外科	気管支ビデオスコープ	BF-P290	1	
耳鼻咽喉科	耳鼻科ユニット	永島医科 SNニューピアレスF (片面)	3	
〃	聴力検査装置	リオン AA-75	1	
〃	吸入器	SNネブライザー装置ルミエール	1	
〃	鼻咽喉内視鏡システム	オリンパス VISERA-PROCCU 他	1式	
〃	インピーダンスオージオメーター	リオン RS-22	1	
〃	重心動揺計	アニマ グラビコダ GP-5000	1	
〃	眼振図解析システム	第一医科 ニスタグラフ FNG-1004 他	1式	
〃	神経刺激モニター	日本メドトロニック NIMレスポンス 3.0	1式	
〃	耳鼻咽喉ビデオスコープ	オリンパス ENF-VQ	1式	
〃	オージオメーター	リオン AA-H1	1	
〃	内視鏡ビデオシステム	オリンパス VISERA ELITE	1式	
泌尿器科	泌尿器内視鏡システム	オリンパス VISERAPro システム	1	
〃	超音波診断装置	東芝 NEMIO XG	1	
〃	フラッシュャーディスインフェクター	ゲティンゲグループ・ジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	

◎印は令和4年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
泌尿器科	検診台	武井医科光器製作所 TU-1900AR	1	
〃	尿流量測定装置	TOTO CES446PA1P#NW1	1	
整形外科	埋込型シャウカステン	森山X線 ISH-02U (36台) 他	1式	
〃	超音波画像診断装置	GE LOGIQ e Premium Pro	1	
皮膚科	診断用顕微鏡	ニコン エクリプス 80i MTH5-31	1	
〃	全身型紫外線治療器	シネロン・キャンデラ NeoLux 861PH0048X5	1	
形成外科	超音波画像診断装置	GE LOGIQ e Premium	1	
〃	CO2 レーザー手術装置	日本ルミナス	1	
眼科	自動視野計	カールツァイス HFA II 740	1	
〃	スペキュラーマイクロスコープ	コーナンメディカル CellChek X8	1	
〃	眼科検査訓練機器	クレメントクラーク社 シノプトフォア 2001 他	1	
〃	画像ファイリング機能付スリットランプ	カールツァイス SL130	1	
〃	角膜形状測定装置	トーマー TNS-4	1	
〃	眼底カメラ	コーワ VX-10 i	1	
〃	マルチカラーレーザー光凝固装置	ツァイス	1	
〃	ピズラスPDTシステム	スリットランプ SL130 付システム 690 S	1	
〃	眼科診療支援システム	ニデック NAVIS-HP 他	1	
〃	細隙灯顕微鏡	ハーグストレート 900BQ LED	1	
〃	細隙灯顕微鏡	カールツァイス	1	
〃	オートレフケラトトノメーター	キャノン TX-20P 他	1	
〃	眼圧・角膜厚測定装置	キャノンライフケアソリューションズ TX-20P	1	
〃	眼軸長測定機器	カールツァイス iOL マスター (モデル 700)	1	
〃	眼科ファイリングシステム	ニデック NAVIS-AZU	1	
〃	超広角走査レーザー検眼鏡	オプトス パラミックスオプティカル California モデル	1	
〃	3次元眼底像撮影装置	トプコンメディカルジャパン DRI OCT	1	
〃	自動視野計	カールツァイス HFA840	1	
〃	超音波計測・診断システム	トーマーコーポレーション UD-8000AB	1式	
〃	網膜電位図刺激装置	トーマーコーポレーション LE-4000	1式	
〃	投影式精査型視野計	タカギセイコー プロジェクトンペリメーターMT-325UD	1	
〃	◎眼測定装置	トーマーコーポレーション CASIA II Advance	1	
腎センター	多人数透析液供給装置	日機装 DAB-05B	1	

◎印は令和4年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
腎センター 救急室	逆浸透法精製水製造装置	タニシヤ・メンブレン・システムズ FC-RE700FS W650×D1080×H1800	1	
	搬送用人工呼吸器	ドレーグルメディカル オキシログ 3000	1	
	経皮的心肺補助装置	テルモ キャピオックス EBS 他	1式	
	超音波診断装置	富士フイルムメディカル	1	
	患者シミュレータ (SimManALS)	レールダルメディカルジャパン 235-20001	1	
	患者シミュレータ (レサシア ンシミュレータ PLUS)	レールダルメディカルジャパン 150-21001	1	
	体温管理システム	I M I アークティックサン 5000	1式	
	紫外線 (UV)照射ロボット	テルモ 014LS013B	1式	
	ベッドサイドモニタ	日本光電 CU-152R	7式	
	◎超音波画像診断装置	富士フイルムメディカル Sonosite PX	1	
救命救急 センター	高機能患者シミュレータ	METI (アイエムアイ) ECS 成人モデル	1	
	高機能 ICU ベッド	ヒルロム トータルスポーツケア	1	
	救急用ストレッチャー	日本ストライカー SM204	1	
	ポータブル超音波診断装置	ソノサイトジャパン マイクロマックス	1	
	ヘモダイナミックモニター	エドワーズライフサイエンス VIG2	1	
	ベッドサイドモニター	日本光電 BSM-2301	1式	
	ベッドサイドモニター	日本光電 BSM-2301	1式	
	ベッドサイドモニター	日本光電 BSM-2301	1式	
	病棟モニタリングシステム	日本光電 CNS-9701	1式	
	心電図受信装置	日本光電 CNS-9701	1式	
救急用受信システム	日本光電 WEC-4100	1式		
救命救急 センター	陽・陰圧体外式人工呼吸器	メディベント社 RTX	1	
	超音波診断装置	ソノサイト L04326 他	1式	
	救急・搬送用人工呼吸器	ドレーグル	1	
	超音波診断装置 (救急用)	富士フイルムメディカル FAZONE M	1	
歯科 口腔科	歯科用ユニット	FGMD2-163L	2	
	歯科用キャビネット	ウエダ キャビネットABC他	1	

◎印は令和4年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
歯科口腔外科	デンタルユニット	GM/ML-223LL	1	
〃	セントラルシステム	フレクシークリーンエアバキューム 他	1式	
〃	ボーンサージェリーシステム	ナカニシ インテグラー NeoPlus LED,バリオンジ 3他	1式	
〃	◎診療ユニット	長田電機工業 NP-L1211	1	
〃	◎電動マイクロドリルシステム	日本ストラッカー TPX/コア2 5400-052-000	1	
小児科	超音波画像診断装置	GE Vivid S60N	1	
心臓血管外科	大動脈内バルーンポンプ	エドワーズライフサイエンス CS-100	1	
リハビリ	磁気刺激装置	ミュキ技研 マグスティムラピッドシステム	1	
〃	耳鼻咽喉ファイバースコープ	町田製作所 FLT-SIII 他	1式	
〃	チルトテーブル水平位サポート台	酒井医療 SPR-7000D	1	
〃	耳鼻咽喉ビデオスコープ	オリンパス OTV-S190 他	1	
〃	トレッドミル		1	
透析室	個人用透析装置	日機装 DBB-27	1	
〃	多用途透析監視装置	日機装 DCG-03	1	
〃	HDF 監視装置	日機装 DCG-03	1	
〃	透析用監視装置	日機装 DCS-73	1	
8階北病棟	分娩台	アトム マミージョイ LDR 14320	1	
〃	分娩台	タカラベルモント DG-880 G1	1	
〃	フラッシュャーディスインフエクター	ゲティンゲグループ・ジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	
〃	顕微受精システム	オリンパス ON2-ICSI-II	1式	
〃	分娩監視装置・単胎用	アトムメディカル FM-20A/E-20 他	1式	
〃	分娩監視装置・双胎用	アトムメディカル FM-20B/E-20 他	1式	
〃	超音波画像診断装置 SONOVISTA FX	シーメンス SONOVISTA FX premium edition	1	
〃	胎児集中監視システム	アトムメディカル FSV セントラルモニター式	1	
8階北病棟	フラッシュャーディスインフエクター	ゲティンゲジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	
〃	超音波診断装置(産婦人科)	GEヘルスケア・ジャパン Voluson P6	1	
8階南病棟	フラッシュャーディスインフエクター	GETINGE607LCC-2P-50	1	
8階西病棟	インファントウォーマー	アトム V-505HL	1	
9階北病棟	フラッシュャーディスインフエクター	ゲティンゲグループ・ジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	
9階南病棟	医用テレメータ	日本光電 WEP-1400-Z06 (12人用)	1	

◎印は令和4年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
9 階 南 病 棟	ベッドサイドモニタ	日本光電 CU-171R	2 式	
〃	紫外線 (UV)照射ロボット	テルモ 014LS013B	1	
〃	生体情報モニタリングシステム	日本光電 PU-621R	1	
	I C Uベッド	パラマウントベッド KA-8950A	1	
	肺理学療法システム	ヒルロム (パラマウント) トータルケアスポーツ	6	
〃	人工呼吸器	ドレーゲル Savina	1	
〃	フラッシュャーディスインフエクター	ゲティンゲ GETINGE607	1	
〃	セントラルモニタ	日本光電 PU-611R	1	
1 0 階 北 病 棟	フラッシュャーディスインフエクター	GETINGE607LCC-2P-50	1	
〃	病棟用医用テレメータシステム	H X C -1150	1	
1 0 階 南 病 棟	フラッシュャーディスインフエクター	ゲティンゲジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	
1 1 階 北 病 棟	フラッシュャーディスインフエクター	ゲティンゲジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	
1 1 階 南 病 棟	血管アクセス用超音波診断装置	メディコン サテライト 5	1	
〃	フラッシュャーディスインフエクター	GETINGE607LCC-2P-50	1	
〃	◎セントラルモニタ	日本光電 PU-611R	1	
1 2 階 北 病 棟	超音波診断装置	日立製作所 ARIETTA60	1	
〃	フラッシュャーディスインフエクター	ゲ テ ィ ン ゲ ジ ャ パ ン GETINGE607LCC-2P-50	1	
〃	耳鼻科ユニット	永島医科 S I Vニューピアレス	1	
〃	細隙灯顕微鏡	ハーグストレイト 900BQV 他	2	
〃	ネブライザーユニット	永島医科 SN-P 型 3 人用	1	
1 2 階 南 病 棟	フラッシュャーディスインフエクター	ゲティンゲジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	
〃	8 人用医用テレメーター	日本光電 WEP-5218	1 式	
1 3 階 北 病 棟	フラッシュャーディスインフエクター	ゲティンゲ GETINGE607	1	
〃	セントラルモニター	オムロンコーリン HXC-1190 他	1	
1 3 階 南 病 棟	フラッシュャーディスインフエクター	ゲティンゲ GETINGE607	1	
〃	超音波診断装置	コニカミノルタ SONIMAGE HS1-4	1	
〃	医用テレメータシステム	日本光電 WEP-5268	1	
〃	医用テレメータシステム (13 階南病棟用)	日本光電 WEP-5218	1	
1 4 階 南 病 棟	医用テレメーター	オムロンコーリン HXC-1100 他	1 式	

◎印は令和4年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
N I C U	新生児用聴覚検査装置	日本光電 MAAS	1	
〃	新生児用人工呼吸器	ドレーゲル Babylog 8000plus	4	
〃	光凝固装置	エレックス ソリティア	1	
〃	血液ガス分析装置	ラジオメーター ABL835FLEX	1	
〃	CR システム	コダック CR ELITE-19	1	
〃	ポータブルX線撮影装置	シーメンス MOBILETT XP	1	
〃	カウンターユニット・シーリングモジュール	セントラルユニ カウンターユニット+シーリングモジュール	1	
〃	脳機能モニタ	アイエムアイ 16ch 124 01 20	1	
〃	呼吸機能測定装置	アイビジョンアーフェルIII	1	
〃	閉鎖式保育器	アトムメディカル	9	
〃	生体情報モニター	フィリップス MP50	5	
〃	体温管理システム	アイ・エム・アイ アークティックサン	1	
〃	搬送用保育器	アトムメディカル V-808 Sp02	1	
〃	開放型保育器	アトムメディカル インファウォーマー I	1	
〃	閉鎖循環式保育器	アトムメディカル インキュ I	1	
〃	閉鎖循環式保育器	アトムメディカル インキュ I	1	
〃	開放型保育器	アトムメディカル	1	
〃	赤ちゃん連れ去り警報システム	インファウォーマー i 蘇生装置 I マトリックス	1 式	
〃	閉鎖・開放両用保育器	アトム デュアルインキュ i Sp02 マシモ/体重モタ付	1	
〃	◎新生児用人工呼吸器	ドレーゲル Babylog VN800	1	
I C U / C C U	人工呼吸器	ドレーゲル エビタ X L	1	
〃	在室患者監視システム	オムロンコーリン ベッドサイドモニタ Solar8000i	1	
〃	ICU 天井懸垂システム	インケアポート MODEL-277	1 式	
〃	高機能 ICU ベッド	パラマウントベッド KH-151	1	
〃	フラッシュャーディスプレイインフエクター	ゲティンゲジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	
〃	人工呼吸器	ドレーゲル・メディカル Evita Infinity V500	2	
〃	人工呼吸器	COVIDIEN ベンチレータ 840	1	
〃	I C U 部門システムのハードウェア更新	フクダコーリン PrescientICU, OR	1	
〃	セントラルモニタ	日本光電 PU-621R	2	
〃	ベッドサイドモニタ	日本光電 CU-172R	9	
〃	I C U ベッド	パラマウント KA-8950A	1	
感染対策室	採痰ブース	日本医科器械製作所 VCM-1500N2	1	

◎印は令和4年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
感染対策室	空気感染隔離ユニット	モレーン Mintie ECU4バンドルセット ECU4B1000	1式	
薬剤部	薬剤保管用縦型回転柵	クラヤ薬品 92C3-315-42	1	
〃	薬剤トレイ回収システム	セントラルユニ	1式	
〃	電動式移動柵	クラヤ薬品 RAM-5240 K-TE 他	1	
〃	蒸留水製造装置	清水理化学機器 TKS-30	1	
〃	IVH 機器システム	日科ミクロン	1式	
〃	調剤支援システム	ユヤマ一式	1式	
〃	抗がん剤調製支援システム	トーショー 調製用 PC 4台 監査用 PC 2台	1式	
〃	薬液・薬ビン用蒸気滅菌器	サクラ精機 Σ III YR-B09SLPC	1	
〃	注射薬自動払出システム	トーショー UNIPUL-4000-V4	1	
〃	バイオハザード対策用キャビネット	日科ミクロン BCG401	2	
〃	全自動PTPシート払出装置	ユヤマ YS-PTP II-130	1	
〃	調剤支援システム	トーショー 一式	1式	
食養科	温冷配膳車	エレクター MOG48SER-SY	1	
〃	食器洗浄機	日本調理機 DWF2-6RPE-01	1	
〃	哺乳瓶用乾熱滅菌装置	三田理化工業 MB-20E	1	
〃	スチームコンベクションオーブン	ニチワ SCOS-2020RH-L 他	1式	
〃	温冷配膳車	エレクター MOG48RER-SY	4	
〃	温冷配膳車	エレクター MOG40SER-SY	2	
〃	電気スチームコンベクションオーブン	ニチワ電機 SCOS-2010RH-R	1	
〃	温冷配膳車	エレクター MOG40SER-SY	1	
〃	単槽型ウォッシャーディスプレイクター	村中医療器 ミーレジェットウォッシャーPG8536	1	
〃	ユニット式調乳水製造装置	三田理化工業 CMIFS-301E-WA-150V 型	1	
食養科	カートイン温蔵庫	仲産業 RH-2SP	1	
〃	◎蒸気回転釜	日本調理機 SRB-300NR-D	1	
看護部	看護管理支援システム	インフォコム	1	
医事課	ムーブラック	イトーキ	1	
〃	自動精算機	グローリー IHV-PCS	2	
〃	総合医療情報システム	富士通 サバ、端末、ソフトウェア等	1式	
〃	総合医療情報システム端末類	端末、プリンタ等	1式	
教育指導部	救命処置トレーニングシステム	レイダル社ハートシステムACLSトレーニング	2式	
〃	システムオートラック	マルタン	1	

◎印は令和4年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
庶務課・管理	物品器材管理システム	セントラルユニ	1式	
〃	物品管理システム	セントラルユニ	1式	
〃	ピアノセット	ヤマハ C3L	1式	
〃	防災対策用カメラシステム	ヤマハ C3LTOA C-CV160S-3 他	1式	
川崎病院	急性期患者情報システム	オムロンコーリン ICUシステム・ERシステム・ORシステム	1式	
〃	デジタルサイネージ機器	シャープ	1	
〃	患者向けサービス機能機器システム	富士通 ゲートウェイサーバ・パッケージ導入	1式	
〃	3次元画像解析システム 一式	富士フイルムメディカル VINCENT	1	
〃	周産期電子カルテシステム	ミトラ ハローベ化タープログラム Smart-K	1	
〃	空気感染隔離ユニット	モレーン ミンティ ECU4		

◎印は令和4年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

8 主な委託業務

病院業務の効率的な運営を期して、業務の一部を次のとおり委託しています。

平成10年度から委託業務の一部を整理統合しました。

委託業務名	委託内容	開始年度
清掃	院内（病棟区域・外来区域）、構内清掃	昭和32年度
リネンセンター運営管理業務	診療衣・看護衣・診察用布等の洗濯、折りたたみ 新生児・乳幼児用肌着等の提供と洗濯 入院患者寝具・洗濯・病棟配布 宿直職員及び夜勤看護師用寝具の提供と補修・洗濯 ベッドセンター運営管理・補修室縫製等	昭和35年度 昭和41年度 昭和41年度 昭和48年度 平成10年度
施設管理業務	空調機・自家発電機・医療ガス設備・昇降機点検 機械設備管理・運転監視・空調設備保守等	昭和45年度 平成10年度
消防設備関係	外観・機能点検、総合点検	昭和45年度
検査業務	一般・血液・生化学・血清・細菌検査	昭和45年度
医事業務	診察データの入力・診療報酬請求書・行為別集計等の作成 臨床クラーク（病棟及び外来の医療業務上の事務補助） 初診受付・再診受付・外来会計受付・電算入力 事務当直業務（時間外患者受付） 医事業務（全面委託）	昭和52年度 平成1年度 平成1年度 平成2年度 平成5年度
給食業務	調理・盛り付け・配膳・下膳・食器洗浄等 給食材料の発注及び検収等	平成7年度 平成23年度
情報システム運用業務	総合医療情報システム管理運用業務	平成10年度
物流管理業務	S P D（物流管理）・滅菌業務	平成10年度
院内保安警備	院内の保安警備、駐車場管理業務 防災センター監視業務ほか	昭和43年度 平成10年度
放射性物質濃度法定測定	作業環境法に基づく測定業務	平成1年度
電話交換業務	電話交換・院内放送業務	平成10年度
感染性産業廃棄物処理	廃棄物処理法による感染性産業廃棄物の処理	平成4年度
その他	歯科技工、カーテン賃貸借、院内保育室調理業務等、 医療機器保守、福祉用具保守（平成28年）	

9 図 書 室

令4年度より、国立情報学研究所 (NACSIS) が運営しているシステム、NACSIS-CAT/ILL (ナクシスキャット/アイエルエル)に、井田病院と共に参加しました(運営費は年間 6,600 円)。

NACSIS-CAT (= 目録・所在情報サービス) とは、オンライン共同分担目録方式により全国規模の図書/雑誌の総合目録データベースを形成するものであり、NACSIS-ILL (= 図書館間相互協力 (Inter Library Loan、略して ILL) は、この目録データベースを使い、文献複写や資料現物の貸借の依頼及び受付業務において、図書館間のやりとりを電子化したシステムです。

前年度までは、当院の所蔵は神奈川県内のネットワークと病院ライブラリー協会のシステムのみで公開していました。NACSIS-CAT に登録することで、自館の所蔵を公開することとなり、全国各地の大学図書館や病院図書室、その他の機関から、複写を受け付けるようになりました。当院では、NACSIS-CAT/ILL 参加前に比べて、参加後は格段に ILL の受付件数が増え、依頼分を大きく上回るようになってきているため、職員へは、文献を無料でお届けしています。



(1) 図書室利用状況

資料貸出数

図書 658 件

雑誌 357 件

(2) 図書室設備・機器

利用者パソコン 5 台 (インターネット)

利用者パソコン 2 台 (川崎市イントラネット)

業務用パソコン 2 台 (インターネット)

カラープリンター 3 台

モノクロプリンター 2 台

キャレル席 6 席

閲覧席 10 席

(3) 現行購読タイトル・契約ツール

購読和雑誌 (冊子体 31 誌)

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| 1 病院安全教育 | 17 継続看護を担う体質強化 外来看護 |
| 2 地域連携入退院と在宅支援 | 18 厚生指標 |
| 3 電気と工事 | 19 救急医学 |
| 4 栄養関係法規類集（追録） | 20 救急・集中治療 |
| 5 栄養と料理 | 21 Monthly Book Derma デルマ |
| 6 エキスパートナース | 22 日本病院会雑誌 |
| 7 月刊保険診療 | 23 クインテッセンス・デンタル・インプラントロジー |
| 8 月刊ナースマネージャー | 24 臨床精神薬理 |
| 9 月刊ナーシング | 25 精神治療学 |
| 10 ほすびたるらいぶらりあん | 26 設備と管理 |
| 11 ICNR | 27 社会保険旬報 |
| 12 医学図書館 | 28 小児看護 |
| 13 重症集中ケア | 29 The Quintessence |
| 14 看護技術 | 30 ヴィジュアル・ダーマトロジー |
| 15 看護展望 | 31 全国自治体病院協議会雑誌 |
| 16 緩和ケア | |

購読和雑誌 別冊・増刊のみ（冊子体1誌）

レジデントノート

購読洋雑誌（オンラインジャーナル12誌）

- 1 Annals of Internal Medicine
- 2 Anesthesia & Analgesia
- 3 Blood
- 4 BMJ: British Medical Journal (International)
- 5 Cancer (inc. Cancer Cytopathology)
- 6 Circulation
- 7 Critical Care Medicine
- 8 Hepatology (inc. Liver Transplantation)
- 9 Journal of Neurosurgery
- 10 Laryngoscope
- 11 New England Journal of Medicine
- 12 Pediatrics

オンラインリソース パッケージ

- 1 医書.jp
- 2 メディカルオンライン
- 3 メディカルオンライン・イーブックスライブラリー
- 4 Clinical Key

- 5 JAMA フルパッケージ
- 6 Oxford Medicine Collection
- 7 ProQuest Medical Database
- 8 Springer Link
- 9 Wiley Token

オンライン EBM ツール

UpToDate

オンライン検索データベース

- 1 医中誌 Web
- 2 最新看護索引 Web

リンクリゾルバ

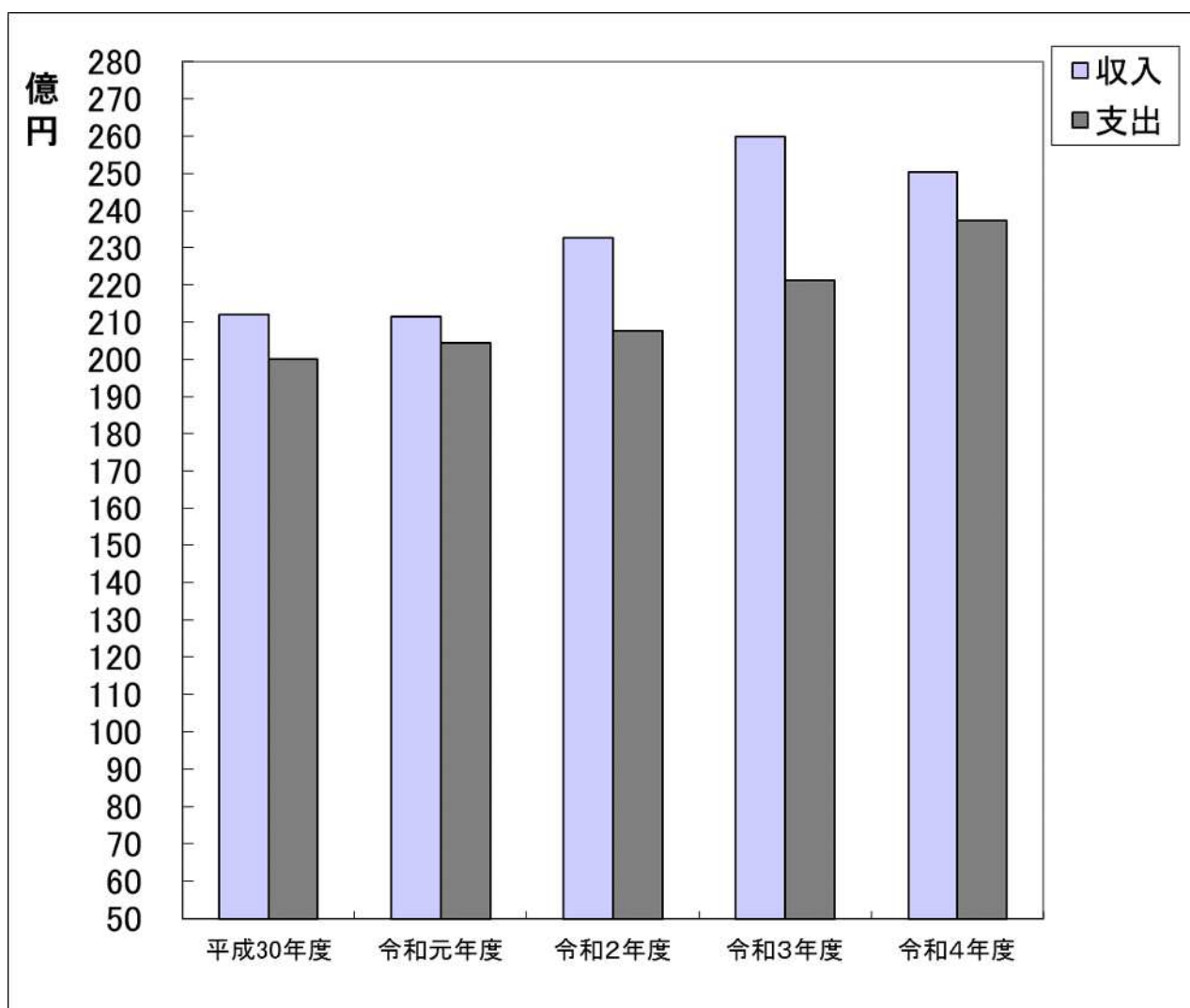
360LINK

VI 經理概要

1 年度別経営収支状況

(単位：千円)

年 度	収 入		支 出		損 益
	決 算 額	指 数	決 算 額	指 数	
平成30年度	21,209,206	100	20,019,365	100	1,189,841
令和元年度	21,160,084	100	20,452,367	102	707,717
令和2年度	23,277,321	110	20,771,768	104	2,505,553
令和3年度	25,983,573	123	22,128,296	111	3,855,277
令和4年度	25,022,498	118	23,717,155	118	1,305,343



2 収入・支出状況

(1) 収益的収入及び支出

収 入

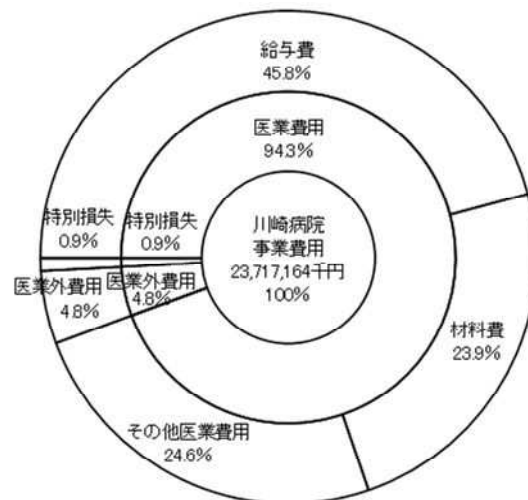
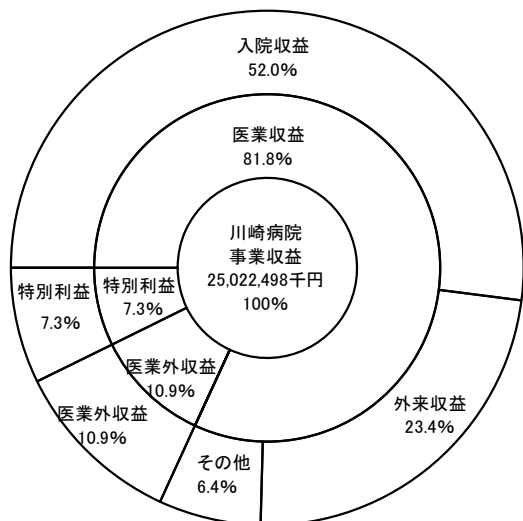
(単位：千円)

科 目	令和3年度		令和4年度	
	決算額	構成比率 (%)	決算額	構成比率 (%)
川崎病院事業収益	25,983,573	100.0	25,022,498	100.0
医業収益	19,071,790	73.4	20,484,650	81.9
入院収益	12,436,828	47.9	13,015,927	52.0
外来収益	5,250,556	20.2	5,855,018	23.4
その他	1,384,406	5.3	1,613,705	6.4
医業外収益	3,351,293	12.9	2,719,483	10.9
受取利息配当金	25	0.0	50	0.0
補助金	409,468	1.6	112,982	0.5
負担金交付金	2,170,451	8.4	1,833,894	7.3
患者外給食収益	0	0.0	179	0.0
長期前受金戻入	390,483	1.5	401,859	1.6
資本費繰入収益	193,192	0.7	175,589	0.7
その他	187,674	0.7	194,930	0.8
特別利益	3,560,490	13.7	1,818,365	7.3

支 出

(単位：千円)

科 目	令和3年度		令和4年度	
	決算額	構成比率 (%)	決算額	構成比率 (%)
川崎病院事業費用	22,128,296	100.0	23,717,154	100.0
医業費用	20,903,346	94.5	22,377,414	94.4
給与費	10,560,330	47.7	10,876,293	45.9
材料費	5,111,683	23.1	5,667,680	23.9
経 費	3,982,626	18.0	4,403,874	18.6
減価償却費	1,096,412	5.0	1,326,121	5.6
資産減耗費	101,349	0.5	48,604	0.2
研究研修費	50,946	0.2	54,842	0.2
医業外費用	1,067,347	4.8	1,134,490	4.8
特別損失	157,603	0.7	205,250	0.9



(2) 資本的收入及び支出

収 入

(単位：千円)

科目	令和3年度		令和4年度	
	決算額	構成比率(%)	決算額	構成比率(%)
川崎病院事業資本的收入	3,213,798	100.0	1,725,565	100.0
企業債	2,098,300	65.3	631,800	36.6
出資金	0	0.0		0.0
固定資産売却代金	0	0.0		0.0
補助金	52,125	1.6		0.0
負担金	1,063,373	33.1	1,093,765	63.4

支 出

(単位：千円)

科目	令和3年度		令和4年度	
	決算額	構成比率(%)	決算額	構成比率(%)
川崎病院事業資本の支出	4,259,120	100.0	2,857,564	100.0
建設改良費	2,265,806	53.2	786,227	27.5
企業債償還金	1,993,314	46.8	2,071,337	72.5
長期借入金償還金	0	0.0	0	0.0

3 年度別一般会計繰入金及び出資金

(単位：千円)

川崎病院事業資本的收入	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
収益的收入 他会計負担金、他会計補助 金、負担金交付金、資本費繰 入収益	3,326,202	3,554,076	3,497,727	3,453,501
資本的收入 (出資金)	0	0	0	0

4 比較貸借対照表

(単位：千円)

科 目	令和3年度 決算額	令和4年度 決算額	増 減	前年度比 (%)	構成比率 (%)	
					令 和 3 年 度	令 和 4 年 度
固定資産	16,520,549	15,895,425	△ 625,124	96.2	58.6	57.1
有形固定資産	16,520,549	15,895,425	△ 625,124	96.2	58.6	57.1
土 地	426,224	426,224	0	100.0	1.5	1.5
建 物	12,105,449	11,760,448	△ 345,001	97.2	42.9	42.2
構築物	47,560	47,384	△ 176	99.6	0.2	0.2
器械備品	3,323,826	2,886,656	△ 437,170	86.8	11.8	10.4
車 両	776	545	△ 231	70.2	0.0	0.0
リース資産	169,745	118,152	△ 51,593	69.6	0.6	0.4
その他	24,381	22,973	△ 1,408	94.2	0.1	0.1
建設仮勘定	422,588	633,043	210,455	149.8	1.5	2.3
無形固定資産	—	—	—	—	—	—
施設利用権	—	—	—	—	—	—
流動資産	11,684,384	11,949,134	264,750	102.3	41.4	42.9
現金預金	7,135,384	6,919,212	△ 216,172	97.0	25.3	24.8
未収金	4,397,742	4,896,165	498,423	111.3	15.6	17.6
貯蔵品	151,258	132,570	△ 18,688	87.6	0.5	0.5
前払金	0	1,187	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—
資産合計	28,204,933	27,844,559	△ 360,374	98.7	100.0	100.0

(単位：千円)

科 目	令和3年度 決算額	令和4年度 決算額	増 減	前年度比 (%)	構成比率 (%)	
					令和 3年度	令和 4年度
固定負債	16,709,717	15,037,356	△ 1,672,361	90.0	47.5	43.1
企業債	12,942,011	11,246,875	△ 1,695,136	86.9	36.8	32.2
リース債務	113,514	63,049	△ 50,465	55.5	0.3	0.2
引当金	3,654,192	3,727,432	73,240	102.0	10.4	10.7
流動負債	6,074,876	5,854,852	△ 220,024	96.4	17.3	16.8
企業債	2,071,337	2,326,936	255,599	112.3	5.9	6.7
リース債務	50,465	50,466	1	100.0	0.1	0.1
未払金	3,051,788	2,540,244	△ 511,544	83.2	8.7	7.3
未払費用	183,444	176,328	△ 7,116	96.1	0.5	0.5
引当金	629,956	676,465	46,509	107.4	1.8	1.9
その他	87,886	84,413	△ 3,473	96.0	0.3	0.2
繰延収益	620,215	962,423	342,208	155.2	1.8	2.8
負債合計	23,404,808	21,854,631	△ 1,550,177	93.4	66.6	62.6
資本金	8,750,047	8,750,047	0	100.0	24.9	25.1
自己資本	—	—	—	—	—	—
借入資本	—	—	—	—	—	—
企業債	—	—	—	—	—	—
剰余金	2,995,974	4,308,451	1,312,477	143.8	8.5	12.3
資本剰余金	98,963	106,097	7,134	107.2	0.3	0.3
受贈財産評価額	30,092	30,092	0	100.0	0.1	0.1
補助金	22,897	22,897	0	100.0	0.1	0.1
負担金	45,974	53,108	7,134	115.5	0.1	0.2
欠損金	△ 2,897,011	△ 4,202,354	△ 1,305,343	145.1	8.2	12.0
当年度未処理決	△ 2,897,011	△ 4,202,354	△ 1,305,343	145.1	8.2	12.0
資本合計	11,746,021	13,058,498	1,312,477	111.2	33.4	37.4
負債資本合計	35,150,830	34,913,130	△ 237,700	99.3	100.0	100.0

※ 各表の数値については、端数処理の関係から合計値が一致しない場合があります。

5 主な経営分析

項 目	令和3年度	令和4年度	
(1) 病床利用率 (%)			
一般 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	63.2	65.2	
精神 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	42.5	44.4	
感染 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	一般に含む		
(2) 一日平均患者数 (人)			
入院 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{診療日数}}$	443.1	458.9	
外来 = $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{診療日数}}$	1,193.6	1243.1	
(3) 外来入院患者比率 (%) $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延入院患者数}} \times 100$	178.6	181.1	
(4) 職員1人当たり患者数 (人)			
医 師	入院 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延医師数}}$	3.3	3.5
	外来 = $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延医師数}}$	9.0	9.5
看護部門	入院 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延看護部門職員数}}$	0.7	0.7
	外来 = $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延看護部門職員数}}$	1.9	1.9
(5) 患者1人1日当たり診療収入 (円)			
入院 = $\frac{\text{入院収益}}{\text{年延入院患者数}}$	76,906	76,053	
外来 = $\frac{\text{外来収益}}{\text{年延外来患者数}}$	18,177	19,383	
(6) 患者1人1日 当たり薬品費 (円) = $\frac{\text{薬品費 (投薬・注射)}}{\text{年延患者総数}}$	6,134	6,567	
(7) 入院患者1人1日当たり給食材料費 (円)			
= $\frac{\text{給食材料費}}{\text{年延入院患者数}}$	699	706	

項 目	令和3年度	令和4年度
(8) 薬品使用効率 (%) = $\frac{\text{投薬注射収入}}{\text{薬品費}} \times 100$	85.4	84.0
(9) 診療収入に対する割合 (%)		
投薬注射収入 $\frac{\text{投薬注射収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$	15.6	16.3
検査収入 $\frac{\text{検査収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$	8.5	8.1
放射線収入 $\frac{\text{放射線収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$	4.1	3.8
(10) 医業収益に対する割合 (%)		
薬品費 $\frac{\text{薬品費}}{\text{医業収益}} \times 100$	17.0	17.9
診療材料費 $\frac{\text{診療材料費}}{\text{医業収益}} \times 100$	9.1	9.1
給与費 $\frac{\text{給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$	55.4	53.1

VII 研究・研修及び実習・講師派遣

1 診療関係研究

各診療科カンファレンス状況

各 科	検討会	抄読会	研究会	各カンファレンス内容
内 科	週1回	週1回	月1回	内科（週2回）総合内科（週1回）循環器（週1回）内視鏡（週1回） リウマチ（週1回）腎臓（週1回）神経（週1回）呼吸器（週1回） 総診（週1回）消化器（週1回）血液（週1回）糖尿病・内分泌（週1回）
精 神 科	週1回			病棟カンファレンス（週1回）医局カンファレンス（週1回） 病棟回診（週1回）
小 児 科 新生児内科	週1回	週1回		神奈川県下10病院合同症例検討会（年1回） 川崎市小児科医会症例検討会（年2回）病棟回診（週2回） カルテ回診（週1回）慶大小児科高橋教授回診（月2回） X線画像カンファレンス（週1回）症例検討会（月2回）
外 科	週1回	月1回		部長回診（週1回）術前・術後カンファレンス（各週1回） 消化器カンファレンス（隔週）救急外科カンファレンス（不定期） 合併症カンファレンス（不定期）
脳神経外科	週4回	適宜		脳神経カンファレンス（週1回）カルテ回診（週1回） 術前カンファレンス（週1回）病棟カンファレンス（週1回）
整 形 外 科	週1回	適宜	年2回	X線画像カンファレンス（週5回）入院患者カンファレンス（週1回） 全体カンファレンス（月1回）
形 成 外 科	週1回	月1回	年2回	術前カンファレンス（週1回）抄読会（月1回）同門会（年2回）
心臓血管外科	週1回			循環器合同（週1回） 術前カンファレンス（週1回）
皮 膚 科	週1回	適宜		皮膚病理（週1回）市皮膚科医会症例検討（年2回） 県7病院症例検討会（年3回）臨床画像カンファレンス（週1回）
泌 尿 器 科	週2回			術前カンファレンス（週1回）病棟カンファレンス（週1回）
産科・婦人科	週1回		年2回	ハイリスク症例検討（週1回）手術症例検討会（週1回） 勉強会（月2回）カルテ回診（週1回） 放射線カンファレンス（年4回）
眼 科	週1回	月2回	年1回	症例検討カンファレンス（週1回）
耳 鼻 咽 喉 科	週4回	月2回		術前カンファレンス（週1回）病棟カンファレンス（週1回） 癌治療カンファレンス（週1回） 耳鼻科・放射線合同カンファレンス（週1回） 耳鼻科・リハ科合同嚥下カンファレンス（月1回）

各 科	検討会	抄読会	研究会	各カンファレンス内容
放射線診断科	週4回	適宜		放射線科画像カンファレンス（週1回） 消化器画像カンファレンス（月2回） 小児科画像カンファレンス（週1回） 産婦人科画像カンファレンス（年4回） 呼吸器画像カンファレンス（週1回） 脳神経カンファレンス（週1回）
放射線治療科	週1回			耳鼻科・放射線治療科合同カンファレンス（週1回） 呼吸器合同カンファレンス（週1回）
麻 酔 科	毎日	月2回		術前カンファレンス（週5回）
リハビリテー ション科		月1回		耳鼻科・リハビリテーション科合同嚥下カンファレンス（月1回） 摂食嚥下ランチ回診、カンファレンス（月2回） 脳神経外科病棟カンファレンス（週1回） 整形外科カンファレンス（医師：週1回、療法士：週2回） SCU部会（月2回） NSTカンファレンス（週1回） NST部会（月1回） NST回診（週2回） 神経内科カンファレンス（週1回）
歯科・口腔外科	週1回	適宜	年3回	カンファレンス（週1回） 川崎病院症例検討会（年3回）
救 急 科	週14回	月4回		総合カンファレンス（月4回）、症例検討会（週14回） 救急科・外科合同カンファレンス（適時）
病理診断科	毎日			症例検討会（毎日）、消化器カンファレンス（月1回）

2 研究交流会 令和5年2月27日(月)・28日(火) 両日 17:30～19:30

Web配信・デジタルポスター

演 題	演 者	所 属
リハビリテーション科における病棟リーダー制度について	中村優太 門脇優 堀内晋馬 間山啓太 芳賀浩太郎 榎吉彦 野田剛 阿部玲音	リハビリテーション科
新人看護師教育 ～臨地実習経験の少ない看護師に向けた副主任会の取り組み～	三津田舞 澤田かおり	看護部 (副主任会)
川崎市健康安全研究所研修報告 ～COVID-19 流行下における他の感染症の流行状況～	鈴木涼太 中原日菜 松山千紘 眞鍋佳世 秋山倫人 丸山絢 津村和大 三崎貴子 岡部信彦	臨床研修医 (2年次) 川崎市健康安全研究所 教育指導部
医師の働き方改革に向けたタスクシフトの1例 ～発熱外来における業務効率化について～	安藤孝 檜林敦 増村美津子 内間智恵 塚田ひな 中村かおり 廣瀬朋美 荒井美希 坂本光男	内科 医療情報システム管理室 庶務課
活動報告・護研究委員会・演題登録を推進する取り組み 看護研究ワークブック作成	鳥海幸恵 塩津未季 高橋貴子 新野一世	看護部
病院図書室における文献取り寄せサービスの見直し ～NACSIS-CAT/ILL 参加による～	相澤まゆみ 荒木亜希子	川崎病院図書室 井田病院図書室
緊急輸血症例の解析を通じた健全経営への貢献	三津田太郎 布川沙也花 中村亜美 安部さやか 津村和大	検査科
リハビリテーション科予算会議の実施 ～コスト意識を高めるために～	榎吉彦 松本博樹 佐々木智 岩倉努 山本達也 野田剛 阿部玲音	リハビリテーション科 庶務課 (経理係)

ハイリスク妊婦への助産師としての関わり	上野史絵 草皆祥子	看護部 (8階北病棟)
眼の水晶体の等価線量限度改正に伴う当院の取り組みについて	桑原理沙 齋藤敦子 富永哲平 勝盛祐子 小野欽也 池本孝司	放射線診断科
看護師による抗がん剤注射穿刺の現状と課題 ～静脈注射レベル3制度を活用して～	渡邊恭子 佐々木千賀 志水亜弥 政氏佳奈	看護部 (14階南病棟・外来 治療センター)
調剤支援システム更新と医療安全への寄与	荒井園枝 橋本春乃 小林和寿夫	薬剤部
ICU・CCU病棟の働き方改革 ～ICU看護師のリリーフ業務における意識改革の取り組み～	渡邊いづみ 長田さやか 森田南美恵	看護部 (ICU・CCU病棟)
当病棟の業務改善の取り組み ～洗浄液を使用した陰部洗浄を試みて～	小高夕子 大川順子 佐藤江利子	看護部
10階病棟デイルームのリハビリテーション実施における環境整備の取り組み	芳賀浩太郎 野田剛 甲斐瑞恵 鶴田典子 阿部玲音	リハビリテーション科 医療安全管理室
トイレ関連転倒防止に向けた取り組み ～ピクトグラムを活用して～	熊崎真由美	看護部 (12S病棟)
入院センターにおける栄養士業務の効果	小笠原美穂 清水谷弘美 小野玲子 太田博子 入院センター 看護師	食養科 患者サポートセンター
当院における検体検査実施状況の俯瞰	林祐美子 中尾捷 三谷貴大 安部さやか 津村和大	臨床研修医 (1年次) 検査科
血液透析患者に血液透析をせず持続的血液透析濾過を施行した原因究明と対策の検討	巻田浩輝 黒長俊也 笹屋賢史 西根啓太 芝真佐樹 川口幸大 井汲康典 山口和哉 森田慶久	MEセンター 麻酔科
整形外科術後患者において血小板増多症による偽性高カリウム血症を生じた一症例	本間優希 井上彰大	薬剤部

3 看護研究発表会

第 25 回事例研究発表会（1 日目） 令和 5 年 1 月 21 日（土）8:30～16:10

講師 川崎市立看護大学 教授 廣川 聖子 先生

がん告知された終末期がん患者の受容過程に応じた苦痛緩和ケア	13 階北病棟 佐々木 百華
入退院を繰り返す高齢慢性心不全患者へのセルフケア支援	13 階北病棟 竹尾 麻衣
経口摂取を望みながら胃瘻造設をした患者との関わりを振り返って学んだこと	13 階北病棟 米倉 凜
活動意欲が低下している患者に対しての看護介入 ～患者との食事場面の関わりから振り返る～	12 階南病棟 鶴岡 珠海
抑制具を使用している患者に対しての看護介入	12 階南病棟 清水 結衣
パーキンソン病患者が DBS 手術後にせん妄になった事例について ～術後せん妄への対応を考える～	12 階南病棟 有田 雅

講師 川崎市立看護大学 講師 五味 麻美 先生

新型コロナウイルス感染症により長期隔離での入院となった高齢女性との関わり	13 階南病棟 福原 華月
終末期患者との関わり - 死の受容過程について振り返る -	13 階南病棟 一戸 小粋
脳腫瘍患者の強み＝個別性を用いた看護について ～多職種で目標共有を行った看護を振り返って～	12 階南病棟 糸山 詩乃
緊急帝王切開で早産となった母親への関わりを振り返る	8 階北病棟 小林 碧月

講師 川崎市立看護大学 教授 湊田 英津子 先生

手術前の血糖コントロールが必要な 2 型糖尿病教育入院患者との関わり の検討	14 階北病棟 小宮 未来
拒否的な言動がみられた透析導入患者との関わり	14 階北病棟 長瀬 未来
血液透析導入患者の食事に対する不安を軽減する看護	14 階北病棟 岡田 泉
重度認知症高齢者の胃瘻造設時の代理決定支援に必要な看護師の 能力	13 階南病棟 五十嵐 令
患者家族が排泄と食事の管理方法について理解し、在宅療養を継続 していくための病棟看護師の関わりと退院指導	13 階南病棟 佐野 碧
ADL が低下した患者に対して自己効力感の向上につながる関わり について	13 階南病棟 中嶋 優海

講師 川崎市立看護大学 講師 永田 智子 先生

認知機能障害患者のセルフケア計画の重要性	12 階北病棟 梅澤 あかり
----------------------	----------------

喉頭摘出後の患者への看護 ～心理的要因から繰り返し「苦しい」と訴える患者との関わりを振り返る～	12 階北病棟 遠山 留那
暴言・暴力が出現するせん妄患者に対する看護の振り返り	10 階北病棟 内山 亜里紗
頸髄損傷患者のADL向上に向けた看護の重要性 全介助の生活から食事動作確立に向けた看護の重要性	10 階北病棟 三宅 瑛莉
NICU・GCU に入院している児と悪性腫瘍を罹患している母親・その家族の関わり	8 階西病棟 大内 藍子
面会頻度の少ない多産婦に対する育児指導の有効性の検討	8 階西病棟 岡本 菜生

第 25 回事例研究発表会 (2 日目) 令和 5 年 1 月 28 日 (土) 8:30～17:45

講師 川崎市立看護大学 教授 糸井 裕子 先生

敗血症後の意識障害のある患者へのケア ～ケア拒否のある高齢患者との関わりについて～	11 階北病棟 須貝 桃奈
余命宣告を受けた患者の心理過程に沿った看護師の関わりについて	11 階北病棟 住吉 真奈
度重なる内視鏡治療の後に再手術となった患者が抱く不安に対する看護	11 階北病棟 西久保 彩加
アルツハイマー型認知症のある患者の術後せん妄に対する看護介入について	11 階南病棟 松野 優生
肺転移に対する化学療法中に多重の混乱が生じている患者との関わり ～ユマニチュードの介入を試みて～	11 階南病棟 立石 榛奈
入院後せん妄により認知機能の低下をきたした患者への看護 ～抑制が必要な患者との関わり～	11 階南病棟 小菅 彩菜美

講師 神奈川県立保健福祉大学 准教授 小林 珠実 先生

食事摂取を拒否する認知症患者への対応について ～BPSD 症状のある患者との関わりから自身の看護を振り返る～	10 階南病棟 武井 美沙音
認知症患者の看護を振り返る ～BPSD を緩和させる関わり～	10 階南病棟 齊藤 あみ
認知症患者との関わりを通して看護について振り返る	10 階南病棟 渡邊 伊万里
先天奇形を持つ児を出産した母親との関わり ～口唇口蓋裂を持つ児と母親の入院中のケアを振り返って～	8 階北病棟 小山 那奈
マタニティブルーとなった初産婦に対する産後の支援の在り方	8 階北病棟 平林 知佳
術後学童児の離床が遅れた事例に対する看護	8 階南病棟 勝山 彩枝子

講師 神奈川県立保健福祉大学 准教授 吉田 安子 先生

食事摂取を拒否する認知症患者への対応について ～BPSD 症状のある患者との関わりから自身の看護を振り返る～	10 階南病棟 武井 美沙音
認知症患者の看護を振り返る ～BPSD を緩和させる関わり～	10 階南病棟 齊藤 あみ
認知症患者との関わりを通して看護について振り返る	10 階南病棟 渡邊 伊万里
先天奇形を持つ児を出産した母親との関わり ～口唇口蓋裂を持つ児と母親の入院中のケアを振り返って～	8 階北病棟 小山 那奈
マタニティブルーとなった初産婦に対する産後の支援の在り方	8 階北病棟 平林 知佳
術後学童児の離床が遅れた事例に対する看護	8 階南病棟 勝山 彩枝子

講師 川崎市立看護大学 教授 田中 千代 先生

がん性疼痛を抱える患者との関わりを振り返って ～母国語が日本語以外である患者との関わりを通して～	14 階南病棟 齊藤 愛里沙
排泄ケアに対する羞恥心に配慮したケアについて検討した症例	14 階南病棟 山口 紗季
熱傷により入院した幼児の母親との関わり～退院支援に注目して～	8 階南病棟 高橋 美夢
ストレスを抱えた患児に対する看護 ～AFBN, UTI によって長期入院となった2歳児との関わりを通して～	8 階南病棟 日向 萌絵
ICU 入室時から看護師ができる呼吸リハビリテーションの実践 ～呼吸器疾患を既往にもつ患者の事例を通して～	ICU・CCU 病棟 平良 桃子
治療を拒否し自傷他害がある患者との関わり ～LEAP を用いた分析～	ICU・CCU 病棟 山田 明依

講師 川崎市立看護大学 講師 青木 恵美子 先生

患者の意思決定支援を引き出す関わり ～ケアに抵抗を示す患者の思いを汲んだ看護～	14 階北病棟 高橋 佳子
退院支援に向けた看護師の役割と多職種連携～治療により長期臥床していた患者が自宅退院できたまでの関わりを振り返って～	14 階北病棟 海和 青空
初回化学療法を受ける患者との関わりを通して学んだこと ～治療の話を拒否する患者の個別性に合わせた対応～	14 階南病棟 工藤 喜子
終末期の血液内科患者との関わりを通して学んだこと ～患者の意思決定を支える看護師の役割について～	14 階南病棟 鶴岡 弘菜
理解を得る事が難しい患者との関わりを通じて学んだこと ～A 氏に対する個別性のある看護とは～	10 階北病棟 武 鞠奈
認知症高齢者に対する尊厳を保持した関わり ～帰宅願望の強い患者への看護を振り返って～	手術室 関根 萌

第77回看護研究発表会 令和5年1月24日(火) 17:30~19:15

講師 武蔵野大学看護学部長 看護学研究科長 教授 香春 知永 先生

1. 手術室、入院センター、病棟における術前の患者に必要な看護についての認識の違い ～マンダラート発想法を用いて～	手術室 永田 修一
2. 内科病棟におけるナースコール・センサーコール呼出頻度の実態調査 ～ナースコールシステムデータを業務改善につなげるために～	13階南病棟 佐久間 祐樹
3. 当院ICU病棟で発生した動脈ラインに関連する医療関連機器圧迫創傷の要因検討	ICU病棟 小林 恵利
4. 周産期メンタルヘルスケアの研修によるスタッフの認識の変化 ～ゴールベースシナリオ(GBS理論)を活用して～	8階北病棟 草皆 祥子
5. 看護研究題材としての「BSC目標シート」の有用性の検討	看護研究委員会 塩津 未季

4 研 修

令和4年度 川崎市病院局主催看護職員研修 実績				
研修名		日時	講師	受講者数
新人研修	新規採用看護職員研修	4/4(月) 4/5(火)	病院局 事業管理者、局長他	66
	夜勤に向けたフィジカルアセスメント研修①	6/8(水)	井田病院 主任 吉田 龍也	58
	専門職としての学び	9/2(金)	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センターほか非常勤講師 植垣 一彦	58
	新人のためのフィジカルアセスメント研修②	12/10(土)	井田病院 主任 吉田 龍也	52
	2年目に向けたステップアップ研修	令5/2/3(金)	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センターほか非常勤講師 植垣 一彦	49
2年目研修	受持ち看護師役割研修	6/21(火)	川崎病院 主任 久野 昭子	53
	受け持ち看護師のための フィジカルアセスメント研修	11/10(木)	井田病院 主任 吉田 龍也	52
リーダー育成研修	リーダー役割準備研修①(概論編)	11/24(木)	東京医療保健大学 教授 末永 由里	45
	リーダー役割準備研修②(実践編)	12/2(金)	川崎病院 主任 前田 奈緒美	45
	チームにおけるリーダー役割研修	10/1(土)	国立看護大学校 講師 藤澤 雄太	14
	看護単位リーダー研修① (令和4年度担当者)	令4/3/10(金)	東京医療保健大学 教授 末永 由里	19
	看護単位リーダー研修②	6/17(金)	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センターほか非常勤講師 植垣 一彦	19
	看護単位リーダー研修③	12/16(金)	両院看護部 ファシリテーター	19
指導者育成教育	新人実地指導者研修① (令和4年度担当者)	令4/3/4(金)	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センターほか非常勤講師 植垣 一彦	25
	新人実地指導者研修②	9/16(金)	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センターほか非常勤講師 植垣 一彦	21
	新人実地指導者研修③	令5/2/17(金)	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センターほか非常勤講師 植垣 一彦	19
	臨地実習指導者研修①	4/22(金)	川崎市立看護短期大学 准教授 牛尾 陽子	19
	臨地実習指導者研修②	令5/2/9(木)	川崎市立看護短期大学 准教授 牛尾 陽子	17
看護記録研修	看護記録監査研修	7/8(金)	前駒沢女子大学教授 滝島 紀子	23
	看護過程研修(基礎編)	7/9(土)	川崎市立看護大学 名誉教授 野村 明美 教授 佐藤 文	58
	看護過程研修(応用編)	5/28(土)	川崎市立看護大学 名誉教授 野村 明美 教授 佐藤 文	53
	看護過程研修(臨床推論)	10/15(土)	川崎市立看護大学 名誉教授 野村 明美 教授 佐藤 文	21
看護倫理研修	看護倫理研修	令5/1/30(月)	聖路加国際大学 教授 鶴若 麻理	18

令和4年度 川崎病院院内研修実績

No.	研修名	研修内容	実施年月日	参加者人数	会場	講師
1	新規採用看護職員入職ガイダンス	病院長あいさつ 副院長兼看護部長講話 看護部概要・看護部組織活動 庶務課オリエンテーション 教育研修の説明 電子カルテ基本操作 防災 感染管理 社会人基礎力	4/1 4/6 4/7	66名	講堂	病院長 副院長兼看護部長 副看護部長 庶務課、 管理係
2	新規採用看護職員研修「看護技術演習」	移動介助 体位変換ポジショニング 排泄介助 食事介助 経腸栄養 酸素吸入 ネブライザー 吸引 静脈注射 採血 B L S	4/11 4/18 4/25 5/9 5/13 5/30	66名	講堂	認定看護師会 副主任会 院内救急部会
3	新規採用看護職員研修「与薬における安全対策」	薬剤管理の基礎知識 安全な与薬方法 安全な看護を提供するという こと 安全に機器を操作する方法 安全講堂への決意表明	5/23	63名	講堂	薬剤部 医療安全管理室 安全・感染管理委員 会 認定看護師会
4	看護補助者活用推進研修	看護補助者の役割・業務 業務移譲する際の判断基準 看護チームとしての協働	5/2～ 5/27	603名	ナーシングス キル動画視聴	看護師長
5	急変時対応研修 A C L S 上級編	患者急変時のマネジメントに ついて講義、演習	6/24	23名	講堂	救急看護認定看護師
6	新規採用看護職員研修 「医療関連感染を防止 するために」	標準予防策 経路別予防策 手指衛生 医療廃棄物 清潔操作	6/6	59名	講堂	感染対策室 感染管理認定看護師
7	患者家族の思いに寄り 添うことができる看護 師の育成研修 「卒後3年目のための家 族看護研修」①②	家族看護とは 事例検討	①6/7 ②12/6	43名	7階大会議室	集中ケア認定看護師
8	意思決定支援の基本を 学ぶ研修	意思決定支援の重要性 意思決定支援における看護師 の役割	6/10～ 6/30	196名	ナーシングス キル動画視聴	老人看護専門看護師
9	新規採用看護職員研修 「静脈注射試験」	解剖生理および実施上の注意 薬理作用と投与方法の注意	6/13	59名	講堂	看護教育委員会
10	新規採用看護職員研修 「KYT：転倒転落」	医療KYTについて KYT事例から	6/30	58名	7階講堂	医療安全管理室
11	急変時対応研修 A C L S 中級編	救急時のリーダーシップがと れるよう知識、演習	7/6	30名	講堂	救急看護認定看護師
12	新規採用看護職員研修 「認知症看護」	認知症の中核症状・周辺症状 認知症患者の対応方法	7/11	60名	講堂	認知症看護認定看護師
13	コミュニケーション スキル研修①②	聴く力、伝える力を学ぶ	①8/5 ②12/17	54名	7階講堂	脳卒中リハビリテー ション認定看護師
14	意思決定支援が実践で きるようになるための 研修①②	もしバナゲームによる意思決 定の体験 事例ロールプレイ カードリフレクション	①8/29 ②5年 1/13	23名	講堂	緩和ケア認定看護師

15	重症度、医療・看護必要度研修	重症度、医療・看護必要度の基礎（必要度の意義、評価項目の構成、評価方法） 重症度、医療・看護必要度の評価と記録	9/12～ 10/31	620名	ナーシングスキル動画視聴	看護記録委員会
16	急変時対応研修 ACLS初級編	気管内挿管 気道確保	9/30	59名	7階講堂	救急看護認定看護師
17	看護補助者研修 「看護補助者の業務上の責任」	看護補助者の役割 看護補助者の業務範囲 看護補助者の基本姿勢	10/1～ 12/28	68名	ナーシングスキル動画視聴	主任会
18	院内留学	他部署での看護の経験を通じて自身の課題やキャリアデザインを考える	10月～ 2月 (2日間)	34名	配属部署以外の部署	看護教育委員会
19	入退院を繰り返す患者の看護ケア研修①②	心不全患者のアセスメント 高齢者の特徴の理解 心不全の慢性期・終末期のケア	①10/4 ②11/8	14名	7階大会議室	集中ケア認定看護師 老人看護認定看護師
20	急変時対応研修 ACLSフォローアップ	様々な急変事例を用いて演習	11/28	51名	講堂	救急看護認定看護師
21	キャリアアップニュース	研修報告・最新の知識	5年 3/7	37名	講堂 Webex併用	認定看護師教育課程 修了看護師 特定行為研修修了看護師

5 各科別実習状況報告

科・部	学校・病院名	人数	科・部	学校・病院名	人数
内科	旭川医科大学	1名	内科	広島大学	7名
	愛媛大学	3名		福井大学	1名
	大阪大学	2名		福岡大学	1名
	大阪公立大学	1名		北京大学	2名
	岡山大学	3名		北海道大学	3名
	鹿児島大学	1名		宮崎大学	2名
	金沢大学	3名		山形大学	1名
	関西医科大学	1名		山口大学	1名
	北里大学	6名		山梨大学	1名
	岐阜大学	3名		横浜市立大学	9名
	九州大学	3名		琉球大学	1名
	熊本大学	1名	外科	秋田大学	2名
	群馬大学	3名		京都大学	1名
	慶應義塾大学	45名		慶應義塾大学	3名
	高知大学	2名		札幌医科大学	1名
	神戸大学	1名		滋賀医科大学	1名
	国際医療福祉大学	3名		筑波大学	1名
	コメニウス大学	1名		東京医科大学	1名
	佐賀大学	1名		東京医科歯科大学	1名
	滋賀医科大学	1名		東京慈恵会医科大学	2名
	島根大学	1名		東北大学	1名
	順天堂大学	5名		富山大学	1名
	昭和大学	4名		新潟大学	1名
	信州大学	3名		日本大学	1名
	千葉大学	4名		日本医科大学	2名
	筑波大学	3名		北京大学	1名
	東海大学	4名		北海道大学	2名
	東京大学	1名		山口大学	1名
	東京医科大学	2名		琉球大学	1名
	東京慈恵会医科大学	10名		呼吸器外科	川崎医科大学
	東京女子医科大学	5名	滋賀医科大学		1名
	東邦大学	3名	昭和大学		1名
	東北大学	2名	福島県立医科大学		1名
	名古屋大学	3名	北海道大学		1名
名古屋市立大学	1名	心臓血管外科	横浜市立大学	1名	
奈良県立医科大学	1名	整形外科	愛媛大学	2名	
新潟大学	4名		岡山大学	1名	
日本大学	5名		香川大学	1名	
日本医科大学	2名		慶應義塾大学	2名	
浜松医科大学	1名		高知大学	1名	
弘前大学	3名		国際医療福祉大学	2名	

科・部	学校・病院名	人数
整形外科	札幌医科大学	1名
	昭和大学	2名
	千葉大学	1名
	東京大学	1名
	東京医科大学	1名
	東京医科歯科大学	1名
	東京女子医科大学	1名
	東邦大学	1名
	東北大学	3名
	日本大学	1名
	日本医科大学	1名
	弘前大学	1名
	山形大学	1名
	山梨大学	1名
	横浜市立大学	1名
脳神経外科	九州大学	1名
	昭和大学	1名
	富山大学	1名
	新潟大学	1名
精神科	金沢大学	1名
	国際医療福祉大学	1名
	産業医科大学	1名
	千葉大学	1名
	北海道大学	1名
	山形大学	1名
小児科	秋田大学	1名
	鹿児島大学	1名
	金沢医科大学	1名
	熊本大学	1名
	慶應義塾大学	3名
	高知大学	1名
	順天堂大学	1名
	昭和大学	1名
	信州大学	3名
	聖マリアンナ医科大学	3名
	東海大学	1名
	東京大学	2名
	東京医科大学	1名
	東北大学	3名
	徳島大学	1名
	浜松医科大学	1名
	弘前大学	1名
	広島大学	1名
福島県立医科大学	1名	

科・部	学校・病院名	人数
小児科	北京大学	1名
	北海道大学	4名
	横浜市立大学	4名
泌尿器科	慶應義塾大学	1名
産婦人科	愛媛大学	1名
	金沢大学	1名
	北里大学	2名
	京都大学	1名
	慶應義塾大学	6名
	高知大学	1名
	国際医療福祉大学	2名
	昭和大学	1名
	聖マリアンナ医科大学	1名
	千葉大学	3名
	東海大学	1名
	東京大学	1名
	東京医科大学	1名
	東京慈恵会医科大学	3名
	東邦大学	1名
	東北大学	1名
	日本医科大学	2名
	兵庫医科大学	1名
福島県立医科大学	1名	
北京大学	1名	
山形大学	1名	
山口大学	1名	
眼科	杏林大学	1名
耳鼻咽喉科	慶應義塾大学	4名
リハビリテーション科	兵庫医科大学	1名
麻酔科	京都府立医科大学	1名
	熊本大学	1名
	横浜市立大学	1名
救急科	秋田大学	1名
	旭川医科大学	1名
	金沢大学	1名
	金沢医科大学	1名
	熊本大学	1名
	群馬大学	1名
	慶應義塾大学	12名
	国際医療福祉大学	1名
	札幌医科大学	1名
	産業医科大学	1名
	島根大学	2名
	順天堂大学	4名

科・部	学校・病院名	人数
救急科	昭和大学	4名
	信州大学	1名
	聖マリアンナ医科大学	1名
	東海大学	1名
	東京大学	1名
	東京医科歯科大学	3名
	東京慈恵会医科大学	2名
	東京女子医科大学	1名
	東邦大学	2名
	東北大学	2名
	鳥取大学	1名
	長崎大学	1名
	日本医科大学	1名
	浜松医科大学	3名
	福島県立医科大学	1名
	北海道大学	2名
	山梨大学	1名
	横浜市立大学	3名
琉球大学	1名	

※ 平成28年度から、現役研修医の見学は数値から除外している。

VIII 臨 床 研 修 概 要

臨床研修概要

1 経緯

(1) 病院の沿革・特徴

昭和2年、伝染病組合病院が川崎市立病院に改称、昭和11年、大規模改築、昭和20年6月1日に総合病院となり、その後建物、設備、診療科の増設を逐次行い、市民の医療の中核を担う病院に発展してきました。

昭和40年、救急指定病院となり、昭和42年には研修医制度が発足しました。それ以降、各学会の指定医の研修施設に指定され、昭和63年には、外国人医師等を対象とした臨床修練指定病院となりました。

また、平成10年4月から総合診療科を設置したことに伴い、新たに後期臨床研修も実施しています。

なお、平成7年から全面改築を進めてきましたが、平成10年11月病棟・中央診療棟が完成し、そして平成12年4月、新外来棟がオープンしたことにより、当院を取り巻く医療環境は、大幅に改善されたばかりでなく、導入された総合医療情報システムや搬送システムが完全に稼働し、機能面でも一段とアップしました。

(2) 初期臨床研修

当院の臨床研修制度は、昭和42年4月に発足し、既に55年が経過しています。最初の10年間は研修期間3年のレジデント制度として行われ、昭和52年からは2年間の臨床研修制度となりました。

また、当初の12年間は学制と同じく4月に始まり、3月に終わる制度でありましたが、研修医内定者のうち医師国家試験に不合格となるものがあり、厚生省の指導や欠員を配慮して昭和54年からは6月開始・5月修了に改められました。そして、平成5年に至り医師国家試験の期日が3月に変更されたことに伴い、5月開始・4月修了という新たな制度に生まれ変わりました。

昭和50年度までは単一専門科か専門科と関連する他の1から2科を研修するのみでしたが、昭和51年度からは専門科に重点を置きながらも、広く各科を研修するローテイト方式を採用してきました。

これは平成16年度から実施された卒後臨床研修制度を先取りしていたものであったといえます。

平成16年5月からは新たな卒後臨床研修制度義務化に伴って、単独型臨床研修病院として初期研修医各学年10名を受け入れ、更に川崎市立井田病院に対する協力型病院として井田病院の臨床研修医（当院ローテイトは卒後2年目）を指導しています。

平成22年12月1日に卒後臨床研修評価機構の認定を受けました。以後、平成24年、平成30年、令和4年に更新認定を受けています。

新制度実施後、多数の医学生から応募があるのは、当院がこれまで取り組んできた臨床研修制度が高く評価されたものと自負しつつも更に医療安全管理・倫理面も含めた教育内容を拡充し、優れた臨床医の育成を図りたいと考えています。

ア 臨床研修医年度別 採用者数

年 度	応 募 者	採 用 者	修 了	備 考
昭和44	5	3		
45	14	7	3	
46	19	4	2	
47	18	6	8	
48	17	8	4	
49	24	6	3	
50	39	10	7	
51	37	5	5	3年制→2年制度へ移行
52	26	8	5	
53	23	10	11	
54	42	10	11	
55	17	10		
56	12	3	9	
57	9	5	8	
58	4	3	2	
59	11	5	5	
60	11	1	11	
61	9	5	1	
62	6	2		
63	8	2	4	
平成元	12	8	2	
2	9	6	1	
3	9	7	6	
4	13	10	6	
5	12	7	5	
6	10	9	8	
7	11	11	6	
8	21	10	7	
9	13	6	8	
10	12	9	10	
11	16	9	4	
12	16	11	5	
13	14	10	8	
14	11	10	8	
15	8	7	7	
16	84	10	6	
17	126	9	4	
18	83	9	9	
19	103	10	9	
20	83	9	9	
21	62	10	9	
22	67	10	10	
23	79	10	10	
24	96	10	10	
25	77	10	10	
26	51	10	10	
27	73	9	10	
28	88	10	9	
29	74	10	10	
30	74	10	10	
令和元	53	10	10	
2	73	10	10	
3	136	10	10	
4	204	9	10	
計	2224名	428名	365名	

現在、教育指導部が臨床研修の適正な推進と質向上を包括的に担い、その遂行状況を研修管理委員会が確認することで、支援と管理のバランスがとれた研究を提供しています。

令和4年は、10名の定員に対して過去最高の204名が当院の臨床研修医採用試験に出願し、大学病院を含めた全ての医師臨床研修病院の中で、第1希望者数・定員充足率ともに全国第1位でした（医師臨床研修マッチング協議会公表値による）。

イ 専攻医年度別 採用者数

年 度	応募者数	採 用	備 考
13	13	12	
14	8	8	
15	10	10	
16	13	10	
17	11	11	
18	13	12	
19	27	25	
20	44	36	
21	38	34	
22	32	29	
23	34	27	
24	38	34	
25	31	30	
26	40	40	
27	46	45	
28	38	37	
29	37	37	
30	39	39	
令和元	42	42	
令和2	37	35	
令和3	32	32	
令和4	52	51	

ウ 臨床研修医出身校別採用者数

国・公立大学

私立大学等

(4年4月1日現在)

出身校	年度							計	出身校	年度							計
	昭和42~ 平成29	30	31	令和2	3	4				昭和42~ 平成29	30	31	令和2	3	4		
北海道大	5				1		6	岩手医大	2						2		
旭川医科大	1						1	自治医大	7						7		
札幌医科大	1						1	埼玉医大	3						3		
弘前大	5						5	杏林大	7						7		
東北大	4						4	慶應義塾大	98	8	5	5	2	4	122		
秋田大	7						7	順天堂大	3						3		
山形大	2		1			1	4	昭和大大	8		1				9		
福島県医大	1			1			2	帝京大大	2						2		
筑波大	5		1			1	7	東京医科大	8				1		9		
群馬大	4						5	東京女子医大	28		1	3	2	1	35		
千葉大	15				1		16	東京女子医大	8			1			10		
東京大	5				1		6	東邦大	15	1					16		
東京医科歯科大	4	1					5	日本大	4						4		
横浜市立大	3						3	日本医大	3						3		
新潟大	4						4	北里大	7						7		
富山大	2						2	聖マリアンナ大	15				1		16		
福井大	3						3	東海大	13						13		
山梨大	1						1	金沢医大	2						2		
岐阜大	2						2	愛知医科大	2						2		
松本医科大	4						4	藤田医科大	10						10		
名古屋大	2						2	大阪医科大	2						2		
名古屋大	3						3	関西医科大	3						3		
三重大	3						3	兵庫医科大	1						1		
滋賀大	1						1	川崎医科大	2						2		
京都府大	1						1	久留米大	2						2		
大阪大	1						1	産業医科大	5						5		
神戸大	3						4	その他(海外等)	2				1		3		
奈良大	1						1								0		
島根大	1						1								0		
岡山大	2						2								0		
山口大	2						2								0		
徳島大	2						2								0		
香川大	1						1								0		
高知大	2						2								0		
九州大	0		1				1								0		
佐賀大	1						1								0		
長崎大	5						5								0		
熊本大	2						2								0		
鹿児島大	1						1								0		
琉球大	2						2								0		
計	114	1	3	1	4	3	126	計	262	9	7	9	6	7	300		

エ 初期臨床研修修了者（令和3年度生）

修了年月日	氏名	出身校
令和5年3月31日	秋山 倫人	千葉大学
令和5年3月31日	加藤 亜美	慶應義塾大学
令和5年3月31日	鈴木 涼太	東京慈恵会医科大学
令和5年3月31日	槌野 由香里	北海道大学
令和5年3月31日	豊原 雅人	群馬大学
令和5年3月31日	中原 日菜	東京女子医科大学
令和5年3月31日	畑崎 祐志	東京大学
令和5年3月31日	松山 千紘	東京医科大学
令和5年3月31日	眞鍋 佳世	慶應義塾大学
令和5年3月31日	三浦 優花	東京慈恵会医科大学

<2年以上研修を受けた専攻医>（※ 1年6か月以上2年未満の者を含む。）

・林 浩一 ・船 曳 隼 大 ・安 部 恭 嗣 ・中 間 麻 矢 子 ・格 谷 雅 徳 子 ・新 川 紗 由 香 惠
 ・竹 内 玲 衣 ・宮 下 翔 平 ・高 原 美 希 ・藤 田 夏 樹 ・天 笠 愛 子 ・杉 真 惠
 ・堀越 雄一郎

<1年間研修を受けた専攻医>（※ 6か月以上1年未満及び1年6か月未満の者を含む。）

・大曾根 史 織 ・熊 谷 聡 佑 ・古 田 島 太 希 ・嶋 貫 倉 佳 奈 子 ・桃 原 理 子 ・永 岡 茉 莉 奈
 ・溝 部 政 仁 ・竹 林 康 幸 ・中 安 美 沙 ・朝 倉 啓 友 ・原 修 平 ・阪 本 陽 介
 ・安 藤 拓 仁 ・金 子 弘 樹 ・今 本 多 計 臣 ・竹 之 下 真 一 友 ・伊 藤 修 平 ・永 塚 樹
 ・鈴木 美 里 ・太 田 真 右 郎 ・高 橋 美 歩 ・古 澤 恭 平 ・可 児 圭 丞 ・阿 久 津 朱 伽 史
 ・宮 川 明 大 ・松 本 薫 優 希 ・小 藤 森 貴 大 ・蒔 井 美 彩 人 ・渦 川 真 優 子 ・長 谷 川 岳 千
 ・田 中 祥 子 ・速 見 優 希 ・藤 井 茜 浩 ・酒 井 浩 人 ・古 川 貴 子 ・沓 水 千 尋
 ・田 中 健 太 ・大 島 千 穂

オ 在籍する臨床研修医（令和4年4月1日現在）

2年次生（令和3年度生）		1年次生（令和4年度生）	
氏名	出身校	氏名	出身校
秋山 倫人	千葉大学	石井 達也	慶應義塾大学
加藤 亜美	慶應義塾大学	高野 すみれ	東京慈恵会医科大学
鈴木 涼太	東京慈恵会医科大学	坂野 彰哉	神戸大学
槌野 由香里	北海道大学	佐藤 佑樹	慶應義塾大学
豊原 雅人	群馬大学	施賀 皓内	台北医学大学
中原 日菜	東京女子医科大学	仲尾 捷	慶應義塾大学
畑崎 祐志	東京大学	長竹 茉奈	筑波大学
松山 千紘	東京医科大学	林 祐美子	山形大学
眞鍋 佳世	慶應義塾大学	三谷 貴大	慶應義塾大学
三浦 優花	東京慈恵会医科大学	山内 遥	聖マリアンナ医科大学

カ 在籍する専攻医(令和4年6月1日現在)

4年次生以上			3年次生		
志望科	氏名	出身校	志望科	氏名	出身校
内科	安部 恭嗣	信州大学	内科	大曾根 史織	名古屋市立大学
内科	朝倉 啓友	北里大学	内科	熊谷 聡佑	慶應義塾大学
内科	原田 修平	自治医科大学	内科	古田島 太希	慶應義塾大学
内科	船曳 隼大	東京医科大学	内科	嶋貫 佳奈子	福島県立医科大学
内科	竹林 康幸	東京医科大学	内科	桃原 理子	東邦大学
内科	中安 美沙	東京慈恵会医科大学	内科	永岡 茉莉奈	慶應義塾大学
外科	安藤 拓	慶應義塾大学	内科	溝部 政仁	順天堂大学
心臓血管外科	中間 麻矢子	東京女子医科大学	整形外科	金子 弘樹	聖マリアンナ医科大学
整形外科	竹之下 真一	東京医科歯科大学	小児科	高橋 美歩	山梨大学
整形外科	今本 多計臣	聖マリアンナ医科大学	耳鼻咽喉科	田中 祥子	慶應義塾大学
脳神経外科	佐柳 太一	慶應義塾大学	麻酔科	古川 貴子	慶應義塾大学
形成外科	永塚 大樹	琉球大学	歯科口腔外科	田中 健太	東北大学
精神科	太田 真右	慶應義塾大学			
精神科	格谷 雅徳	琉球大学			
精神科	鈴木 美里	秋田大学			
小児科	可児 圭丞	順天堂大学			
小児科	古澤 恭平	琉球大学			
皮膚科	宮川 明大	埼玉医科大学			
皮膚科	新川 紗由香	千葉大学			
泌尿器科	竹内 玲衣	千葉大学			
産婦人科	蒔 美彩	慶應義塾大学			
眼科	宮下 翔平	兵庫医科大学			
耳鼻咽喉科	高原 美希	慶應義塾大学			
リハビリテーション科	速見 優希	山形大学			
放射線診断科	藤井 茜	山形大学			
麻酔科	藤田 夏樹	秋田大学			
麻酔科	杵水 千尋	東京医科歯科大学			
救急科	堀越 雄一郎	日本大学			
救急科	天笠 愛子	東海大学			
救急科	杉 真恵	東邦大学			

2 初期臨床研修医プログラム

(1) 名 称

川崎市立川崎病院初期臨床研修プログラム

(2) 目的と特徴

当院の研修医制度は、昭和42年4月に発足し、その後教育指導部を設置して既に40年以上が経ちますが、この間多数の研修修了者を送り出してきました。その後、幾度かの変遷を経て、現在では、毎年4月1日に研修開始して、2年後の3月31日に修了する方式を採っています。

ローテイトに当たっては、研修医と十分話し合いを持ち、それぞれに最も適した個別カリキュラムを組んで、限られた期間に充実した研修成果が上がるよう努めています。

また、各科の基礎的診断治療のための技能の習得のみならず、“病気を診るのではなく、悩める病人を診る”という、診療態度の修得やプライマリ・ケアを重視した研修を行っています。

医学の進歩に伴い、医療の専門分化・高度化により各臓器疾患の専門医は増加し、これまで治療困難とされた疾患が克服できるようになりました。それに反して患者を全人的に診療できる医師（General Physician）は少なく、“病気のみを診るのではなく悩める病人を診る”ことのできるGeneral Physicianの養成が社会的に求められています。また、本当の意味での専門医はGeneral Physicianとしての素養を身につけた上で、自分の専門分野を追及していくべきと考えます。

そこで当院では、“臓器別専門医である前に、患者全体を診て適切な診療を行う”を基本方針の基に、臨床医としての基礎的臨床能力を養成することを主たる目標にしました。

(3) 指導者と研修施設

ア 指導者と研修プログラム責任者

研修管理委員会委員長 小宮 浩一郎

イ 研修施設

診療各科及び検査科の施設、研究室、会議室

ウ 指導医リスト [医師免許取得後7年以上] (令和5年3月31日現在)

内科	野崎 博之	有馬 功一郎	佐山 宏一	末吉 浩一郎
	坂本 光男	西澤 健也	玉井 博修	安藤 孝
	伯野 大彦	高木 英恵	吉川 賢忠	津村 和大
	李 慧崇	田口 博章	滝口 俊一	有泉 健
	定平 健	大森 奈緒	井上 健太郎	深江 智明
	細田 智弘	北菌 久雄	大塚 健悟	川口 隆久
	布施 彰久	岡山 幹夫	山根 剛	大嶋 洋佑
	渡辺 雄祐	鈴木 健	明神 聡介	相馬 裕樹
	杉原 快	花田 亮太	梶尾 暢彦	李 昊
	精神科	齋藤 寿昭	三浦 孝政	倉持 信
小児科	土橋 隆俊	有安 大典	檜林 敦	松尾 基視

	柴田 浩憲 山田 剛	外山 陽子	吉田 祐	案納 あつこ
新生児内科	森 和広 長田 朝美	古川 律子	佐々木 歩	宮武 瑛里
外科	市東 昌也 中村 哲也 雨宮 隆介	相浦 浩一 小倉 正治 鈴木 佳透	萬谷 京子 三原 規奨 細川 恭佑	和多田 晋 近藤 崇之 木戸 美織
呼吸器外科	澤藤 誠	岩丸 有史	井澤 菜緒子	奥井 将之
脳神経外科	小野塚 聡	片山 真	三島 牧	蔵成 勇紀
整形外科	上田 誠司 山口 健治 谷 英明	中道 憲明 西村 空也 歌島 淳	小宮 浩一郎 寺坂 幸倫	西脇 正夫 美馬 雄一郎
形成外科	繼 渉			
心臓血管外科	灰田 周史			
皮膚科	西本 周平			
泌尿器科	原 智 梅田 浩太	福本 桂資郎	勝井 政博	茂田 啓介
産婦人科	中田 さくら 石垣 順子	染谷 健一 大橋 千恵	金 善恵 大石 真希	大谷 利光
眼科	園部 秀樹	三田村 浩人	小澤 紘子	安里 輝
耳鼻咽喉科	重富 征爾	猪狩 雄一	中山 梨絵	
放射線診断科	倉田 忠宜	長谷川 市郎	緒方 雄史	
放射線治療科	栗林 徹	元村 祐介		
麻酔科	森田 慶久 出野 智史	菅 規久子 石渡 博昭	細井 卓司 岡部 久美子	奥田 淳
救急科	田熊 清継 石田 正高 金子 翔太郎	齋藤 豊 三吉 貴大	進藤 健 鳥海 聡	金尾 邦生 土屋 光正
リハビリテーション科	阿部 玲音	須田 万豊		
歯科口腔外科	鬼澤 勝弘	安居 孝純		
病理診断科	折笠 英紀	杉浦 仁	堀井 千裕	

エ 専門医（認定医）教育病院等学会の指定状況

日本内科学会認定医教育病院	日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修支援施設	日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設	日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練場所
日本整形外科学会専門医制度研修施設	日本認知症学会認定教育施設

日本形成外科学会認定教育関連施設	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設	日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本眼科学会専門医制度研修施設	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院	日本病理学会研修認定施設 B
日本リハビリテーション医学会認定研修施設	日本消化器外科学会専門医修練施設
日本リウマチ学会認定教育施設	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本アレルギー学会認定アレルギー専門医教育研修施設	日本神経学会専門医制度教育施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設	日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設
日本腎臓学会認定教育施設	日本血液学会認定研修施設
日本核医学会専門医教育病院	日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設	日本 IVR 学会専門医修練施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構認定関連施設	日本集中治療医学会専門医研修施設
日本呼吸器学会認定施設	日本脳卒中学会専門医認定研修教育病院
日本感染症学会認定研修施設	日本臨床細胞学会認定施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設	日本口腔外科学会関連研修施設
日本呼吸器外科専門医合同委員会認定修練基幹施設	日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
日本胆道学会認定指導施設	日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本手外科学会認定研修施設	日本頭頸部外科学会準認定施設
日本脈管学会認定研修指定施設	日本食道学会全国登録認定施設
日本消化管学会胃腸科指導施設	日本周産期・新生児医学会専門医制度暫定認定施設
日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設	日本肝臓学会認定施設
日本肝胆膵外科学会高度技能専門医制度認定修練施設	日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設
日本糖尿病学会教育関連施設	神奈川県医師会母体保護法指定医師指定研修機関
浅大腿動脈ステントグラフト実施施設	日本透析医学会教育関連施設
日本高血圧学会認定研修施設	日本脳神経外科学会専門医研修プログラム連携施設
日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター	胸部外科教育施設協議会修練施設
腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設	日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医研修施設
日本超音波医学会超音波専門医研修施設	日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設

オ 指導体制

各科とも原則としてマンツーマン方式を取れ入れています。

(4) プログラム委員会

本院には、研修管理委員会が設置されており、その委員がプログラム委員を兼務します。

(5) プログラム管理体制

ア 研修管理委員会の組織・機能

(ア) 委員長：小宮 浩一郎 研修管理委員会委員長

(イ) 構成：委員は各研修カリキュラムの責任者、院長、事務局長、副院長、庶務課長、研修協力施設の研修実施責任者（指導医等）、外部委員（医師等）

(ウ) 業 務

a 研修プログラムの全体的な調整・管理

（研修プログラム作成方針の決定や、各研修カリキュラム間の相互調整など）

b 研修医の全体的な管理

（研修医の募集、他施設への出向、研修医の処遇、研修医の健康管理）

c 研修医の研修状況の評価

（研修目標の達成状況の評価、臨床研修修了の評価）

d 採用時における研修希望者の評価

e 指導医の評価と記録

f 研修後の進路について、相談等の支援を行う

g 院内カンファレンス、研修資料と教育機材の管理、指導医研修

イ 研修医の勤務規定、顕彰・処罰規定及び採用方法

研修医の勤務規定、顕彰・処罰規定及び採用方法は別途定める要綱によります。研修医は、毎年公募により採用されます。

ウ 研修プログラムの自己評価と改善体制

研修管理委員会では、研修医の研修成果や研修医・指導医の意見を踏まえ、常に研修プログラム自体の評価を行い、修正可能な点は速やかに修正します。また、大きなシステム上の問題は、関係各所と協議の上、適宜改善を行います。

エ 研修医からのフィードバック

研修医は、研修実行委員と定期的に面接を行い、研修プログラムや指導医に対する意見を述べるすることができます。臨床研修委員会は、できるだけ研修医の要望を実現できるように配慮します。

オ 研修の継続が困難な研修医に対する処置

身体的・社会的・経済的理由などにより、研修継続が困難な状態に陥った場合は、臨床研修委員会及び研修責任者は、研修医個人の処遇を勘案し、適切な対応を行うものとします。

(6) 卒後臨床研修・ローテイトについて

ア 期間割り研修医予定配置

1年次の最初の4週は、全員が内科で研修を行います。厚生労働省の定める内科24週、救急科12週、地域医療4週、外科4週、小児科4週、産婦人科4週、精神科4週を必修科目として計56

週研修します。選択は15科（緩和ケア科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、口腔外科、検査科（病理））の中から選択し、48週の研修を行います。

選択科目の研修期間は、プログラムの特性を配慮し、最低4週とします。

選択科目の研修に当たっては、研修医が各研修カリキュラムを選択し、積極的に研修に取り組み、充実した研修ができるように留意します。

(7) 研修医定員及び処遇

研 修 医 定 員	: 1年次10名、2年次10名
募 集 及 び 採 用 方 法	: 公募、小論文、個別面接にて選考、マッチングに参加
資 格	: 令和4年度に日本で有効な医師免許を取得見込みの者
処 遇	: 川崎市会計年度任用職員 地方公務員法（以下「地公法」という。）第30条及び第32条から第35条を、遵守する義務を負う。
待 遇	: 給与月額 302,889円 健康保険・厚生年金・雇用保険・労働災害補償あり レジデントハウス（単身者用）あり 病院個室なし、個人の机及びロッカー有り 定期健康診断年2回 医師賠償責任保険は病院として加入 学会及び研究会への参加は研修に支障のない範囲で可。ただし、公費負担なし。
勤 務 時 間	: 1週5日（月～金曜日） 月～金曜日：8時30分～17時まで 研修以外の診療活動は認めない（地公法第38条の改正による） 当直は配属科により変わるが、内科の場合、平日当直2日、休日当直1日が目安である。
年 次 有 給 暇 等	: 1年目10日、2年目11日付与 夏期休暇5日（6月1日～10月31日までの間に取得）

(8) 研修修了認定基準

臨床研修医に関する要綱中、第10条の修了証書の授与に際しては、次の基準によるものとします。

ア 各研修医は、厚生労働省の指定した初期臨床研修到達目標の自己評価表に基づき、自己採点を行い、研修責任者に提出する。

イ 研修責任者は、研修管理委員会を開催し、ローテイトした科の指導責任者の採点によるレジデント評価表と研修医が採点した自己評価表を併せて審査し、その結果を院長に報告する。

ウ 院長は、報告に基づき研修が修了したと認定された研修医に対して、修了証書を授与する。

Ⅸ 業 績 目 録

科 別 業

科目	年度	科 別												
		内科・総合内科	精神科	小児科	新生児内科	外科	呼吸器外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産科・婦人科
学位取得	30													
	1								1				1	
	2													
	3													
賞	4			2										
	30													1
	1	1												
	2	1	1											
研究助成 共同研究	3													
	4													1
	1													
	2													
書 籍	3													
	4													
	1	3		1		1			1					
	2		1	3		1								
論 文	3	1	1	4										
	4	5	1	2		3	1							
	1	12		5	1			3	22	2			5	15
	2	14		2		3	7	1	17				8	9
学 会 研 究 会	3	21	1	1		2	1	12	16	1	1		7	3
	4	5	2	2		1			11		3	1		2
	1	5	1	2		3	1		7			1		2
	2	5	1	2		3	1		7			1		2
そ の 他	30	39	6	8	4	15	8	1	34	2		3	13	32
	1	32	4	8	4		3	3	18			3	13	18
	2	21	1	6		4	2	2	13			4	3	9
	3	16	5	8		5	4		13			7	1	9
そ の 他	4	22	1	15		9	3		15			7	1	6
	30	2	1	4		2			6				4	
	1	1	5						3				3	
	2	21		3					2					
そ の 他	3	5	1	5		1		1	2				1	
	4	18	1	3					4				2	

※ 「書籍」は「著書」と「書籍の章」の合算。「その他」には「講演会等」を含む。

績 統 計

眼 科	耳 鼻 咽 喉 科	放 射 線 治 療 科	放 射 線 診 断 科	麻 酔 科	救 急 科	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	歯 科 口 腔 外 科	検 査 科	薬 劑 部	看 護 部	医 療 安 全 管 理 室	患 者 総 合 サ ポ ー ト セ ン タ ー	感 染 対 策 室	食 養 科	合 計
				1 1						1					0 2 1 1 3
	2 1									3 1 3					6 3 3 7 4
1	1		1				1 1 1 1 1	1							3 3 7 1 2
	1			4	1 3	1				1 1				6	10 4 6 21 4
2 3 1	8 11 10 3		2 1 2	7 6 7 2	6 19 12 5	1 1 1	3 4 1 1	4 19 2	4						100 101 99 71 36
2 4	27 22 8 7 5		5 7 3 3 2	5 7 1 5 2	23 20 11 8 7	2 2 6 1	3 1 1 2 5	1 1 10 14	1 2	9 13					241 179 89 116 116
1 2			7 9 11 3 1	7 1 1	8 2 1 2	19 8 6 8 6	1 2 2 1	9 8 10 12 8	30 8				5	3 8 8 9	105 46 62 67 56

1 当院における学位取得者

(1) 小児科

外山陽子 医学博士 令和4年12月12日

吉田祐 医学博士 令和5年1月16日

(2) 麻酔科

奥田淳 医学博士 令和5年1月16日

2 賞

(1) 内科

中原日菜. 内科学会関東地方会奨励賞 地方会症例発表. 令和4年6月4日. 第678回日本内科学会関東地方会演題番号25

川口隆久. 内科学会関東地方会指導医賞 地方会症例発表指導. 令和4年6月4日. 第678回日本内科学会関東地方会演題番号25

(2) 小児科

柴田浩憲. 最優秀演題賞. 日本小児内分泌学会. 令和4年11月1日. 第55回日本小児内分泌学会学術集会

(3) 検査科

内田理絵. 優秀演題. 秀でた報告内容に対する評価. 機動的な新型コロナウイルス感染症検査対応と病院運営への貢献. 令和4年11月. 第60回全国自治体病院学会 臨床検査分科会

3 研究助成及び共同研究

(1) 歯科口腔外科

安居孝純 (研究代表者), 中川種昭, 森川暁, 馬渕洋. 令和2年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金. 基盤研究C) 歯髄幹細胞由来オルガノイドによる顎骨壊死予防法の開発
補助事業期間: 令和2年度~令和5年度

(2) 検査科

津村和大. 日本糖尿病協会研究・教育基金研究助成. 糖尿病アドボカシーの社会実践とメディア報道分析を通じた阻害要因の分析.

4 書籍

該当者なし

5 書籍の章

(1) 精神科

太田真右 (共同編集). 救急モーズレイ. 精神科における身体疾患の診療ガイドライン. 第1版
内田裕之, 鈴木健文, 三村将. 日本. ワイリー・パブリッシング・ジャパン株式会社. 2023年
p473-p503.

(2) 救急科

田熊清継. 気道熱傷. BIG DOC 家庭医学大全科 (ヘルシーファミリー倶楽部) 7訂版. 東京. 株式会社

法研（株式会社研友企画出版 BIG DOC 制作室）.2022 年

田熊清継. 熱傷（やけど）.BIG DOC 家庭医学大全科(ヘルシーファミリー倶楽部)7 訂版. 東京 株式会社法研（株式会社研友企画出版 BIG DOC 制作室）.2022 年

田熊清継. 皮膚・軟部組織感染症（ガス壊疽など）.BIG DOC 家庭医学大全科(ヘルシーファミリー倶楽部)7 訂版. 東京. 株式会社法研（株式会社研友企画出版 BIG DOC 制作室）.2022 年

6 論文

(1) 内科

Yutaka Muto, Eri Hagiwara, Tomohisa Baba, Yozo Sato, Masashi Sakayori, Erina Tabata, Akimasa Sekine, Shigeru Komatsu, Koji Okudera, Koichi Sayama, Takashi Ogura. Unilateral Autoimmune Pulmonary Alveolar Proteinosis with Polymyositis-related Interstitial Lung Disease. Intern Med. 2022. 61. 3095

細田 智弘. 【どうする!? 突然の感染症対応-外来患者も入院患者も】 症候から考える感染症マネジメント 腰痛と感染症. 内科. 2022. 130. 1063-1066.

坂本 光男. 【消化管疾患と感染の最前線】JAID/JSC 感染症治療ガイド 2019 腸管感染症の概要. 診断と治療. 2022. 110. 845-851.

細田 智弘. 【1 ページでわかる内科疾患の診療ノート-“あたりまえ”のなかにある大事な視点】(5 章)感染症 感染性腸炎 Clostridioides difficile 腸炎を含む. 内科. 2022. 129. 771-775.

Hosoda Tomohiro, Hamada Shota, Numata Kenji, Saito Yutaka, Yamazaki Satsuki, Minoura Ayu, Sakamoto Mitsuo, Fujitani Shigeki. Intensive care burden of COVID-19 in tertiary care hospitals during the first year of outbreak in Kawasaki City, Japan: A retrospective cohort study. Journal of Infection and Chemotherapy. 2022. 28. 678-683.

(2) 小児科

吉田祐. Genetic and functional analyses of TBX4 reveal novel mechanisms underlying pulmonaryarterial hypertension. Journal of Molecular and Cellular Cardiology. 2022. 171. 105-116

有安大典. Longitudinal Clinical Course in Patients with 5 α -reductase Type 2 Deficiency Treated with Testosterone and Dihydrotestosterone during Infancy and Puberty. Endocrine Journal. 2023. 70. 59-67

(3) 精神科

Kuramochi S(, Yatomi T, Uchida T, Takeuchi H, Mimura M, Uchida H). Drug Combinations for Mood Disorders and Physical Comorbidities That Need Attention: A Cross-Sectional National Database Survey. Pharmacopsychiatry. 2022 May. 55(3). 157-162.

(4) 外科

Susumu Watada, Obara H, Okui J, Kyosuke Hosokawa, Matsubara K, Harada H, Fujimura N, Fujii T, Shimogawara T, Kitagawa Y. Prediction of need for bowel resection in acute superior mesenteric artery occlusion: A retrospective study of 48 Japanese patients Annals of gastroenterological surgery. 2022

細川恭佑, 酒井美晴, 海ヶ倉紀文, 和多田晋. 左総腸骨動脈瘤破裂に対して Double D Technique を施行した 1 例. 日本血管外科学会雑誌. 2022. 31. 311-315.

Kyosuke Hosokawa, Hideaki O, Kazumasa F, Kentaro M, Yuko K. Specificity of Presepsin as a Biomarker of Bacterial Infection in Mouse Sepsis Models. *Journal of Surgical Research*. 2023. 283. 572-580.

(5) 呼吸器外科

Suzuki S, Asakura K, Okui M, Sawafuji M, Shigenobu T, Tajima A, Kaseda K, Masai K, Hishida T, Asamura H. Safety and efficacy of salvage surgery for non-small cell lung cancer: a retrospective study of 46 patients from four keio-affiliated hospitals. *Gen Thorac Cardiovasc Surg*. 2022. 70. 891-899

(6) 整形外科

西脇正夫, 石倉佳代子, 歌島淳, 寺坂幸倫, 久島雄宇, 堀内行雄. 橈骨遠位端骨折における背尺側骨片の固定に角度可変型掌側ロッキングプレートは有用か. *日手会誌*. 2022. 38. 416-420.

西脇正夫, 寺坂幸倫, 久島雄宇, 清田康弘, 稲葉尚人, 別所祐貴. 掌側ロッキングプレートによる橈骨遠位端骨折の背尺側骨片の固定性が術後成績に与える影響. *骨折*. 2022. 44. 188-192.

西脇正夫. 橈骨遠位端骨折の分類と手術適応. *日手会誌*. 2022. 39. 1-6.

西脇正夫, 石倉佳代子, 歌島淳, 寺坂幸倫, 稲葉尚人, 堀内行雄. 橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレート固定術後のスクリュー関節内穿破. *日手会誌*. 2022. 39. 225-230.

Aoyama R, Yamane J, Ninomiya K, Takahashi Y, Kitamura K, Nori S, Suzuki S, Matsumoto S, Kato M, Ueda S, Anazawa U, Shiraishi T. Atlantoaxial stenosis after muscle-preserving selective laminectomy. *J Clin Neurosci*. 2022. 100. 124-130.

福島啓太, 小宮浩一郎, 谷英明. 変形性膝関節症として紹介を受けた巨大膝窩嚢腫による選択的腓骨神経麻痺の1例. *臨床整形外科*. 2022. 57. 1163-1166.

小宮浩一郎, 山口健治, 谷英明. 人工膝関節置換術後に急速破壊型股関節症を生じた2例. 術後経過観察における留意点. *日本人工関節学会誌*. 2022. 52. 527-528.

(7) リハビリテーション科

久永希. 長期臥床により両肘関節強直を呈した症例に対してのリハビリテーションと訪問事業所との連携. *日本ハンドセラピィ学会誌(JJHTS)*. 2023. 15 巻 3 号. 85-90

(8) 皮膚科

新川 紗由香, 小林 研太, 西本 周平. Vacuumed-assisted shoelace closure 療法が創閉鎖に有用であった壊死性筋膜炎の1例 *臨床皮膚科*. 2022. 76. 503-507

(9) 産科・婦人科

秋田啓介, 大橋千絵, 渦川真優子, 大石真希, 石垣順子, 大谷利光, 金善恵, 染谷健一, 中田さくら. 双胎妊娠の管理中に発症した正常大卵巣捻転の一例. *神奈川産科婦人科学会誌*. 2022. 59. 41-44

Lin BL, Adlan AS, K. Azhary JM. Lin's Self-Retaining Abdominal Ultrasound Probe Method for Hands-Free Ultrasound-Guided Hysteroscopic Procedures: A Single-Operator Study. *Gynecol Minim Invasive Ther*. 2022. 11. 155-158

(11) 眼科

Takizawa S, Mitamura H, Ohnuki Y, Kawai K, Ohnuki Y, Nagata E, Takahashi W. Case report: Corneal endothelial degeneration and optic atrophy in dentatorubral-pallidoluysian atrophy quantified by specular micrography and optical coherence tomography *Front. Neurol*. 2022. 13-Sep

(13) 歯科口腔外科

Kimura M, Yasui T, Asoda S, Nagamine H, Soma T, Karube K, Kodaka R, Muraoka W, Nakagawa T, Onizawa K. Evaluation of the surgical approach based on impacted position and direction of mesiodens. *Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology*. 2023. 35. 23-29

(14) 放射線診断科・放射線治療科

Torikai H, Inoue M, Tsukada J, Togawa K, Yosuke Yamamoto, Hase M, Tamura M, Ito N, Soga S, Nakatsuka S, Jinzaki M. Comparison of Foaming Properties Between the Shirasu Porous Glass Membrane Device and Tessari's Three-way Stopcock Technique for Polidocanol and Ethanolamine Oleate Foam Production: A Benchtop Study. *J Vasc Interv Radiol*. 2022. 33. 518-524.

山本洋輔, 井上政則, 倉田忠宜, 長谷川市郎, 中塚誠之, 陣崎雅弘. Refresher Course 止血のIVRアップデート. *画像診断*. 2022. 42. 1189-1197.

(15) 検査科

津村和大. 糖尿病のアドボカシー活動. *Precious VOICE*. 2022年10月. no.1. 2-3

津村和大. 糖尿病にまつわる“ことば”を見直すプロジェクト. わたしたち自身が変わる勇気. 月刊糖尿病ライフ さかえ. 2023年1月. 第63巻, 1号. 2-3

(16) 麻酔科

Seki H, Satoshi Ideno, Shiga T, Watanabe H, Ono M, Motoyasu A, Noguchi H, Kondo K, Yoshikawa T, Hoshijima H, Hyuga S, Shishii M, Nagai A, Higashi M, Ouchi T, Yasuda K, Kuratani N. Sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor-associated perioperative ketoacidosis: a systematic review of case reports. *J Anesth*. 2023. 37. 465-473

鵜澤 侑子, 逢坂 佳宗, 細井 卓司, 森田 慶久. 体位変換後の換気困難により気管拡張症が初めて発見された1症例. *麻酔*. 2023. 71. 414-416

(17) 救急科

齋藤豊. 治療法の再整理とアップデートのために専門家による私の治療咽頭痛. *日本医事新報*. 2022年. 5126号. 42

田熊清継. 熱傷における sepsis を再定義する熱傷における sepsis を再構築する重症熱傷における sepsis の病態と抗菌化学療法戦略. *熱傷*. 2022年. 48. 131

藤田野々香, 金尾邦生, 鳥海聡, 三吉貴大, 齋藤豊, 田熊清継. mRNA-1273 ワクチン接種後の TTS が疑われた一例. *日本集中治療医学会雑誌*. 2022年. 29. 678

Gando S, Shiraishi A, Wada T, Yamakawa K, Fujishima S, Saitoh D, Kushimoto S, Ogura H, Abe T, Mayumi T, Sasaki J, Kotani J, Takeyama N, Tsuruta R, Takuma K, Shiraishi SI, Shiino Y, Nakada TA, Okamoto K, Sakamoto Y, Hagiwara A, Fujimi S, Umemura Y, Otomo Y, JAAM FORECAST TRAUMA Study Group. Effects of tranexamic acid on coagulofibrinolytic markers during the early stage of severe trauma: A propensity score-matched analysis *Medicine (Baltimore)*. 2022年. 101. e29711

MiYoshi T, Endo H, Yamamoto H, Gonmori S, Miyata H, Takuma K, Sakurai A, Kitamura N, Tagami T, Nakada TA, Takeda M. An epidemiological assessment of choking-induced out-of-hospital cardiac arrest: A post hoc analysis of the SOS-KANTO 2012 study *Resuscitation*. 2022年. 181. 311-319

7 学会・研究会

(1) 内科

古川 貴子(川崎市立川崎病院 内科), 川口 隆久, 吉川 賢忠, 田口 博章, 有馬 功一郎, 安藤 孝
CRP 異常高値が遷延し肺胞出血で再燃した維持透析中の ANCA 陰性血管炎の一例. 口演. 第67回日本透析医学会 学術集会・総会. 令和4年6月. 横浜

佐藤 佑樹(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 城下 郊平, 岡山 幹夫, 相馬 裕樹, 塩澤 優花, 林 泰儀, 中安 美沙, 定平 健, 高木 英恵, 安藤 孝. 血栓症を合併した自己免疫性溶血性貧血の3症例. 口演. 第682回日本内科学会関東地方会. 2022年11月. 東京

舟曳 隼大(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 細田 智弘, 川口 隆久, 坂本 光男, 安藤 孝, 折笠 英紀. 抗結核薬によると思われる薬剤性腎障害で死亡した腸結核の1例. 口演. 第685回日本内科学会関東地方会 令和4年3月. 東京

松山 千紘(川崎市立川崎病院 臨床研修部), 大嶋 洋佑, 川口 隆久, 渡辺 雄祐, 安藤 孝. 両側副腎腫大、原発性副腎皮質機能低下症を呈し、生理的コートリル量の補充で副腎腫大が改善した1例ポスター. 第95回日本内分泌学会学術総会. 2022年6月. 別府

川口 隆久(川崎市立川崎病院 内科), 唐澤 隆明, 橋口 明典, 大嶋 洋佑, 渡辺 雄祐, 熊谷 聡佑, 有馬 功一郎, 安藤 孝. 間質にIgM-λ陽性の沈着物を認めたprimary renal lymphomaの一例. 口演. 第52回日本腎臓学会東部学術大会. 2022年10月. 東京

船曳 隼大(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 玉井 博修, 花田 亮太, 鈴木 健, 山根 剛, 井上 健太郎, 有泉 健, 高木 英恵, 安藤 孝, 折笠 英紀. 早期胃癌のESD後にpulmonary tumor thrombotic microangiopathy(PTTM)を発症し死亡した1例. 口演. 第682回日本内科学会関東地方会. 2022年11月. 東京

大曾根 史織(川崎市立川崎病院 総合内科), 大嶋 洋佑, 川口 隆久, 渡辺 雄祐, 猪狩 雄一, 安藤 孝. PHPTによる高Ca血症クリーゼに対してデノスマブが奏功した一例. 口演. 第32回臨床内分泌代謝Update. 2022年11月. 東京

大嶋 洋佑(川崎市立川崎病院 内科), 伊藤 守, 川口 隆久, 安藤 孝. 経口ビスホスホネート投与を契機に著明な低カルシウム血症の1例. ポスター. 第95回日本内分泌学会学術総会. 2022年6月. 別府

中原 日菜(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 川口 隆久, 吉川 賢忠, 田口 博章, 有馬 功一郎, 高木 英恵, 野崎 博之, 安藤 孝. 全身の骨痛を認め、シェーグレン症候群に合併したFanconi症候群および骨軟化症と診断した1例. 口演. 第678回日本内科学会関東地方会. 2022年6月. 東京

朝倉 啓友(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 梶尾 暢彦, 川口 隆久, 嶋貫 佳奈子, 吉川 賢忠, 田口 博章, 高木 英恵, 安藤 孝, 野崎 博之. lupus vasculopathyを伴うループス腎炎に対してミコフェノール酸モフェチル, ベリムマブの併用療法が奏功した1例. 口演. 第681回日本内科学会関東地方会. 2022年10月. 東京

鈴木 涼太(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 大嶋 洋佑, 原田 修平, 渡辺 雄祐, 大森 奈緒, 高木 英恵, 片山 真, 安藤 孝. 肺非小細胞肺癌stage4に対してニボルマブを合計87コース投与した後にPDとなり、新規に1型糖尿病を発症した1例. 口演. 第679回日本内科学会関東地方会. 2022年7月. 東京

原田修平、深江智明、上園志穂、滝口俊一、李慧崇、伯野大彦、西澤健也、末吉浩一郎. スコアリング・バルーンでの心筋側への不顕性冠動脈穿孔が薬剤溶出性バルーンの拡張後に顕在化した1例. 第59回. 日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会. 2022年5月7日. 東京

小野里隆太、杉原快、大塚健悟、扇野圭子、大森奈緒、佐山宏一. 悪性胸膜中皮腫に対して当院でnivolumabを使用した8例の検討. 第62回日本呼吸器学会学術講演会. 2022年4月. 京都

小野里隆太、杉原快、大塚健悟、扇野圭子、大森奈緒、安藤孝、野崎博之、岩丸有史、堀井千裕、佐山宏一. 高齢者に急性発症した肺ランゲルハンス細胞組織球症の1例. 第677回日本内科学会関東地方会. 2022年5月. 東京

永岡 茉莉奈. 81歳の高齢パーキンソン病患者にDBSを行い奏功した1例. 一般演題. 日本内科学会第683回関東地方会. 2022年12月. 東京都

布施 彰久. 視神経炎に対してステロイドパルスのみでは効果不十分でありIVIgを導入した2例の検討. 一般演題. 第40回日本神経治療学会学術集会. 2022年11月. 福島県

岡山 幹夫, 遠藤 洵之介, 中安 美沙, 岡本 真一郎, 折笠 英紀, 中村 直哉, 定平 健. 心嚢液貯留で発症したtriple-hit lymphomaに対してR-CHOP療法で寛解を得た症例. 第18回日本血液学会関東甲信越地方会. 2023年3月. 東京

中安 美沙, 岡山 幹夫, 松本 薫郎, 新川 紗由香, 西本 周平, 宮下 翔平, 折笠 英紀, 岡本 真一郎, 中村 直哉, 定平 健. 濾胞性リンパ腫に腫瘍随伴性天疱瘡を合併し治療に難渋した1例. 第18回日本血液学会関東甲信越地方会. 2023年3月. 東京

船曳 隼大, 井上 健太郎, 花田 亮太, 鈴木 健, 山根 剛, 有泉 健, 高木 英恵, 玉井 博修. 全身性浮腫に対して成分栄養剤, 膵酵素補充療法が奏功した非代償期慢性膵炎一例. 第66回神奈川県消化器病研究会. 2023年7月. 横浜

林 浩一, 花田 亮太, 井上 健太郎, 鈴木 健, 山根 剛, 有泉 健, 高木 英恵, 玉井 博修, 相浦 浩一. 慢性維持血液透析患者に合併した急性食道粘膜病変の1例. 第115回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. 2022年12月. 東京

朝倉 啓友, 梶尾 暢彦, 川口 隆久, 嶋貫 佳奈子, 吉川 賢忠, 田口 博章, 高木 英恵, 安藤 孝, 野崎 博之. lupus vasculopathyを伴うループス腎炎に対してミコフェノール酸モフェチル, ベリムマブの併用療法が奏功した1例. 日本内科学会関東地方会681回. 2022年10月. 東京

鈴木 麻耶, 鈴木 健, 花田 亮太, 山根 剛, 井上 健太郎, 有泉 健, 高木 英恵, 中村 哲也, 杉浦 仁, 玉井 博修. 術前SOX療法により病理学的完全奏効を得た進行胃癌の1例. 日本内科学会関東地方会677回. 2022年5月. 東京

(2) 小児科

土橋隆俊. 在宅移行を目的に当院に転院となった医療的ケア児の現状及び経過について. 口演. 第125回日本小児科学会学術集会. 2022年4月17日. 郡山市

山田剛. 歯ブラシによる外傷後に抗菌薬治療を要した幼児4例. 口演. 第96回日本感染症学会総会・学術講演会. 2022年4月22日. オンデマンド

有安大典. 複合型下垂体機能低下症の診断と治療. 特別講演. 東北小児成長フォーラム. 2022年7月7日. 仙台市

檜林敦. 本日にちょっとした工夫 ①鍵管理の処方薬の識別 ②患者間違いを防ぐアナログな取り組み. 講演. 電子カルテユーザーフォーラム『利用の達人』. 2022年9月9日. オンライン

高橋美歩. 心筋梗塞を発症したEisenmenger症候群の一例. 口演. 日本小児科学会神奈川県地方会. 2022年9月17日. 横浜市

檜林敦. 電子カルテが「紙の電子化」になってしまいませんか?. シンポジウム. 第32回日本医療薬学会年会. 2022年9月23日. 高崎市

松尾基視. 興味深い胸部画像所見の経過を示した paraseptal emphysema の1例. 口演. 第54回日本小児呼吸器学会. 2022年10月14日. 千葉市

有安大典. 複合型下垂体機能低下症の診断と治療. 特別講演. 神奈川内分泌の会. 2022年10月17日. 神奈川県

有安大典. セグメントに分けて考える複合型下垂体機能低下症の診断と治療. Meet the Expert.

第55回日本小児内分泌学会学術集会. 2022年11月1日. 横浜市

柴田浩憲. 時期特異的変異型SAMD9ノックインマウスの病態に細胞周期関連分子の発現低下が関与する. 口演. 第55回日本小児内分泌学会学術集会. 2022年11月1日. 横浜市

有安大典. COL2A1遺伝子にバリエントを同定した骨X線異常所見を伴わないSGA性低身長母児例. 口演. 第55回日本小児内分泌学会学術集会. 2022年11月2日. 横浜市

檜林敦. GXV10と2022年11月パックの適用と活用. 講演. 電子カルテユーザーフォーラム『利用の達人』. 2022年11月11日. オンライン

檜林敦. 地域に導入したPHRによりワクチン接種間違いが減少. 口演. 第42回医療情報学連合大会・第23回日本医療情報学会学術大会. 2022年11月17日. 札幌市

三浦優花. 成長曲線上5年以上にわたる成長率低下を認めた萎縮性甲状腺炎の一例. 口演. 第372回日本小児科学会神奈川県地方会. 2022年11月19日. 横浜市

檜林敦. 特定行為の指示・記録・承認の電子カルテによる対応事例. 講演. 電子カルテユーザーフォーラム『利用の達人』. 2022年12月21日. オンライン

(3) 精神科

“倉持信(嶋貫佳奈子、田口博章、齋藤寿昭、三村将)”. “ステロイドの増量に伴い緊張病症状を呈した全身性エリテマトーデスの一例”. ポスター発表. 日本総合病院精神医学会. 2022. 10. 29. 東京都

(4) 外科

海ヶ倉紀文, 和多田晋, 酒井美晴, 中間麻矢子, 細川恭佑. 特発性急性橈骨動脈閉塞に対し血管内治療と持続動注療法により救指を得た1例. 日本血管外科学会. 2022. 5. 北九州

細川恭佑, 海ヶ倉紀文, 和多田晋. 当院におけるウシ心膜パッチを用いた血栓内膜摘除術と血管内治療のハイブリッド治療について. 日本血管外科学会. 2022. 5. 北九州.

酒井美晴, 細川恭佑, 海ヶ倉紀文, 中間麻矢子, 和多田晋. 左総腸骨動脈瘤破裂に対しDouble D techniqueと開腹減圧術を施行し救命し得た1例. 日本血管外科学会. 2022. 5. 北九州

和多田晋, 尾原秀明, 奥居潤, 細川恭佑, 松原健太郎, 下河原達也, 藤村直樹, 原田裕久, 藤井琢, 朝見淳規, 北川雄光. 腸間膜動脈閉塞症に対する治療の進歩と最近の話題. 関連5施設における急性上腸間膜動脈閉塞症48例の検討. 治療戦略の定型化をめざして. シンポジウム. 腹部救急医学会. 2023. 3. 沖縄

林祐美子, 和多田晋, 木戸美織, 安藤拓, 中間麻矢子, 細川恭佑, 鈴木佳透, 近藤崇之, 雨宮隆介, 三原規奨, 小倉正治, 中村哲也, 萬谷京子, 相浦浩一, 市東昌也. 虫垂炎を契機に診断された小児虫垂原発神経内分泌腫瘍の1例. 腹部救急医学会. 2023. 3. 沖縄

細川恭佑, 和多田晋. 血管外科医による血管内視鏡の導入経験～工夫と問題点, これから. 関東血管内視鏡研究会. 2022. 7. Web

細川恭佑, 和多田晋. アクセス血管に高度屈曲を認めた腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療. 川崎大動脈ステントグラフト研究会. 2023. 2. Web

細川恭佑, 和多田晋. 感染性腹部大動脈瘤との鑑別に苦慮した炎症性腹部大動脈瘤の1例. 日本心臓血管外科学会. 2023. 3. 旭川

細川恭佑. 下肢虚血と血行再建について知っておいてほしいこと” どのような患者が重症虚血肢になってしまうのか?”. 日本フットケア・足病医学会. 関東甲信越地方会. 2022. 6. 東京

(5) 呼吸器外科

岩丸有史、奥井将之、井澤菜緒子、佐山宏一、杉浦仁、澤藤誠. 気管支鏡では診断し得ず、胸腔鏡手術により転移性肺腫瘍と鑑別し得た、肺ランゲルハンス細胞組織球症の1例. 示説. 第45回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 令和4年5月. 岐阜市

澤藤誠、奥井将之、井澤菜緒子、岩丸有史、佐山宏一. 非小細胞肺癌術後再発に対する免疫チェックポイント阻害薬投与例の検討. 示説. 第63回日本肺癌学会学術集会. 令和4年12月. 福岡市

岩丸有史、奥井将之、井澤菜緒子、澤藤誠. 右上葉切除術後の中葉捻転に診断に対し、3次元画像解析システムボリュームアナライザーが有用であった1例. 示説. 第63回日本肺癌学会学術集会令和4年5月12月. 福岡市

(6) 心臓血管外科

灰田周史. 左血胸を伴った大動脈解離の一例. ポスター. 第50回日本血管外科学会学術総会. 2022年5月

灰田周史. 当院で経験した気管支動脈瘤の症例. 講演. Cardiovascular Surgery Web Seminar. 2022年12月. 東京. 小倉

(7) 整形外科

西脇正夫, 石倉佳代子, 歌島淳, 辻阪亮介, 寺坂幸倫, 久島雄宇, 清田康弘, 稲葉尚人, 別所祐貴, 堀内行雄. 橈骨遠位端関節内骨折に対する掌側ロッキングプレート固定術後のスクリュー関節内穿破. 口演. 第65回日本手外科学会学術集会. 2022年4月14日. 小倉.

西脇正夫, 辻阪亮介, 寺坂幸倫, 久島雄宇, 清田康弘, 稲葉尚人, 別所祐貴. 橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレート固定術後の遠位スクリュー関節内穿破の原因. シンポジウム. 第48回日本骨折治療学会学術集会. 2022年6月24日. 横浜.

西脇正夫, 石倉佳代子, 歌島淳, 辻阪亮介, 寺坂幸倫, 久島雄宇, 清田康弘, 稲葉尚人, 別所祐貴, 堀内行雄. 掌側ロッキングプレート固定術後のスクリュー関節内穿破例の特徴. 口演. 第14回日本手関節外科ワークショップ. 2022年8月27日. 大阪.

西脇正夫, 伊藤ゆりか, 竹之下真一, 石倉佳代子, 歌島淳, 寺坂幸倫, 清田康弘, 久島雄宇, 稲葉尚人, 堀内行雄. 青壮年者の肘関節 terrible triad injury の治療成績. シンポジウム. 第35回日本肘関節学会学術集会. 2023年2月3日. 山形.

歌島淳, 西脇正夫, 石倉佳代子, 寺坂幸倫. 久島雄宇, 清田康弘, 稲葉尚人, 堀内行雄. 50歳以上女性の橈骨遠位端骨折術後の骨粗鬆症治療状況と続発した骨折の検討. 口演. 第65回日本手外科学会学術集会. 2022年4月14日. 小倉.

石倉佳代子, 西脇正夫, 歌島淳, 寺坂幸倫, 久島雄宇, 清田康弘, 稲葉尚人, 別所祐貴, 堀内行雄. 橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレートの設置位置の検討. 口演. 第65回日本手外科学会学術集会. 2022年4月14日. 小倉.

鈴木拓, 早川克彦, 中根高志, 稲葉尚人, 加藤友行, 西脇正夫, 木村洋朗, 松村昇, 佐藤和毅, 岩本卓士. 健康者CTを用いた手関節掌背屈運動における遠位橈尺関節の寄与の検討. 口演. 第65回日本手外科学会学術集会. 2022年4月14日. 小倉.

歌島淳, 西脇正夫, 伊藤ゆりか, 今本多計臣, 竹之下真一, 谷英明, 伊藤修平, 寺坂幸倫, 西村空也, 山口健二, 小宮浩一郎, 中道憲明, 上田誠司, 堀内行雄. 橈骨遠位端骨折術後の骨粗鬆症治療と続発骨折. 口演. 第 177 回神奈川整形災害外科研究会. 2023 年 2 月 25 日. 横浜.

仲尾捷, 西脇正夫, 金子弘樹, 今本多計臣, 竹之下真一, 歌島淳, 谷英明, 伊藤修平, 寺坂幸倫, 西村空也, 山口健治, 小宮浩一郎, 中道憲明, 上田誠司, 堀内行雄, 市川亨. 尺骨神経麻痺を合併した小児橈骨遠位骨幹端部骨折の 1 例. 口演. 第 28 回神奈川上肢外科研究会. 2022 年 10 月 22 日. 横浜.

西村空也. 腰部脊柱管狭窄症の治療-薬物療法の実際も含めて. 口演. 脊椎疾患懇話会 Web Seminar. 2022 年 4 月 18 日. 川崎

西村空也, 名越慈人, 美馬雄一郎, 小柳貴裕, 上田誠司. びまん性特発性骨増殖症の進行は頸椎矢状面バランスの悪化に影響を与える. 口演. 第 51 回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 2022 年 4 月 21 日. 横浜.

西村空也. 腰椎疾患に伴う痛みの治療-薬物療法の実際も含めて-. 口演. Pain Clinical Forum Web Seminar. 2022 年 7 月 12 日. 川崎.

西村空也. 腰部脊柱管狭窄症の病態と治療-薬物療法の実際も含めて. 口演. 地域で高齢者を守る Web Seminar. 2022 年 12 月 15 日. 川崎.

西村空也 DISH を伴う椎体骨折の特徴と治療戦略-骨粗鬆症の治療も含めて-. 口演. 川崎・幸・中原骨粗鬆症 Web Seminar. 2023 年 3 月 6 日. 川崎

西村空也. 腰椎疾患の診断と手術治療の実際-痛みの管理も含めて-. 口演. 整形疾患連携懇話会. 2023 年 3 月 30 日. 川崎.

(8) リハビリテーション科

久永希. 長期臥床により両肘関節強直を呈した症例に対してのセラピィと訪問事業所との連携. 学会. 第 34 回日本ハンドセラピィ学会学術集会. 2022. 4. 北九州市

(9) 皮膚科

宮川 明大, 新川 紗由香, 西本 周平, 小林 研太. 低用量エトポシド・局所放射線併用にて長期制御し得た腫瘍期菌状息肉症の 1 例. 学会. 第 901 回日本皮膚科学会東京地方会. 2022 年 5 月. 神奈川

新川紗由香, 宮川明大, 竹内玲衣, 勝井政博, 原智, 堀井千裕. 折笠英紀, 杉浦仁, 西本周平. 亀頭部に生じ皮角を伴った原発性皮膚 CD30 陽性リンパ増殖症の 1 例. 学会. 第 121 回日本皮膚科学会総会. 2022 年 6 月. 京都

新川紗由香, 松本薫郎, 宮川明大, 繼渉. 尾原健太郎. 西本周平. 左上眼瞼に生じた乳頭状汗管嚢胞腺癌の 1 例. 学会. 第 902 回東京地方会(合同臨床地方会). 2022 年 7 月. 東京

松本薫郎, 新川紗由香, 宮川明大, 西本周平. 多形紅斑様皮疹が先行した成人 T 細胞白血病の 1 例. 学会. 第 903 回日本皮膚科学会東京地方会, 2022 年 10 月. 神奈川

新川紗由香, 内川理紗, 松本薫郎, 宮川明大, 西本周平. ステロイド減量にデュピルマブが有効であった特発性好酸球増多症候群の 1 例. 学会. 第 73 回日本皮膚科学会中部支部学術大会. 2022 年 10 月. 富山

松本薫郎, 新川紗由香, 佐藤友隆, 山崎一人, 西本周平. 急性巨核芽球性白血病に合併し敗血疹を呈した播種性トリコスポロン症の1例. 学会. 第904回日本皮膚科学会東京地方会. 2022年12月. 神奈川

松本薫郎, 新川紗由香, 西本周平. 左側頭部に広基有茎性腫瘤として単発した好酸球性血管リンパ球増殖症の1例. 学会. 第905回日本皮膚科学会東京地方会. 2023年2月. 神奈川

(10) 産科・婦人科

大石真希, 蒔美彩, 大橋千絵, 石垣順子, 大谷利光, 金善恵, 染谷健一, 中田さくら. 低カリウム血症を認めた妊娠悪阻の1例. 第46回日本女性栄養・代謝学会学術集会. 2022/9/1. 東京

蒔美彩, 大石真希, 大橋千絵, 石垣順子, 大谷利光, 金善恵, 染谷健一, 中田さくら. 妊娠悪阻に伴う低カリウム血症により、心電図異常を認めた一例. 第144回. 関東連合産科婦人科学会学術集会 2022/10/15. 甲府

磯崎太一, 沼崎玲子, 新井努, ルイズ横田南朋, 大原樹, 佐々木康, 加藤一喜, 松島隆, 平澤猛, 八代藍子, 土谷聡, 森岡幹, 松永竜也, 中田さくら, 小野瀬亮, 田島敏久, 石本人士, 中野眞佐男. 令和3年度神奈川県産科婦人科医会婦人科悪性腫瘍登録集計報告. 第436回神奈川産科婦人科学会学術講演会 2022/7/3. 横浜

Lin BL. Hysteroscopic management of uterine anomalies. シンポジウム. 第30届北京国際宮腹腔鏡及微创手術研究会. 2022/9/17. 北京

Lin BL. New advances in hysteroscopic myomectomy. シンポジウム. 2022. APAGE & TAMIG Annual Congress. 2022/10/1. 台北

Lin BL. One-step hysteroscopic myomectomy using Lin dissecting loop and graspers. ワークショップ. The PSGE Pre-congress course, 2022 POGS annual Convention. 2022/10/2. マニラ

(11) 泌尿器科

竹内玲衣, 茂田啓介, 梅田浩太, 勝井政博, 福本桂資郎, 原智. 若手泌尿器外科医に対するロボット支援下前立腺全摘除術のラーニングカーブ評価(Evaluating the Learning Curve of Robot Assisted Radical Prostatectomy for Young Urology Surgeons)(英語). 口演. 第74回西日本泌尿器科学会総会. 令和4年11月5日. 北九州市

(12) 耳鼻咽喉科

高原美希. 当科における頭頸部癌放射線療法後の喉頭壊死症例の検討. 一般口演. 第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会学術講演会. 令和4年5月. 神戸

笠原健. 頸部リンパ節結核14症例についての検討. 一般口演. 第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会学術講演会. 令和4年5月. 神戸

笠原健. 導入化学療法に伴う発熱性好中球減少症において頸部骨格筋量が及ぼす影響について. 一般口演. 第46回日本頭頸部癌学会. 令和4年6月. 奈良

田中祥子. 副鼻腔真菌症および副鼻腔原発悪性リンパ腫を合併した一例. 一般口演. 第199回日本耳鼻咽喉科科学会神奈川県地方部会. 令和4年6月. 横浜

中山梨絵. 甲状腺乳頭癌・低分化癌・未分化癌合併症例の治療経験. 一般口演. 第201回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会神奈川県地方部会. 令和4年12月. 横浜

(13) 放射線診断科・放射線治療科

Koji Togawa, Seishi Nakatsuka, Nobutake Ito, Hiroki Yoshikawa, Masashi Tamura, Hideyuki Torikai, Yousuke Yamamoto, Togo Kogo, Manabu Misu, Hideki Yashiro, Tadayoshi Kurata, Jitsuro, Tsukada, Shigeyoshi Soga, Masanori Inoue, Masahiro Jinzaki. CT-guided drainage with modified trocar technique using Drainaway drainage kit. 第 51 回日本 IVR 学会総会. 2022 年 6 月. 神戸
鈴木淳. 新放射線治療システム導入による効果の分析. ポスター. 第 60 回全国自治体病院学会. 2022 年 11 月. 沖縄

(14) 歯科口腔外科

田中健太, 安居孝純, 木村萌美, 長嶺宏樹, 相馬智也, 軽部健史, 臼田慎, 村岡渡, 蒔生田整治, 中川種昭, 鬼澤勝弘. 小児上顎正中過剰埋伏歯の埋伏位置、方向に基づいた抜歯のアプローチの検討. 口演. 第 34 回日本小児口腔外科学会学術大会. 2022 年 10 月. 東京都

佐藤晃子, 長嶺宏樹, 二宮真希, 遠藤友樹, 軽部健史, 臼田慎, 安居孝純, 鬼澤勝弘, 矢郷香, 木津英樹. 上顎正中中部逆性過剰埋伏歯を鼻腔底から抜去した 2 例. 口演. 第 34 回日本小児口腔外科学会学術大会. 2022 年 10 月. 東京都

二宮真希, 臼田慎, 長嶺宏樹, 佐藤晃子, 遠藤友樹, 軽部健史, 蒔生田整治, 鬼澤勝弘, 矢郷香, 木津英樹. 立川病院歯科口腔外科における小児入院患者の臨床的検討. 口演. 第 34 回日本小児口腔外科学会学術大会. 2022 年 10 月. 東京都

田中健太, 安居孝純, 長嶺宏樹, 木村萌美, 矢島祥助, 軽部健史, 佐藤仁, 小高利絵, 蒔生田整治, 鬼澤勝弘. 口腔に初発症状を呈した造血器腫瘍の臨床的検討. 口演. 第 67 回日本口腔外科学会総会・学術大会. 2022 年 11 月. 千葉市

田中健太, 安居孝純, 軽部健史, 木村萌美, 長嶺宏樹, 矢島祥助, 小高利絵, 岩崎良太郎, 蒔生田整治, 鬼澤勝弘. 関節性乾癬患者の口腔内に発症した EBV 陽性皮膚粘膜潰瘍の 1 例. 口演. 第 214 回日本口腔外科学会関東支部学術集会. 2022 年 12 月. 東京都

(15) 検査科

津村和大. “日本医療研究開発機構 (AMED) が推進する糖尿病研究の成果と展望.” 学会. 第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2022 年 5 月. 神戸

津村和大. 診療連携の技術と糖尿病医療の新たな潮流. 学会. 日本病院薬剤師会関東ブロック第 52 回学術大会. 2022 年 8 月. 横浜

津村和大. 糖尿病の病態と栄養管理 ～現場で求められる視点を学ぶ～. 研究会. 神奈川県立保健福祉大学臨床栄養実践. 2022 年 8 月. 横浜

津村和大. 世界における糖尿病のアドボカシー活動とわが国の未来戦略. 学会. 第 37 回日本糖尿病合併症学会・第 28 回日本糖尿病眼学会総会. 2022 年 10 月. 京都

津村和大. 糖尿病の病名に関するアンケート調査. 研究会. 日本糖尿病協会メディアセミナー. 2022 年 11 月. 東京

津村和大. 糖尿病のスティグマとアドボカシー ～正しい理解の浸透と共感力の高みを目指して～. 研究会. 京都府糖尿病対策推進事業講演会. 2022 年 11 月. 京都

津村和大. 糖尿病のスティグマとアドボカシー ～医療者に求められる正しい理解と共感力～. 研究会. 第 9 回糖尿病週間セミナー. 2022 年 11 月. 東京

津村和大. 糖尿病診療の質向上と均てん化 ～「糖尿病カードシステム」を活用した多職種連携～. 研究会. 東京都糖尿病性腎症連携 WEB セミナー. 2022 年 11 月. 東京

津村和大. "Evidence-based policy making を見据えた病態栄養研究の未来." 学会. 第 26 回日本病態栄養学会年次学術集会. 2023 年 1 月. 京都

津村和大. "研究事業の特徴と成果最大化に向けた取り組み." 学会. 第 26 回日本病態栄養学会年次学術集会. 2023 年 1 月. 京都

津村和大. 日本病態栄養学会レシピコンテスト. 学会. 第 26 回日本病態栄養学会年次学術集会. 2023 年 1 月. 京都

津村和大. 糖尿病のスティグマとアドボカシー ～正しい理解の浸透と共感力の高みを目指して～. 研究会. みやぎ糖尿病療養指導フォーラム. 2023 年 3 月. 仙台

津村和大. 糖尿病のスティグマとアドボカシー活動 ～医療者に求められる正しい理解と共感力～. 研究会. 令和 4 年度北多摩北部保健医療圏糖尿病ネットワーク. 2023 年 3 月. 東京

内田理絵. 機動的な新型コロナウイルス感染症検査対応と病院運営への貢献. 学会. 第 60 回全国自治体病院学会. 2022 年 11 月. 那覇

(17) 麻酔科

出野智史, 清原寛章, 遠藤真理, 永井隆之, 関博志, 森崎浩. 手術侵襲後の腸管炎症と呼吸器粘膜免疫能に与える補中益気湯の予防投与の効果-intestinal manipulation による手術侵襲モデルマウスを用いた検証-. ポスター発表. 日本麻酔科学会 第 69 回学術集会. 令和 4 年 6 月 17 日. 神戸

藤田夏樹, 出野智史, 石渡博昭, 奥田淳, 菅規久子, 森田慶久. 初回無痙攣電気通電療法直後に無症候性たこつぼ心筋症を発症した一例. ポスター発表. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第 62 回合同学術集会. 令和 4 年 9-10 月. WEB 開催

(18) 救急科

藤田野々香, 金尾邦生, 鳥海聡, 三吉貴大, 齋藤豊, 田熊清継. mRNA-1273 ワクチン接種後の TTS が疑われた一例. 会議録. 第 49 回日本集中治療医学会. 2022 年 3 月. 仙台市

杉真恵, 三吉貴大, 鳥海聡, 金子翔太郎, 土屋光正, 石田正高, 金尾邦生, 進藤健, 齋藤豊, 田熊清継. カンナビジオール(CBD)グミの大量摂取により急性中毒を呈した一例. 会議録. 第 25 回日本臨床救急医学会. 2022 年 5 月. 大阪市/Web

天笠愛子, 齋藤豊, 進藤健, 金尾邦生, 石田正高, 三吉貴大, 土屋光正, 鳥海聡, 金子翔太郎, 藤田野々香, 杉真恵. 右側腹部痛を呈した特発性腹腔動脈解離の 1 例. 会議録. 第 25 回日本臨床救急医学会. 2022 年 5 月. 大阪市/Web

曾充人, 藤田野々香, 金子翔太郎, 三吉貴大, 進藤健, 田熊清継. 来院時心肺停止で救命した高所墜落による外頸動脈損傷. 会議録. 第 36 回日本外傷学会. 2022 年 6 月. 大阪市/Web

田熊清継. 熱傷における sepsis を再定義する熱傷における sepsis を再構築する重症熱傷における sepsis の病態と抗菌化学療法戦略. 会議録. 第 48 回日本熱傷学会. 44743. 東京

田熊清継. 川崎市内での第 6 号基準導入による救急医療体制の現状. シンポジウム. 第 10 回かわさき救急フォーラム. 2022 年 12 月. 川崎市

田熊清継. 熱傷診療ガイドライン改訂 1 年 変化と進化と更なる発展. 会議録. 第 31 回日本熱傷学会関東地方会. 2023 年 2 月. つくば市

(12) 食養科

清水谷弘美, 小笠原美穂, 小幡実果, 関亜希子, 竹内文彦, 上杉礼子, 小野玲子, 太田博子. 給食管理システムの改善を通じたヒューマンエラーリスクの低減効果 ～食札への手作業マーキングから自

動表示システム化への転換～. 第60回全国自治体病院学会 栄養分科会 優秀演題. 令和4年11月.
 沖縄

(13) 医事課

酒井俊明, 大野昭一, 定平健, 古山美佐・森田南美, 武見綾子, 大山美和子, 舘山奈緒子, 菅智子. 血液
 内科における多職種協働による経営視点のカンファレンス. ポスター. 第60回全国自治体病院学
 会. 2022年11月. 沖縄

8 講演会等

(1) 内科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和4年5月 17日	川崎区医師会	野崎博之	パーキンソン病 ～四方山話～	ステーショ ンコンファ レンス川崎
令和4年7月 28日	川崎区・幸区薬剤 師会合同研修会	田口博章	関節リウマチの最新の治 療について	WEB 開催
令和4年11月 17日	Multidisciplinary meeting for SLE in Kanagawa	田口博章	当院でのSLE診療への取り 組み	WEB 開催
令和4年5月 29日	NPO 法人 パンキャ ンジャパン	井上健太郎	膵臓がん早期診断プロジ ェクト 川崎南部地域で の5年間の取り組み	WEB 開催
令和4年9月 16日	アッヴィ合同会社	井上健太郎	プライマリーケア医が知っ ておくべき膵癌早期発見の ポイント	川崎市内
令和4年11月 14日	ヴィアトリス製薬	井上健太郎	川崎南部地区における膵癌 早期診断プロジェクト	川崎市内
令和5年3月 15日	ヴィアトリス製薬	井上健太郎	消化器内科医からみた脳腸 相関	川崎市内
令和4年5月30 日	川崎市薬剤師会	布施彰久	脳梗塞の診断と治療～脳卒 中ガイドライン2021を踏ま えて～	
令和4年7月28 日	川崎市精神科医会、 川崎市内科医会	北菌久雄	認知症とてんかんの見分け 方	
令和4年9月12 日	川崎市立川崎病院 認知症疾患医療セ ンター	北菌久雄	川崎市立川崎病院認知症疾 患医療センターの実績報告	院内(オンラ イン併用)

令和4年12月6日	公明党川崎市議会議員団	北菌久雄	認知診療の現状と進歩	川崎市教育文化会館
令和4年12月14日	川崎市立川崎病院認知症疾患医療センター	北菌久雄	川崎市南部認知症診療ネットワークの立ち上げに向けて	院内（オンライン併用）
令和4年11月15日	川崎市医師会	北菌久雄	地域で支える認知症～川崎南部認知症診療ネットワークの立ち上げについて～	
令和4年11月26日	川崎市立看護大学	北菌久雄	認知症治療の現状と進歩	川崎市立看護大学
令和5年2月4日	川崎市薬剤師会	北菌久雄	地域で支える認知症	川崎市医師会館
令和5年2月5日	川崎市歯科医師会	北菌久雄	認知症の現状とこれから	川崎市歯科医師会館
令和5年2月15日	川崎市医師会	北菌久雄	認知症の予防	川崎市医師会館
令和5年3月8日	日本医科大学武蔵小杉病院認知症疾患医療センター	北菌久雄	認知症の啓発及び早期発見などについての意見交換を行った	オンライン

(2)小児科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和4年7月29日	川崎市小児科医会（第416回症例検討会）	高橋美歩 可児圭丞 柴田浩憲	喘息患者がイヌ・ネコと暮らすためには 経母乳感染が疑われる新生児 GBS 髄膜炎の1例 二次性徴発来の異常一乳房腫大を見つけたらー	WEB 開催
令和4年11月18日	川崎市医師会（川崎市児童虐待防止ネットワーク全体会）	古澤恭平	行政との迅速な連携により 早期に退院できた熱傷の1例	聖マリアンナ医科大学
令和5年2月27日	川崎市小児科医会（第420回症例検討会）	古澤恭平 可児圭丞 三浦優花	頭蓋縫合早期癒合症を合併した A symmetric Crying Face の一例 BORSA を起因菌とする臀部皮下膿瘍 成長曲線上5年以上にわたる成長率低下を認めた萎	WEB 開催

			縮性甲状腺炎の一例	
--	--	--	-----------	--

(3) 精神科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和4年6月 24日	川崎市立 看護短期大学	三浦孝政	精神科薬物療法について	川崎市立 看護短期大学

(4) 整形外科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和4年9月3 日	信濃町上肢の外 科セミナー	西脇正夫	橈骨遠位端骨折の基礎と 臨床	コモレ四谷 タワーコン ファレンス
令和4年9月	第16回日本骨折 治療学会ベーシ ックコース研修 会	西脇正夫	骨折保存的治療と外固定 法	院外 (Web開催)
令和5年2月8 日	茨城「手外科」研 究会第21回学術 講演会	西脇正夫	橈骨遠位端骨折の基礎と 臨床-神経障害性疼痛治療 も含めて-	院外(つくば 国際会議場)
令和5年2月 21日	第3回 Hand and Wrist Seminar	西脇正夫	橈骨遠位端骨折の治療戦 略「背尺側骨片」	院外 (Web開催)

(5) リハビリテーション科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和4年4月 11日	教育指導部	阿部玲音	リハビリテーション医学と 当院のリハビリテーション 科	院内
令和4年6月 22日	早期離床推進部 会	阿部玲音	早期離床とは	院内
令和4年7月 21日	川崎南部摂食嚥 下・栄養研究会	阿部玲音	嚥下障害の検査について	Web
令和4年11月 30日	慶應義塾リハビ リテーション医 学教室	阿部玲音	嚥下障害のリハビリテーシ ョン	Web
令和4年9月	協和キリン	中村優太 小田桐航太	パーキンソン病の療養環境、 理学療法について	ステーショ ンコンファ

				レンス川崎
令和4年10月	健康福祉局	小田桐航太 林奎二郎	運動について	川崎市 幸区役所

(6) 泌尿器科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和4年6月 10日	第9回川崎泌尿 器科病診連携会	原智	第9回川崎泌尿器科病診連 携会	院内
令和5年2月1 日	幸区医師会、川崎 区医師会	原智	地域連携による泌尿器疾患の 治療 ～排尿障害からがん治 療における薬物治療～，幸・ 川崎病診 NET	院内

(7) 放射線診断科・放射線治療科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和4年7月 21日	川崎市立川崎病 院	栗林徹	新装置での体にやさしい 放射線治療	ステーション コンファレンス川崎
令和4年12月 ～令和5年3 月	川崎市立川崎病 院	堀口将生	医療放射線の安全利用	Web開催

(8) 歯科口腔外科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和4年11月 18日	川崎市歯科医師会	鬼澤勝弘	知らないと怖い口腔疾患	川崎市歯科医 師会館

(9) 麻酔科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和4年11月 17日	エドワーズライフ サイエンス株式会 社	出野智史	TEAMs ミニ症例検討会～ 術中低血圧を考える～ 「術中に低血圧を起こさな いたための How to」	Web講演
令和5年3月 18日	エドワーズライフ サイエンス株式会 社	出野智史	循環管理セミナー～今必要 な循環管理とは？～ 「研修医に麻酔中の循環管	Web講演

			理をどう教えるか？」	
--	--	--	------------	--

(10) 検査科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和4年5月 17日	検査科	佐藤遥佳	新生児聴覚スクリーニング 検査	院内
令和4年9月 13日	検査科	小野田智佐子	NSTについて	院内
令和4年10月 11日	検査科	横屋瀬里香	タスク・シフト/シェアに関 する厚生労働省指定講習会 に参加して	院内
令和4年11月 8日	検査科	安宅香織	呼気 NO 検査について	院内
令和5年1月 10日	検査科	中村亜美	ABO 血液型	院内
令和5年1月 14日	神奈川県合同輸 血療法委員会	三津田太郎	セミナー実施報告「大規模 火災時の輸血療法～輸血部 門 BCP を作ろう～」	オンライン開 催
令和5年3月 14日	検査科	宮下卓矢	ImSAFER 研修会に参加し て	院内
令和5年3月 14日	検査科	池田紗麻里	井田病院紹介	院内

(11) 食養科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和4年5月 18日	NST・摂食嚥下支 援チーム部会	井上智佐子 (検査科)	当院における CONUT 変 法の活用	院内
令和4年5月 18日	NST・摂食嚥下支 援チーム部会	本多小百合 (看護部)	NST について～NST 部会 員に必要なこと～	院内
令和4年7月 20日	NST・摂食嚥下支 援チーム部会	須田万豊 (リハビリ科)	嚥下におけるナースの役 割～基本のおさらい～	院内
令和4年7月 20日	NST・摂食嚥下支 援チーム部会	小笠原美穂 (食養科)	嚥下調整食について	院内
令和4年10月 17日	NST・摂食嚥下支 援チーム部会	井上健太郎 (内科)	高齢者の胃瘻と倫理	院内
令和4年10月 17日	NST・摂食嚥下支 援チーム部会	井上彰大 (薬剤部)	簡易懸濁法	院内

令和4年11月 14日	褥瘡対策委員会	小幡実果 (食養科)	褥瘡患者の栄養管理と補助栄養について	院内
令和4年11月 24日	食養科	井原正人 (感染対策室)	新型コロナウイルス、インフルエンザ等ワクチン接種の意義、家庭内予防策について	院内
令和5年2月 13日	褥瘡対策委員会	小幡実果 (食養科)	下痢予防のための栄養剤選択方法と投与方法	院内

(12) 看護部

194 ページ参照

9 市民対象イベント (当院主催)

(1) 市民公開講座

実施日	講師	演題	開催場所
令和4年6月1日 から配信	中村哲也	「がんとは?胃がんとは?」	Web 開催 (YouTube)
令和4年10月20日	①安藤孝 ②長澤恵梨子 ③森谷慶史	「がんと食欲」 ①食欲調節のメカニズム ②栄養士と考える食欲調節 ③薬剤師と考える食欲調節	川崎病院 講堂
令和4年11月16日	中村哲也	『最先端の低侵襲胃癌手術』 ～ロボット支援下胃切除術～	川崎病院 講堂 WEB 同時配信
令和4年12月23日	岩丸有史	肺がんの外科治療 ～肺がんの診断と治療を学ぶ～	川崎病院 講堂
令和5年1月30日	①北菌久雄 ②布施彰久	頭痛でお悩みのあなたへ ～今こそ知る頭痛について～ ①見逃してはいけない頭痛 画像検査で異常のない頭痛 ②片頭痛の最新治療	川崎病院 講堂 WEB 同時配信
令和5年2月28日	①北菌久雄 ②片山真	いきいきと生きるために ～知っておきたいパーキンソン病～ ①パーキンソン病を学ぼう ②パーキンソン病に対する 脳深部刺激療法 (DBS) について	川崎商工会 議所

川崎市立川崎病院年報
第58号（令和4年度版）
令和6年2月29日発行

編集・発行 川崎市立川崎病院
〒210-0013 川崎市川崎区新川通12番1号
電話 044（233）5521代
FAX 044（245）9600

川崎病院ホームページ
(<http://www.city.kawasaki.jp/32/cmsfiles/contents/0000037/37856/kawasaki/index.>)
印刷所 株式会社 エイシン川崎